Animage アニメージュ

電子書籍版

はじめにご確認ください

●紙の雑誌とはコンテンツが一部異なります。
●プレゼントや懸賞など紙の雑誌を購入いただかないと
　ご利用になれないコンテンツが含まれている場合があります。
●付録が含まれない場合があります。
●一部ページのサイズが紙の雑誌と異なる場合があります。

以上をご理解いただき、お楽しみください。

株式会社徳間書店
アニメージュ編集部

Animage
アニメージュ

ひろがるスカイ！
プリキュア
©ABC-A・東映アニメーション
Illustrated by TOEI ANIMATION

ひろがるスカイ！
プリキュア
©ABC-A・東映アニメーション
Illustrated by TOEI ANIMATION

映画プリキュア
オールスターズF
©2023 映画プリキュアオールスターズF製作委員会
Illustrated by Nishiki Itaoka
Background by Ryuta Hayashi
Finished by TOEI ANIMATION

映画プリキュア
オールスターズF
©2023 映画プリキュアオールスターズF製作委員会
Illustrated by Nishiki Itaoka
Background by Ryuta Hayashi
Finished by TOEI ANIMATION

Animage

アニメージュ

HirogaruSky！

『ひろがるスカイ！プリキュア』の魅力をお伝えする

Precure

まるごと1冊プリキュア特集！

SPECIAL ISSUE

TVと映画の魅力を余すところなくお伝えします！

TV

ひろがるスカイ！プリキュア

✦2023年2月5日より放映中✦毎週日曜日✦朝8時30分
✦ABCテレビ・テレビ朝日系
HP✦http://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/

STAFF✦シリーズディレクター／小川孝治　シリーズ構成／金月龍之介　キャラクターデザイン／斎藤敦史　美術デザイン／今井美紀　チーフ美術／門口亜矢　色彩設計／柳澤久美子　音楽／深澤恵梨香　プロデューサー／田中 昂（ABCアニメーション）・利根里佳（ADKエモーションズ）・鷲尾 天・高橋麻樹　アニメーション制作／東映アニメーション

MOVIE

映画プリキュアオールスターズF

✦2023年9月15日（金）公開
HP✦https://2023allstars-f.precure-movie.com/

STAFF✦監督／田中裕太　脚本／田中 仁　音楽／深澤恵梨香　総作画監督・キャラクターデザイン／板岡 錦　美術監督／林 竜太　色彩設計／清田直美　撮影監督／大島由貴・髙橋賢司　製作担当／吉田智哉・本田竜馬　アニメーション制作／東映アニメーション

空のプリキュア キュアスカイ ソラ・ハレワタール

CURE SKY SORA HAREWATA-RU

声 関根明良

無限にひろがる青い空！

DATA
学年
私立ソラシド学園
中等部２年
誕生日
9月20日

「キュアスカイ」「ソラ・ハレワタール」名づけの経緯

「5人の変身後の名前を先に決めましたが、『キュアスカイ』は最初に決まりました。やはり『空』をそのまま表したプリキュアにしようと。変身前もそのまんま『ソラ』です。ただし名字にはファンタジー感が欲しいということで、いろいろな気象の言葉をピックアップしてみました」（プロデューサー・髙橋麻樹）、「異世界人だから、『ソラ・××××』みたいな、後ろにカタカナの名字がいいだろうと。確か『サルバドール・ダリの逆みたいな感じで、名字はサルバドールみたいな響きがいいね』ということから、『ハレワタール』って決まったかと」（シリーズ構成・金月龍之介）、「みんなで長時間悩んで、最終的にダジャレのような形に（笑）」（髙橋）

キュアスカイの服装

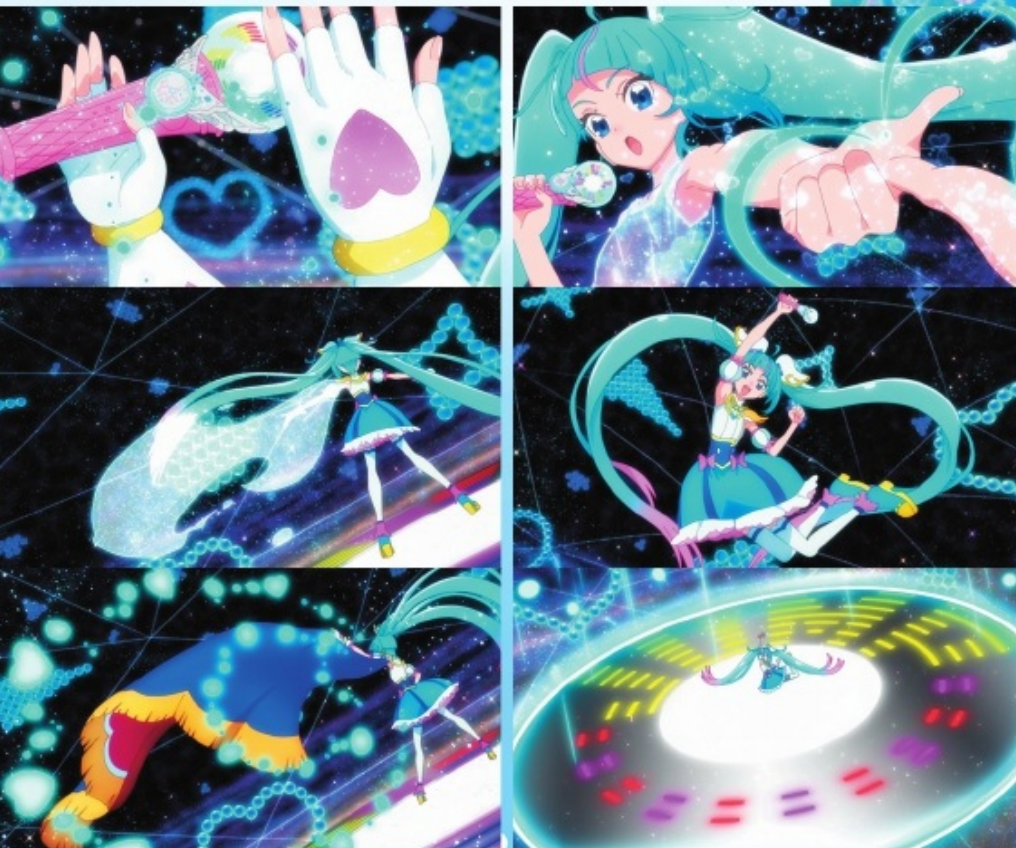
「キュアスカイはヒーローっぽいマントが特徴ですかね。もともとシリーズディレクターの小川孝治さんからいただいた発注ラフが、上着を肩に掛けているようなスタイルで、少しマントっぽく見えたんです。それを僕のほうで、マントだと拡大解釈して描きました。完全にスーパーマンみたいなマントにすると、後ろ姿が全部マントで隠れてしまうので野暮ったくなるかなと。それで、他のパーツとのバランスも考えて、片マントになりました」（キャラクターデザイン・斎藤敦史）

キュアスカイ変身バンク

変身バンクの基本形。掛け声に合わせて快活にポーズを決めていく。中盤の「はればれ JUMP!」ではツインテールがハート型に弧を描くのが目を惹く。変身の最後の登場パーツは肩マント。光の布がサッとひろがりマントに変化するカットは、闘牛士のように勇ましい。

絵コンテ：小川孝治
演出：小川孝治
原画：板岡 錦
作画監督：斎藤敦史

空に浮かぶ王国・スカイランドの女の子。ヒーローに憧れており、いつも元気ハツラツ。プリンセス・エルをさらったカバトンを追いかけ、不思議なトンネルから地上の世界へ。そこで、ソラシド市のましろと運命的な出会いを果たし、さらにキュアスカイにも変身！　エルを狙ってくるカバトンらアンダーグ帝国の尖兵と戦うことになる。

幼い頃から鍛練を積んできたため、並外れた身体能力を持っている。編入したソラシド学園では、リレーの選手や運動部の助っ人として大活躍だ。同い年のましろとは、出会った時から気が合う関係だったが、当初は彼女を危ない目に遭わせたくない気持ちが強かった。だが、それが独りよがりだと悟り、バディとしての絆を深めていく。憧れのシャララ隊長がランボーグ化して心が折れてしまった時も、ましろの手紙で前向きになれて見事に復活した。

ヒーローを目指して日々突き進んできたソラ。しかし、戦いの中、アンダーグ帝国のスキアヘッドの一言から、その意外な人間性について思いを巡らせる。もっと彼らのことを知り、その戦いの理由を知らねば……ソラにとって、これからの大きな挑戦となる!?

美術ボード

スカイランドでのソラの家

スカイランドでのソラのザック

スカイランドでのソラの手帳

ソラのハロウィン仮装

ソラの水着

キュアスカイ／ソラ・ハレワタール役

関根明良

ましろさんの手紙に大号泣

──ソラの気持ちが折れて、スカイランドに帰ってしまう第22話、第23話は、一つの転機でしたね。

関根　私もとても思い入れが深い話です。私自身、ソラちゃんの想いをちゃんと演じられるのか不安もあって、もうヒーローになれないと落ち込むソラちゃんと、気持ちがクロスしていた回でもありました。

また、第23話は、私が両親から言われていたことと似ていることが、そのまま映像になったみたいなお話で。私も両親から、「壁の越え方は一つじゃない。回り道をすれば、壁を越えるハシゴや階段が見つかるかもしれない。可能性は一つじゃないよ」と言われてきて。ソラちゃんのお父さんが言っていたことも、そういうことじゃないかなと、台本を読みながら「あ！」と、なんだか感動しました。現場でも、まだソラちゃんが泣いていないのに、私が泣きそうになって……。なんとか上を向いて堪えていた時に、（加隈）亜衣さん（ましろ役）たちが「おはようございます！」って合流して……。

──なんとか堪えられたのですか？

関根　いえ、途中から大号泣でした。ずっとウルウルはしていたんですけど、ましろさんの手紙のシーンからはもう堪えきれなくて。テストから大号泣してしまい、どうしよう～！って状態でした。叫ぶところは、本当に泣き声でしたね。亜衣さんたちには大変ご迷惑をおかけしたので、翌週お詫びの差し入れを持っていきました（苦笑）。

──関根さん自身とも重なるエピソードだったわけですね。

関根　それと第23話では、ソラちゃんの家族が出てきてくれたのも嬉しかったです。弟のレッドと、両親のシド&レミ。あとは「ファ」の人も欲しいところです（笑）。

美術ボード

シェアハウスでのソラの部屋

心優しく思いやりのある中学2年生。祖母のヨヨが実はスカイランド人とは、ソラと出会うまで知らなかった。
ソラがプリンセス・エルを守って戦うのを見て、自分も力になりたいという思いからキュアプリズムに変身。ソラはやや天然で直情的、ましろはそのツッコミ役としての才覚を見せる!? さらに、プリキュアの仲間となったツバサやあげはとも力を合わせて、アンダーグ帝国と戦っていく。だが、エルがマジェスティに変身した時は、エルを危険な目に遭わせたくない気持ちにとらわれたりもした。
元々将来の夢がなく、そこを引け目に感じることもあったが、絵本コンテストに応募したのをきっかけに、絵本を描く楽しみを知り、どんどん創作を続けていく。紋田という美大生とも知り合い、その助言に勇気づけられることもしばしばだ。しかし、紋田が実はアンダーグ帝国のバッタモンダーで、本当はましろを陥れようとしていることには、まだ気づいていない。

美術ボード

ましろの部屋

ましろのハンドバッグ

ましろのトートバッグ

ましろのリュック

ましろのスマホ

ましろのタブレット

キュアプリズム 変身バンク

ガーリーでアイドル感のある動きを見せる。スカイミラージュのピースサイン的な握り方がおしゃれで、「はればれ JUMP!」や最後の名乗りで見せるポーズもキュートでキャッチー。スカートのスリット奥が輝いて、光の模様へ変化するカットは夜空のようなきらめきだ。

絵コンテ：小川孝治
演出：小川孝治・広末悠奈
原画：森田岳士
作画監督：斎藤敦史

キュアプリズム 虹ヶ丘ましろ役

加隈亜衣

人と人はつながっていける

──第34話はまさかのバッタモンダー再登場。しかも、ましろと絡むという展開でした。

加隈　バッタモンダーの行方については、よくみんなで話をしていたんですよ。「カバトンも最後は和解っぽくなったから、バッタモンダーもいつか協力してくれるのかなぁ」とか、「そもそも今、何やってるんだろう」とか（笑）。

──第23話でスタコラ逃げ出した後、どうなったか語られていませんでしたからね（笑）。

加隈　私としては、もし出てくるとしたらあげはちゃんと何かあるんじゃないかなと思っていたんですよ。あげはちゃん、バッタモンダーには結構ケンカ腰だったから（笑）。ただ、段階を踏んで、ましろとバッタモンダーとの話が描かれていくうちに、なるほどなぁと思いました。それまで知らなかった人とも、思わぬ接点や共通点ができた時に、ぐっと心の距離が近くなるってありますよね。こんなふうに、人と人ってつながっていけるんだと感じました。第41話時点では、まだましろは紋田さんという謎の美大生の正体には気がつかずで……まあ、怪しさ満点なんですけど（笑）。

──紋田が、ましろの心を折ろうとする言葉を、ことごとく良い方向に解釈してしまうのも面白いですよね。

加隈　言葉って、受け手次第ですよね（笑）。紋田さんにとっても、ましろの言葉がいい影響になればと思います。周りの人の言葉に影響されて考え方が変わるってよくあるし、それによって人生が明るくなったら素敵ですよね。やっぱり出会いは大事だなと思います。紋田さんって面白キャラではあるんですけど（笑）、この一連のお話、結構深いですよね。人に優しくしたいなって気持ちにさせられます。

──第34話、第41話ときて、この号が出た直後の第43話が3度目のましろと紋田の回になるようです。

加隈　ああ、喋りたいことはあるのに触れられないなぁ！　でも、この一連の話で、私たちのバッタモンダーの株が一気に上がった気がします。どうなるのか、楽しみに観てほしいです！

ましろのハロウィン仮装

ましろの水着

光のプリキュア CURE PRISM NIZIGAOKA MASHIRO

キュアプリズム 虹ヶ丘ましろ

ふわりひろがる優しい光!

声
加隈亜衣

DATA
学年
私立ソラシド学園
中等部２年
誕生日
7月16日

「キュアプリズム」「虹ヶ丘ましろ」名づけの経緯

「小川さんは、各プリキュアのモチーフについてのアイデアメモもいっぱい出してくださり、その中にあったプリズムのイメージが、そのまま名前にも用いられました」（髙橋）、「プリズムが光を屈折させて七色（スペクトル）を作るように、他の人たちを照らし出していく子です。そして、どんな色にも染まれる白。ここからどんどん変わっていける子でもあります。名字は、プリズムの作る七色の虹から、『虹ヶ丘』になりました」（金月）

キュアプリズムの服装

「オーディション時の説明で『他のキャラクターに活かされて自分の可能性を見つけていく子』といった言及があったんです。スカートのスリット部分には、大きな十字星があり、そこから４本の光が伸びていますよね。キャラカラーではないですが、その４本が他の４人のプリキュアで、真ん中で一番大きく光っているのがキュアプリズムのイメージで描きました。カーテンを開けたら輝きがチラリと見える。実はそういったコンセプトなんです」（斎藤）

キュアウィング 夕凪ツバサ

天高くひろがる勇気！

声 村瀬 歩

「キュアウィング」「夕凪ツバサ」名づけの経緯

「鳥モチーフになったので、ずばり鳥の翼から『ウィング』。変身前はその日本語訳。『スカイ＝ソラ』と同じような決め方ですね。名字の『夕凪』は、キャラ色が夕方をイメージしたオレンジに決まっていたからです」（髙橋）、「それに『風を読む』というキャラ性もありました。ちなみに夕凪は、ソラシド市で便宜上名乗っているだけです」（金月）

DATA
種族
プニバード族
誕生日
5月21日

キュアウィングの服装

「プリンセスに仕えるナイトということで、執事のイメージから燕尾服ベースに。シルクハットもかぶせています。ただ、他のメンバーの服はフリルが多いので、並んだ時に浮いてしまわないよう、袖をパフスリーブにしたり、ショートパンツの裾にフリルを足したりと、バランスをとって工夫しました」（斎藤）

キュアウィング 変身バンク

絵コンテ：小川孝治
演出：大垣愛結
原画：美馬健二
作画監督：斎藤敦史

「ひろがるチェンジ！」でバッと前髪がまくれて両目が見えるのがポイント。「はればれ JUMP!」の後のアクションは、鳥モチーフの彼らしく、縦横にバンク空間内を飛行する。全体的にポージングはあどけないが、胸に拳を当てるポーズはキリリとカッコいい。

スカイランドの鳥族の一つ、プニバード族の12歳の少年。人間の姿に変わることができる。1年ほど前に事故で地上の世界に落ちてきて、ヨヨが孫にも内緒で面倒を見てきた。

ソラがやってきてからは、一緒に連れてきたプリンセス・エルがかわいくて気が気でなく、こっそりお世話もしていた。ソラやましろの前に姿を現した際には、すでに「プリンセスのナイト」を自称して子煩悩ぶり（？）を発揮。あげはには、当初こそ苦手意識があったが、一緒に過ごす中でコンビとして活躍するようになる。

プニバード族は空を飛べないため、自力で飛行することを目標に、地上の書物を読んで勉強を重ねてきた。そこに冷静な性格も手伝い、博識ぶりを見せる。だが、プリキュアに変身して空を飛べるようになり、自身の先の目標はどうなるのかと悩んだりした。ましろの祖母のヨヨは、そんな彼に助言し、ツバサを新たな道へと誘う。そして彼は、スカイランドの「新たな賢者」として推挙されたのだった。

ツバサのタブレット

ツバサのリュック

シェアハウスでのツバサの部屋

美術ボード

プニバード族の村

鳥姿のツバサと両親

ツバサのハロウィン仮装

ツバサの水着

キュアウィング／夕凪ツバサ役

村瀬 歩

ツバサは物事に前のめり！

――第38話はツバサ回。第21話に続く形で、ヨヨがツバサに期待をかけているところが見えてきました。

村瀬　最初の頃は、ましろの夢が一番ぼんやりしていたのに、今やましろは自分で絵本を描くようになって、具体的にアウトプットしていますよね。それに対して、ツバサはプリキュアになれたことで空を飛ぶ夢を叶えちゃったから、「これからどうしよう？」となって……（笑）。そんなツバサのことを、ヨヨさんはしっかり見ていてくれました。おかげで、元々は自分が空を飛ぶために頑張っていた彼も、自分の知識で他の人が喜んでくれることにやりがいを見出したというか。勉強することで、みんなの役に立ちたいと考えるようになりました。ヨヨさんはその気持ちにいち早く気がついたんでしょうね。一生懸命勉強しているツバサに、「どう？」みたいな感じで背中をさりげなく押して、根回しもしてくれて。

――第38話は竜族に会いに行くという冒険譚でもありました。

村瀬　ツバサの長所でもあり短所でもあると思うんですけど、彼は物事にすごく前のめりなんですよ。普段の彼は「もう、こんなことして～」みたいな感じで、ちょっと大人びた冷静な自分でいたいようなところがあって。一歩引いて「やれやれ」って周囲を注意する側でいるのが好きなんだと思うんですよ。でも何か一つ、知識欲をかき立てられるようなものに出会うと、後先考えずにバーッと行っちゃう（笑）。それが良い方向に働いたのが、この回だったのかなと。彼の探究心が花開いた印象でした。

――見事、竜族とスカイランドの人たちとの架け橋になりましたね。

村瀬　ツバサの嘘偽りのない心に、竜族も感化されたみたいですよね！

保育士を目指しているアゲアゲな18歳。ましろとは幼なじみで、ちょっと姉妹的な関係でもある。
幼い頃に両親が離婚しているあげはだが、母親に引き取られた姉二人とは今も非常に仲良し。また、家族が離れ離れになった際、保育園の先生が寄り添い、慰めてくれたことが、「最強の保育士」という目標へとつながった。
ノリが良く楽天的な性格だが、その物怖じしなさすぎる面が、当初はツバサの苦手意識になっていたことも。しかし、その後は彼とも信頼関係を結び、プリキュアの秘密を知る協力者としてみんなをサポートしてきた。
プリキュアへの変身のきっかけは、実習先の保育園に出現したランボーグから園児たちを守ろうとしたこと。それ以降、保育園に近いことや、プリキュアのみんなと一緒のほうが都合がいいと判断して、ましろの家に引っ越してきた。
唯一の成人メンバーとして普通自動車免許を持っており、5人で遠出する際は運転手を務める。かなりの大型車を初心者マークで乗り回すというギャップが面白い。

美術ボード
あげはが実習で通うソラシド保育園

あげはの愛車・ピヨちゃん（CGモデル）

キュアバタフライ変身バンク

絵コンテ：小川孝治
演出：高戸谷一歩
原画：芳山 優
作画監督：斎藤敦史

５人の中で最も弾けた雰囲気の変身。「きらめきHOP!」のギャルピース、「さわやかSTEP!」のシンガー的ポーズ、アームカバーが伸びるカットの手首の動きなど、個性の強いアクションの連続。ラストの決めカットでは蝶が出現、パーティクルはその鱗粉を思わせる。

あげはのタブレット

あげはのバッグ

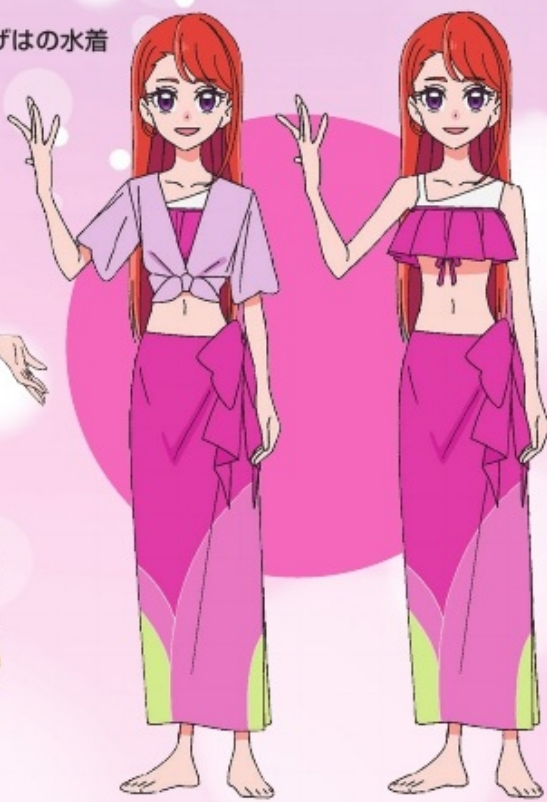
あげはのスマホ

キュアバタフライ／聖あげは役

七瀬彩夏

アゲアゲの陰には別れもある

あげはのハロウィン仮装

あげはの水着

──第36話は、あげはの主役回。これまでのあげはのお話が一つに集約される回でもありましたね。

七瀬　あげはが「最強の保育士」を目指したきっかけも語られました。私も現実の保育士さんのことをいろいろと調べましたが、保育士さんの実習って結構長いんですね。トータルで6週間分やるそうです。視聴者の皆さんの中にも保育士さんがいると思うので、「私にもこういう時期があったな」と共感してくださるといいなって。保育士さんを目指している方にも「あげはちゃんも頑張っている！」って、勇気や支えにもなれたらと思いました。
それとこの回は、たけるくんとのお別れ回でもありました。あげはって父や姉たちとも小さい頃に別れているし、ましろとも引っ越しで別れているし。いつも笑顔でアゲアゲではあるんですけど、そういうつらいこともあるんだなって。

──言われてみれば、あげはの過去にはお別れが多いですね。

七瀬　第36話は珍しくため息をついたり泣いちゃったりと、「サゲ」な部分も結構あって。この回は私も演じながら、自然と涙がにじみ出ちゃう感じがありました。でも、ツバサくんが「そのまんまの、あげはさんでいればいい」って言ってくれたのは、とっても素敵だなって思いました。おかげで、現実を受け入れつつ、嘘偽りない自分の気持ちをたけるくんの前で見せられたんじゃないかな。重要なお話だったので、収録は特に気合いが入りました。

蝶のプリキュア CURE BUTTERFLY HIJIRI AGEHA

キュアバタフライ 聖あげは

声 七瀬彩夏

アゲてひろがるワンダホー！

DATA
所属
ソラシド福祉保育専門学校
誕生日
8月8日

「キュアバタフライ」「聖あげは」名づけの経緯

「ソラとましろのように、あげはもツバサとのコンビを意識していたので、いろいろと対になるよう、小川さんのほうで設定を考えました」（髙橋）、「それで、ツバサと同じように『飛ぶもの』。成人女性なので蝶々がきれいかなって。変身後は『バタフライ』で、変身前は『あげは』、そのままです。名字の『聖』は、雰囲気ですかね」（金月）、「言葉の響きも含めてですね。『あげは』と合わせた時のバランスを意識しました」（髙橋）

キュアバタフライの服装

「とにかくヒラヒラで派手派手な見た目です。右脚と両腕はグラデーション処理にしています。アームカバー風の両腕は、肩から腕にかけて透明なトップスでつながっています。フィギュアスケート選手の衣装にもよくありますよね。髪型は、ある程度ボリューム感も欲しかったので、変身前も変身後も一番のロングヘアです」（斎藤）

幻のプリキュア CURE MAJESTY PRINCESS ELLEE

キュアマジェスティ プリンセス・エル

降り立つ気高き神秘！

声 古賀 葵

DATA
スカイランドの王女
誕生日
3月12日

「キュアマジェスティ」「プリンセス・エル」名づけの経緯

「王女だから『マジェスティ』（陛下）となりましたが、マジックアワーと語感が似ていたのもありますね」（金月）、「“幻のプリキュア”ということで、早朝や夕方のマジックアワーのイメージがあったんです。『エル』については、フランス語で翼の意味の『ailes（エール）』からきました。ただ、綴りは『ellee』になりました」（髙橋）、「ヘブライ語だと『el』は神様の意味なんです。天使みたいに空から降ってきた設定だし、響きもいいので、エルちゃんとなりました」（金月）

キュアマジェスティの服装

「エルちゃんのほうを先にデザインしたのですが、エルちゃんが順当に成長していった感じと、マジェスティという単語の荘厳な意味合いから、変身後の姿を作りました。スカートもぶわっとさせて、全体的にゴージャスにしています。また、プリキュアの力の大元みたいな要素もあるので、各パーツは他の４人の要素を混ぜました。羽の形のティアラは、スカイのアクセサリーからきています」（斎藤）

キュアマジェスティのCGモデル　※他の４人のモデルはP.70～71に掲載

キュアマジェスティ
変身バンク

赤ちゃんから急成長した姿が登場し、そこから変身スタート。いわゆる追加戦士ではあるが、バーチャルアイドルのライブ的な天球ステージや、名乗り直前のパーツ見せ５分割画面などの特徴的なフォーマットはそのまま。しかし、優雅な動きが徹底されていて、名乗り直前のスカートを持ったポーズはまさにプリンセスそのものだ。

絵コンテ：小川孝治
演出：渡邉智喜
原画：高野 徹
作画監督：斎藤敦史

エルのチャイルドシート

エルのハロウィン仮装

エルの水着

スカイランドのプリンセスだが、王と王妃の実の子ではない。ある夜、空から降りてきた「運命の子」。一番星から、時が来るまで育てるように言われ、国王夫妻が預かったのだ。もちろん、赤ちゃんであるエル自身は、そのことは知らない。

現在はましろの家で暮らしており、言動は１歳児らしく、無邪気で元気いっぱい。好奇心旺盛でちょっとワガママを言うこともあるが、ましろの絵本を通して諭されるなど、心優しく聡い子である。ソラたちの愛情に育まれてすくすくと成長し、あんよや簡単な会話もできるように。みんなとずっと仲良しで一緒にいられるように、結婚式ごっこもした。

スキアヘッドの猛攻でキュアスカイたちが絶体絶命になった際、エルの秘めたる力が発現。急成長して、キュアマジェスティへと変身した。こうして５人目のプリキュアとなったが、普段は赤ちゃんのままだ。

アンダーグ帝国がエルを狙ってきた目的はいまだ明かされていない。一体彼女にはどんな秘密が……？

美術ボード

スカイランドの王宮の広間

スカイランドの全景

スカイランドの街並み

キュアマジェスティ／プリンセス・エル役

古賀 葵

変身しても気持ちはエルちゃんで

――キュアマジェスティの第一印象は？

古賀　実はオーディションの時はまだエルちゃんの絵しかなかったので、どんな姿の子なのか想像しながらマジェスティを演じたんです。ずっと楽しみだったんですけど、絵を見たらまさにプリンセスで！　この姿に合うように、でもエルちゃんとしてもバランスがとれるように、と考えました。マジェスティが登場するまでは結構間があったので、毎回エルちゃんがみんなからもらっている愛情を、ゆくゆくはどういうふうにマジェスティに昇華できるか考えながら収録していました。

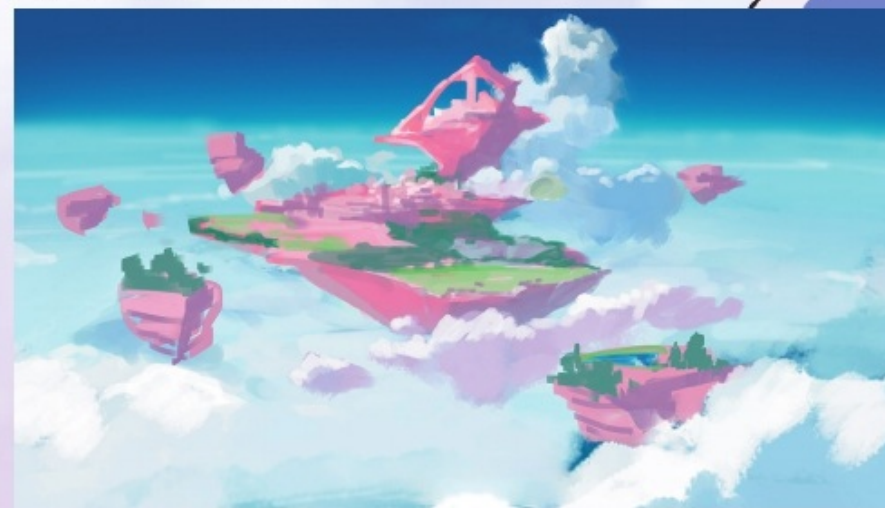
――オーディションではエルちゃん役以外も受けたのですか？

古賀　受けました！　テープの段階ではエルちゃんだけで、スタジオに進んだ時に、スカイも受けてくださいと。さらにウィングもやって、最後にエルちゃんをやりました。しかもスタジオは、私が初日の一番最初だったんですよ。心臓バクバクでした（笑）。

――マジェスティ登場は第31話ですが、それ以降も普段は赤ちゃんですよね。

古賀　一度変身した後はどうなるんだろうと思っていました。何しろ、マジェスティの変身シーンの最初に“エルさん”になるじゃないですか（笑）。だから、変身を解いた後もエルさんのままなのかなとも思いましたが。ただ、エルちゃん姿への愛着もすごくあるので、まだエルちゃんとしてみんなと接していけるんだという喜びのほうが大きかったです。

――エルちゃんとマジェスティとの演技の切り替えはどのように？

古賀　最初は、マジェスティに変身すると気持ちも別になるのかなと思っていたんです。でも、流れを見るに、どうやらエルちゃんから気持ちがつながったままだと分かったので、声色は変えつつ、中身はわりとエルちゃんのままやっています。戦いのシーンでは“伝説のプリキュア”という感じで、皆さんよりもちょっと余裕な感じを見せられるといいなぁと思いつつ。エルちゃんも、変身したら自分は強いと分かっているので、少し強気で戦っています。でも、話したりすると結構エルちゃんのままなのが面白いなと思います。

5人そろってひろがる世界！

写真は『映画プリキュアオールスターズF』の舞台挨拶より。左から古賀さん、村瀬さん、関根さん、加隈さん、七瀬さん

プリキュアキャスト座談会

キュアスカイ／ソラ・ハレワタール役
関根明良

キュアプリズム／虹ヶ丘ましろ役
加隈亜衣

キュアウィング／夕凪ツバサ役
村瀬 歩

キュアバタフライ／聖あげは役
七瀬彩夏

キュアマジェスティ／プリンセス・エル役
古賀 葵

いよいよ物語はクライマックスへ。成長を続けてきたソラたちのドラマもここから大きくひろがっていきそう。5人そろって未来へジャンプ！

みんなから学習した!? マジェスティの強さ

――5人目のプリキュア・キュアマジェスティが本編に登場してから早2ヵ月超。今は皆さん、どのような感じでアフレコしていますか？

村瀬　最近は2グループに分かれることが多いですね。僕は七瀬ちゃん、古賀ちゃんと一緒のことが多くて。

関根　私たち（関根さんと加隈さん）は二人でというのが多いと思います。

加隈　いない人のところは、テストでは誰かが代わりに声を当てたりするんですが、もう「似てる！」って感じなんです（笑）。尺の調整感や言い回しも、本当その人だなって感じで言うので。そういうところでもチーム感が出ているなぁって思います。

村瀬　あとは、みんなで声を合わせるところも。僕ら3人は、先に関根ちゃんと加隈ちゃんの録った声を聴きながらやることが多いんですけど、変身の名乗りも合体技も、一発でセリフが合うようになりました。「行けた！」って感じで、すごく気持ちがいいです。

七瀬　声を合わせる時は、亜衣さんや村瀬さんが「せーの」って言ってくださるんですけど、「プリキュア・マジェスティックハレーション」の「プリキュア」と「マジェスティックハレーション」の間を置くところは、掛け声なしで、5人でピタッと合うんです。すごい一体感だなって思います。

古賀　エルちゃんはマジェスティになるまでは、プリキュアの4人とは別の組で録っていることが多かったんです。マジェスティになれてから、ようやくみんなと一緒に録れるようになりました。よりチーム感を感じています！

――マジェスティ誕生は3クール目のトピックでした。演じる上で、シリーズディレクターの小川孝治さんからアドバイスはあったのですか？

古賀　本編のアフレコよりも前に、玩具の音声録りがあったんですが、「ちょっと高貴な感じで」と言われました。それと「エルちゃんが成長してマジェスティになったことが、ちゃんと分かるように」と。そこは特に意識しました。

加隈　その時に小川さんが、古賀さんが選ばれた理由として「エルちゃんからマジェスティへの移り変わりがとても自然で、違和感がなかった」と挙げていて。エルちゃんと同じ人なんだよっていうのを、大事にされているんだろうなと思います。

――マジェスティは、初登場の第31話、第32話で圧倒的な強さを発揮しましたね。

村瀬　追加戦士って、やっぱり強いんだなぁ（一同・笑）。

関根　みんなの戦い方が、マジェスティに凝縮していた感じがしました。第32話でエルちゃんが変身できないと悩んでいた時に、ソラちゃんが「ソラララララ！」って百裂拳みたいなのを見せていましたが、マジェスティもミノトンに同じような攻撃をしていて。

七瀬　うんうん！

村瀬　学習したんだね！

関根　第37話でスカイと一緒にパンチをした時にも、「戦うたびに、どんどん息ピッタリになってる」とバタフライに言われて、キュアマジェスティに変身する前から、戦いの中であってもエルちゃんはずっと一緒にいたんだというところが、その圧倒的な強さの中に垣間見えて。そこがなんだかとても嬉しかったです。

加隈　第33話では、マジェスティがシールドを張ってプリズムを守ってくれました。この回、ましろの中では「エルちゃんに本当に戦わせていいの？」という親心みたいなものが

世界はヒーローとヴィランの関係性ではない

せきね・あきら
12月16日生まれ／東京都出身／アプトプロ所属／『でこぼこ魔女の親子事情』（ルーナ）、『ミギとダリ』（一条華怜）ほか

勝って……。人に対してずっと何かやってあげていた人が、いきなり逆の立場になると戸惑うって、日常的にもあるだろうなぁって。ましろの場合、一緒に戦うという意味では前向きに捉えられるのに、相手を巻き込むと思うと急に心配で「守ってあげなきゃ！」となって。でもそこでちゃんと話し合って、お互いに納得して、一緒に歩んでいこうねとなったのが素敵ですよね。最後に「大好きよ」って言われたのも、もうたまらない！　エルちゃんのことが、もっともっと大好きになりました！

――第5話では、ソラがましろを戦わせたくない想いを抱いていましたが、第33話ではましろが同じような気持ちになるリンクも絶妙でした。

古賀　当時プリズムがスカイにしていたことを、エルちゃんは間近で見ていたので、しっかり覚えていたんだなって思います。第33話のアフレコでも、第5話のそのシーンを流してくれたんです。

――そうだったのですね。

古賀　それをあらためて聴いてから演じました。同じような気持ちが出せるようにって。

村瀬　この一連の話数だと、これまでにない強敵のスキアヘッドが出てきたのがショッキングでした。しかも突然謎のプリキュアが出てきて、今後どうなるんだろうと思っていたら、次の回の最初でいきなり「（キュアマジェスティは）エルだよ！」って（笑）。もうソラたち、わけが分からなかったと思いますが、この展開の速さが『ひろプリ』の良さだなと感じています。

七瀬　2回あった強化ミノトンとの戦いでは、どっちもエルちゃんがマジェスティになって助けてくれたんですけど、第32話ですごいパンチを繰り出しましたよね。とにかく強いのに、でも上品に戦っている感じがすごく好きでした。

強敵スキアヘッドとの「対話」に挑むスカイ

――3クール目以降、それぞれの個人回にもひろがりが出てきました。あげはは、すっかり保育園の先生していますね。

七瀬　そうなんです。第36話とか見ていると、もう本当の保育士さんみたいです。でも、まだ実習中なんですよね。現実の保育士さんも、あげはみたいに実習用にいろいろと準備をするらしいです。あげはちゃんも「どう、この振り付け！」とか、家でダンスの準備をする姿もありましたが、保育実習にかける想いが見えてきたと思います。

――第40話は、ツバサとエルの結婚式ごっこなんかも描かれました。

村瀬　問題の回ですよ（一同・笑）。

古賀　台本を最初に読んだ時に、二度見しちゃいました。「やばいやばいやばい！」って（笑）。

七瀬　（サブタイトルの）「なかよち♡エルちゃん結婚式☆」ってどういうこと!?ってね（笑）。

関根　サブタイトルを見た時は、「そうだよね！　身近にこんなにかわいがってくれるお兄さんがいて、さらにナイトですもん！」とドキドキしました！（笑）

村瀬　内容としては、ツバサが他のことに一生懸命になっていて、「家族として構ってくれないのがイヤ！」って感じでしたけどね。

古賀　ソラたちにはそれぞれ目指す夢があるけど、エルちゃんにとっては「みんなでいること」が世界のすべてなんです。特にツバサくん、王様からもらった本を読んだりして一生懸命なんですけど、頑張れば頑張るほど、みんなといる時間が短くなっていて。エルとしては、プリキュアになって一緒に戦って、みんなともっともっと仲良くなりたいのに、ツバサくんは一人になろうとするから、「なんでなんで？　寂しい！」ってなりますよね。

七瀬　そういうことか～って思いました。

古賀　これまでもエルちゃんは、ミラーパッドをいじったり、ましろの描いた絵にラクガキしたりとか、「みんながやっていることを一緒にやりたい」描写がいっぱいありましたよね。ちょうどそこで結婚式というものを知って、「これだ！」って（笑）。でもね、そういう純粋な気持ちなんです。でもね、この先は分からないですからねっ!!

一同　（笑）。

古賀　年齢差は11歳くらいだし、大きくなったら、もしかしたら!?（笑）

――ソラは、第41話でスキアヘッドの「愛するお方がそれを望んでいるからだ」を聞き、彼と対話をしたいと考えました。

関根　これまでスキアヘッドさんって、知的でミステリアスな印象で、「知識の宮殿に刻んでおこう」というセリフが私たちの中で「刻まれたいね！」とブームになっていました（笑）。なので、スキアヘッドさんは自分の知識欲のために動いている人なのかなと思っていたら、（低い声で）「愛するお方がそれを望んでいるからだ」って。ソラちゃんと同じで、私自身も「えっ！」と、ドキッとしました。これまでのカバトンもバッタモンダーもミノトンも、それぞれの性格や内面などが描かれてきましたが、スキアヘッドさんの想いも、ここへきてやっと見えてきて。きっとソラちゃんが対話を望んだのは、スキアヘッドさんを単なる「敵」ではなく「考えが違う相手」と捉えられるようになったからじゃないかなって。「世界はヒーローとヴィランの関係性ではないんだよ」って、ちゃんと描写されているんだなと感じました。

――ソラの中での心境変化かもしれませんね。

関根　『ひろプリ』は、それまでのやりとりがピースになって、さらに次へとひろがるんです。スキアヘッドさんとのあの対話も、他の幹部たちとの間に積み重ねてきたことが、ちゃんとつながった感じがしました。だからこそ、対話をするシーンは何回も録り直したのですが、「なんで？」「どうして？」というふうに私の気がせいてしまって、悲痛や否定に聞こえてしまうとディレクションをいただき、そこのキュアスカイの表情がどういう感じなのかを確認しながら、何度もトライさせていただきました。

加隈　ピースの話でいうと、第42話のウィングが戦いの中で「そんなにスキアヘッドが気になるなら、話してみたらどうですか？」と急に言っていましたよね。私、なんでかなと思ったんですが、ツバサくんは最初に苦手意識があったあげはちゃんとも、仲良くなれたからかなと。会話を重ねていって、あげはちゃんのいいところがいっぱい見つかったから、そう言い出したのかもしれません。

村瀬・七瀬　ああ、なるほど！

加隈　私は勝手にそんなふうに捉えたんです。

村瀬　この作品の中で「話し合ってなんとかしようとする」象徴がツバサなのかもしれません。第23話も、ソラの家に行って、直接話そうとしたし。

関根　ツバサくんはいつも、相手の目を見て「こうです！」って熱い気持ちで対話する印象があって、ソラちゃんに「一人で抱え込むなんて、ただのわがままです」って言った時も、すごくまっすぐだなと思いました。そんなツバサくんだからこそ、第38話でも竜族のみんなに気持ちが伝わったんだろうなって。ちゃんと言葉に、想いや実感が乗るというか……！

村瀬　まぁ彼はちょっと、先走り気味ではあるんですけどね。もともと頑固者な上に、最後まで話を聞かずに「なんでですかぁ！」ってなっちゃうことも多いから（笑）。

加隈　まだまだ少年だし！（笑）

関根　みんなまだまだ未熟です！（笑）

一番穏やかで平和 映画のウィングチーム

――『映画プリキュアオールスターズF』についてもお聞きします。各チームに分かれての旅が描かれましたが、見どころを教えてください。

関根　スカイチームは、とにかくずっと前を見て走っていくチームだなって。ソラちゃんがどうしようかと悩んでしまうシーンもありましたが、キュアサマーとキュアプレシャスが学んできたことをキュアスカイに伝えてくれました。「今やるべきことをやる」「ごはんは笑顔」。みんなで走って、食べて、笑って。まっすぐさが際立っていたチームだなと思います。ずっと本当においしそうに食べてましたね（笑）。

加隈　プリズムチームは、各キャラクターの新たな一面が見どころだと思います。ましろがあそこまで大きく動くというか、誰かに振り回されることは……まぁ『ひろプリ』のTV本編でも、ソラちゃんには振り回されているんですけど（笑）。

関根　てへへ（笑）。

加隈　それでも、これまではちょっと眉毛が下がって「あはは～」くらいでした。でも映画では、ここまで大きく人を制止することはなかった、という感じでした。そんなプリズムチームでしか見られない顔があるなと思いました。

古賀　ウィングチームは、エルちゃんという守るべき存在がいたからかもしれないんですけど、みんなとっても優しかったです。人の話をちゃんと聞ける感じが。

七瀬　それはつまり……（笑）。

村瀬　ぶつかるチームもあったからね（笑）。

手紙のシーンは、優しく包み込むようにと

かくま・あい
9月9日生まれ／福岡県出身／マウスプロモーション所属／『聖剣学院の魔剣使い』（ロゼリア・イシュタリス）、『陰の実力者になりたくて！』（メアリー）ほか

古賀　他人の想いをしっかり受けとめられるというのは、自分の中に確固たる信念を持っているからかなと思います。人を受け入れる子たちが集まっているからこその、のんびりしつつも落ちついている雰囲気だったんじゃないかと。本当に穏やかで、エルちゃんとしても居心地のいいチームでした。

村瀬　ウィングチームの見どころはやっぱり、はるはるがかわいいところ！

一同　（笑）。

――『Go!プリンセスプリキュア』好きの村瀬さんとしては、そうですよね。

村瀬　映画を観てから『Go!プリ』をまた最初から見直したんですけど、やっぱり面白いですね！　こんな素敵な作品の推し（キュアフローラ）が出ているので、皆さんもかわいさに夢中になっていただけると嬉しいです。

古賀　（かわいいのは）エルちゃんもね！

村瀬　あ、プリンセスはもちろんです！

関根　言わせようとしてる～（笑）。

七瀬　バタフライチームは、一番個性が強くてぶつかり合っちゃいました。でも、一悶着あったところから絆が深まって。最後の戦闘シーンでは、ショコラとマカロンが二人で会話するところで、ミルキーが攻撃を防いでくれて、笑顔でマカロンとアイコンタクトも！　シリーズの垣根を越えた絆ができて、それが戦いでも活かされる。そういうところが、何度観ても気づきがあるなと思いました。それと、旅の途中のシーン。セリフはないんですけど、ララがラテと一緒に走って、後ろであげはがアスミ&ゆかりと腕を組んで「行こう！」みたいにするところ。『ひろプリ』チームだと、他の4人の保護者的立ち位置なところもありますけど、このチームの中だと同年代くらいの位置でいられて。同年代の友達と一緒だと、あげはもこんな感じになるのかな、なんて思いました。学校でのあげはの様子も見てみたいですね。

ツバサは話し合ってなんとかしようとする象徴かもしれない

むらせ・あゆむ
12月14日生まれ／アメリカ合衆国出身／アスターナイン所属／『ミギとダリ』（園山秘鳥〈ダリ〉）、『Paradox Live』（燕 夏準）ほか

想像がひろがる！プリムとブーカの未来

――映画オリジナルキャラクターである、キュアシュプリームとプーカについてはどう感じましたか？

関根　ギャップの大きい二人ですよね。クールですごく強いシュプリームと、ふわふわオドオドしていても踏ん張り、頑張れるプーカ。とっても素敵で、キュンキュンします。あと、プリムの私服が大好きです！

古賀　プーカが怯える姿を見ていると、TV『ひろプリ』の最初の頃のエルちゃんを見ている気持ちになりました。エルちゃんも最初は恐ろしいものがいっぱいあって、どうしたらいいんだろうかと怖がっていましたよね。「だいじょーぶ」ってプーカの手を握るんですけど、そういうことができるようになったのもソラたち4人の姿を見てきたからだし、自分がいっぱい助けてもらったからだろうなって思います。で、そこからバーッと変身してビューン！　カッコよかったです！

加隈　『ヒーリングっど♥プリキュア』でヒーリングアニマルのラビリンとして過ごしてきた私としては、妖精同士、プーカの気持ちに感情移入してしまいました。プーカなりにプリムと一緒に歩む気満々で、最初は抱っこされただけですごく嬉しそうな表情を見せていましたよね。だから「プリム、なんて酷いことを！　もう立ち直れないでしょ！」ってなりました。二人はそもそも目的が違ったんでしょうね。戦うことが目的のプリムと、一緒にいたいプーカと。そのズレが生んだ悲劇だったんだと思います。でも、最後にプリムを受け入れるプーカって、なんて心が広いんだろうかと。プリムを好きな気持ちは変わらずにあって、自分がなんとかしなきゃと思いつつ、でも自分にはどうすることもできないし、手から放つ破壊の力にも怯えていて……。そんなプーカの手を、のどかが優しく握りにいく姿もすごかったです。「大丈夫って言ったでしょ」って笑顔で言っていたけど、いや、大丈夫じゃないよね!?

一同　（笑）。

加隈　私としてはすごく心配で、ヒヤヒヤして見守っていましたね！　プーカに対する接し方に、それぞれの人となりが見えました。

七瀬　プリムはプリキュアという存在に興味を抱いて、自分の力を分け与えてプーカを作り出しました。つまり芯の部分は同じというか、一心同体でもあって。その意味では、もう一人の自分に大切なことを気づかされたのかなと思いました。もちろんそれは、二人がプリキュアのみんなと出会えたからでもあるんですが。

村瀬　二人、バディというのは『プリキュア』において重要なんだなとあらためて思いました。二人でなんとかしなきゃいけない運命を背負わされているんだけど、本人たちはそこまでの事情が分からず、とにかく目の前のことに一生懸命立ち向かっている。その姿が、めちゃくちゃエモーショナルだなって。ソラとましろの呼びかけで全員が復活していって、その思いがプーカにも届いて変身して。それがプリムを助けたんですよね。最後、二人が横並びで立って、未来へ続いていく形になりますが、ソラとましろのバトンがきれいに届いたなって。ソラとましろ、どちらか一人欠けてもダメだったんじゃないかなと思っています。ましろは、ソラに手紙を送ったTVの第23話を経て、少し変わったよね。映画でもソラを逆に……。

学校でのあげはの様子も見てみたい

ななせ・あやか
7月11日生まれ／東京都出身／アクセルワン所属／『治癒魔法の間違った使い方』（スズネ）、『女神寮の寮母くん。』（早乙女あてな）ほか

関根　そう、引っ張ってくれて！

加隈　TVのOPでプリズムがスカイを引っ張り上げるような感じになっていて、「ああ、こういうことか！」ってなりました。

――ましろは第23話の手紙のシーンも泣ける感じでしたよね。

加隈　手紙の良さってありますよね。直接話すとその場で回答を求めてしまうところがありますけど、手紙だと受け取った側の心情によって受け取り方が変わりますし。ましろも、ソラちゃんが読まなくてもいいし、読んだ上でソラちゃんがどういう選択をしても全部受け入れるよという気持ちでした。押しつけじゃない文面だったので、優しく包み込むようにいきたいなって。でも、このシーンを家で練習するたびに泣いてしまって。それで、なんとか泣かないようにと思いつつ現場に入ったら、先に録っていた明良ちゃんがすでに真っ赤な目をしていて。

村瀬　「お前もか！」みたいな（笑）。

関根　そうなんです（笑）。

加隈　それを見ただけで、もう泣きそうで……。明良ちゃんに寄り添ってあげられたらよかったんだけど、私まで泣いたらますます読めないし、なるべく明良ちゃんを見ないようにしていたんです。もっと涙腺コントロールができていたら、という反省があります。

関根　いえいえ、そんなこと！

――あらためて、映画についてもお聞かせください。

関根　ラストシーンのキュアシュプリームとキュアプーカは、「ブラックとホワイト……？」とドキドキしました。そしてそこから新しい世界へ、というところで「『ふたりはプリキュア』だ！」ってなって。二人の物語は、きっとここから始まるんですよね。どういう関係や物語がひろがっていくのか、たくさん想像してしまいます。

古賀　私たちともどう関わるのか想像すると楽しいですよね。

加隈　二人がみんなと一緒にごはんを食べるとなったら、やっぱり隣同士で並ぶのかな。かわいい～。

関根　スピンオフにならないですかね！

村瀬　本当に観たいよね！

七瀬　うんうん！

――では関根さん、最後にシリーズ終盤に向けて意気込みを！

関根　物語の先について、私たちもまだ何も知らず、ドキドキしています。でも、ここまで第1話から一歩一歩、みんなで成長して可能性をひろげてきました。アンダーグ帝国の皆さんとも、きっとつながりをひろげていけるんじゃないかな……そんなふうに思っています。それぞれが持っている夢も、どんな可能性を描いてひろがっていくのか、どうか見届けてほしいです。ぜひみんなを最後まで応援してください！

今のエルは「みんなでいること」が世界のすべて

こが・あおい
8月24日生まれ／佐賀県出身／81プロデュース所属／『SYNDUALITY Noir』（ノワール）、『でこぼこ魔女の親子事情』（アリッサ）ほか

シャララ隊長役

斎賀みつき

ソラはうらやましいくらいまっすぐな女の子

――シャララ役で出演が決まった時の感想をお願いします。

斎賀　長く愛され続けているシリーズ作品に関われることが、素直に嬉しかったです。

――デザインを見た時の第一印象や、演じる上で意識したことを教えてください。

斎賀　とても凛々しい、でもどこかしなやかな、素敵な隊長さんだなと思いました。演じる上で意識することは、どのお役でも同じです。シャララさんがこの作品の中でシャララさんらしくあればいいなと思っています。

――これまで演じてきて、シャララらしさが特に出ていると感じたシーンは？

斎賀　やはり戦闘シーンは「らしさ」が出ているかなと思いますが、優しさと強さを兼ね備えて、完璧に見えつつも普通の人らしい一面も持っているところなんかも、見てほしいところではあります。

――シャララはソラにとっての「ヒーローの原点」のような存在です。シャララもソラを何かと気にかけている感じですが、どのように捉えていますか？

斎賀　彼女の中で、ソラちゃんの存在が特別印象に残っているからこそ、ソラちゃんの成長を見守りたい、支えたいと思っているのかなと。もちろん、ソラちゃんだけでなく他の部下の方々にもちゃんと心を砕いていると思います。

――第22話、第23話は、バッタモンダーによってシャララがランボーグにされるというショッキングな展開でした。

斎賀　ソラちゃんの悲痛な表情や叫びが切なかったです。でも、しっかりと立ち上がって立派に成長したソラちゃんは、すばらしかったですよね。

――斎賀さんから見て、ソラはどんな女の子だと感じていますか？

斎賀　うらやましいくらいまっすぐで、でもそれが時々いきすぎて危うさもある、見ていて飽きない子だと思います。ソラ役の関根明良さんとは、なるべく一緒に収録できるように組んでいただいているみたいです。関根さんは、まっすぐにソラちゃんと向き合って、全力で物語にぶつかっています。見ていると、関根さんとソラちゃん、とても似ているなと感じます。

――『ひろプリ』も4クール目に突入しました。ここまで参加してきて、作品にどのような感想をお持ちですか？

斎賀　観ている人が、ソラちゃんたちと一緒になって笑ったり怒ったり泣いたりハラハラしたりホッとしたり、自然とそうなってしまう魅力満載のストーリー。とても素敵な作品だと思います。

――シャララの活躍を期待しているファンへのメッセージをお願いします。

斎賀　シャララさんというとても素敵な隊長さんと共に物語を歩ませてもらい、光栄です。皆さんに青の護衛隊に入りたいなあと思われるように、彼女の活躍を（するのかな）全力でお手伝いしていきます。これからもどうぞよろしくお願いします。

ましろの家で静養中

スカイジュエルのペンダント

シャララ隊長

スカイランド王国を守る青の護衛隊の隊長。ソラの憧れの女性で、「立ち止まるなヒーローガール」といった言葉でソラを鼓舞する

さいが・みつき
6月12日生まれ／埼玉県出身／賢プロダクション所属／『魔入りました！入間くん』（オペラ）、『新テニスの王子様』（Q・P）ほか

カバトン

豚のような顔をしたアンダーグ帝国の元幹部。自分の力を誇示したがる性格で「オレ、TUEEE！」が口癖。現在はソラシド市で暮らしている

第12話、アンダーグエナジーで強化！

第4話ではミニカバトンに変身！

石焼き芋屋として天下をとる!?

カバトン役

間宮康弘

――『HUGっと！プリキュア』のはなのお父さんから一転、真逆のワル役ですが、出演が決まった時の感想をお聞かせください。

間宮　キタキタキタ――――――っ!!　プリキュアの敵役なんてオレSUGEEEEEEEEEE!!!

――カバトンのデザインを初めて見た時の印象はいかがでしたか？

間宮　あれ？　モヒカンのオレじゃねぇか。

――演じる上で意識していることや、シリーズディレクターの小川孝治さんからお願いされたことをお聞かせください。

間宮　ヒールは嫌われてなんぼなので、観てくれている子どもたちにいかに嫌ってもらえるかを心掛けていました。小川さんからも「もっとやっちゃっていい」と何度か演出指示を頂戴しました。

――特徴的な口癖や語尾については？

間宮　口癖の「オレ、TUEEE:」は「(弱いヤツが）イキってる感じで！」とニュアンスの指示をいただきました。語尾の「～なのねん」は、こちらで作っていった口調のプランを受け入れていただいた感じです。

――カバトンは、おならで文字通り「相手を煙に巻く」ようなコミカルで憎めない雰囲気もありつつ、結構卑怯者な面を見せる時もありました。そのギャップはどのように意識していましたか？

間宮　お芝居の中で自動的に切り替わっていました。普段のカバトンは「ナメ腐って小馬鹿にしている」イメージ、声のトーンが落ちた時は「冷酷さ・残酷さ・真剣さ」を表現していたように思います。

力がすべての弱肉強食のアンダーグ帝国で、カバトンはおそらく元々弱い存在だったのだろうと。嫌な思いや悲しい思いをたくさんしてきたがゆえに、単純にマウントをとれる「物理的な強さ」に固執していたのだと思います。もっと残酷で酷いキャラクターにもできただろうに、コミカルで憎めない部分を作ってくださったのは、小川さんをはじめとするスタッフの皆さま方の愛だと思います。そのおかげで、人物に奥行きができ、ヒールでありながらとても人間くさいキャラクターになりました。演じていて、とても楽しかったです。

――カバトンは屋台のおでん屋で愚痴をこぼしていましたね。

間宮　昭和生まれにはなんとも感慨深いシーンでした。昔は残業や飲み会の後、帰り道にフラッと立ち寄った屋台で、おでんなりラーメンなり食べて、安酒を飲んで、店主に会社や上司の愚痴を言ってフラストレーションを発散するなんて文化があったんです。赤の他人だからこそ言える悩みなんてのもあったりして。この手の屋台をめっきり見かけなくなった昨今、あんな店を知っているカバトンを、ちょっとうらやましく思いました。

――第12話は、自分をアンダーグエナジーで強化して、キュアスカイと一騎打ち。スカイの強さを認めて人間世界で暮らすという、カバトンにフォーカスした話でもありました。

間宮　小細工をせずに全力でぶつかって敗れた時は、悔しさと爽快感がありました。血も涙もない修羅の国・アンダーグ帝国ですし、悪党の美学的には完全に消滅されたかったのですが、生存が決まった時は、実はちょっと嬉しかったです。

そしてオンエアにはなりませんでしたが、本番前のテスト時に、スカイ役の関根さんが芝居のギアを一段上げて、ラスボス戦のようなテンションで来てくださったんです。他の演者さんもみんなそれに引き上げられて。この芝居でやっつけられた時が、一番「カバトンを担当させていただけてよかった」と思った瞬間でした。

――第34話では、カバトンがバッタモンダーと同じアパートで暮らしていることが判明しましたが、いかがでしたか？

間宮　まさか、こんな形での再登場になるとは予想していませんでした。ってか、できるか！（笑）

――第41話ではカバトンが石焼き芋の屋台を引いているシーンもありましたが、こうした人間社会への溶け込み具合についてはどう感じていますか？

間宮　ヒールを愛する自分としては、戻ってきてプリキュアにまた酷いことをしてほしい気持ちもあります。でも、すでに「人を笑顔にする」という新たな戦場で戦いを開始しているわけですから、せっかくなら石焼き芋屋さんとして天下をとってもらいたいです。

――カバトンは、石焼き芋屋も含め、頻繁にいろいろな格好をしてきました。中でも印象に残っているものは？

間宮　変装ではないですが、魔法（？）で化けた「ミニカバトン」がかわいくて大好きでした♥

――最後に、アンダーグ帝国のファンへのメッセージをお願いします。

間宮　カバトンが映るたびに「こいつキライ～！」って、泣いてTVを叩いてくれたちびっこたち、本当にありがとう。そしてSNSなどで「いいぞカバトンもっとやれ！」と言ってくれた大人たち、てめぇら愛してるZEEEEEEE!!　それじゃまたな！　カバトントンっ!!!!

まみや・やすひろ
12月7日生まれ／千葉県出身／ケンユウオフィス所属／『忍たま乱太郎』（稗田八方斎〈2代目〉）、『BLEACH 千年血戦篇』（マスク・ド・マスキュリン）ほか

バッタモンダー役 KENN

意図せず、ましろを応援する形に

工事現場でアルバイト中

紋田（もんだ）
ソラシド市でアルバイト生活中。再会したましろに挫折感を味わわせようとしたり、プリキュアを騙って人々に迷惑をかけたりする

バッタモンダー
一見クールなイケメンだが、なかなかにゲスい性格。シャララ隊長をランボーグ化してソラを追い詰めたりと、悪辣な作戦を展開した

キュアパンプキンになって大暴れ

けん
3月24日生まれ／東京都出身／Zynchro所属／『私の推しは悪役令嬢。』（ロッド＝バウアー）、『アイドリッシュセブン』（四葉 環）ほか

――「プリキュア」シリーズへの参加は『フレッシュプリキュア！』以来だったかと思いますが、出演が決まった時の感想は？

KENN　オーディションの原稿をいただいた段階で、とても振り幅のある役と感じまして、自分の引き出しをゴソゴソ探しながら楽しく演じさせていただきました。運良く役が受かって、とても嬉しかったです。以前演じさせていただいた『フレッシュプリキュア！』の一条和希とは真逆のキャラクターなので、役者として重ねてきた経験値を認められた気がして、あらためて襟を正す気持ちで向き合いたいと思いました。

――バッタモンダーのデザインを初めて見た時の印象をお聞かせください。

KENN　とてもカッコよく、かつミステリアスな風貌。「バッタ」と名のつくだけに、緑色を基調としたデザインですぐ好きになりました。スリムな体型なので、自分も腹筋頑張ろうとバッタモンダーを見るたびに思います（笑）。まさか『ひろがるスカイ！プリキュア ドリームステージ♪』にも携われると思っていなかったので、光栄でした。なかなか自分の担当したキャラクターが、実際の世界で活躍できる機会はないですからね。

――第23話までは相当に卑劣な印象でしたが、この時期のバッタモンダーを演じる上で意識していたことは？

KENN　小川さんとは、初めにキャラクターの方向性をいろいろお話させていただきましたが、本当にバッタモンダーは視聴者の皆さまに嫌われるだろうなと思いました（笑）。ですが、必要悪、反面教師と言いますか、「こんな人にはなってはよくないよ」というメッセージが込められているのかなと感じ、思いきり悪役をやらせていただきました。

のちに明らかになりますが、彼はコンプレックスを抱えていて、根っからの悪ではないと分かります。紋田として再び登場してからは、人間らしくピュアな部分を見せながら、悩んだり追い詰められたりしていきます。分かりやすい悪役から、繊細な人間の機微を感じるグラデーションの脚本、演出には脱帽しました。かなり後半になってお聞きしましたが、実は彼はもっと早く退場する予定だったそうです。

――第15話でソラににらみつけられ、その後も、ましろやあげはににらまれておびえる姿も印象的でした。

KENN　バッタモンダーは、とても繊細なメンタルの持ち主だと感じました。もしも、いい環境で心を育んでいれば、もっともっと違った人になっていたかもしれないと感じたシーンでした。彼は感受性が高い人なので、環境や本人の正しい努力があれば、それこそプリキュアみたいに良い行いができるポテンシャルはあったのかなと思います。

――2クール目のバッタモンダーは、エルちゃんを奪うことよりも、ソラやその仲間を精神的になぶって愉悦に浸ろうというのを優先していたようです。演じていて、特に酷いと思った回はありますか？

KENN　バッタモンダー本人はソラに相当プライドをズタズタにされたと感じているので、その仕返しをする回（第22～23話）でしょうか。

――敵幹部としてのバッタモンダーの大きな見せ場の前後編でしたね。

KENN　いつもですが、ソラを演じる関根さんのお芝居がとても鬼気迫るものがあります。圧倒されながらも、僕自身の役を全うしようと、実は必死でした。今までに受けたと感じている屈辱やコンプレックス、ソラとは関係のない過去のつらかった部分などを、すべて押し付けるかの如くぶつけました。個人的にはいい気持ちはしませんでしたが、バッタモンダーとしては、とても気持ち良い瞬間でした。

印象的だったのは、弱ったシャララに悪役らしく高笑いをしながらセリフを言うところです。自分に酔いながら、愉悦に浸っていました。なかなかこういった役やシーンを担うのは少ないので、特に印象に残っています。

――第34話では、紋田としてまさかの再登場を果たしました。

KENN　おかげさまで視聴者の皆さまやスタッフさんからの人気も高く、よく再登場の期待のお声を頂戴していました。再登場を期待していなかったといえば嘘になります。当初はもっと早い退場の予定だったにも関わらず、皆さまに育てていただいたおかげで、また違ったアプローチをすることができて嬉しかったです。

――紋田はましろをだます爽やか青年と、腹の内の本音とのギャップがなかなかすさまじいです。

KENN　見た目は好青年でイケメン。一見、非の打ちどころがなさそうに演じました。表と裏のギャップを特に意識し、コミカルな雰囲気もまといながら、時に人間の心理の核心に迫る重要な役どころだと感じたので、説得力があるよう大事に演じました。アフレコは別録りせずに、流れで表と裏を切り替えながら、リアルタイムで声色も変えていきました。

――両者の切り替えはどのように意識しましたか？

KENN　心臓の鼓動が聞こえてくるくらい爆発力を持って臨みました。小さい頃に水泳をやっていたので、肺活量には自信がありましたが、肺がもうひとつ欲しかったですね（笑）。自分の中でかなりチャレンジングな表現の切り替えでしたが、楽しんでもらえたのなら何よりです。

――第39話ではキュアパンプキンと名乗って、街中でいたずらをするお話でした。アフレコ時に印象に残っていることは？

KENN　本番前のテストの時、実はとあるセリフを「プリキュア」の歌のメロディで歌ったらボツになりました。結構上手に歌えたのですが、残念です。大人の世界は難しいですね（笑）。

――第41話は第34話の続編的な話で、またましろの夢に紋田が関わる形になりました。

KENN　意図せず、ましろを応援する形になっていましたが、まさか逆にプリキュアに助けられるとは思ってもいなかったです。「枯れた落ち葉は地に落ちて踏みにじられるだけだ」と言う紋田と「落ち葉、わたしは好きですよ」と言うましろ。人によって価値観とはこうも違うのかと感じた最後のシーンでした。

――第43話でもこの続きとなるドラマが見られそうですが、演じてみていかがでしたか？

KENN　まだ多くは語れませんが、心の柔らかい部分を刺激される、とてもいいお話でした。演技的には、また引き出しをひっくり返していろいろ探しましたが、経験値が一気に増えて、いい勉強になりました。

――最後に、アンダーグ帝国のファンへのメッセージをお願いします。

KENN　この物語の最後まで、しっかり見届けてくれ。すべてを見終わった後、キミは何を思う？

世界中の人がキュアスカイのような気持ちを持てたら

スキアヘッド役 宮本 充

スキアヘッド
アンダーグ帝国の最強の刺客であり、主であるカイゼリン・アンダーグにもっとも忠実な人物。感情を表に出さず、冷たく恐ろしい

――スキアヘッド役で出演が決まった時の感想をお聞かせください。

宮本　オーディションではなくオファーでした。キャスティングしてくださった方、ありがとうございます！　まさか自分が「プリキュア」に出演することになるとは思いもしませんでした。先日、近所を歩いていた時に、子どもたちが「プリキュア」の話をしていて、「おじさんがスキアヘッドだよ」と言いたくなりました。せめて物陰から「アンダーグエナジー、召喚！」と言ってやりたかったな。ちなみに、スキアヘッドの第一印象としては、「僕の知り合いにそっくり」です。

――この放送枠への出演は『明日のナージャ』以来かと思います。「プリキュア」シリーズにはどのような印象を持っていましたか？

宮本　『明日のナージャ』の時は、アニメの仕事を始めてまだ間もない頃で、共演者の皆さんもベテランの方が多く、収録時に緊張していたのを思い出します。それが「プリキュア」では最年長グループに。周りは自分の子どもと同じ年頃の人たちばかり。今は「ベテランとして下手な芝居はできないぞ」という、別の緊張があります。

――スキアヘッドを演じる上で意識していることや、アフレコ時に小川さんからお願いされたことをお聞かせください。

宮本　初登場の時に、まず小川さんからレクチャーを受け、アンダーグ帝国の世界観を教えてもらいました。「こんなに細かく深い設定がされているのか！」と驚きましたね。スキアヘッドの名前の由来、性格、考え方、目的なども詳しく聞き、「これは大変な役だぞ……！」と思いました。

小川さんからはいつも「淡々と」と言われています。でもそれが難しくて……。感情を出すほうが、演技的にはやりやすいのです。そういったものを一切表に出さず、だが内には底知れぬ闇を秘めている、というのは本当に難しくて……。今も試行錯誤の日々と言っても過言ではありません。スキアヘッドは「感情の起伏がない」のではなく、「感情がない」に近いのかもしれません。スタッフの方が、収録した音声を毎週データにして送ってくださるので、それを聴いて次の収録に活かしています。

――初登場の第31話は、キョーボーグは生み出さず、いきなり自らプリキュアと戦う展開でした。しかも、淡々と「開け」「弾けろ」「守れ」と言うだけで技を繰り出して圧倒していくのは、演じるのも大変だったのでは？

宮本　それはもう苦労しました。技名や命令するようなセリフは大きな声で叫びたくなるじゃないですか。「開け」は「開け！」と。「弾けろ」も弾けるように言いたくなるじゃないですか。それを淡々と。だからと言って、小さな声では効果音に消されてしまうので、音量はしっかりと出さなければ。大リーグボール養成ギプスをはめられているような気持ちでした。

毎度の「アンダーグエナジー、召喚！」も、最初は抑えて言っていたのが、どんどん大きくなっ

ミノトン役 酒井敬幸 次は敵ではなく好敵手として

操られ強化されたミノトン

そこからさらにパワーアップ

スポーツジムで筋トレ中

さかい・けいこう
12月25日生まれ／福島県出身／81プロデュース所属／『魔道祖師』（温逐流）、特撮『王様戦隊キングオージャー』（ジゴクジームの声）ほか

ミノトン
筋骨隆々のたくましい武人。正々堂々とプリキュアを倒すことに執心し、地上の世界に潜伏中も日々鍛錬に勤しむ。現在の消息は不明

—ミノトン役として出演が決まった時はいかがでしたか？

酒井　過去に敵幹部のオーディションを受けたこともありましたが落ちてしまい、その後オーディションの話もなかったので、縁がないのかなと思っていました。なので、「ミノトン役でレギュラーです」と連絡を受けた時は、驚きで鳥肌が立ちました。のちにオファーをいただいたと聞いたので、どこかで知っていてくださったんだなあと思い、嬉しさと共に、続けてきてよかったと感じたのを覚えています。

—「プリキュア」シリーズには『映画フレッシュプリキュア！ おもちゃの国は秘密がいっぱい!?』以来の出演だと思いますが、シリーズにどういう印象を持っていましたか？

酒井　いつかTVシリーズに携わってみたいと思っていましたが、気づいたらいつの間にか20周年を迎えていたことに驚いています。「男の子は戦隊ヒーロー、女の子はプリキュア」みたいな勝手な印象を持っていましたが、『ひろプリ』のある回を観ていて、登場人物に自分を重ね、思わず涙が出てしまうこともありました。大人でも心に刺さるストーリーで、世代や性別を問わず、心を震わせてくれるシリーズなんだなと印象が変わりました。

—デザインを見た時の感想は？

酒井　ミノトンという名前の響きで、西洋のイメージがありました。なので、着流しにさらしを巻いて肩を出す、昔の任侠映画の登場人物のような格好というギャップに驚きました。また、目の周りの隈取が、歌舞伎を思わせて印象的に感じました。今になって思うと、ひょっとしたら任侠映画の入れ墨を隈取として表していたのかも。衣装の胸の大きな稲妻マークや裾の波の模様も、作中で電撃を喰らったり、海での話があったので、そういう含みがあったのかもと感心しています。

—演じる上で意識したことや、アフレコ時に小川さんからお願いされたことなどをお聞かせください。

酒井　バッタモンダーが性格的に陰湿だったので、小川さんは「ミノトンは夏の間に登場する幹部ということでカラッとさせたい」とおっしゃっていたと思います。「武人」と聞くと寡黙な印象があったのですが、ボソボソしてしまうとクールに聞こえてしまうかなと思ったので、逆に力強さを意識して、情熱的になるよう意識をしました。暑苦しく聞こえていたなら幸いです。

—「武人」と名乗るだけあって、フェアな精神が働く人物でした。初登場の第25話では、エルちゃんをランボーグの攻撃から庇っていましたね。

酒井　最強の武人と言うからには、相手から認めてもらえなければならないと思いますし、ただ勝負に勝ってきただけでは名乗ることはできないと思います。アンダーグ帝国において「最強の武人」を名乗れるほど、気持ちのいい戦いでのし上がってきたのは、相当すごいと思います。そういう背景があったからこそ、ソラシド市に来ても、プリキュアとの戦いに幼いエルちゃんを巻き込まずにランボーグから庇い、のちにスカイから武人と認められて分かり合えたんだと思います。

—第26話では、空港の迷子アナウンスでプリキュアをわざわざ呼び出していましたね。

酒井　炎天下にプリキュアを呼び出してもらうというやり方には、思わず笑ってしまいました。でも、空港内で戦うと関係ない人を巻き込んでしまうので、堂々とプリキュアとの戦いを楽しみたいと考えての行動だったのではないでしょうか。

—筋トレしているシーンも多かったですね。ミノトンの少しコミカルな見せ場でもありました。

酒井　「1万回素振りして準備運動って、戦う前に疲れるでしょう」とか「ジムに行ってベンチプレス500キロとかって、正体バレるでしょう」とかツッコミながら、楽しく台本を読みました。でも本番では、本気でトレーニングしている芝居をするので、楽しむ余裕はなく、酸素が足りなくて終わると頭がボーッとしてくるくらい、わりと必死でした。海で筋トレしているシーンは、自分語りとトレーニングの同時進行だったので、一番つらかったですね。

—筋トレ以外でも、毎回ミノトンが最初に画面に出てくる時は、たいていひとネタある形になっていましたね。

酒井　第26話は、真夏にトレンチコート姿で空港に現れるファッションセンスや、暑さをハンディファンで何とかしようとしていたのも笑いましたね。某映画のオマージュなのか、トレンチコートがよく似合っていました。ミノトンにトレンチコートを着せたいと考えたスタッフさんの遊び心が見えて面白かったですね。

第30話の海回では、ふんどし姿でいきなり登場し、恥ずかしさのためかプリキュアの声に、思わず茂みに隠れてしまうかわいさも面白かったです。アフレコの時は色まで分かりませんでしたが、オンエアはふんどしの色が赤だったので、漢はやっぱり赤ふんどしだよなと思いました。その後、ちゃんと着替えて勝負を挑むところも面白かったですね。

ジムでのトレーニングのシーンでも、ちゃんとトレーニングウェアに身を包んでいたり、ジムの会員の人たちとも面識あって仲良くやっている細かい描写も、個人的にはとても好きでした。

—第31話では、命令よりもプリキュアを正々堂々と倒したい想いを優先させ、カイゼリン・アンダーグの怒りを買うという展開でした。

酒井　この時のミノトンの心情は難しかったです。プリキュアを倒したいという個人の思いが、命令よりも上回るのかと疑問がありましたので。彼がプリキュアを倒してからプリンセスを引き渡すことにこだわったのは、プリンセスを取り戻しに来たプリキュアによってカイゼリンに危険が及ぶことを考えての行動だったのではないかなと思います。そういう思いをカイゼリンに伝えず、愚かな武人ゆえと自らを卑下し、罰を受けたところに、忠義の士としての一面を見ました。本当のところは分かりませんが、カイゼリンとの短いやり取りには、そんな思いも含めながら演じました。

—しかし第32話、第33話では、スキアヘッドにアンダーグエナジーを注入されてしまいました。

酒井　第32話では、アンダーグエナジーに支配されてはいましたが、プリキュアにかけるセリフがあったりしたので、まだ完全に支配されたわけではないのかなと感じ、表現が難しかった記憶があります。凶暴さを意識しましたが、セリフが速いと知性や理性が残っていると思われそうなので、ゆったり大きく喋り、バランスを取るのに苦労しました。

第33話は、完全にアンダーグエナジーに支配されたようです。セリフも咆哮や「プリキュア～！」と何度も叫ぶシーンが多く、理性は残っていないんだと切なくなりました。わずかに残っていた武人の誇りを一瞬取り戻させてくれたスカイの言葉は、胸が熱くなりましたが、演者としては引っ張られないようにするのに苦労しました。スカイの言葉を否定し、武人の誇りと決別するかのようにアンダーグエナジーの深みに堕ちていく咆哮。演じていて、とてもつらく哀しかったです。

—ラストでは、プリキュアの浄化技で元に戻れたことに恩義を感じつつ去っていく、清々しい流れでした。

酒井　浄化で存在が消滅してしまうのを想像していたので、意外ではありました。アンダーグエナジーだけ浄化されていたのにホッとしたのと、存在がなくなってしまったらプリキュアのほうに哀しみが残ってしまうので、決着の付け方としては最高でした。言葉は少ないですが、スカイとの握手に、素直に負けを認めて相手を称える気持ちが込められていたのも、見ていて好感が持てました。収録後にスタッフの皆さまにご挨拶にうかがったら、温かい拍手を送られました。放送を観た時は、その時の感動も蘇りました。

—最後に、アンダーグ帝国のファンへのメッセージをお願いします。

酒井　アンダーグ帝国およびミノトンを応援いただきありがとうございます。プリキュアを倒すという目標は叶いませんでしたが、義理堅いミノトンがどのような形でプリキュアに恩返しするのか。そしてそれがどういう場面でなのか、まったく想像がつきません。次に会う時は、敵ではなく好敵手としてプリキュアの前に現れてくれることを願っています。

ちゃって、ある時、録り直しになりました。でもオンエアを観ると、それでよかったんだと思います。淡々と言うほうが逆に威圧感が出るんだと。弱い犬ほどよく吠えるというか、スキアヘッドは叫ばなくても、ちょいと指一本動かすぐらいのことで強力な技が出せるんだと。そのほうが迫力が出るんだと思うようになりました。

—第31話でキュアマジェスティが現れた時や、第38話の竜族が飛んだのを見た時など、「知識の宮殿に記録しておこう」という意味深長なセリフが印象的です。

宮本　とても好きなセリフです。彼が目の前の出来事を認めたということですから。だからと言って「竜族が飛んだ！」と驚くわけでもなく、あくまでも淡々と「いいコト知った。覚えとこ」と、シェイクスピア的なしゃれた言葉で表現する。スキアヘッドらしいと思います。

—第41話では、バッタモンダーを敗残者として冷酷に粛清しようとしました。このシーンを演じてみた印象は？

宮本　バッタモンダーは好きです。アルバイトしながら安アパートに住んで、カップラーメンを食べて、ギリギリの生活をしていて。でもプライドはあって、虚栄心でいっぱいで。それでも「何やってるんだろう、俺は！」といつも悶々としていて。自分の若い頃を思い出します。TVを観ている人はみんな、そんなバッタモンダーが好きなはず。その彼をいじめるのだから、スキアヘッドは日本中を敵に回しているようなものです。でも、それが演じる者にとっては嬉しいのです。「いいぞ、もっと憎んでくれ！」と思います。悪役の醍醐味だと思うのです。だから、容赦なくバッタモンダーを冷酷にいじめるように演じました。

ただし、スキアヘッド自身は「冷酷に」とか「いじめる」とか、そういう感覚はないはず。当然のことをやっているだけのこと。このへんのさじ加減が、本当に難しいのです！

—同じく第41話でのキュアスカイの問いに「愛するお方がそれを望んでいるからだ」と答えました。ここで初めて、スキアヘッドの気持ちが垣間見られましたね。

宮本　「愛するお方」についても、最初に小川さんからレクチャーがありました。でもその話は「プリキュア（キャスト）には言わないように」と厳命されています。この回の収録時に、みんなから「愛する人って誰ですか！」と聞かれましたが、「ごめんね、それは言えないんだよ」と。でもリアルに考えたら、プリキュアは知らないことなのだから、演じる人たちも知らないほうがいいのでしょうね。

それにしても、「力のない者に価値はない」と言い放つスキアヘッドに、「話しましょう」と語りかけるスカイってすばらしい！ 敵を知ろうとすること。分かり合う努力をすること。歩み寄る努力をすること。世界中の人々がその気持ちを持てたら、戦争なんて起こらないのではと思います。負の連鎖も断ち切れるのではないかと。悲惨な戦いをニュースで見るたびに、そう思います。

—スキアヘッドやアンダーグ帝国には、どういう結末を迎えてほしいですか？

宮本　キョーボーグとランボーグは、しっかりと澄みきって、人間と仲良くなってほしい。バッタモンダーはいい青年になって、定職について幸せになってほしい。だけどスキアヘッドは……消滅してほしい。世界が平和になった時に人々の記憶から消えてほしい。極悪人は、それ相応の報いを受けなければ。前の質問の答えと矛盾していますね……。でもそれが、純粋な僕の希望です。演じる者としての希望です。

—最後に、アンダーグ帝国のファンへのメッセージをお願いします。

宮本　アンダーグ帝国のファンなんているんですか？ ……いるかも。ランボーグの「澄みきった～」はキュートだし、キョーボーグの「キョキョー！」は最高に面白いし。バッタモンダーは見守っていたいと思える青年だし。皆さん、彼らは悪くありません。悪いのは僕です！ アンダーグ帝国をこれからもよろしく！

みやもと・みつる
9月8日生まれ／大阪府出身／劇団昴所属／『文豪ストレイドッグス』（森 鴎外）、『ファイナルファンタジーXVI』（アルテマ）ほか

大人の心にも響く対話のドラマ

虹ヶ丘ヨヨ役 塩田朋子

虹ヶ丘（にじがおか）ヨヨ
ましろの祖母。スカイランド出身で、王家の人々からも尊敬される博学者。50年前に地上の世界へやってきた。性格は柔和でお茶目

愛用のショルダーバッグ

夏私服は緑基調

ヨヨのスマホは緑色

たくさんの本を所有

ハロウィン仮装で大魔女に！

一歩引いて見守るのが賢人らしいあり方

―塩田さんは「プリキュア」シリーズには初参加ですが、身近な方々からの反響もあったりしますか？

塩田 ええ、ものすごくありますよ！ 親戚の子どもたちも、みんなプリキュアが大好きで。画面にヨヨさんが出てくると「朋ちゃんヨヨちゃんだ～」とか言って、楽しんでくれているみたいです（笑）。

―出演が決まった時は、どのように感じましたか？

塩田 「プリキュア」という存在や、出演されていた声優さんのことも知っていましたけど、まさかまさか私がオファーされるだなんて、びっくりしました。何の役かしらと思いましたね。

―ヨヨの第一印象はいかがでした？

塩田 年齢を感じさせない、モダンなおばあちゃんだなぁと思いました。私はわりとシャキシャキした役が多いんですけど、小川さんからは最初のテストで「とにかく優しいものの言い方でお願いしたいです」と言われたんです。それで、優しく優しくと自分に言い聞かせながら演じています。彼女はきっと、子どもたちの知らないところで、いろいろなことを考えて動いていそうです。でも、そういう部分を一切見せないのが、彼女の優しさでもあるんでしょうね。とにかく、ピリピリした感じは絶対に出さないように意識しています。

―言葉遣いもとても上品ですよね。実の孫にも「ましろさん」とさん付けで。

塩田 「ちゃん」づけはエルちゃんだけで、ほかはみんな「さん」なんですよ。そこは彼女たちを「幼い子ども」とは見ていないからだと思うんです。いわゆる世間でのおばあちゃんと孫ではなくて、一人の人格ある人間として接していて。だから、助言はあくまでヒントだけ。自分の役割をわきまえて、一歩引いているように思います。みんながそれぞれの道を選んで進んでいる中で、ヨヨさんは「この子は何を学んでいるのかな」と、じっと見ている感じがします。余計な口出しや干渉をしない。これこそが賢人のあり方なのかもしれません。

―ヨヨはメンバーの中では、特にツバサを気にかけている感じがあります。

塩田 ツバサくんとは一番いろいろな話をしていますよね。最初は航空力学の話をしていて、そこから本を渡して……。だから、ツバサくんの部屋は本だらけなんでしょうね。ヨヨさんはツバサくんを次の賢者に推しましたが、最初からそこも見通していたのかも。そして、エルちゃんのナイトとなるようにと。もちろん彼は、自分から「プリンセスのナイトです」と言っていたんでしょうけど（笑）。この家は、昼間はツバサくんとエルちゃんだけになることも多いんですよね。だから生活の中で、自然と彼にそう仕向けたのかもしれません。そもそも、ツバサくんは、1年前から一緒に住んでいたみたいですしね。

―第21話では、目標を見失ったツバサの背中をさりげなく押していました。

塩田 どうやって生き方を見つけたらいいかというツバサくんに、ヨヨさんが野菜に例えて語りかけるのが面白かったです。この回は、ツバサ役の村瀬（歩）くんと一緒に収録したんですよ。自然に優しい調理くずの処理の仕方の話から発展して、生きるためにはどうしたらいいのか、みたいな話になるじゃないですか。

―「何かを学ぶことと畑は似ている」「思いもよらない花が咲くこともある」といった素敵な言葉を発していました。

塩田 村瀬くんも「僕、本当に泣きそうになりました。ツバサくんと同じで、心にぐっときました」と言っていて……。子ども向けのアニメだけれど、大人の心にも刺さるようなメッセージがありますよね。少女たちが夢見る世界のお話だけど、ちゃんとこうやって現実にも響くようなセリフが一つ一つ作られているんだなぁと感動しました。

「頑張れない人」を責め立てない物語

―第39話のハロウィン回では、ヨヨも魔女のコスプレをしていましたね。

塩田 楽しかったです。魔女になると台本に書いてあったので、ちょっと魔女っぽく喋るのかなぁなんて思っていたんですが、「いつものままで大丈夫です」って言われちゃいました（笑）。そういえば前にも、昔話をする話がありましたよね？

―第16話の『桃太郎』ならぬ『えるたろう』ですね。

塩田 そうそう！ ヨヨさんも結構ノリ良く参加するんですよね。ましろちゃんが「おばあちゃんもやろうよ」って振ってきたのかな（笑）。ハロウィン回で印象深いことといえば、事件が全部解決したところで、ヨヨさんがプリキュアにお菓子をあげたでしょ。でもマジェスティに渡した包みだけは、他の子たちと違って赤ちゃん用で、「元に戻ったら食べてね」って（笑）。私、そのセリフがツボにハマって！ 赤ちゃんがヒーローに変身するなんていうファンタジーの世界なのに、そこだけリアルに感じられて面白かったです（笑）。

―（笑）。同じものは食べちゃダメだよという、子育て世帯への配慮でしょうか。ほか、最近の話数を観ていて感じたことはありますか？

塩田 ソラちゃんたちはアンダーグ帝国との戦いの中でも、大切なことを学んでいます。相手を一方的に憎むのではなく、相手のことを理解しようとして。特にソラちゃんは、ヒーローのあり方に悩んでいますよね。それと、敵にもちゃんと人格が描かれているのがいいですね。最初の間宮（康弘）くん（カバトン）は単純でドタバタな感じだったけれど（笑）、二人目以降はひとひねり効いた人たちで。特にスキアヘッドなんて、かなり深いドラマを背負っていそうです。

―バッタモンダーも、ましろのドラマに大きく関わりますし。

塩田 意外ですよね（笑）。敵との話もどんどん濃くなっている感じがします。プリキュアがきらびやかに変身して戦うから、パッと見はただの勧善懲悪かなと思うかもしれないけど、実はそうじゃない。対話のドラマがすばらしいです。それと、ソラちゃんがシャララ隊長を助けられないかもしれないと落ち込む話もありました。昔はとにかく「がむしゃらに頑張ってなんぼ」の世界だったけど、今の時代は違いますよね。「頑張れない」という人も確かにいて、そこを一方的に責め立てるのではないやり方ってありますから。

―「頑張れない時にどうしたらいいか？」みたいなところですよね。

塩田 そう。それをソラちゃんが体現していたと思うんです。それも、自力でグワーッと根性論で立ち上がるんじゃなく、周りが「大丈夫だよ」と言ってあげて、ソラちゃんも自分なりの目標を探すという。最初の方向は目指せなくても、違う道もあるんだよというような。そういうのが、深いところを突いていると思いました。

自分の道はゆっくり見つけていけばいい

―今の時代に合わせた、子どもたちへのエールなんでしょうね。

塩田 初期のアフレコでは、ソラちゃん（関根明良さん）とましろちゃん（加隈亜衣さん）と私の3人での収録もあったんですね。その時に、二人が「このセリフはこう言ったほうが思いやりがあるように感じます」と、言い回しの変更をお願いしていたこともありました。特に印象深かったのが、ましろちゃんの「かわいそう」と言うセリフ。「『かわいそう』って、聞こえ方によっては〝上から目線〟になるかもしれない」って。それを聞いて、今の世代の人たちの考え方ってすごいなぁと、とても教えられましたね。

―『ひろプリ』に参加してよかったことなどをお聞かせください。

塩田 このお仕事が決まった時、「声優をやっているとこんな世界にも行けるんだな」って思いました。私はこれまでほとんどが外国映画の吹き替えで、アニメの経験はそんなになかったものですから。1年間も放送するアニメにレギュラーで呼んでいただいたのは初めてで、本当に嬉しかったです。この作品は、「人はダメになる時もあるけれど、きっとそこには助けがある。だからみんなで生きていこうよ」というお話だと思うんです。それと「それぞれが自分の道を見つけていくことに、いくらでも時間を使いなさい。今すぐじゃなくてもいい、ゆっくりでいいんですよ」という。そんなメッセージが込められていると強く感じます。こんなすごい作品に私を選んでくれて、本当にありがたい気持ちでいっぱいです。私もヨヨさんとして、最後までソラちゃんたちを見守りたいと思います。

しおた・ともこ
10月26日生まれ／福岡県出身／文学座所属／『THE FIRST SLAM DUNK』（安西夫人）、『ドラゴンクエスト ダイの大冒険』（ナバラ）ほか

TV

ソラたちのカラフルデイズ

様々な「空」をモチーフにした5人のプリキュア。ひろがる世界へと羽ばたいていく、ソラたちの今後はどのように描かれる？

シリーズディレクター 小川孝治

なるべくソラたちに隠しごとをさせないよう

――小川さんの初監督作品は2012年公開の『映画プリキュアオールスターズ NewStage2 こころのともだち』ですが、その際は、大塚隆史監督の『DX』シリーズを研究して臨んだそうですね。

小川　当時の自分は、あんまりアクションが得意じゃなかったんですよね。それで、なるべく見栄え良く動かせないものかと、派手な見せ方がお得意な大塚さんの演出を分析的に観させてもらいました。あれから年数も経って、それなりに自分の中の蓄積もできた上で、「プリキュア」のTVシリーズに取り組めてよかったなと思っています。

――今回のソラたちのデザインを発注する上で、斎藤敦史さんにお願いしたことは？

小川　各キャラのコンセプトをざっくりお伝えした上で、自由にイメージして作っていただきました。ただ、ツバサだけは、僕の中でこうしたいというイメージがあったので、そこはピンポイントでお願いしました。たとえば、片目が隠れている髪型もそうです。

――小川さんのこだわりだったのですね。

小川　そうなんです。変身前と変身後のギャップをどうつけるかというのがありまして。女の子なら、髪をふわっとなびかせたりとか、いろいろ変化をつけられるんですけど、男の子だとなかなか難しいなと。それで、片目を隠した少しミステリアスなところから、バッと顔を上げて両目を見せたら「変身！」という感じで成立するんじゃないかと。

――「ひろがるチェンジ、ウィング！」で前髪がなびいて両目が見える形にしていますよね。

小川　ええ、そこを汲んだデザインにしてもらいました。あとは全キャラそうですが、「これは女性目線でかわいいのか？」「女児の心に刺さるのか？」というのを一つ一つ意識してもらいました。高橋（麻樹）Pなど、女性スタッフにも細かく確認して、それをお戻しして取り入れてもらうというやり方で詰めていきました。ただ、キュアスカイのマントなど、斎藤さんがゼロから考えてくれたものも多いです。

――5人の色味についてはどのようにして決めましたか？　マジェスティはマジックアワーの紫だそうですが（P.16参照）。

小川　「空」がキーワードなので、それにちなんだ色は外せないよね、という話になりました。主人公のスカイはもちろん青。キュアプリズムの白は太陽の光のイメージ、そのものずばりプリズムの光です。ウィングは夕焼けのオレンジ、バタフライは朝焼けのピンクです。みんな空の色なんです。

――5人は第18話のラスト以降、全員ましろの家に住んでいます。一軒家で全員が共同生活するプリキュアはシリーズ初ですが、これにはどんな狙いが？

小川　実は、「プリキュア」で一つネックになるのが、親たちの存在なんです。仕方ない部分ではあるんですけど、たとえば追加戦士が登場すると、同居の家族に正体を隠して住まわせることになりがちで。ならば、いっそのことプリキュアのシェアハウスにしてしまえば、変に隠しごとをしなくていいかなと。それと、身も蓋もない話ですけど、それぞれの家族をレギュラーキャラにしなければ、作業カロリーがだいぶ減るんですよ。

――キャラ表もそうですし、各家庭の美術もありますからね。

小川　そういうことです。家を出すと、設定が連鎖的に増えていくんです。だからヨヨさんの家をものすごく広くして、そのヨヨさんもスカイランド出身で「いろんな事情を全部知っている人」として作っておけば、いろいろとクリアできるぞと。たいていのシリーズでは、家族と一緒にいるところに敵が現れて、娘が突然いなくなって戦いが終わったら戻ってきて、お母さんとかが「どこに行ってたの？」って心配するみたいな場面が出てきますよね。その手間をなくすことができるメリットがあるんです。親との関係のドラマを作りたい時は、何かのタイミングで会いに行くか、親がやってくればいいわけですしね。

相手を怖じ気づかせるキュアスカイの迫力

――ソラのヒーロー手帳は、彼女なりのヒーローとしてのモットーを書き込むスタイルですね。

小川　手帳というアイテム自体は、玩具展開との連動なんですが、それを劇中で自然に溶け込ませることが課題でした。そこで、ソラが思っているヒーローの在り方を書き込ませることで、セリフでの説明だけじゃなく、思いを可視化させることができるだろうと。そこらへんは、シリーズ構成の金月（龍之介）さんがうまくまとめてくれました。手帳の貼り込み素材は、プロップデザインの春山（和則）さんにお願いしました。第1話は僕のほうで簡単なレイアウトを描いて、あとは絵柄も含めて春山さんのセンスでうまく作ってくださいました。

――ソラのヒーロー手帳もですが、本編中の4人の書き文字がそれぞれ違っているのが細かいですね。

小川　4人の文字は、スタッフ内でコンペをして、それぞれの「らしい文字」を書ける人を選ばせてもらいました。文字が画面に出てくるカットでは、その人に書いてもらっています。

――つまり、スタッフルームにソラの文字やましろの文字専任の人がいるのですね！

小川　ええ。誰が誰のキャラの文字を書いているかは秘密です（笑）。

――アンダーグ帝国についてもお聞きします。カバトンはエルちゃん奪取を軸に動いてきていた基本形のようですが、バッタモンダー以降は少し色合いが変わっています。

小川　アンダーグ帝国の目的はエルちゃんなんですが、それをストレートにやってしまうと、「敵がエルちゃんの居場所を突き止めてさらっておしまい」になってしまう。そうさせずにどう見せていくか、ですね。カバトンは単純に力に憧れる感情で動いていましたが、バッタモンダーは心のほう、つまり自分のプライドを満たすために行動してきたんです。そこが第15話でスカイに粉々にされて、エルちゃんなどよりも大事な自分の自尊心をなんとかしたい。それで、ソラの心をおとしめようとしました。それがエスカレートして、第22話、第23話のシャララ隊長のランボーグ化に行き着いたわけです。

――第15話でバッタモンダーが敗北感を味わうシーンは、スカイの表情を一切見せずに怒りの気持ちを表現していましたね。

小川　普通に考えると、ここで鬼気迫るスカイの表情アップをバンと見せる形だと思うんです。でもそれだと、子どもたちがスカイを怖いと思うだろうなって。自分は子どもたちに「プリキュアが怖い存在」という印象を与えたくないんです。それで、そこをうまくぼかしつつ、バッタモンダーが怖じ気づいて撤退するほどのスカイの迫力をどう出すかを考えました。絵コンテにも、手を入れさせてもらったシーンです。

――カバトンは、今やソラシド市で普通に生活しているようですが、当初からガード下のおでんの屋台でクダを巻いたりと愉快でした。

小川　金月さんのアイデアですね。コテコテの昭和なネタがお好きなので（笑）。そこに、第5話演出の土田（豊）さんのシュールなギャグ表現が乗っかって、そのダブルパンチで強いインパクトが出たんじゃないかなぁと（笑）。

――敵の幹部がボスを愚痴るって、これまでありそうでなかったので。

小川　そうかもしれないですね。本当に昭和のサラリーマンみたいです。そもそも現代にこういう屋台が存在しているのか、みたいな話もありますけど（笑）。

――今後のソラたちがどう進んでいくのかも気になります。『ひろプリ』は「知識でひろがる」という裏テーマがあるそうですが。

小川　最初に思い描いた夢や目標に一直線に進んだ人って、実はほんの一握りだと思うんです。ほとんどの人は、それなりに紆余曲折があるし、子どもの頃に抱いた夢とはまったく別のところに行って成功する人もたくさんいます。特に一連のツバサのエピソードは、まさにそういうことを言いたかったんです。ソラについては、第42話から「相手のことを知る」ことにウェイトを置いていくようになります。まだ見えぬ敵の事情や全容を知った時に、ソラはどう立ち向かうのか。今後も見守ってもらえればと思います。

思い描いた夢や目標に一直線に進んだ人って実はほんの一握り

おがわ・こうじ
1月20日生まれ／長崎県出身／東映アニメーション所属。シリーズディレクターは『ワールドトリガー』『ゲゲゲの鬼太郎（6期）』に次いで3作目

ヒーローは独りぼっちではなく、みんなの想いと共に戦うもの。仲間と共に進んでいこうとするソラたちの未来は、ひろがるわくわくで胸がいっぱい！

TV

ヒーローは仲間と共に勝つ！

シリーズ構成
金月龍之介
プロデューサー
髙橋麻樹

プリキュアへの変身は成長であり覚悟でもある

――今年はプリキュア20周年にして、お二人ともシリーズにメインで関わるのはこれが初だったわけですが。

金月　「プリキュア」って、とても大きな企画ですよね。「作品」というよりも、もはや「現象」に近いぐらいで。そういう作品にメインで関わる上で、自分は何をよりどころにすればいいだろうかと考えましたね。その時に……もちろんお客さんの声を聞いていくのは当たり前ですけれど、まずぼくはシリーズディレクターの小川（孝治）さんの言うことを信じていこうと思ったんですよ。

髙橋　小川さんは「プリキュア」に造詣も深いですしね。私も基本的に、監督の映像であってほしい、その思いを形にしたいというスタンスです。20年分の積み重ねの中で、「プリキュア」にはいろいろな意見を持つ人がいて、取り巻くものも大きいです。でも、小川さんが本当にやりたいこと、子どもたちに伝えたいことは何なのか。それを指針に、中身を詰めていけたと感じています。

金月　毎週の脚本会議で、みんなで忌憚ない意見をぶつけて、議論に議論を重ねましたが、今振り返ってみても、小川さんが言ってくれたことはだいたい正しかったなぁと。「プリキュア』ってこうじゃないんですか？」みたいな意見に対して、小川さんは「そこはこだわるところではないです。『プリキュア』はお子さんに向けた物語なんだから」と。みんなの意見を聞いた上で、中立なところでジャッジしてくださるんですよ。

――小川さんが、『ひろプリ』は未熟なソラが成熟するまでの物語であると言っていたのも印象的です。

金月　ソラって変身前から強いじゃないですか。そういう子が主人公で、テーマが「ヒーロー」となると、懸念されるのは「強ければいいのか」ってことで。子どもたちにメッセージを送るにあたって、ちょっと勘違いされちゃう危険をはらんでるなと、ぼくも小川さんも思っていて。もちろん、強いヤツが正しいことを言って、悪いヤツをコテンパンにやっつけるって作品も、エンターテイメントとしては面白いと思うんですけど。

――『ひろプリ』は、そういう方向にはしないということですね。

金月　カバトンが「オレ、TUEEE！」って言ってたのは、「俺は強いから偉いんだ」という考えだからなんです。それに対抗するソラが強くて完璧なキャラクターだと、「完璧な子が間違っているヤツを正す」ようにしかならないので。そこについてはソラも悩んで考えて、観ているお子さんたちと一緒に成長していく物語にしたいというのがありました。それがテーマ的な意味からの「未熟」です。

それから、単純にジュブナイルとしてですよね。成長の余白のあるキャラクターにしたかったんです。敵に言われた一言に「!?」って、ちょっと考えてしまう、あるいは落ち込んでしまう。そういう主人公のドラマを作れればと思いました。ソラちゃんは結構落ち込んだりもするじゃないですか。間違ったことも言ったりするし。けれど、どんどん学んで大きくなるヒーローにしたいなと。

――シリーズ中盤以降のドラマについてお聞きしていきますが、一番大きなトピックは、キュアマジェスティの登場です。第31話で、大きくなった「エルさん」の姿で現れて変身し、しかし第32話ではなかなかミラージュペンが現れないなど、段階を踏ませていますね。

金月　そこは、新プリキュアを劇的に登場させたかったのが大きいです。スカイたちのところに神様のように降臨して、事態をひっくり返す強いキャラとして出したかったんです。最初の変身は、みんながピンチなので「反射的に変身した」感じだったと思うんです。だけど「変身は成長であり、覚悟なんだ」ってところをきちんとドラマとして見せたくて。それで、段階を踏ませたわけです。ツバサの初変身回も2週にわたっていますが、それぐらいじゃないと、エルちゃんの変身に価値が出ないだろうということで。

髙橋　そこは小川さんの意向が強かったですよね。

プリキュアの力は心の底から湧いた自分の力

きんげつ・りゅうのすけ
シリーズ構成作品に『ハコヅメ～交番女子の逆襲～』『AIの遺電子』など。「プリキュア」シリーズでは『映画ヒーリングっど♥プリキュア ゆめのまちでキュン！っとGoGo! 大変身!!』（脚本）ほか

金月　そうでしたね。

髙橋　もちろん小川さんはどのキャラもこだわっていました。「感情が伴い、意志があって変身すること」に重きを置いているので。エルちゃんが半年以上かけてみんなからもらった気持ちがあったからこそ、というところにうまくつなげられたと思います。

金月　エルちゃんの面倒を見てきたソラたちからすると、もろ手を挙げて「やったやった～！」って感じにはならないと思うので、その話も当然書かなきゃいけないだろうというのも話しました。

——それが続く第33話ですね。ましろがエルを危険に遭わせたくない気持ちになるわけですが、第5話の会話とのリンクが絶妙でした。

金月　うっすらとどこかで使おうとは思ってたんです。ぼくの中では、ましろの想いがソラに届いた第5話が一番大事な回だと思っているので。ただ、第33話は、ぼくらも悩んだんですよ。赤ちゃんのままで戦うならともかく、変身して成長した姿になっていますからね。マジェスティになるとすごく強いわけで、その身を心配するのもちょっと変だし。ピンチの時にマジェスティがいてくれて助かったのも事実だし。それに対して、頑なに拒否するのもどうなんだろうと。

4人みんなで「絶対ダメだ！」って言うという案もあったんですけど、4人の中で心配度合いのグラデーションがあってもいいだろうと。その中で一番心配しちゃうのは誰かと考えたら、ましろだろうねと。それで、エルちゃんの変身が一人受け入れられない形にしたんです。「じゃあ、ましろを納得させるにはどうしたらいいんだろう」と考えていくと、「そうだ、第5話だ！」って。

——第5話の自分と同じように、エルも仲間のことを助けたいのだと理解するという流れでしたね。ちなみに、変身バンクに登場する成長したエルは、脚本では「エルさん」という表記ですね。

金月　エルちゃんとマジェスティの中間段階の姿は、絵を見れば分かるんですけど、脚本上ではどう書けばいいのかなと。それで、便宜上「エルさん」って書いたんです。そうしたら、その後、設定とかも「エルさん」になりましたね（笑）。

中学生に諭されていきなり改心は難しい

——5人になったプリキュアは、心を邪悪にされたミノトンに立ち向かいました。元々のミノトンは、プリキュアと正々堂々勝負する武人でしたね。

金月　構成上からいうと、最初はカバトンという、あんまり頭が良くない敵が出てきましたよね。彼は明るいキャラなんですよ。「××なのねん」って喋ったり、見た目が豚だったり。最初からいきなり怖い敵を出すのも、ということでそういうキャラにしたんです。次のバッタモンダーは、陰険なキャラクターでしたよね。

——ソラの心を折るために、なんとシャララ隊長をランボーグにしていましたしね。

金月　なので、そこからさらに陰険な敵を出していくと、本当に話が陰鬱になっちゃうので、「次はカラッとした人がいいよね」ということでミノトンになったんです。

——なおかつ、前の二人より強敵と。

金月　そういうことです。それと、ミノトンは観ている人たちに「コイツはそんなに嫌いじゃないな」と思えるヤツにして……ソラもそこは感じていたわけですが、そんなキャラクターが力に取り込まれて凶暴化させられちゃう。「力っていうのは怖いものなんだよ」ということを表現するためにも、基本的にはいいヤツです。ただ、「筋肉がすべて」みたいな鍛え方をした人が操られてしまうと、とても危険です。それを超えていくには、プリキュアは力以外の優しい気持ちや友達が必要だと。そういう方向性でドラマを作っていきました。

ソラは、カバトンとの勝負に向けて特訓して、力と技で勝った感じでした。バッタモンダーは、仲間を信じる心で打ち破りました。そしてミノトンには、マジェスティの登場も含めて、みんなで協力して勝ったということです。それぞれ勝ち方が違うんですね。

——初めての5人の合体技で、ミノトンを元に戻しましたね。

金月　シリーズとしては「正しいってなんだろう？」と、ソラが考えていく話なんです。シャララ隊長からも「ヒーローはずっと考え続けなければいけない」といった言葉をもらっているわけですが、そこは観ているお子さんたちにもソラと一緒に考えてもらいたいし、作っているぼくたちも真剣に考えていかなきゃいけないと思いました。

——4人目のスキアヘッドだけは動物モチーフじゃないですね。

金月　見た目としても「今までの面白路線とは明らかに違う強いヤツが来たぞ！」というキャラクターにしています。まぁ、バッタモンダーも昆虫のバッタ感もありつつ人間に近い姿ですけど、それよりは「ばったもん」、つまりデタラメで薄っぺらいヤツというネーミングなので。ちなみにスキアヘッドは、スキンヘッド由来というよりは、「スキア」というギリシャ語での「影」「闇」からきています。小川さんが考えた名前ですね。このスキアヘッドとの戦いののちに、ラスボス編へと行く感じです。

——カバトンとバッタモンダーは、第34話でまさかの再登場でした。特にバッタモンダーが、ましろの夢の話に絡んできたのは驚きました。

金月　順を追ってお話ししていくと、まずミノトンに続く幹部をどうしようかと。それもいろいろ意見が出たんです。ソラと同じタイプの女の子の敵がいいんじゃないかという案もありました。そういった中で、「ソラの成長の話はやってきたので、ちょっとましろにも焦点を当てたい」という話がありまして。言うなれば、ましろはもう一人の主人公ですからね。ましろは優しい女の子ですが、その優しさが試される話をきちんと作りたいなって。そこで、バッタモンダーみたいな、優しさが通用しない性格の悪い、いじけたヤツはどうだろうかと。ソラは一度バッタモンダーに勝ったわけですが、今度はましろが無限の優しさで彼を包み込んで、その心を変えていけるだろうかと。だから、ましろのドラマありきで再登場することになったんです。

——すると、第23話のバッタモンダー退場時点では、再登場は具体的には考えられていなかったんですね。

金月　逃げ出したままというわけにはいかないので、いずれ決着をつけるつもりではありました。でも、こんなにフィーチャーされるとは、その段階ではまだなかった気がします。

髙橋　そうですね。バッタモンダーは早期退場予定でしたから。

金月　なにしろバッタモンダーを絡めると、暗く重くなりがちで。シャララ隊長がランボーグにされる話もそうなんですが、バッタモンダーが引き起こした状況を引っ張ると、楽しい行事の話ができなくなっちゃうので。裏では危機的状況が続いてるのに「今日は運動会だ、頑張るぞ～！」みたいな話はやりづらいでしょ。それで、バッタモンダー絡みの話は短めにしようと考えていたんです。ただ、ましろと正反対のキャラクターになったおかげで、ましろの成長のドラマに絡められるだろうとなりま

美術ボード

ソラたちが通う私立ソラシド学園。スポーツ万能のソラはみんなに頼りにされる

ましろの家の玄関。第18話ラストであげはも引っ越してきて共同生活が始まる

した。

――だから彼は、再登場した回で改心せずに、その後も嫌がらせを画策したりと。

金月　そこは、「いいセリフ一発でいい人になっちゃう」みたいな展開はやめようというのが、このシリーズの課題の一つでもあるからです。バッタモンダーはもう大人なんです。過去につらいこともあったりした彼が、中学生の女の子に諭されて、いきなりいい人になると、「お前の人生何だったんだよ！」って感じがあったので。彼のこじらせ方は、それほどヤワじゃないんですよ。そこは、徐々に変わっていく感じにしたかったんです。

大人はカッコよく憧れであってほしい

――ツバサについては、プニバード族の設定が先にあったのですか？

金月　そういうわけではないです。まず、男の子のプリキュアを一人出すことは最初からマストな案件として決まっていたので、そのキャラクターをどうするかで考えました。「男

小川孝治さんは心情の流れをロジックで作る人

たかはし・まき
東映アニメーション所属。『映画ハピネスチャージプリキュア！ 人形の国のバレリーナ』以降、CGプロダクションマネージャーとして「プリキュアシリーズ」に長年携わる。本作が初のプロデューサー作品

の子が抱いている夢で、見ている小さな女の子たちにも素敵だなと思えるものってなんだろうか」と考えた時に、空がテーマなので「空を飛ぶ」がいいんじゃないかと。空を飛ぶといえば鳥。ならば、ソラが住んでいたところを鳥族と人間族が共存している世界にして、その鳥族として出てきたらいいかなと決まっていったんです。

――ツバサは第21話、第38話と、勉強してきた知識を役立てていく形で成長していきます。

金月　プリキュアになって空を飛ぶことは叶ったけれど、あくまで自力飛行で飛ぶことにこだわり続ける形にもできたとは思うんです。でも、ぼくはプリキュアの力って、いわゆるチートの力だとは思っていないんです。特に今作では、プリキュアの力の象徴として、ミラージュペンが胸の中から出てくるわけで。妖精からもらった、かりそめの力じゃなくて、「心の底から湧いた力」なので、自分の力なんです。なのでツバサも「空を飛べたけど、それはプリキュアの力なのでは？」とは思い続けないだろうと。そこから、「別の夢もあるんだよ」という形にしました。そういうテーマを背負わせたのがツバサですね。

髙橋　企画段階からも「知ることでひろがる世界」はキーワードだったので、それを1年間通してみんなが体現していきます。ここまでで顕著に見せやすかったのは、ツバサの夢なのかなと思います。

――夢で言うと、第36話はあげはの「最強の保育士」のルーツが語られる回でした。そこに、両親の離婚の話などのバックボーンを絡めた形でしたね。

金月　実際にご両親が離婚されてつらい思いをしたお子さんもいると思うので、あんまり軽率には扱えない話ではありました。そこは、慎重に作っていったつもりです。

――たけるとの別れも、あげはは次への出会いへの後押しをするかのように前向きに送り出しましたが、幼い頃の自分自身と重ね合わせているようにも感じました。

金月　もちろん、そういうのもあると思います。実はあげは自身、どんなふうに思って成長してきたのかとか、彼女の弱みみたいなところは、これまであんまり前面に出してこなかったんです。等身大のキャラクターであるソラたちと違って、あげはは小さいお子さんたちにとって「頼りになる憧れのお姉さん」でいてほしくて。でもこの回では、あげはが子どもの前で泣くじゃないですか。これまでにないエモーションをちょっと出してみました。

髙橋　あげはははポンコツなところもありつつも、基本的にはカッコいい人なんですよね。彼女の挫折はこれまで描いていないですもんね。

金月　ええ。あげはが「大人はツラいよ」みたいになる話は、基本的には外しました。そこは、大人向けの作品ではないので。だから第36話も、裏では努力している人で、子どもの前ならカッコいい大人でいられるんだっていう形にしたかったんです。

髙橋　キャストオーディションの原稿に「大人にもカッコつけさせてよね！」ってセリフがあったのですが、『映画プリキュアオールスターズF』で拾ってもらえましたよね。

金月　ありました。そうでしたね！

――それと、あげはといえばゴッツい愛車が特徴的ですが、これは脚本段階からイメージしていたのですか？

金月　車に乗っていることは最初から決めていたんですけど、こんな車だとは思ってませんでした（笑）。

髙橋　脚本会議に参加していたプロデューサーの親戚の女性が「そういうゴッツい車に乗っているんだ」という話をしていたのを小川さんが覚えていて、そのまま採用されました（笑）。

金月　あげはの人並み外れた、ちょっとぶっ飛んだ感じと合致したからだと思います。小川さんは、女の子だからかわいい車に乗っているよりも、ギャップがあったほうが面白いだろうと思われたのではないかと。

野球部のたまきはもう一人のソラ

――ソラの個人回で言うと、第35話で野球部を手伝う話もありました。

金月　この回は、プロットの段階ではわりとフワッとしていた感じもあったんですけど、「これはヒーローとエースの話だね」となってから、内容が締まりました。ヒーローも野球のエースも、一人では背負い込んでいくんじゃなくて、周りのみんなと心を開いて協力していくから勝てるんだ、という形になっています。

髙橋　小川さん的にはエース投手の四宮たまきを「もう一人のソラ」と捉えていました。以前のソラも、一人で背負い込むタイプで、それと同じ状況に陥ってたのがたまきなんです。もう一人の自分に対してソラが語りかけていくのが、この回のポイントでした。

――小川さんとお仕事して、お二人がこだわりなどを感じた部分は？

金月　当然先ほど麻樹さんが言われた「知ることでひろがる世界」のところもそうですが、「プリキュア」シリーズに対する感覚的なところで随所に感じていました。演出面についてお話しすると、小川さんは音楽とシーンの合わせ具合にすごくこだわる方なんです。変身シーンもOPも、楽曲と動きがピッタリ合っているでしょ。本編の脚本でも、「ここでこの音楽が1分ぐらい流れるから、このエモーションが1分ぐらい続くんですよ」といった説明の仕方をされるんです。

――各話演出が音響監督の役割も務める、東映アニメーションのクリエイターらしいですね。

金月　そしてBGMには尺があるので、その尺感をイメージして脚本を書いてほしいと。本当に小川さんは、音も含めた映像としての完成形が見えているんですよね。でもそれで意固地に「だから絶対こうしてくれ！」ではないんです。他の人の修正案に納得できれば「ああ、なるほど」ってわりと受け入れてくださるんです。そこはロジックで考えているからですよね。

髙橋　すごいロジックの人だと思います、私も。

金月　最終的な形もロジックで想定されている。そういう方なんだなって思いました。個人的に一番はまったなと思ったのは、第23話でソラが復活するところ。ソラが地上の世界に向かう次のカットは、もう変身した姿で飛んでくるんです。

髙橋　変身シーンは入れていないんですよね。

金月　本来なら玩具の要請としても、変身シーンは外せないんです。でもあそこは「♪テッテレー テテテー」というヒーロー登場の音楽と共に入ってくるから、変身シーンは組み込めないとイメージして脚本も書いたんです。そういうのは絵コンテでアレンジしてもらって構わないんですけど、小川さんは「こう演出するから、脚本でもこう書いてほしい」と。脚本段階でしっかり決め込んでいくことに、こだわりがあるんだなって。あのシーンは、その後の戦闘に入って勝つ流れまで含めて、完璧に音楽と合っていました。小川さんがロジックで考えた通りになっていて、感動しました。

――ランボーグを浄化し、シャララ隊長が回復エフェクトに包まれたところで、最後の「♪ジャジャジャジャン」。ぴったり合っていましたね。

髙橋　小川さんは映像の組み立てがとてもお上手なんです。「プリキュア」は、きちんと心情があってこその物語だと考えて、心情の流れをロジックで作る。ここまでやってきて、本当にそれを感じました。

金月　「感動的な名言で一発逆転にしない」というのも小川さんが当初から言われていたことなんですが、それはつまり、心情変化をちゃんと描かなきゃダメだということです。ソラとましろが本当に仲良くなるのに5話ぐらいかかっているんですけれど、やっぱり怒ったりつまずいたりと、いろいろあって親友になっていく。その先に、敵との心のやりとりにもつながるのではないかと。そういうことなんですね。

★お二人の話はアニメージュ2024年1月号に続きます。お楽しみに！

キャラクターデザイン 斎藤敦史

かわいいよりもカッコよく！

TV

20周年記念作品として、新たな試みに取り組んでいる今作。空のプリキュア、ヒーローガールを描く上で、どのようにデザインを意識したのか。

※『ひろプリ』は変身前後の身長変化はない設定で作られている

プリキュアの髪や服に空っぽいグラデ処理を

――まずは、今作のキャラクターデザインに決まった時の感想からお聞かせください。

斎藤　毎年、複数の方を呼んでオーディションをしていると聞いていたし、自分は初めてというのもあって、まあ受からないだろうと思っていたんです。もちろん、やるからには、ちゃんとしたものを提出したいと思い、自分なりに全力で描いて出しましたが。

――オーディションの課題キャラクターは？

斎藤　変身後のキュアスカイとキュアプリズム、変身前のエルちゃんの計3キャラでした。本当に受かるとは思っていなかったところで、東映アニメーションさんに呼ばれて、会議室でプロデューサーの鷲尾（天）さん、髙橋（麻樹）さん、シリーズディレクターの小川（孝治）さん、当時の製作担当の井桁（啓介）さんから「デザインをお願いすることにしました。つきましては、このデザインを基にして……」とシームレスに打ち合わせが始まってしまい、あれよあれよという間に進んでいきました。なんだか不思議な感覚でしたね（笑）。

――今作はタイトルからしてヒーローと銘打っているシリーズです。コンセプト的にカッコよさも推していますよね。

斎藤　デザインオーディションを受けるにあたっての打ち合わせで、主人公のスカイに関しては「かわいい」よりも「カッコいい」に比重を置くキャラクターと言われていたんです。だから逆に、プリズムのほうにガーリーな要素を入れています。各キャラカラーについてもオーディション用の資料に明言されてました。

――スカイ、プリズム、エルがお題だったということは、やはりスカイとプリズムは対になるようにデザインしたのですね。

斎藤　はい、そうです。「スカイ&プリズム」、そして「ウィング&バタフライ」でペアになるとのことで。たとえばスカイとプリズムは丸いイヤリングがそれぞれ右耳と左耳に、ウィングとバタフライは太もものガーターがそれぞれ右脚と左脚に付いています。そうやって対になる細かいパーツで、ニコイチ感を出しています。

――キャラクターデザイナーに決まって、実際に作業する段階ではどんな要望が？

斎藤　オーディションで提出したデザインを叩き台に、いろいろと相談されましたが、最初に言われたのは「頭身を上げてほしい」ということですかね。視聴者である子どもたちが憧れるような、スラッとした頭身にしてほしいということだったかと。あとは、フリルやスカートのフワフワ感、髪の毛のボリューム感などを足したり。どのパーツについても、「エアリー感」というワードがよく出ていましたね。手順としては、どのキャラも基本的に変身後から先に作っていきました。

――変身後の共通要素として、瞳の虹彩部分に十字星が入っていますね。番組ロゴマークの十字星とも同じ形になっています。

斎藤　結果的にそうなりましたね。確か最初は、エルちゃんの瞳にだけ入れていたんです。それを小川さんからの提案で、変身してプリキュアになったら虹彩に同じ十字を入れるという形になったんです。なぜかというと、全員エルちゃんから力を分け与えられた感じになるからです。そのマークが他のところにも波及していきました。たとえば、変身後の首元の丸いパーツの中にもあります。

――変身前後の共通部分としては、鼻の周辺に丸いピンクのグラデーション処理がありますね。

斎藤　基本的に子ども向け作品って、アニメーターが描きやすい、シンプルなパーツで構成されていることが多いんです。今回も、線数やパーツを減らしつつ見栄えするようにというのが、最初から要望としてありま

手が大写しになるカットでは爪をきれいに

変身すると瞳に十字星が。番組ロゴにも使われている

さいとう・あつし
フリーのアニメーター。他のキャラクターデザイン作品に『ラブライブ！スーパースター!!』『BLACKFOX』、Eve MV『心予報』など

「スカイ&プリズム」「ウィング&バタフライ」でニコイチ感を出しています

した。ただ、万人に描きやすく、かつ線数を少なくして記号的なパーツにしていくと、絵の生っぽさが減るというのがありました。それで、鼻の頭にグラデを付けることで、血の通った感じを出せるかなと。そこから、未成年キャラとあげはには、必ず付ける形になりました。パッと目がいく部分でもあるので、よかったかなと思います。

——変身後はウィング以外みんな髪の毛にグラデが入っています。ウィングはその分、服の裏地のグラデ処理で。また、プリズム以外は髪にメッシュも入っています。

斎藤 オーディションの時点でグラデはすでに入れてました。色も自分で付けていたんです。スカイのデザインを考えた際に、空のプリキュアなので、髪や服のグラデで夜明けみたいな色合いにできればと思ったんです。決定稿ではそこから少し変わりましたが、グラデを入れるという案自体は残りました。

——すると、髪のメッシュは薄明光線みたいな意味合いですか？

斎藤 いや、そこまでは考えていなかったです（笑）。ワンポイントになるアクセントになるといいかなと。スカイならピンクのメッシュをつけるというのは、オーディションの時点で考えていました。最終的な色合いは、色彩設計を決める段階で相談しました。

——各キャラの指先もきれいですね。手元がアップの時には、しっかり爪が描かれています。

斎藤 アップで映した手があまりにシンプルすぎるのも、どうだろうと思って。やっぱり手のアップの時に爪がきれいだと、見栄えもしますしね。「手が主役になるカットでは必ず爪を見せてください」と、キャラ表にも指示を入れているんですよ。

赤ちゃん姿ありきで成長後の姿を考えた

——各キャラの特徴についてお聞きします。変身前のソラはラフなサイドポニーですが、変身するとキュートな長いツインテールになりますね。

斎藤 サイドポニーについては、基本的に自分はアシンメトリーにしがちなんですね。右半分と左半分の見え方の違いで、キャラクターの表情変化が描けたりしないかなと。それと、デザインではキャラの二面性を出したいというのもありますね。たとえば前髪はサッパリとパッツンだけど、他はガーリーなものを足したりして。

——歴代主人公の中では珍しい、結構しっかりしたツリ目です。

斎藤 ツリ目に関しては、オーディションの絵からそんなに変わっていません。その段階から小川さんのイメージでツリ目を指定されていたので。それを受けて、どういう感じのツリ目にするかの加減を考えました。やりすぎると怖く見えてしまうかもしれないので、今くらいが丁度いいバランスかもしれません。

——次にプリズムですが、キャラ表では5人の中で唯一、がっつりと内股ですよね。

斎藤 ちょっとテンプレかもしれませんが、ガーリーでフワフワな部分を担うキャラクターということで、分かりやすくしました。芯が強い子ではありますが、見た目は女の子女の子した感じのデザインにしています。

——ストレートロングの髪型が、変身後はボリューミーなウェーブのロングになります。

斎藤 フワフワ感をパワーアップさせた感じです。変身前は、今っぽさと朴訥とした感じをミックスした形になりました。ちょっと縁側でお茶を飲んでいる雰囲気もありますよね（笑）。ハーフアップのお団子が、ちょっとおばあちゃんっぽく見えてしまわないかなと思ったりして、調整を加えた結果こうなりました。

——ウィングについては、やはり男子プリキュアというのは意識したところですよね？

斎藤 そうですね。メインキャラクターの男子プリキュアは初なので、どのくらいの男の子感にすればいいのかは小川さんと打ち合わせました。中性的なデザインでとは言われていたので、その塩梅を探った感じです。

——変身後の頭頂は、ピョンとトサカみたいに3本立ってますが。

斎藤 鳥モチーフのキャラクターと

表情集

ソラ・ハレワタール

虹ヶ丘ましろ

夕凪ツバサ

聖あげは

プリンセス・エル

各キャラの個性が出た、ソラたちの春私服

夏私服では、あげはキャップをかぶることも

ソラシド学園の冬制服はトップスがユニーク

いうことで、彼をデザインするにあたって、ずっと鳥の画像を見ていたんです。タイハクオウムという大きなオウムを見ていて、こんな感じで3本の毛を付けようって思ったんですよね（笑）。

――変身前は片目が隠れているのは、小川さんの要望だったそうですね。

斎藤　顔の左側からのアングルだと表情が見えなくなるというハンディはありつつも、ある意味で描きやすいキャラになりました。というのも、顔のパーツのバランスが崩れるとキャラが違って見えるんですけど、片目が隠れていることによって、バランスをとる必要がなくなったので（笑）。とにかく「変身前は左目は見せないで」と強く要望されたので、髪が風でなびいても、左側は死守してきました。

――では、第38話でツバサの両目を見せる演出は、かなり象徴的な描写だったということですね。ツバサのプニバード姿は、どのタイミングでデザインしたのですか？

斎藤　人間体のデザインが先行して、その次に、鳥の姿のデザインに取りかかりました。鳥の体形を考える際は、マスコット感を意識しました。毎年いるマスコット妖精的なキャラクターが『ひろプリ』にはいないので、それを担ってもらう面もありましたね。

――次にバタフライのデザインについてですが。

斎藤　バタフライ＝あげはは、最初に描いたデザインから結構変わりました。当初はもっとギャルっぽい感じだったんですよ。「普段は軽いけど、イザという時は頼りになる」といった感じの。ところが、小川さんの中では、もっと面倒見のいい、きれいなイメージだったんですね。なので「憧れのお姉さん」感を出したデザインになりました。今にして思うと、当初のデザインは、三枚目な部分がビジュアルに出すぎていた気がします。

――変身前から、ピアスや指輪を付けているのも特徴ですね。こちらも、メインキャラクターでは初の成人プリキュアということで。

斎藤　そうですね。18歳なので、大人っぽいパーツを付けていこうと。そこは僕のほうで勝手に描いたものが、そのまま採用になりました。

――マジェスティについては、エルちゃんのツーサイドアップがそのまま伸びた感じですね。

斎藤　これはもう、赤ちゃんであるエルちゃんとの地続き感が必要だったので、「髪のボリュームをとにかくアップさせて、どういう形状にするか」というのがテーマでした。

――赤ちゃん姿のデザインについては？

斎藤　玩具会社さんからの元になる赤ちゃんの人形、「エルちゃん人形」みたいなイメージ画がまずあって、それを元にアレンジしました。とはいえ、頭身を少し下げて、他の子たちとなじむような顔立ちにしたくらいですが。表情付けは、こちらにおまかせしてもらいました。

――変身バンクの冒頭では、大人になった「エルさん」姿が登場します。

斎藤　エルさんの設定も描きました。年齢感としてはソラやましろより少しだけ上で、15～16歳くらいです。さすがに赤ちゃんからマジェスティのゴージャスな姿にいきなり変わるのはちょっと無理があるから、変身バンクのワンカットだけ「成長した変身前」が必要ということで作りました。

――服装についてもお聞きします。まず、変身前の私服（春・夏）についてポイントをお聞かせください。

斎藤　ソラは活発に、ましろはガーリーに、対比で作っています。二人の夏服については「こういう感じで」といった要望があったので、それを元にデザインしました。ツバサの私服に関しては、小川さんから指定がありましたね。春服だと「襟部分が大きめのジップのジャケットで、下はハーフパンツで」と言われていたかと。あげはは特に要望はなかったですが、本当は基本の状態でキャップをかぶせたかったんです。

――夏服でかぶっているパターンもありますよね。

斎藤　当初は、春服でもそうしたくて。大きめのパーカーにスニーカーでスラッと足を出している服装なので、キャップをかぶせると、よりストリート感が出るかなと。ただ、キャップをかぶると髪型が分かりづらくなって、観ている小さい子が混乱するということで、基本はなしになったんです。あと、服の色合いは、もっと落ち着いた感じになるのかなと思っていたら、結構派手でしたね（笑）。ちなみにスカイランドでの私服は、キャラ表にまとめたのは僕ですが、小川さんのラフ画があったので、基本そちら合わせで作りました。

――ソラシド学園の制服デザインは、特に冬服が構造も含めてユニークですよね。

斎藤　これまたアシンメトリーですね。普通のセーラー服やブレザーではなく、ちょっと変なところにリボンと留めボタンを付けています。これも、今年はちょっと変わったことをしていこうという表れかもしれません（笑）。

異世界の人々はそれぞれの共通要素も

――アンダーグ帝国の幹部についてもお聞かせください。

斎藤　カバトンに関しては、小川さんのラフ画がありましたが、その段階からカバなのか豚なのか分からない、モヒカンの丸っこいキャラでした（笑）。そこから僕のほうでイメージを膨らませて作りました。何か敵の共通要素を入れてほしいということだったので、目の周りの隈取りを共通にしています。カバトン、バッタモンダー、ミノトンの3人は、額の石みたいなパーツもおそろいです。

――バッタモンダーはバッタモチーフですよね。

斎藤　そうです。前髪の2本が触覚的に、感情に合わせてピョンと立ったりします。そこも打ち合わせの段階から言われていたギミックでした。それと、優男とゲス男のギャップを出した、ちょっとムカツク感じのキャラにしてほしいと（笑）。「ばったもん」の言葉通りの要素も含めて、わざとらしい感じで作りました。

――現在の紋田姿も斎藤さんのデザインなのですか？

斎藤　はい、そうです。バッタモンダーが地上の人間に変身しているのか、それともただの変装なのか……（笑）。額のパーツや目の周りの隈取りは外しています。美術学校に通っているということで、分かりやすくベレー帽です。

――ミノトンは、猪とミノタウロスモチーフのようですが、カバトンにも少し似ていますね。

斎藤　名前も似ていますけど、たぶん親戚とかではないです。性格的にも、ミノトンは武人キャラです。真面目でまっすぐな部分を出してほしいと言われました。結構な大柄でというオーダーもあったので、ガッチリしたパワータイプで描きました。

隈取りと額の石は、初期３人の幹部の統一モチーフ

第１話のショベルカーランボーグ

――片方をはだけた和服にするというオーダーも？

斎藤　それは僕のほうで作りました。悪人キャラというよりは、いなせなかぶき者の雰囲気ですね。

――4人目のスキアヘッドは、動物要素は特になさそうですね。

斎藤　特にモチーフはありません。「表情が表に出ない、得体の知れない強敵で」というオーダーでした。あと、一番言われたのは「とにかくカッコいいハゲキャラにしてほしい」でした（笑）。ただ、本当にただのツルンとした頭だと、情報量が少なすぎて、パーツを何か付けないと不格好になってしまうんですね。偶然にも昔、自分がデザインしたキャラにスキンヘッドのキャラがいて、その時はパーツが何もありませんでした。今回はツノやタトゥーがあるので、その点、だいぶいい感じになったと思います。

――モノクルが知的な雰囲気を醸し出している感じです。

斎藤　彼は「愛するお方」の従者みたいなところがあると思ったので、執事とか、じいやキャラのテンプレでモノクルを付けました（笑）。

スカイランド人の設定にはパッツン髪のこだわりも

――ヨヨさんとシャララ隊長は？

斎藤　ヨヨさんに関しては、小川さんのイメージとして、具体的におばあちゃんの女優さんの名前を挙げていただきました。それと「ちょっとサブカル感のある弾けたところもあるイメージです」と。それを元に作っていきました。シャララ隊長は、最初はあまり表情の出ないキャラクターとして描いていたんですけど、もう少し普通の感じも欲しいということで、キリッとしつつ優しいお姉さん的な顔立ちになりました。もちろん、ソラの憧れのヒーローなので、カッコよくて大人っぽい要素は基本としてあるんですけどね。それから、自分がデザインした王族以外のスカイランドの人間に関しては、パッツン髪の要素を入れています。シャララ隊長はサイドが姫カット。青の護衛隊のアリリ副隊長も、前髪の垂れているパーツがパッツンです。

――ヨヨさん、エルちゃん、ベリィベリーも、ずばりパッツン髪ですね。

斎藤　そういうことを密かにやっていました。これは小川さんも知らないと思います（笑）。

――あとは、第1話のランボーグも斎藤さんのお仕事でしょうか。

斎藤　そうですね、ショベルカーランボーグ。モヒカンと目のひっかき傷みたいな部分は、「ランボーグの統一ルールとして入れてほしい」と小川さんから言われていました。そこは、カバトンありきの共通イメージだったかもしれません。

――最後にファンへのメッセージをお願いします。

斎藤　これから最終回に向かっていくことになりますが、ソラたちが第1話からどういうふうに成長して、どういう結末を迎えていくのか。毎週楽しみにしていただきつつ、最後までみんなを愛していただければと思います。

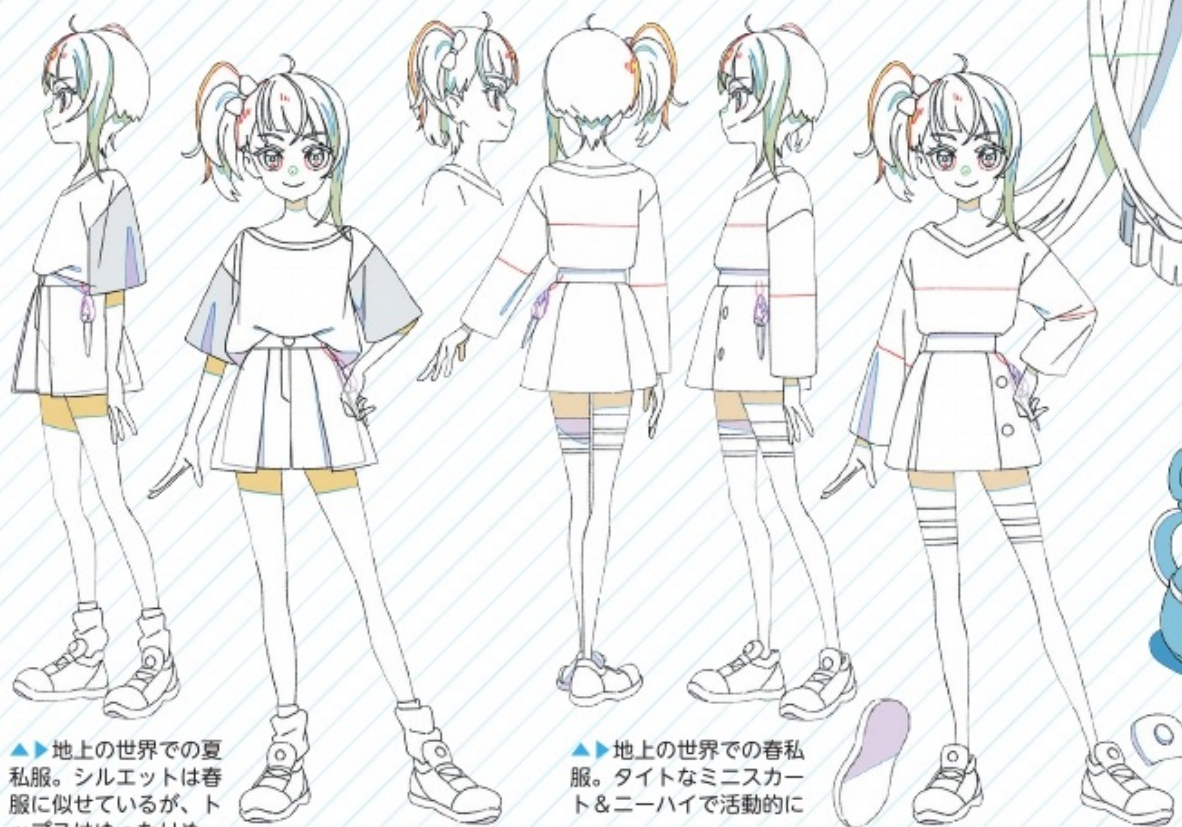
TV 設定資料SELECTION

他のページで未掲載のものを中心に、TVシリーズのキャラクター表（線画設定）をご紹介！

キュアスカイ／ソラ・ハレワタール

▲ソラの表情集。歯を見せたはにかみ笑顔、ウインク、すね顔、風を受けておでこを見せた状態などバリエーション豊か

◀▶キュアスカイの三面図。左肩の長いマントや大きな羽のヘアアクセが特徴。スマートな雰囲気だが、リボンやハートなどガーリーな要素がアクセントに

◀第1話で背負っていたザック。全体的に丸っこいフォルムで、羽のマークがかわいい

▲▶地上の世界での夏私服。シルエットは春服に似せているが、トップスはゆったりめ

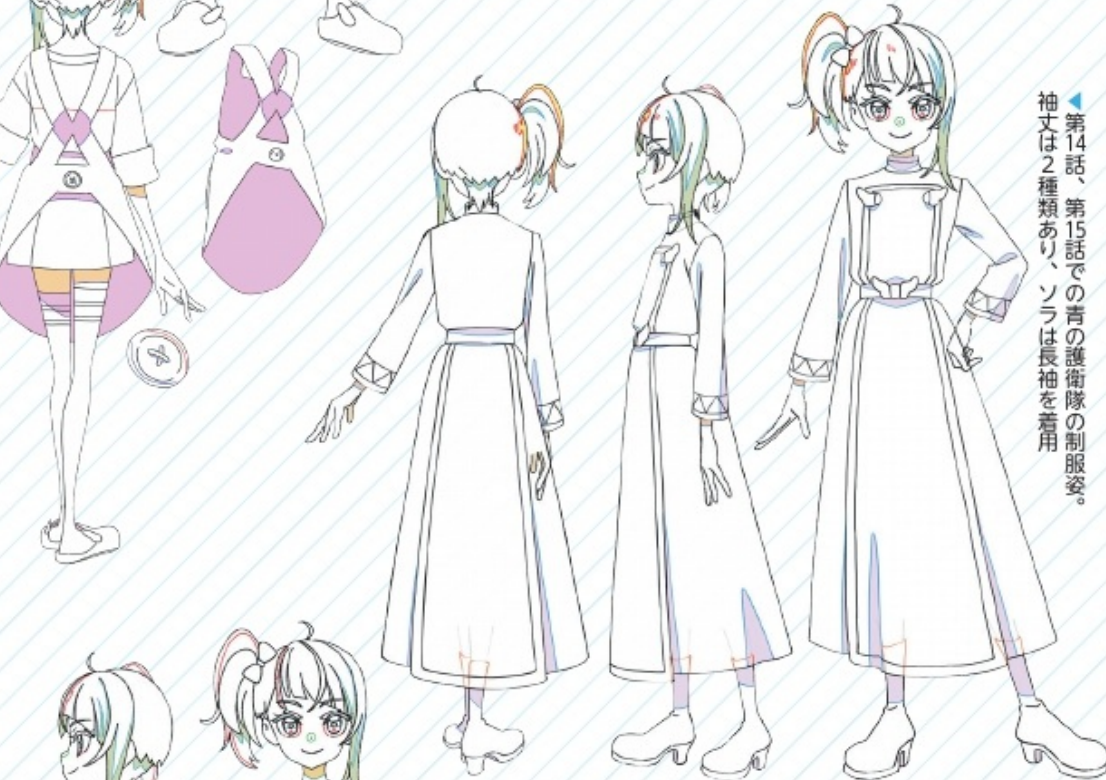
▲▶地上の世界での春私服。タイトなミニスカート＆ニーハイで活動的に

▶第6話の掃除する時や、第10話のヤーキターイ作りでのエプロン姿。第10話では色違いをましろ、ツバサも着用。室内なのでスリッパ履き

◀第1話や第14話などでのスカイランドでの服装。地上の世界の服に比べ素朴な風合いだ

▶夏制服ではセーラー襟のシャツとタイに切り替わる

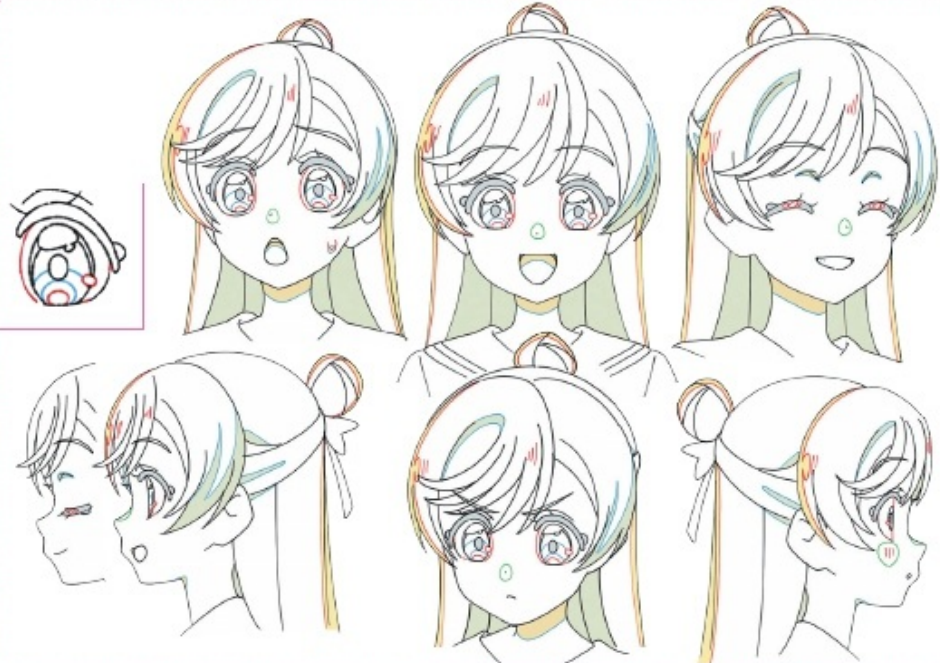
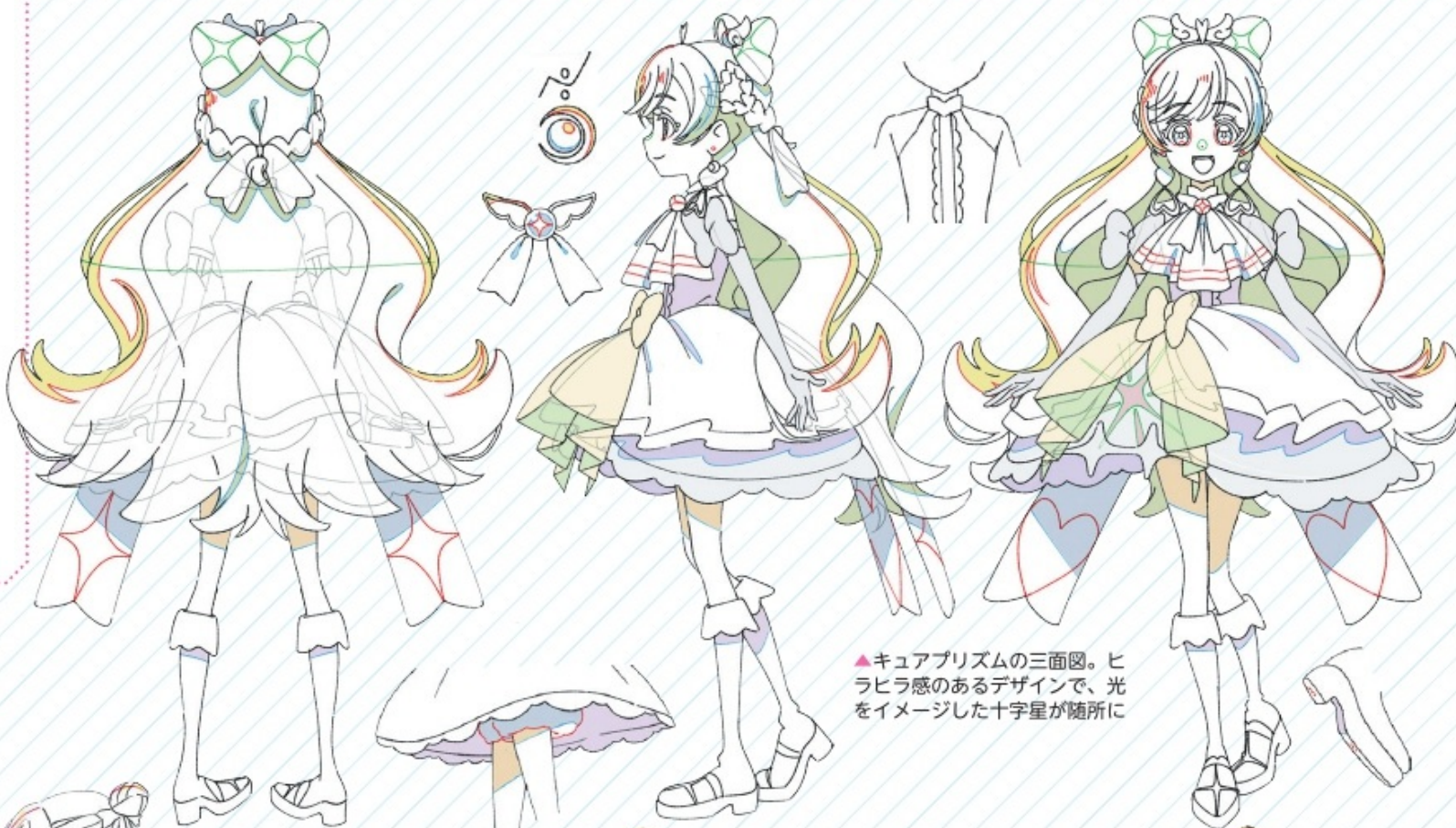
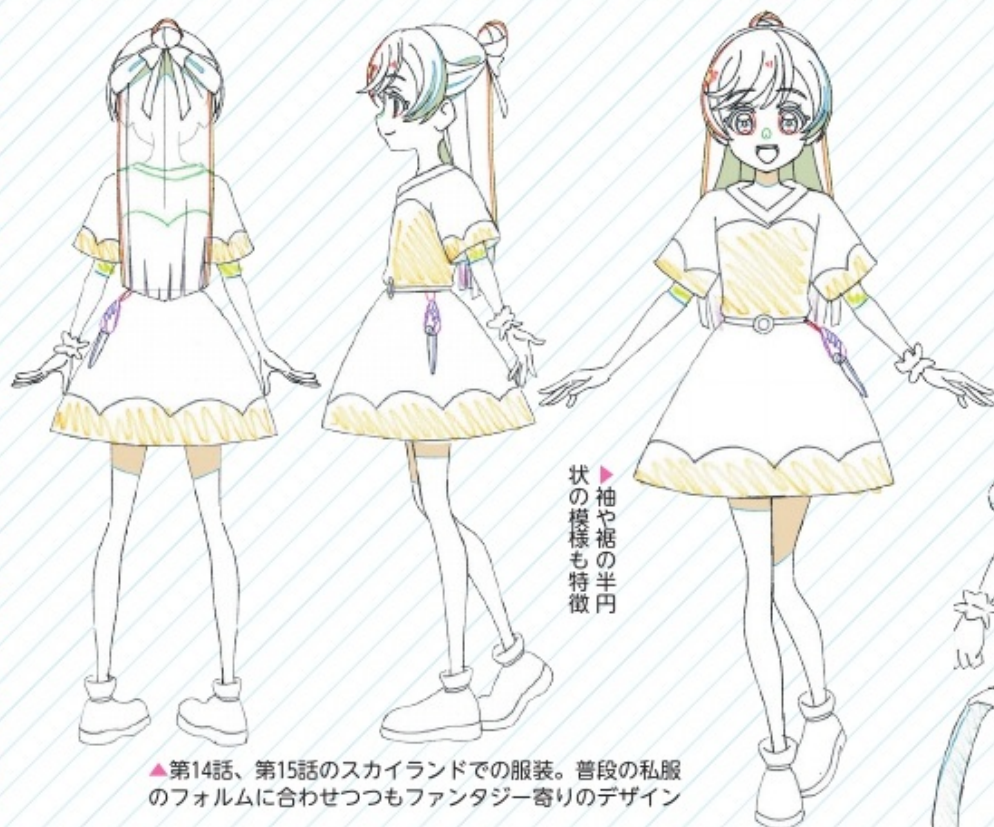
▶スカートはボックスプリーツ

▶私立ソラシド学園の冬制服。上着はセーラーブレザー風のボレロで、開閉は左寄り。ストラップシューズは女子の指定靴

◀第14話、第15話での青の護衛隊の制服姿。袖丈は2種類あり、ソラは長袖を着用

▲▶第39話でソラたちが街に繰り出して配ったハロウィンのお菓子や、それを詰めた箱とバッグ

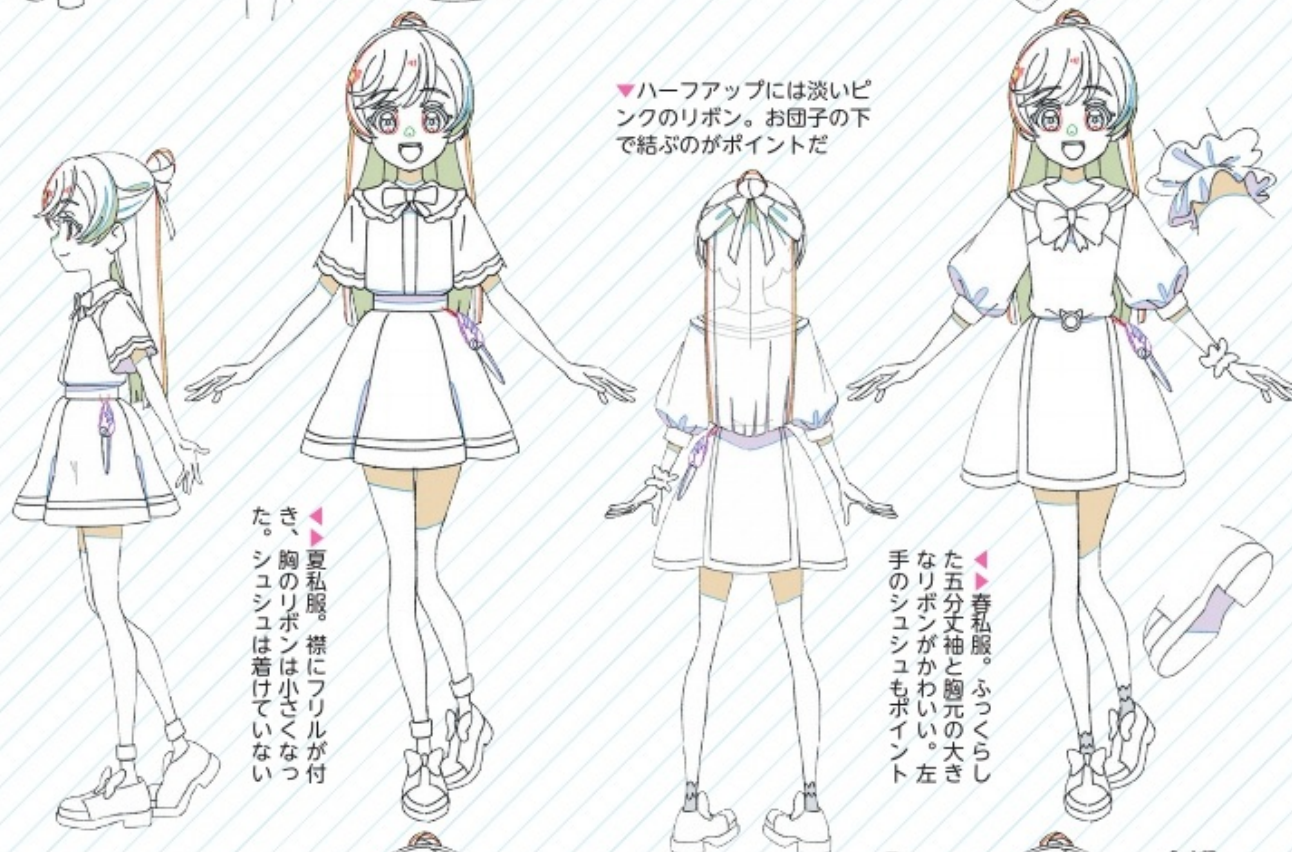
◀▲第39話でのハロウィン仮装。ファンシーなジャック・オ・ランタンの大きなマントや、左頬の星型チークがチャーミング

◀▲第30話での水着姿と海水浴で使った浮き輪とビーチボール。ソラが海を見たのはこれが初めて

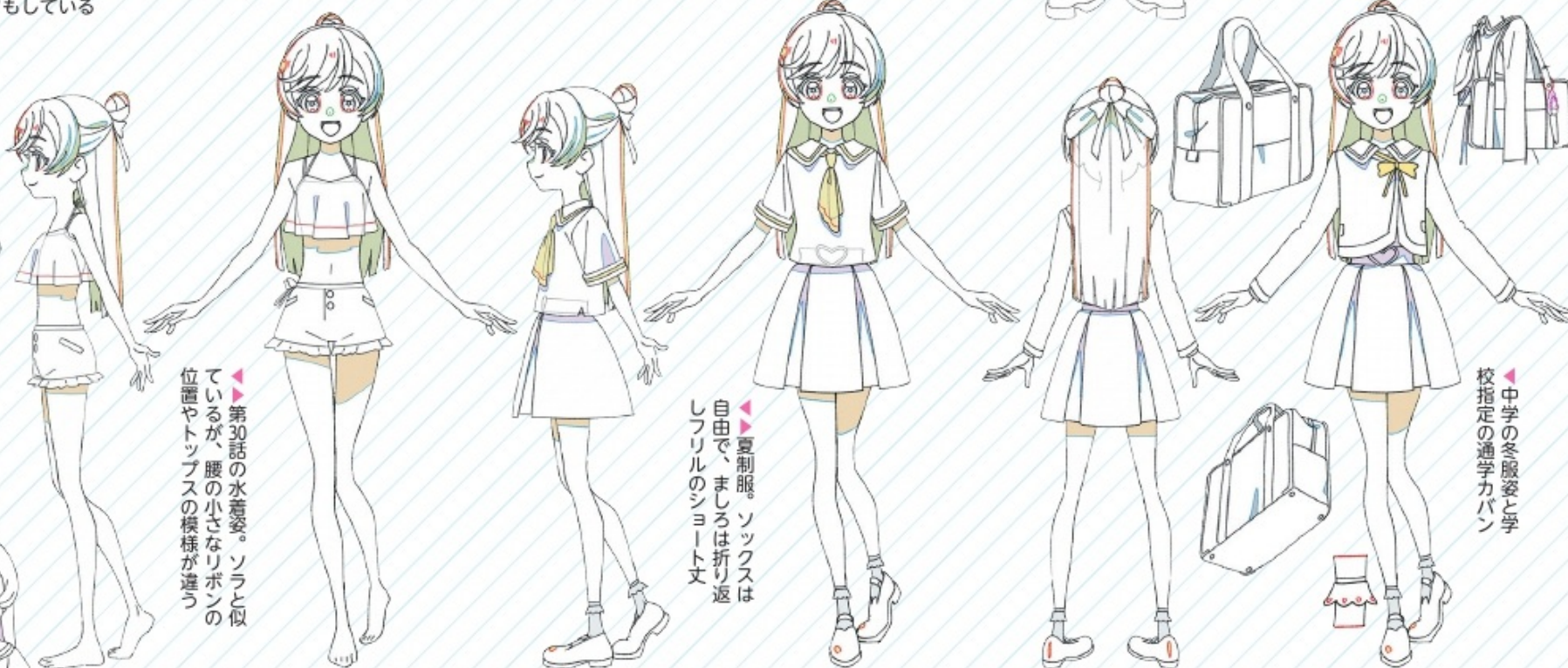
キュアプリズム／虹ヶ丘ましろ

▲ましろの表情集。おとなしめの性格ということもあり、極端に崩したバリエーションは描かれていない

▲キュアプリズムの三面図。ヒラヒラ感のあるデザインで、光をイメージした十字星が随所に

▶袖や裾の半円状の模様も特徴

▲第14話、第15話のスカイランドでの服装。普段の私服のフォルムに合わせつつもファンタジー寄りのデザイン

◀第3話でスカイジュエル探しに出た時のリボン付きリュック。ソラと代わりばんこで背負っていた

◀夏私服。襟にフリルが付き、胸のリボンは小さくなった。シュシュは着けていない

▼ハーフアップには淡いピンクのリボン。お団子の下で結ぶのがポイントだ

◀春私服。ふっくらした五分丈袖と胸元の大きなリボンがかわいい。左手のシュシュもポイント

◀第39話のハロウィン仮装。マントはジャック・オ・ランタンを猫風にアレンジ。ヒゲメイクもしている

◀第30話の水着姿。ソラと似ているが、腰の小さなリボンの位置やトップスの模様が違う

◀夏制服。ソックスは自由で、ましろは折り返しフリルのショート丈

◀中学の冬服姿と学校指定の通学カバン

◀▼第34話のパッタモンダーの脳内イメージのましろ。マンガチックにデフォルメされている

◀動きやすいように髪はポニーテールに

◀プリティホリックのレターセット。第23話で、ましろは心を込めてソラに手紙を書いた

◀うさぎのワンポイントがついた、ましろのトートバッグ。第34話で使用

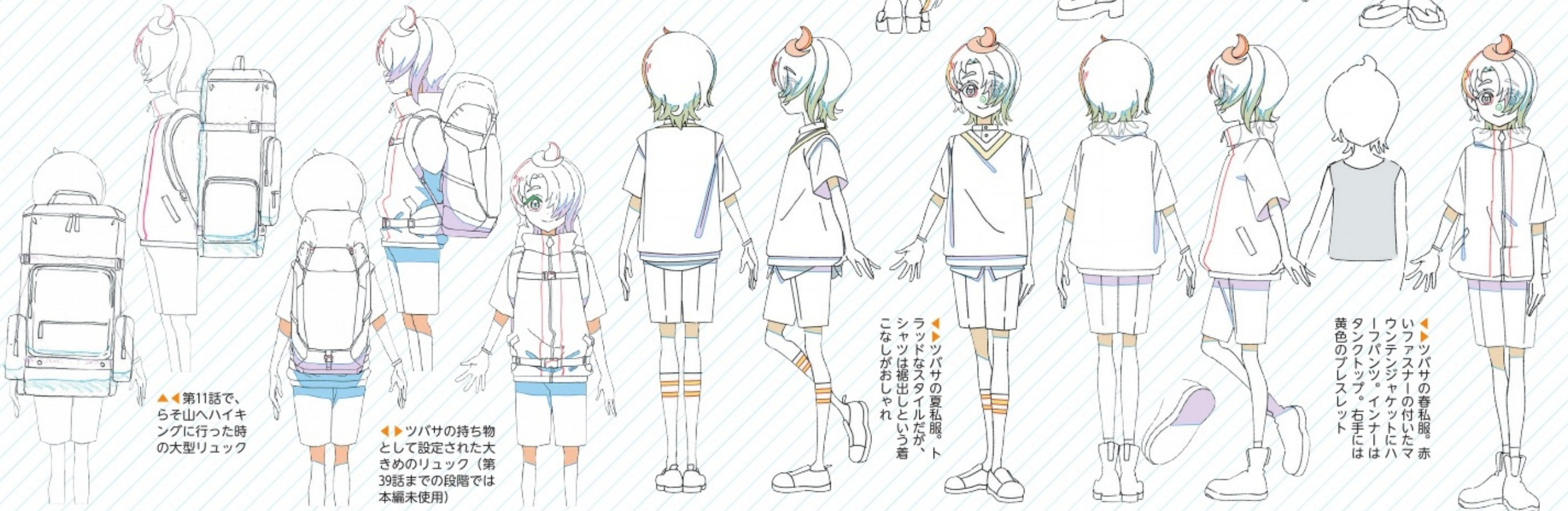
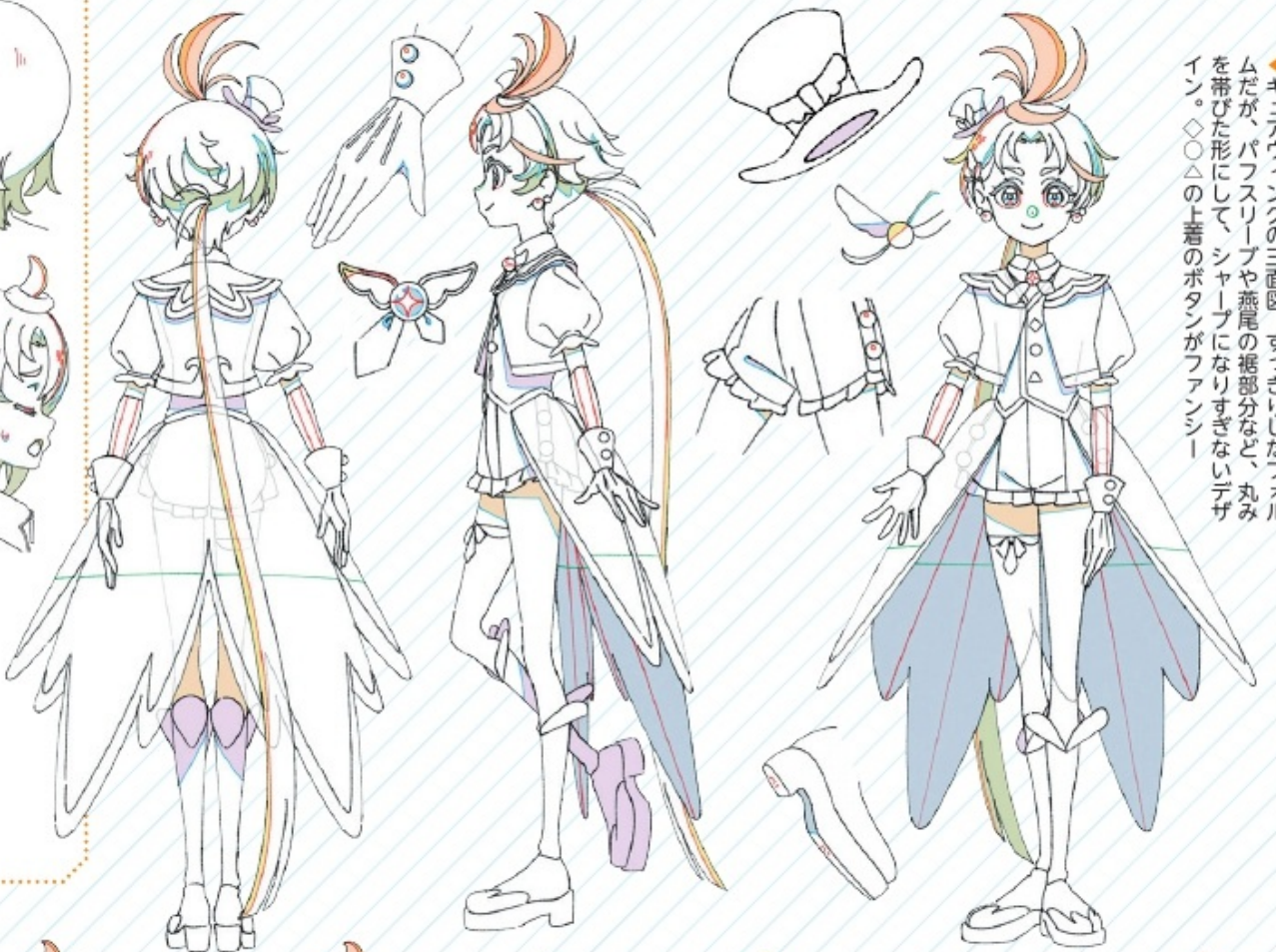
◀中学の体育着。第17話の運動会でのビブス付き

▲トレーニングウエア。第4話（右）ではパーカーに黒いレギンス。第23話、第27話（上）はパーカーなしで白い靴下

キュアウィング／夕凪ツバサ

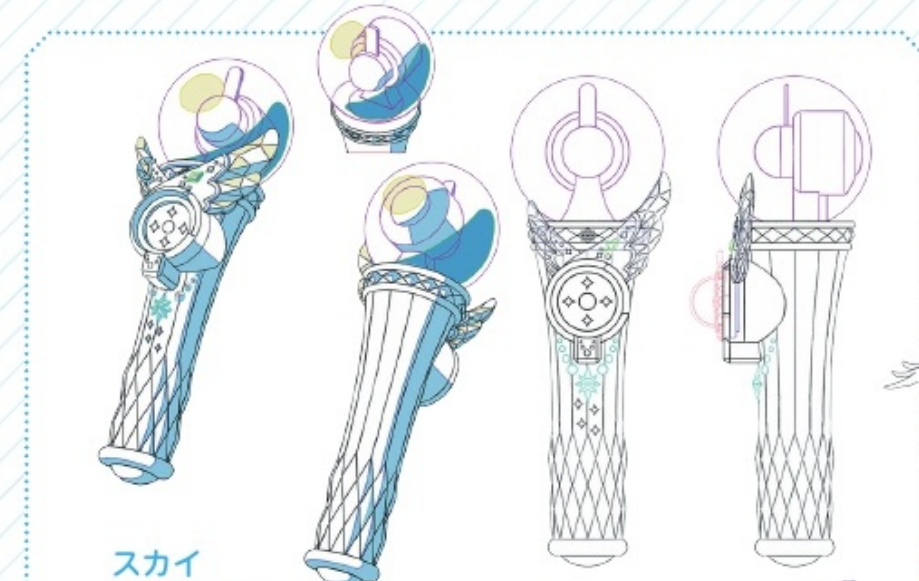
◀キュアウィングの三面図。すっきりしたフォルムだが、パフスリーブや燕尾の裾部分など、丸みを帯びた形にして、シャープになりすぎないデザイン。◇○△の上着のボタンがファンシー

▶ツバサの表情集。ぴょこんと巻いた頭頂のくせ毛が、プニバード姿の前髪に相当する。正面向きの顔には参考用に、隠れた瞳や眉もうっすらと描かれている。太いまつ毛が目の上部にくるのはソラやエルと共通で、プリキュア5人の中でのスカイランド人の特徴付けになっている

◀▶第14話、第15話でのスカイランドでの服装。普段の私服と似ているが、ウエストにベルトが付くと、ぐっとスカイランドらしくなる

▲◀第11話で、らそ山へハイキングに行った時の大型リュック

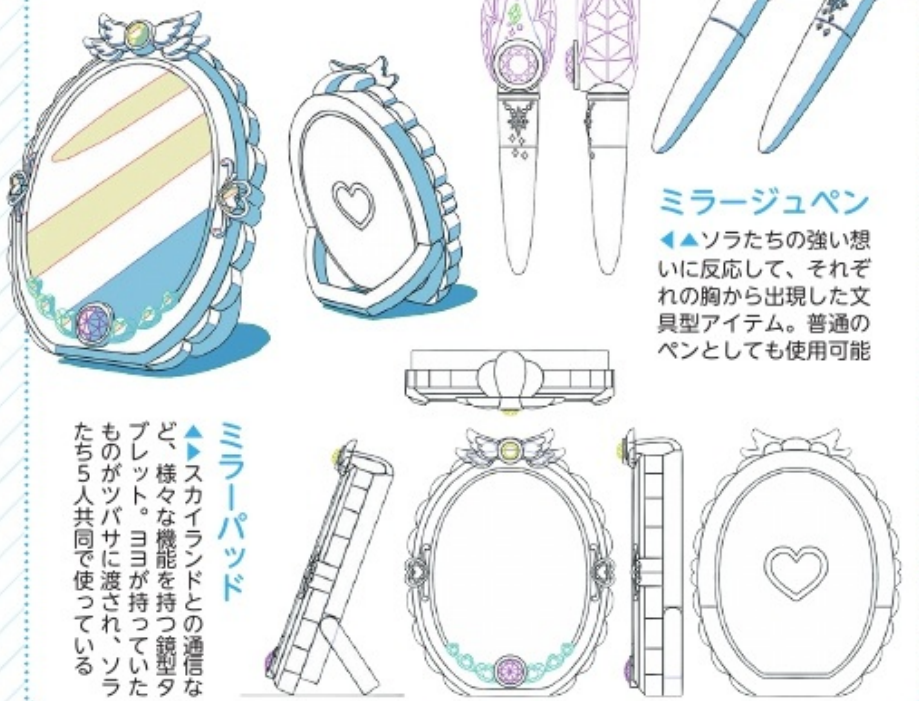
◀▶ツバサの持ち物として設定された大きめのリュック（第39話までの段階では本編未使用）

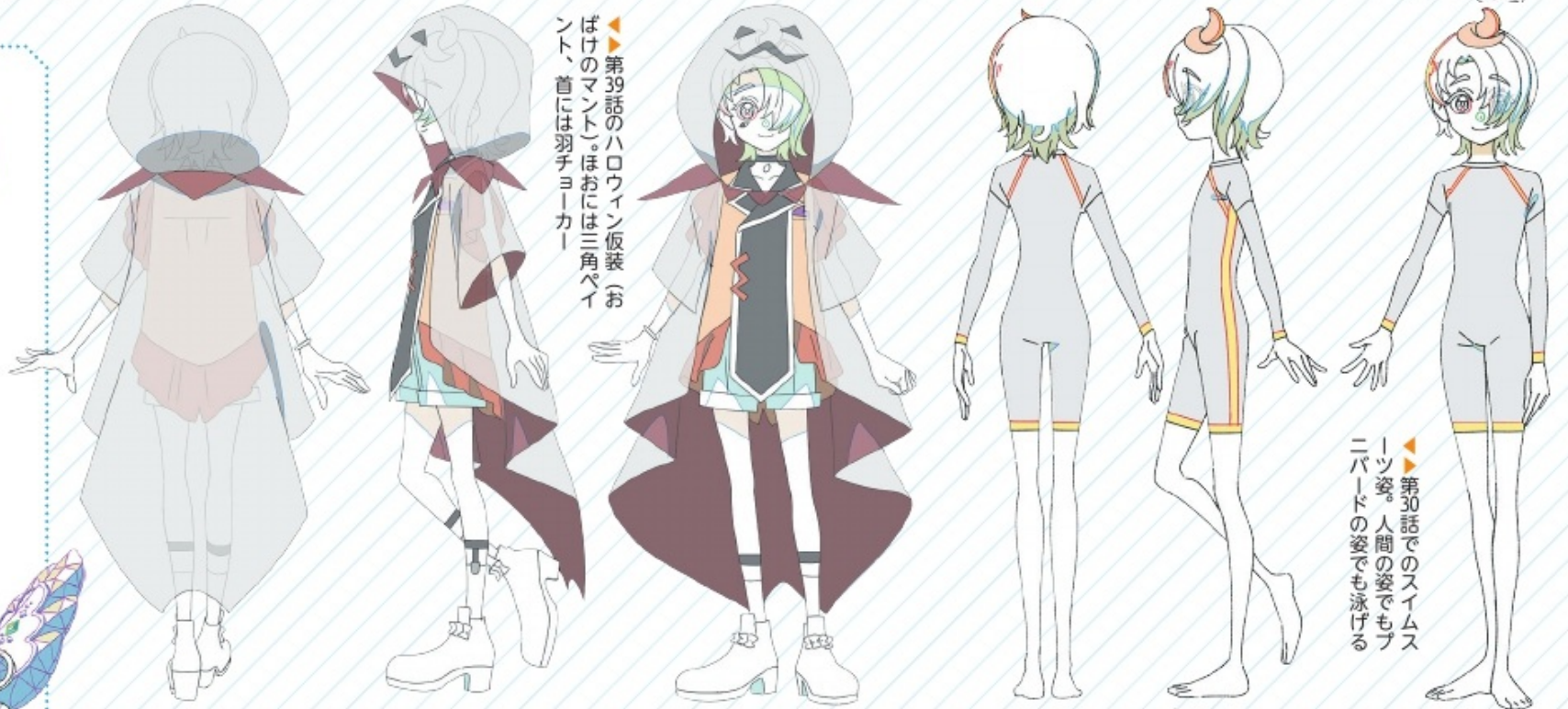
◀▶ツバサの夏私服。トラッドなスタイルだが、シャツは裾出しという着こなしがおしゃれ

◀▶ツバサの春私服。赤いファスナーの付いたマウンテンジャケットにハーフパンツ。インナーはタンクトップ。右手には黄色のブレスレット

スカイミラージュ

▲ミラージュペンが変化して、ステッキ型の変身アイテムに。スカイとプリズムの二人技「アップドラフト・シャイニング」でも使用

ミラージュペン

◀▲ソラたちの強い想いに反応して、それぞれの胸から出現した文具型アイテム。普通のペンとしても使用可能

ミラーパッド

▲▶スカイランドとの通信など、様々な機能を持つ鏡型タブレット。ヨヨが持っていたものがツバサに渡され、ソラたち5人共同で使っている

◀▶第39話のハロウィン仮装（おばけのマント）。ほおには三角ペイント、首には羽チョーカー

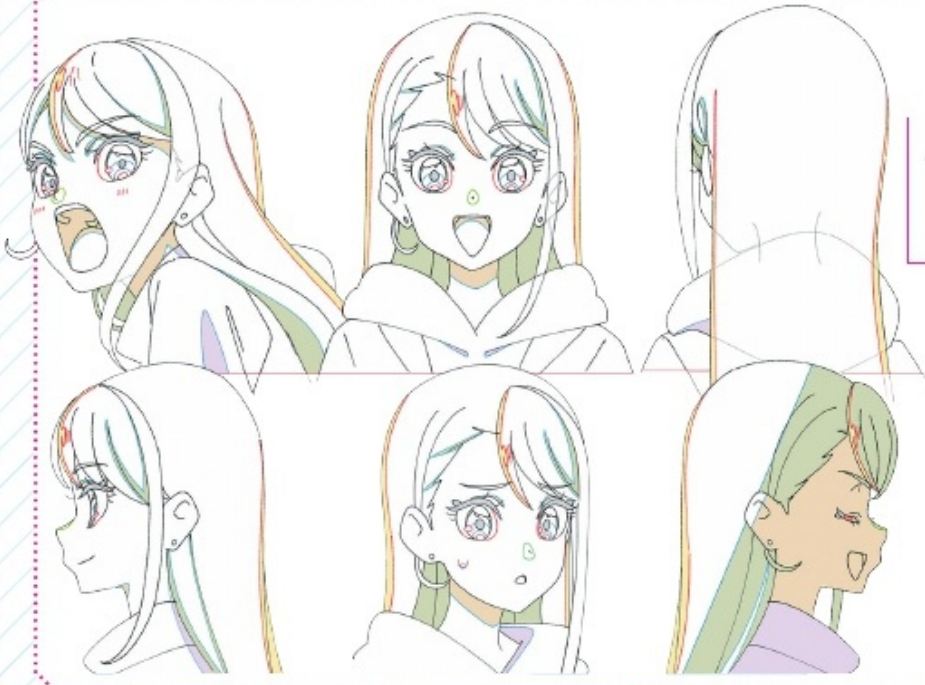
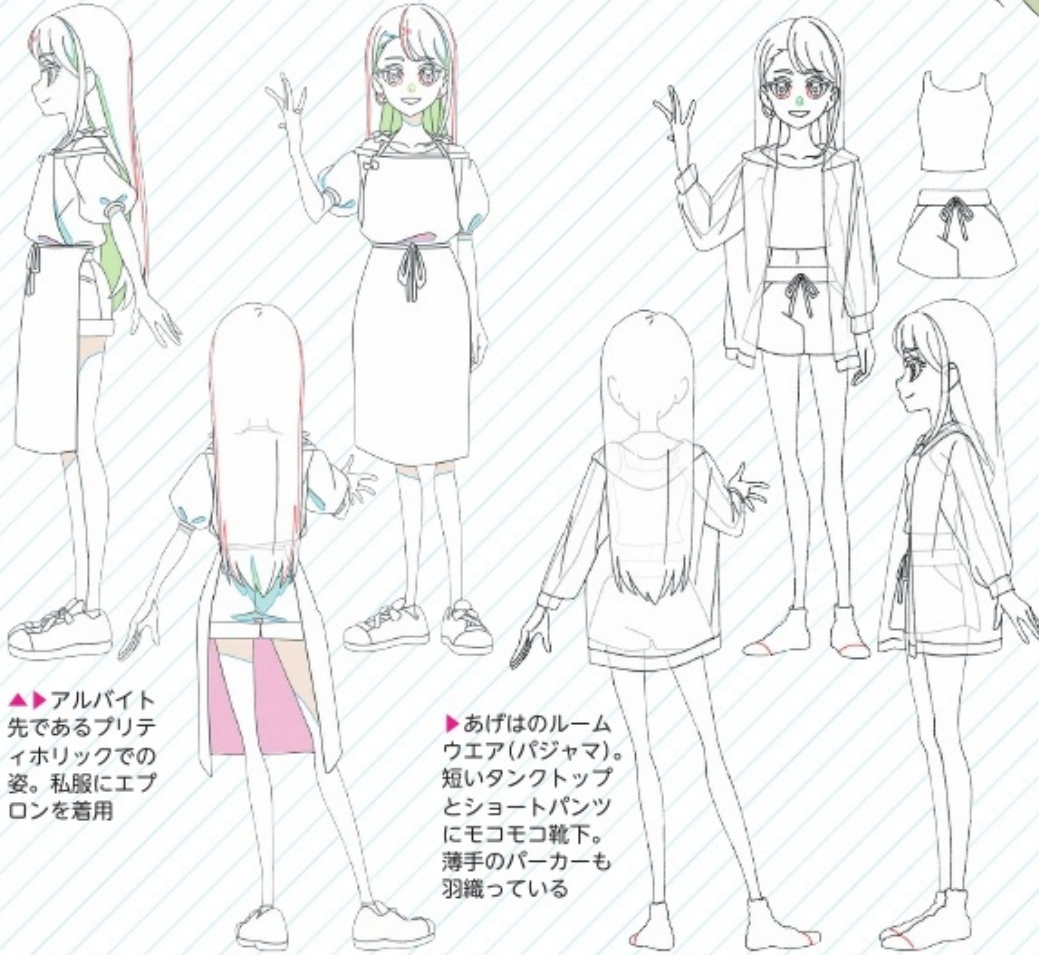
◀▶第30話でのスイムスーツ姿。人間の姿でもプニバードの姿でも泳げる

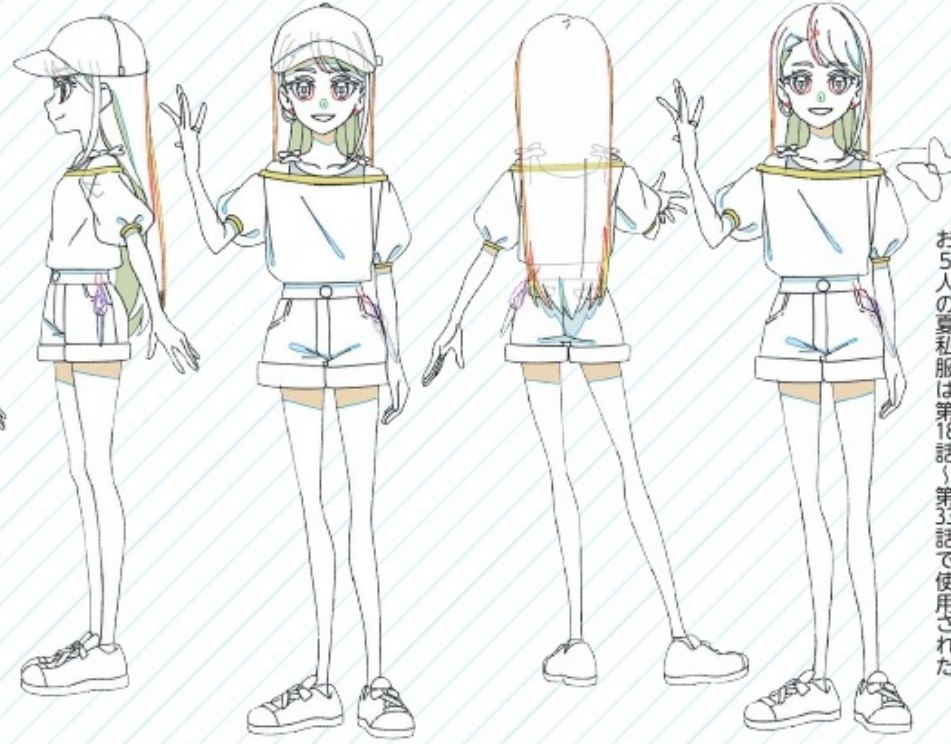
▼幼少期のツバサ

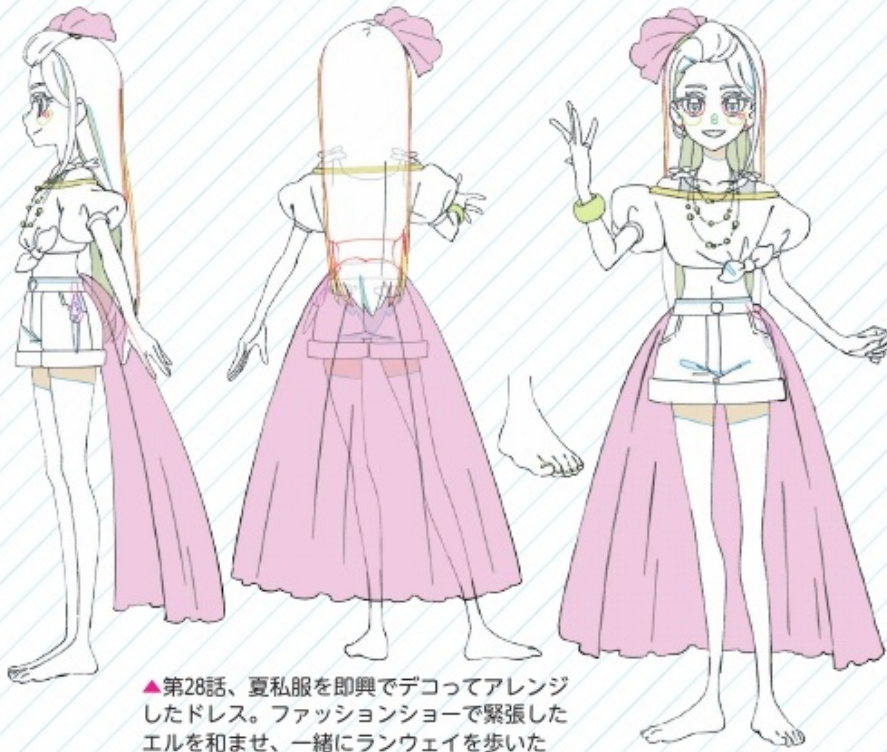
▲プニバード姿のツバサ。これが本来の姿で、シェアハウスで寝る時もこの姿に戻る。デザイン的には人間の姿よりもあどけなく、ギャグっぽい仕草も多い

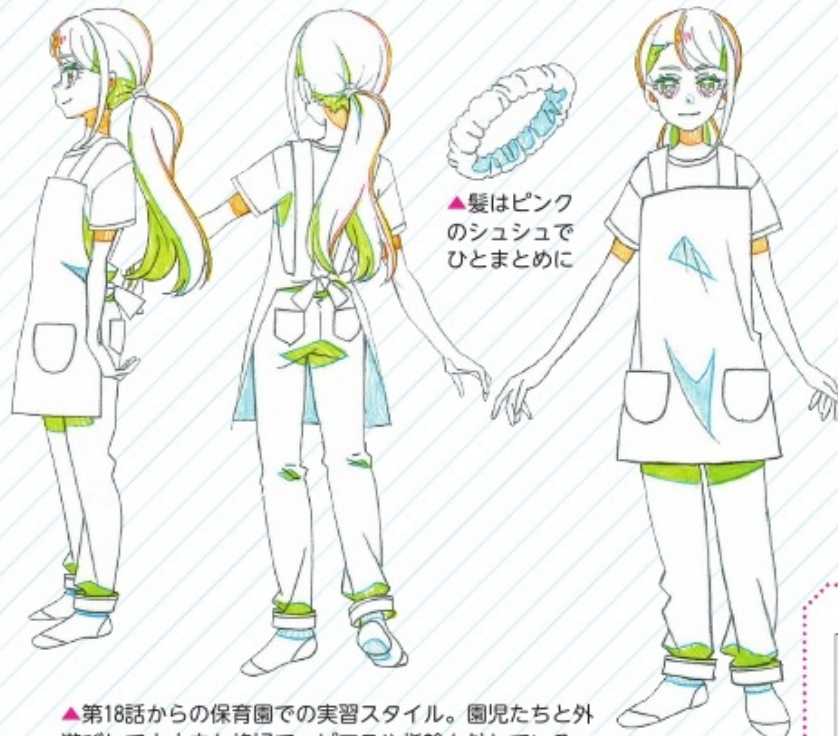
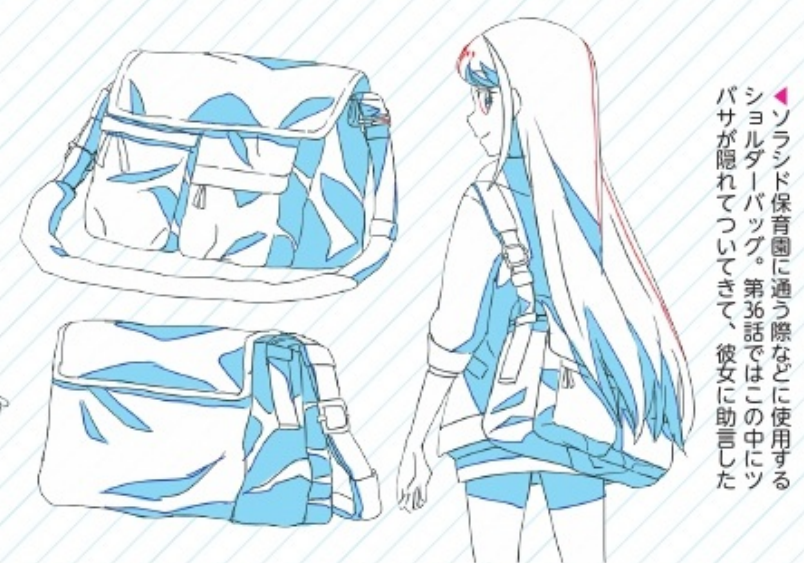
◀第40話のエルとの結婚式ごっこでの新郎姿。手作りの大きな蝶ネクタイだけなのが、いかにも「ごっこ」という感じ

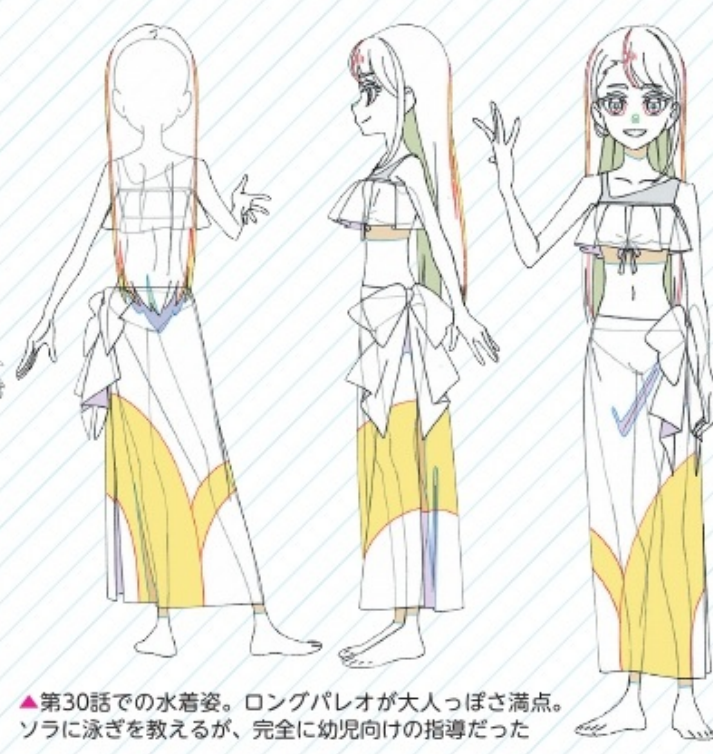
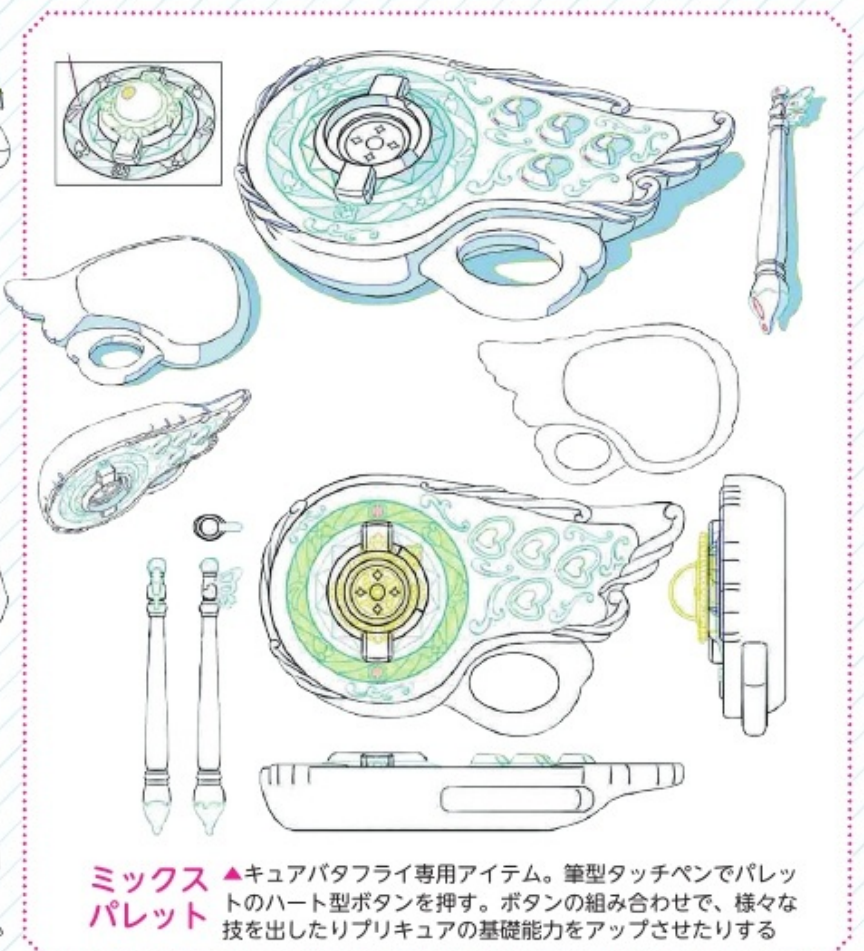
キュアバタフライ／聖あげは

▼キュアバタフライの三面図。蝶のようなパーツが多く、ヘッドドレスと左腰の大きなリボンも目を惹く。バタフライだけは変身時にネイルチップ的に爪が伸びるのも特徴

▲あげはの表情集。はつらつとした笑顔や大きく口を開けた叫び顔が彼女らしい。太いまつ毛が目尻寄りの位置にあるのは、ましろと同じ

▲▶アルバイト先であるプリティホリックでの姿。私服にエプロンを着用

▶あげはのルームウエア(パジャマ)。短いタンクトップとショートパンツにモコモコ靴下。薄手のパーカーも羽織っている

◀夏私服。肩出しにショートパンツと、アクティブな装い。第25話、第31話ではキャップを着用。なお5人の夏私服は第18話〜第33話で使用された

◀▶あげはの春私服。ダボッとしたパーカーとジャケットだ。まくった袖とピンキーリングの黄色がアクセントに

▲第28話、夏私服を即興でデコってアレンジしたドレス。ファッションショーで緊張したエルを和ませ、一緒にランウェイを歩いた

▲第18話からの保育園での実習スタイル。園児たちと外遊びして大丈夫な格好で、ピアスや指輪も外している

▲髪はピンクのシュシュでひとまとめに

◀ソラシド保育園に通う際などに使用するショルダーバッグ。第36話ではこの中にツバサが隠れてついてきて、彼女に助言した

▲第39話でのハロウィン仮装。アラクネモチーフで蜘蛛の巣のメイクを施している。この回の5人の仮装は、主に絵コンテや作画の段階で決め込まれたもの

▲第30話での水着姿。ロングパレオが大人っぽさ満点。ソラに泳ぎを教えるが、完全に幼児向けの指導だった

ミックスパレット

▲キュアバタフライ専用アイテム。筆型タッチペンでパレットのハート型ボタンを押す。ボタンの組み合わせで、様々な技を出したりプリキュアの基礎能力をアップさせたりする

▶第28話でファッションショーに出演した際のドレス。髪は二つ分け。本番では緊張してぐずり出したが、あげはがリラックスさせてくれた

◀▼エルの表情集と三面図。乳児なので歯がないことが、表情集などには注意書きとして書かれている。ほっぺにも鼻の頭と同じようにピンクのグラデ処理が入る

▲▶パジャマ姿のエル。三面図だけでなく、丸まってねんねするポーズ参考も

▲▶第19話のビニールプールで水遊びするスタイル。髪をクルンと巻いていたが、髪を下ろした状態の設定画も描かれている

▶第37話で、ましろとあげはの思い出の場所を探しに出かけた時の、麦わら帽子のアウトドアスタイル

◀第11話では、らそ山のマスコットキャラ・ソラ吾郎に惹かれる。そのグッズやぬいぐるみと一緒の参考設定画

▲第30話の海水浴で使った白鳥型のベビー用ビニールボート

▲第30話で海水浴に行った時の水着姿。肩とスカートのフリルがかわいい

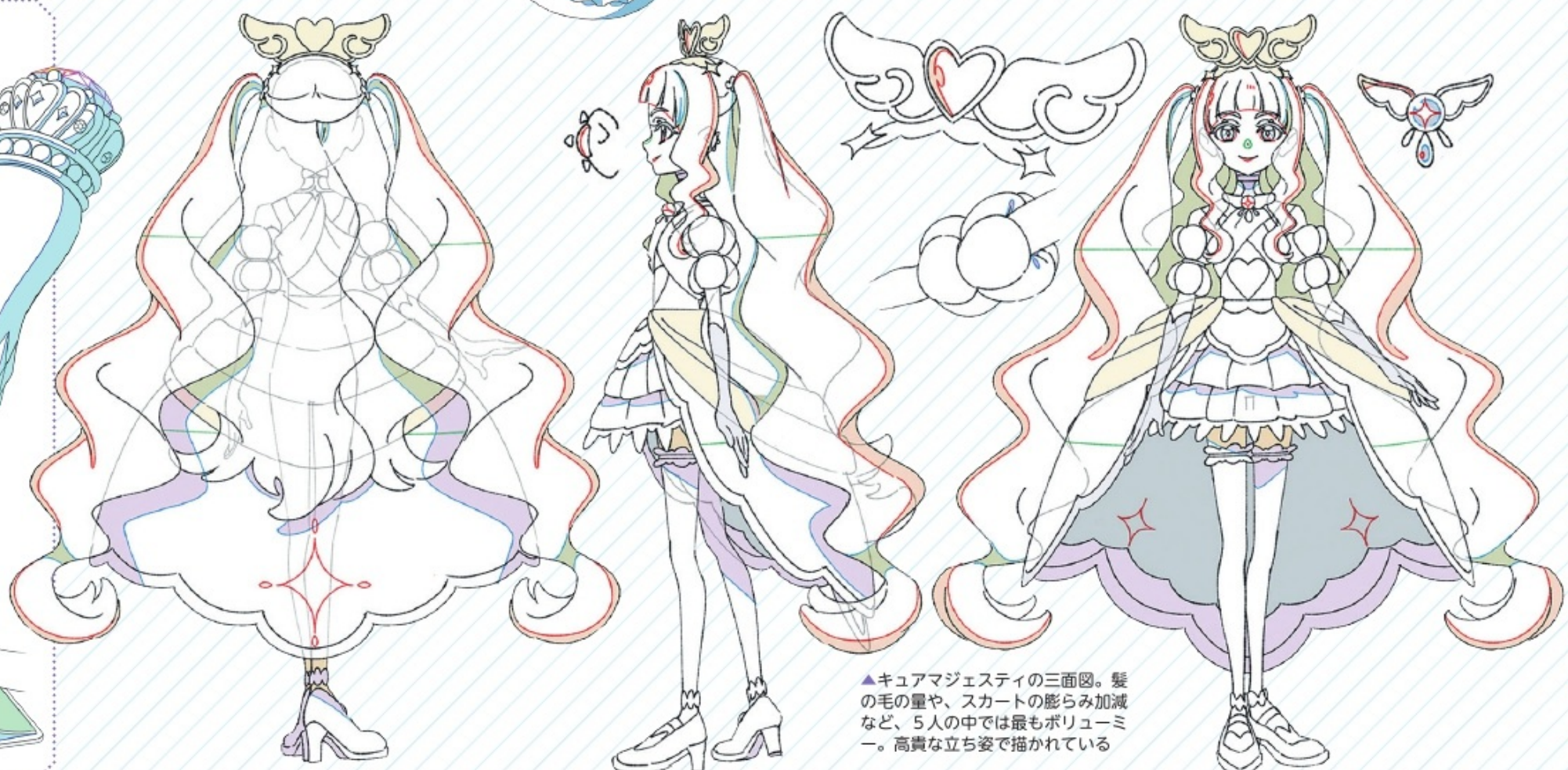
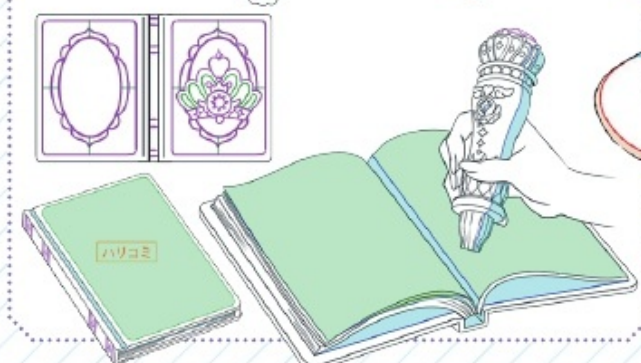
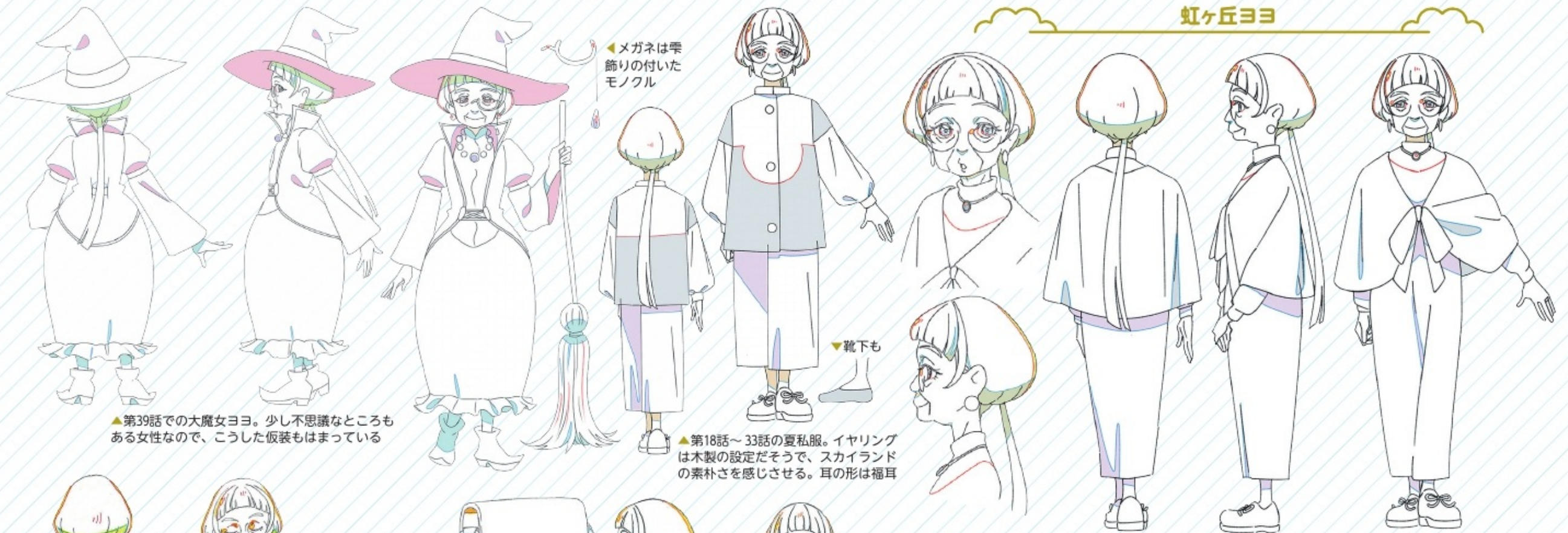
▲あげはの車に乗る時に使うチャイルドシート。本編では運転席の真後ろの位置になっている

◀▲第39話のハロウィンでのちびっ子魔女の仮装。ジャンスカにケープという構造

◀▲エルのだっこスリング。他のベビー用品と同様にヨヨが事前に用意していたもの。エルの気持ちに反応して舟形になり浮遊する

▲第40話の結婚式ごっこでの新婦姿。ティアラは紙製で、服の花も色紙で作ったもの

マジェスティクルニクルン

▶▼第33話から登場した本型アイテム。専用タッチペンで本に描かれたマークをなぞることで、5人のプリキュアによる合体技「マジェスティックハレーション」を放つ

▲キュアマジェスティの三面図。髪の毛の量や、スカートの膨らみ加減など、5人の中では最もボリューミー。高貴な立ち姿で描かれている

▲第39話での大魔女ヨヨ。少し不思議なところもある女性なので、こうした仮装もはまっている

◀メガネは雫飾りの付いたモノクル

▼靴下も

▲第18話～33話の夏私服。イヤリングは木製の設定だそうで、スカイランドの素朴さを感じさせる。耳の形は福耳

虹ヶ丘ヨヨ

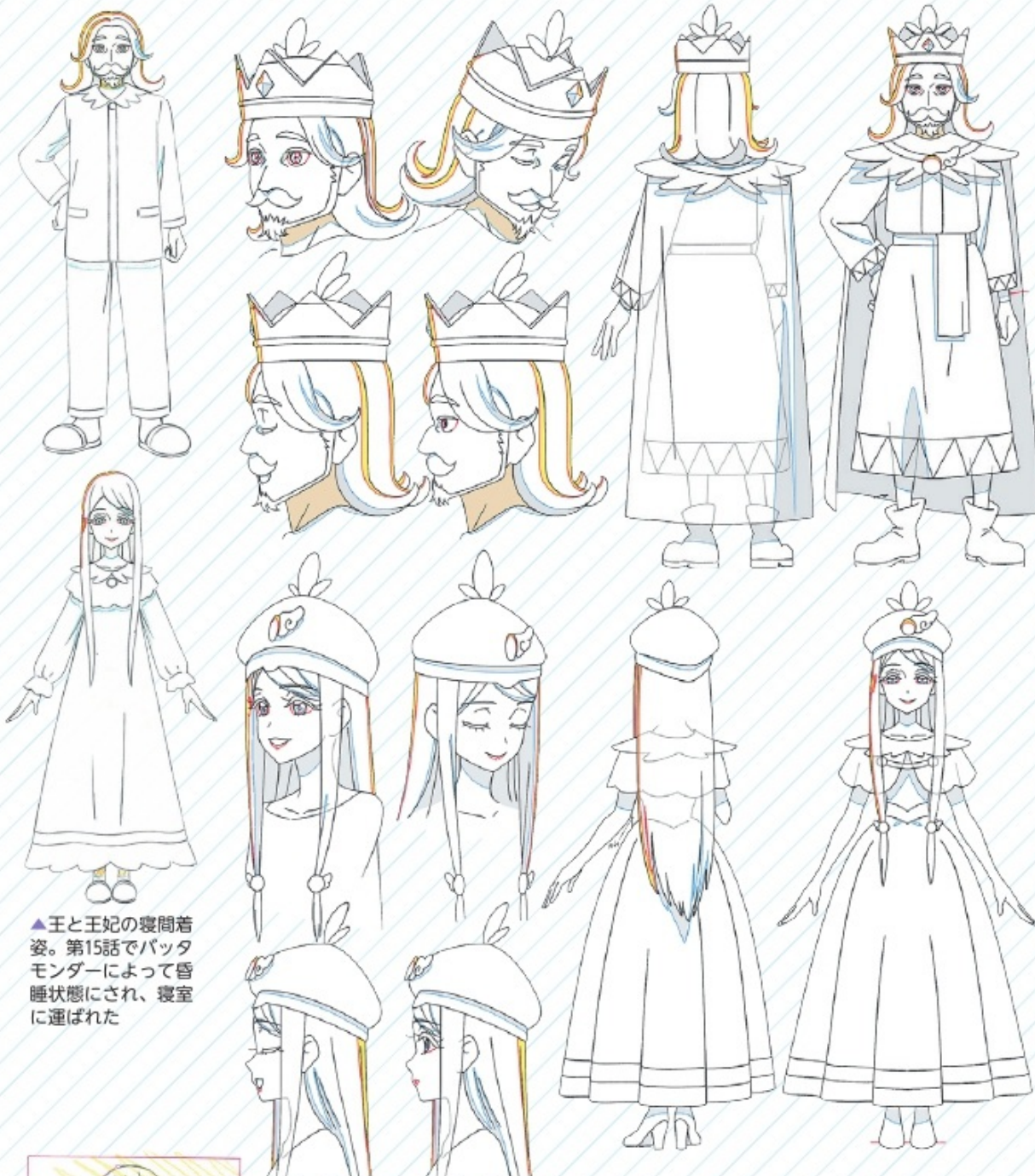
▲▶物静かで微笑みを絶やさない柔和な女性。乗馬を嗜んだり菜園で野菜を作ったりなど、活動的でもある。ツバサを次世代の賢者として王様に推薦した

◀第40話での聖職者の仮装。エルとツバサの結婚式ごっこのために着用

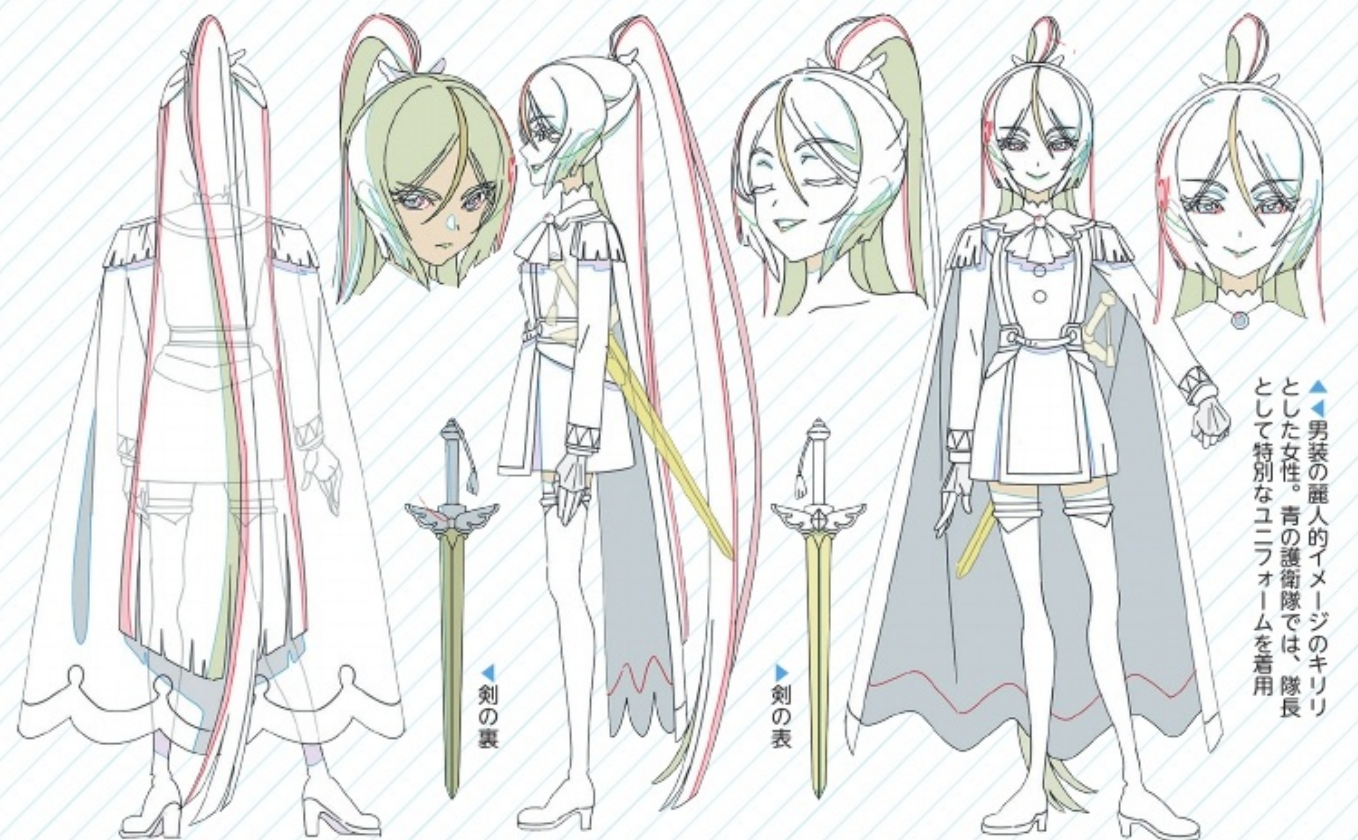
◀▶第23話で使用したバッグ。ましろの手紙をソラに渡すためにスカイランドへ出かけた

◀ヨヨの持っているスカイランドの本。スカイジュエルのことなどが記されている

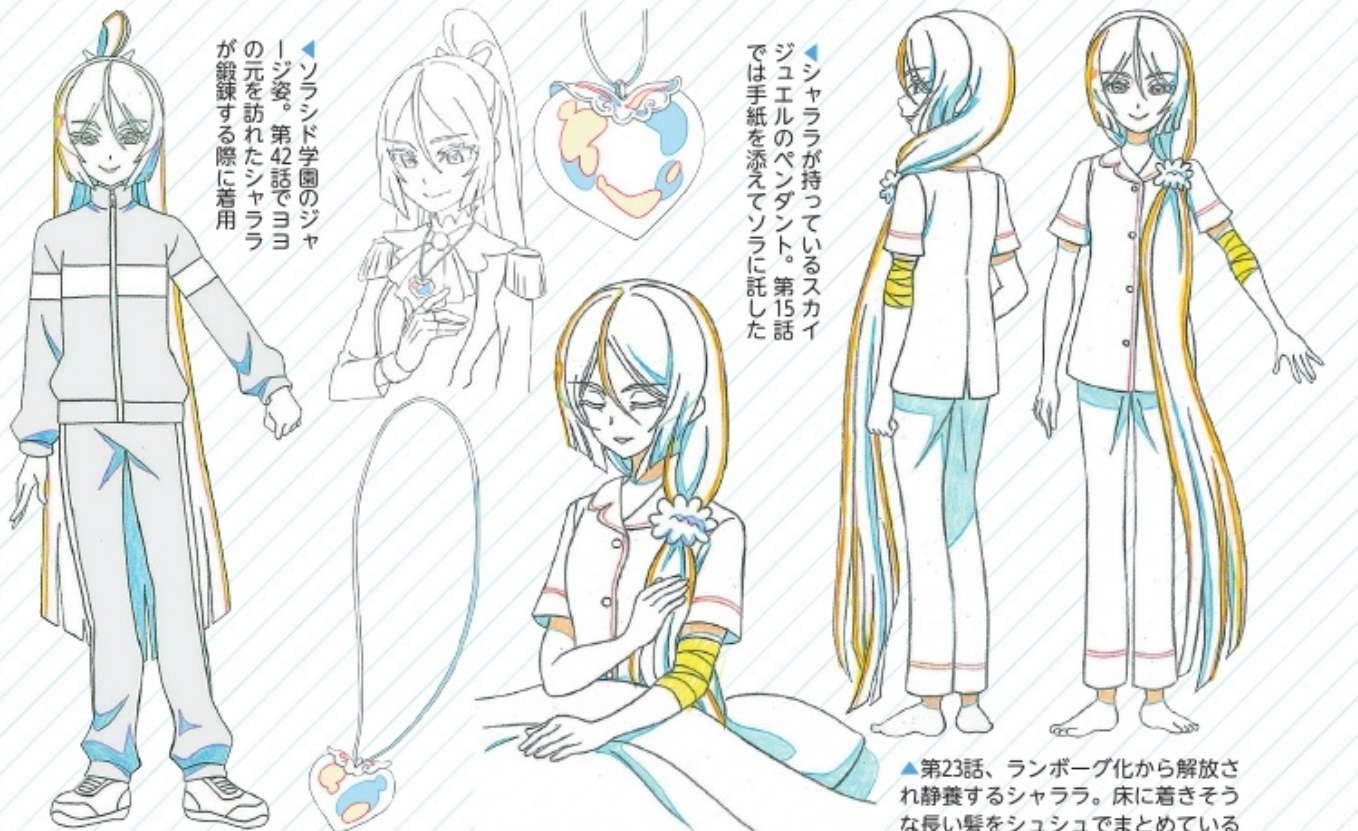
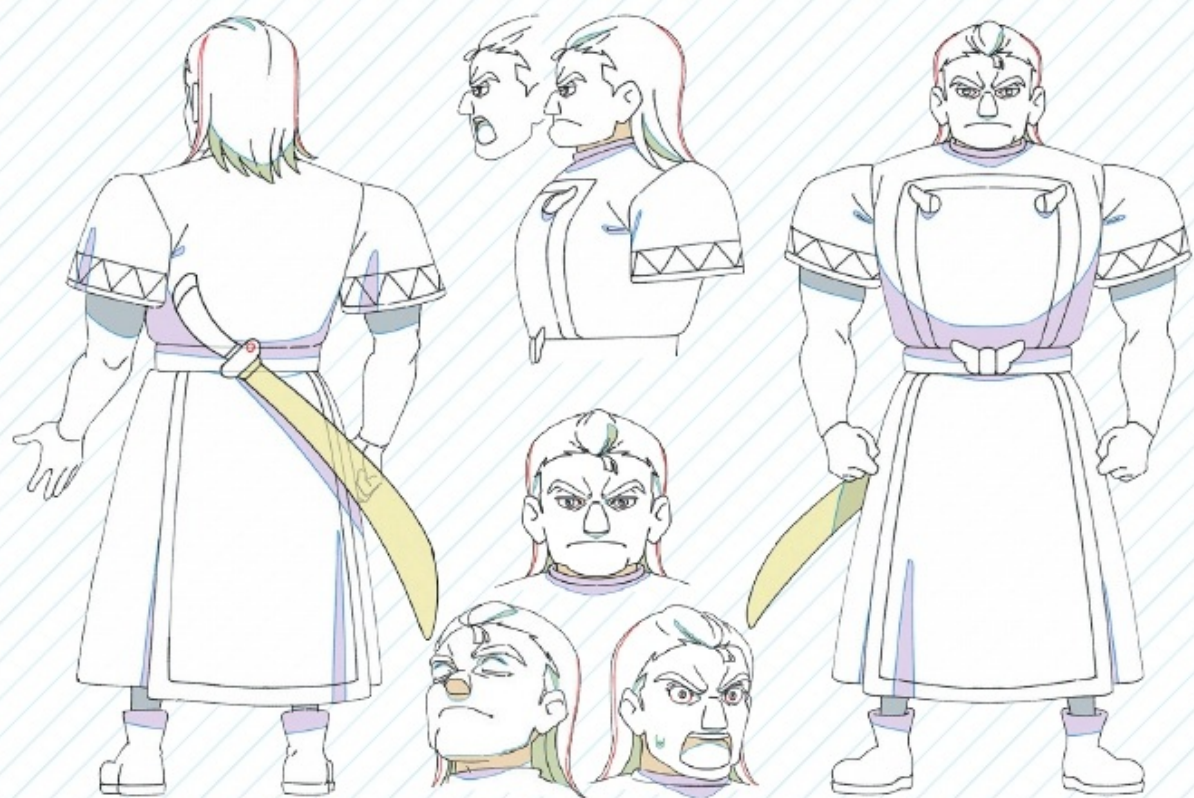
スカイランドの王と王妃

▼スカイランドを統べる夫婦で、エルの（かりそめの）両親。1年ほど前に、天空に輝く一番星から「運命の子」であるエルを預かった

▲王と王妃の寝間着姿。第15話でバッタモンダーによって昏睡状態にされ、寝室に運ばれた

◀宮殿にある通信装置。ミラーパッドとビデオ通話する際に使われる

シャララ隊長

▲◀男装の麗人的イメージのキリリとした女性。青の護衛隊では、隊長として特別なユニフォームを着用

◀ソラシド学園のジャージ姿。第42話でヨヨの元を訪れたシャララが鍛錬する際に着用

◀シャララが持っているスカイジュエルのペンダント。第15話では手紙を添えてソラに託した

▲第23話、ランボーグ化から解放され静養するシャララ。床に着きそうな長い髪をシュシュでまとめている

アリリ副隊長

▲第14話から登場した青の護衛隊の副隊長。いかついが冷静な武人。青の護衛隊の一般隊員の制服は男女共通で、長袖と半袖の２タイプがあり自由に選べるようだ

ベリィベリー

▶青の護衛隊の隊員。ケガのために入隊試験に落ち続けたが、努力を重ねて入隊。その分、強さにこだわり、推挙で見習いとして加入したソラには敵愾心を抱いていた。その後、気持ちが通じ合って親しい関係に。電撃を放つグローブで戦う

ワシオーン

▲シャララ隊長の愛鳥であり愛機。飛行での移動や、戦闘などを含む空中での任務で行動を共にする（第15話）

遊覧鳥

◀第1話でソラをスカイランドの中心部に連れてきたタクシー的存在。第38話にも登場

長内たける

▲▶あげはの実習先・ソラシド保育園の年長さん。あげはを慕う、ちょっとヤンチャな男の子。引っ越しが決まり、気落ちする（第18話、第36話）

緑の息子夫婦と孫

◀突然空港に見送りに現れた緑に驚きながらも、親子共に大いに喜ぶ（第13話）

サブキャラクター

仲田つむぎ　**吉井るい**　**軽井沢あさひ**

▲ソラのクラスメイトの仲良しトリオ。つむぎは優等生っぽい口調で話す女の子。るいはフランクなタイプで少しおばちゃんっぽいところも。メガネくんのあさひは陽気で天然な男の子。３人は教室で一緒にいることが多い。以前からましろと親しく、転校生のソラとも仲良くなる。つむぎは第６話から、るい、あさひは第７話から登場

▲第17話の運動会での女子リレー選手。走順はビブスの番号で、２番走者はるい、５番走者がましろ（P.33参照）、アンカーがソラ。１・３・４番の選手も、元々その他のクラスメイトとしてデザインされている

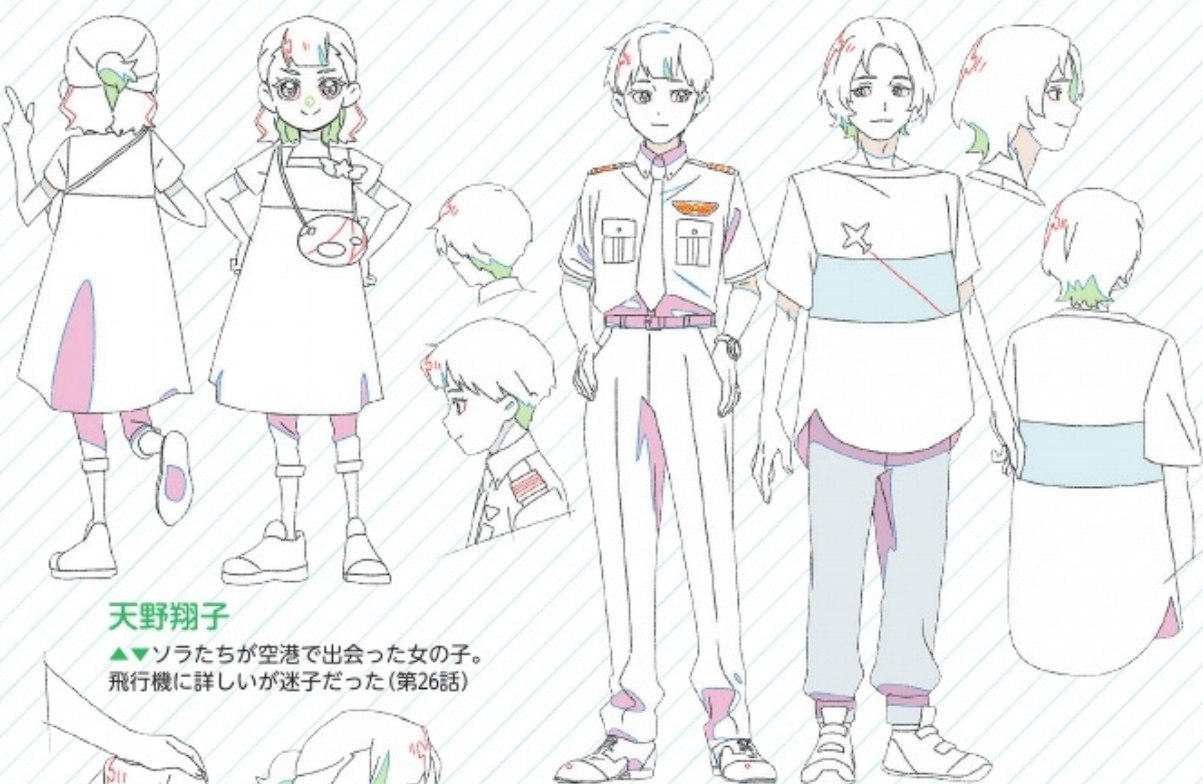
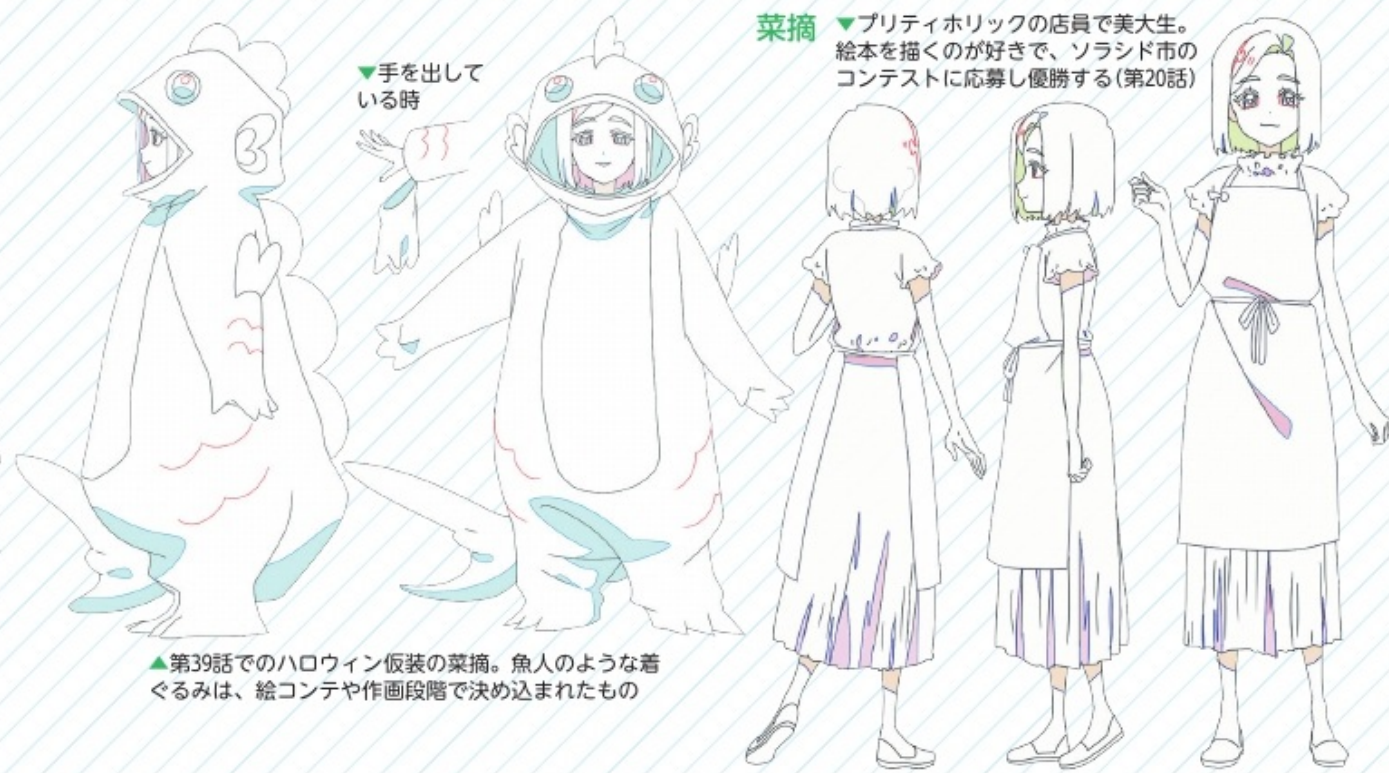
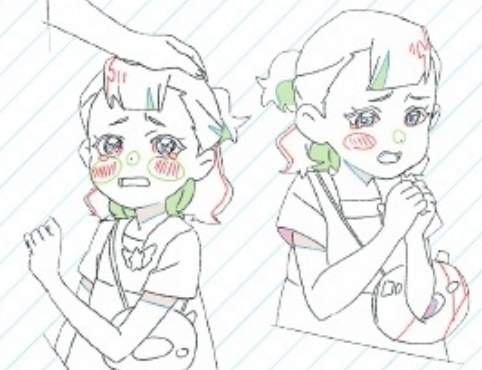
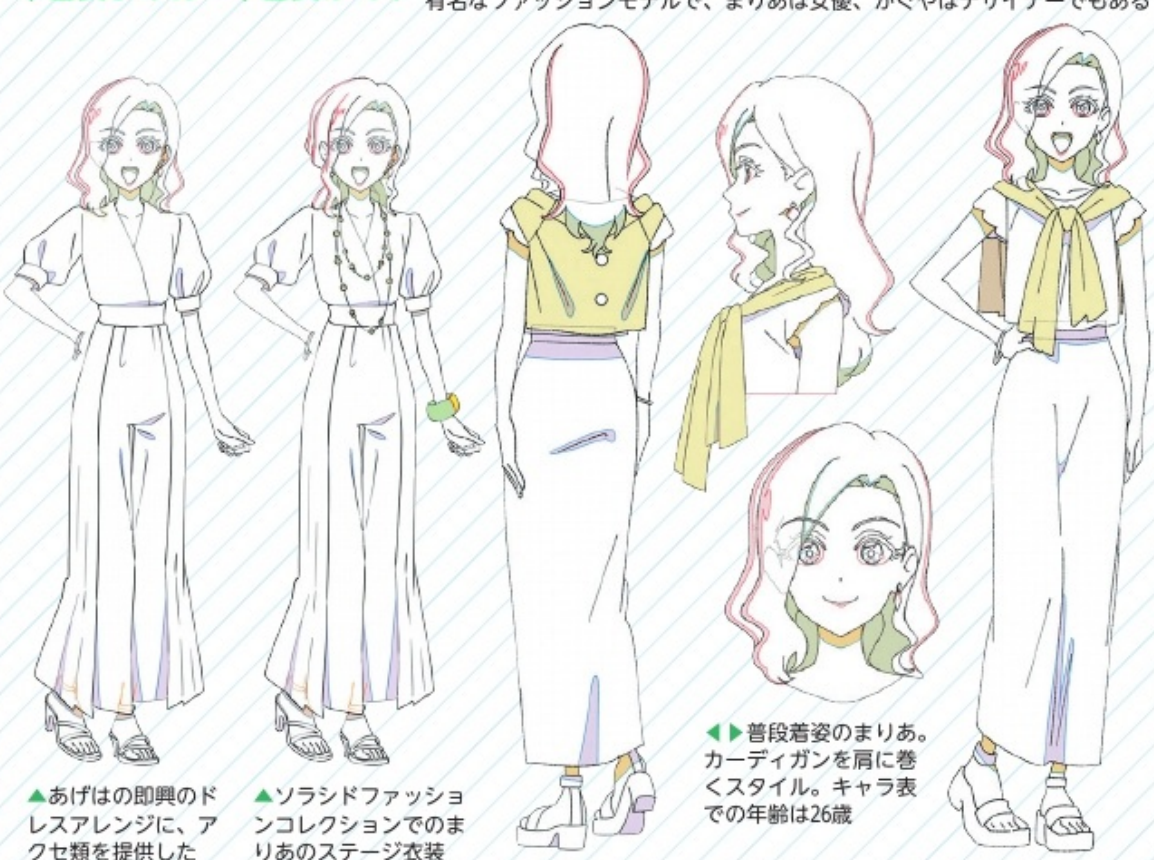
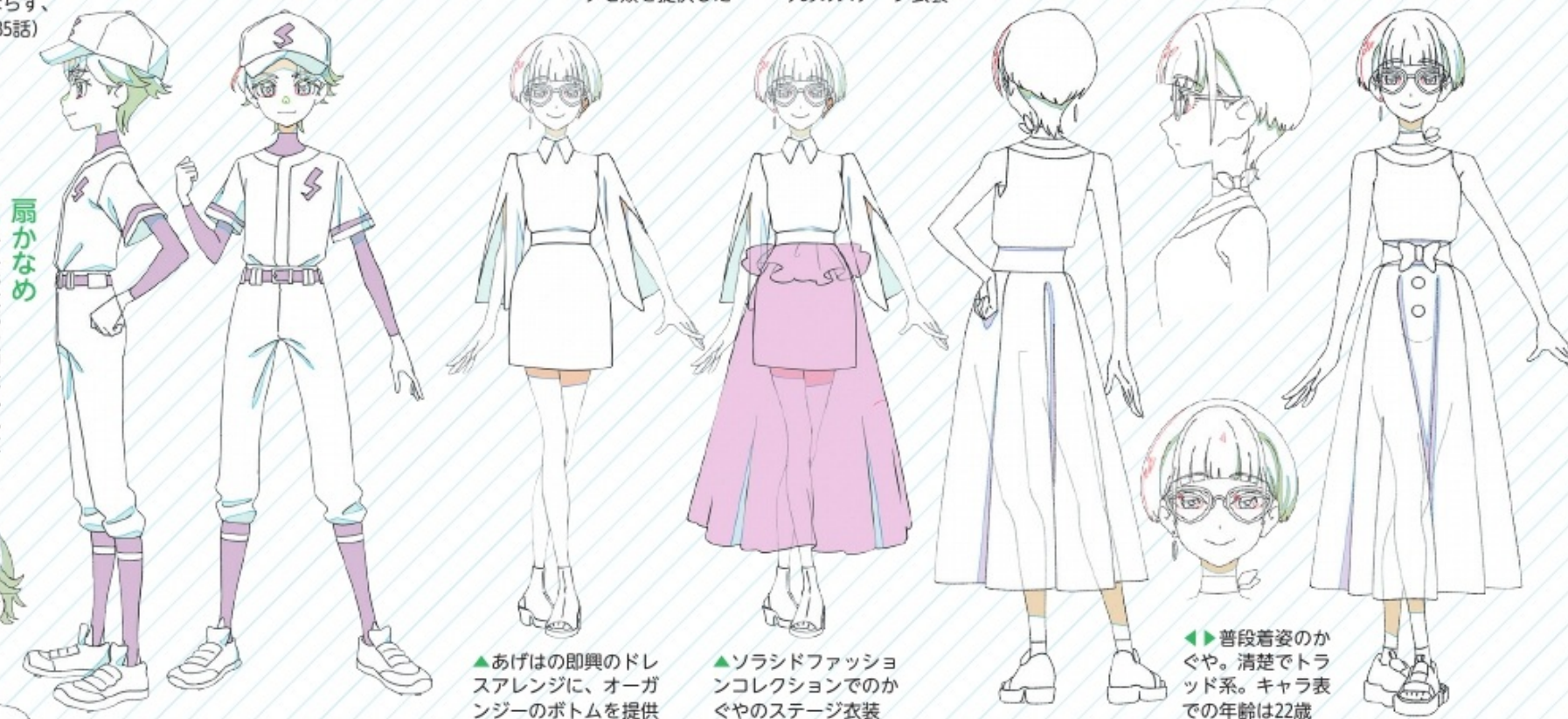
雑木林おさむ

◀ソラとましろのクラス担任。担当教科は国語。ヨヨの言葉を信じて、ソラはスカンジナビア半島のほうの国からやってきたとクラスで紹介した。第7話から登場

▲中学の体育ジャージの設定。上着あり・上着なしが、あさひとるいをモデルに描かれている

宮田 緑

◀▶関西弁の壮年女性。海外転勤する息子夫婦の孫のために選んだファーストシューズを、エルに譲ってくれた。ソラたちはプリキュアに変身して、彼女を空港まで送った（第13話）

◀▲中学の男子の夏制服。女子のハート型のバックルなどに比べ、男子はシンプル

天野翔子
▲▼ソラたちが空港で出会った女の子。飛行機に詳しいが迷子だった（第26話）
翔子の両親
▲左は翔子の自慢の母で、飛行機のパイロット。母親の操縦する旅客機で父親（右）と旅行することになっていた（第26話）
▼手を出している時
▲第39話でのハロウィン仮装の菜摘。魚人のような着ぐるみは、絵コンテや作画段階で決め込まれたもの
菜摘
▼プリティホリックの店員で美大生。絵本を描くのが好きで、ソラシド市のコンテストに応募し優勝する（第20話）
ピンクットン
◀ミラーパッドの中にいる不思議な妖精。ちょっととぼけた性格で、ソラたちにバラエティ番組でのゲームのようなトレーニングを課す（第27話）
▲ましろに塔を登る試練のようなトレーニングをさせた仙人風ピンクットン
▲あげはに飛行機のクイズをさせた司会者風のピンクットン
▲ソラにメイクレッスンをしたカリスマデザイナー風ピンクットン。ソラのトンデモメイクに仰天
▲ツバサにリズムゲームのようなトレーニングをさせたダンサーのピンクットン
りほ
▲街外れの洋館に住んでいたマロンの持ち主で、マロンを探していた。右がマロンと別れた頃で、左が現在の姿
マロン
▲街外れの洋館に独りぼっちでいた猫のぬいぐるみ。引っ越しで持ち主に置き去られ、寂しく思っていた（第29話）
早乙女まりあ・早乙女かぐや
あげはの姉。両親が離婚したため、あげはとは名字が異なる。姉妹そろって有名なファッションモデルで、まりあは女優、かぐやはデザイナーでもある
竜族たち
▼スカイランドの秘境的な浮島にあるハレバレジュエルを代々守り、磨き続けてきた。その昔、人間たちから祖先が怖がられたため、現在までひっそり暮らしてきた。理性的で優しい種族（第38話）
▶野球部のユニフォーム姿のたまき
四宮たまき
▲▶ソラシド学園女子野球部のエース。肘を治すため手術を受けなくてはならず、ショックを受ける（第35話）
▲あげはの即興のドレスアレンジに、アクセ類を提供した
▲ソラシドファッションコレクションでのまりあのステージ衣装
◀▶普段着姿のまりあ。カーディガンを肩に巻くスタイル。キャラ表での年齢は26歳
扇かなめ
▶▼女子野球部の捕手だが投手もできる実力を持つ。ソラに特別コーチを頼む（第35話）
▼本編に登場する5体の竜族の顔のバリエーション
▲あげはの即興のドレスアレンジに、オーガンジーのボトムを提供
▲ソラシドファッションコレクションでのかぐやのステージ衣装
◀▶普段着姿のかぐや。清楚でトラッド系。キャラ表での年齢は22歳

カバトン

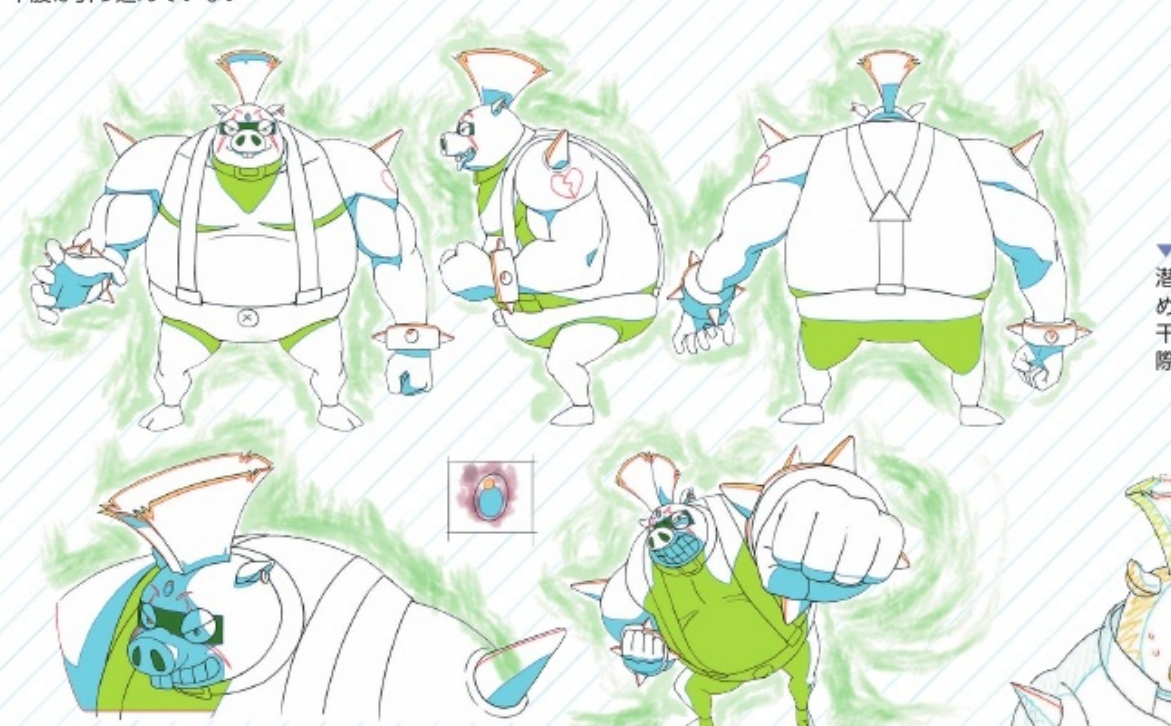
▼エルを狙って誕生日の祝典に誘拐を試みるが、ソラに阻止され失敗。以降プリキュアとエルを狙ってきた。プリキュアに敗退後も、地上の世界で暮らしている（第１話〜）

▲▶様々な変装や扮装を見せるカバトン。第５話や第12話ではサラリーマン姿になって、屋台のおでん屋に立ち寄っていた。後頭部の毛は部分カツラ

▲▶第５話、強力なランボーグを生み出すため、おでんで蓄えた全カロリーを放出。結果ガリガリにやせてしまう。鎖骨や肩甲骨が見え、指も細くなったが、下腹は引っ込んでいない

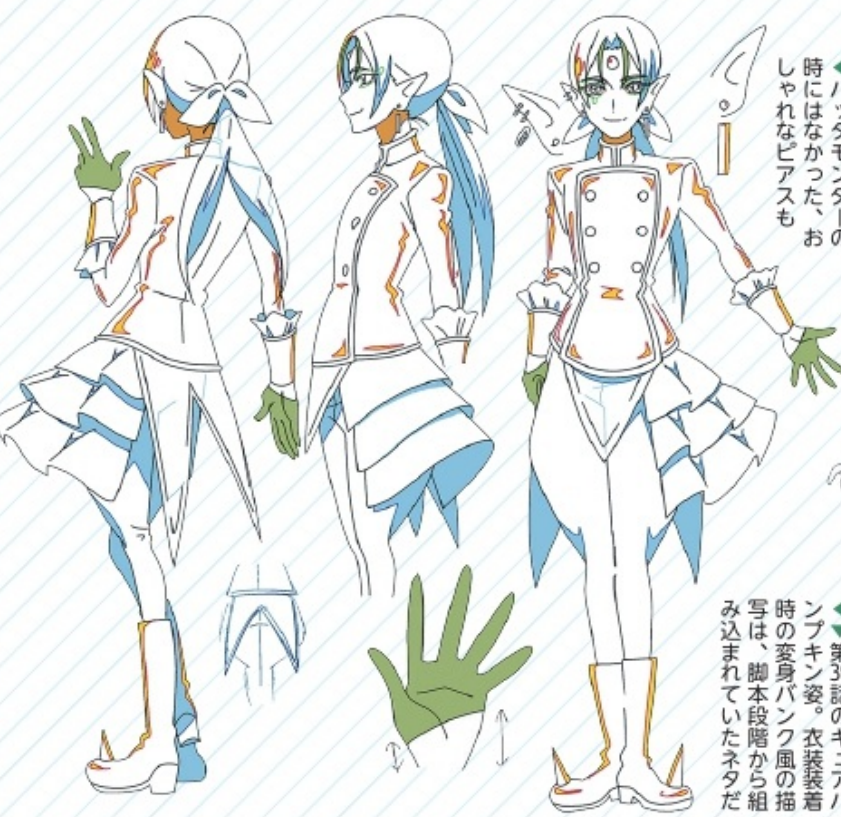
◀▲第４話、ソラたちをだまそうと、あどけない子豚の姿に変身。あまりに露骨で、ましろはすぐに見破るが、ソラは引っかかった

▼カバトンの表情集。色味はカバだが、顔の作りとしては豚の要素が強い。トサカのようなモヒカン、トゲのついたイヤリングや腕輪など、パンクロッカー的な要素を持つ

▼第７話はソラシド中学に潜入。学食のパンを買い占めたり給食のカレーを飲み干したりと、悪事を働いた際の不良コスプレ

カバトン（パワーアップ）▲ソラとの１対１の決闘に際して、最高レベルにまで高めたアンダーグエナジーを自分自身に注入した（第12話）

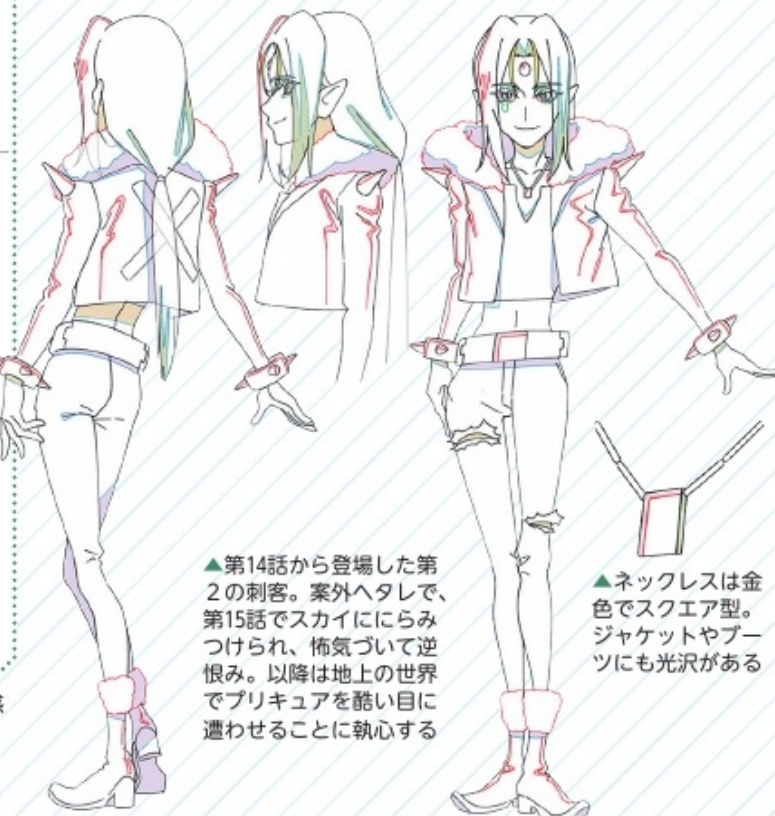
バッタモンダー

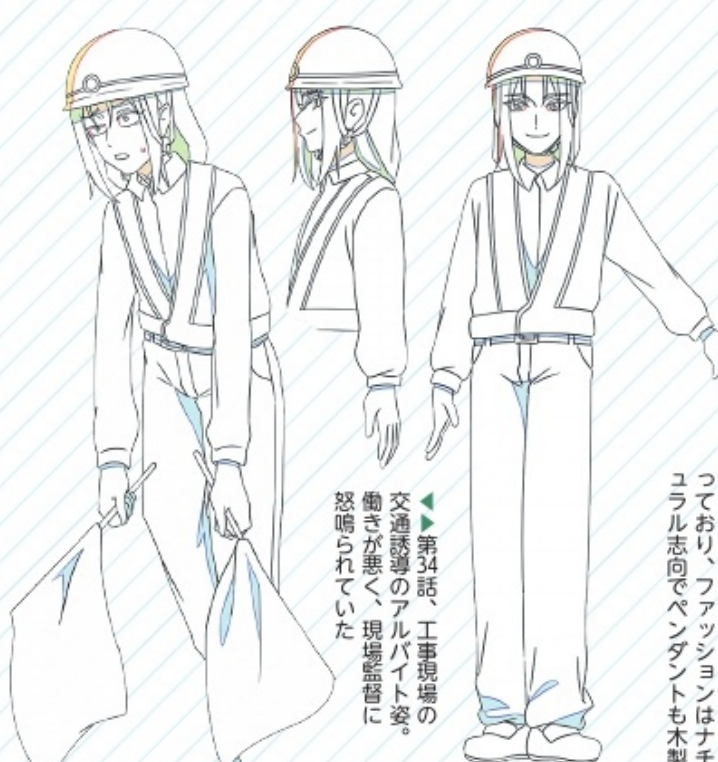
◀バッタモンダーの時にはなかった、おしゃれなピアスも

◀▼第39話のキュアパンプキン姿。衣装装着時の変身バンク風の描写は、脚本段階から組み込まれていたネタだ

▼第41話では、キッチンカーでアルバイト。店長や客の前では猫を被っていた

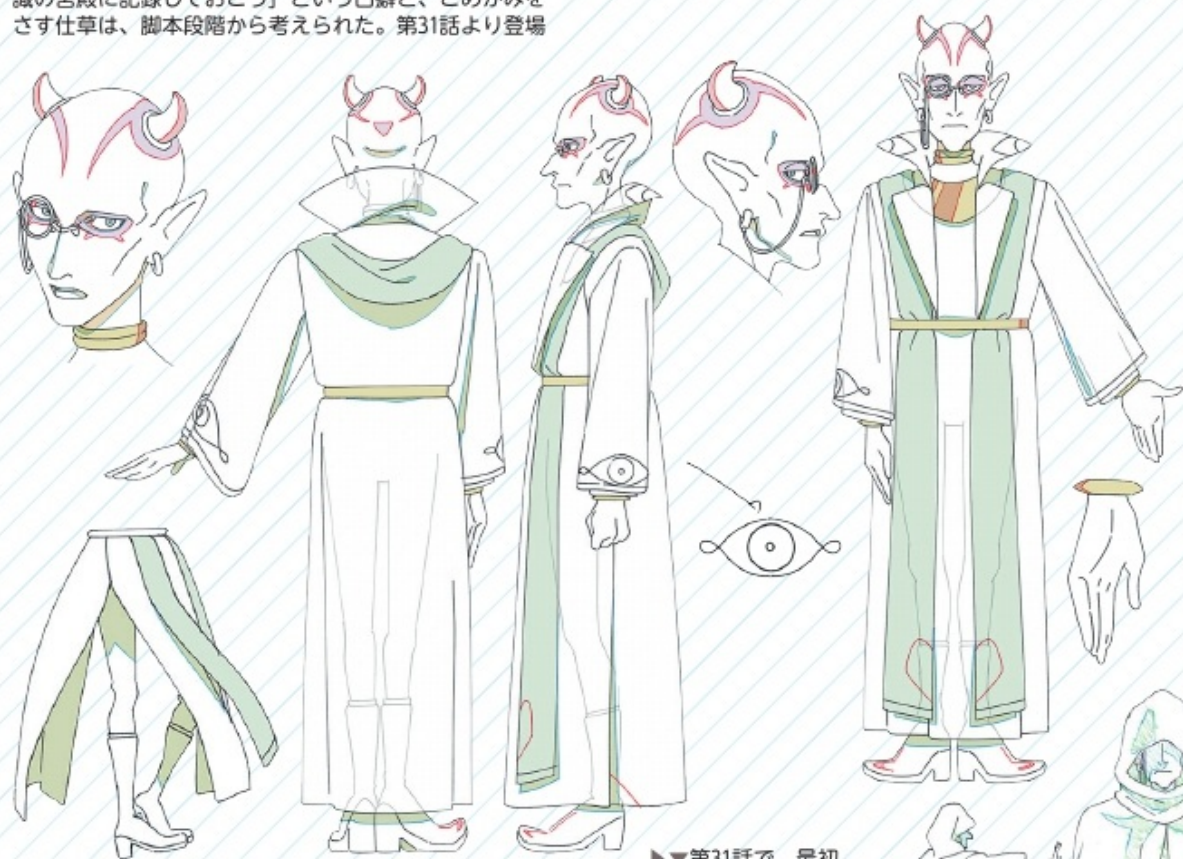
▲崩れた顔が多く描かれている。感情が昂ぶると前髪が触覚的に立つ

▲第14話から登場した第２の刺客。案外ヘタレで、第15話でスカイににらみつけられ、怖気づいて逆恨み。以降は地上の世界でプリキュアを酷い目に遭わせることに執心する

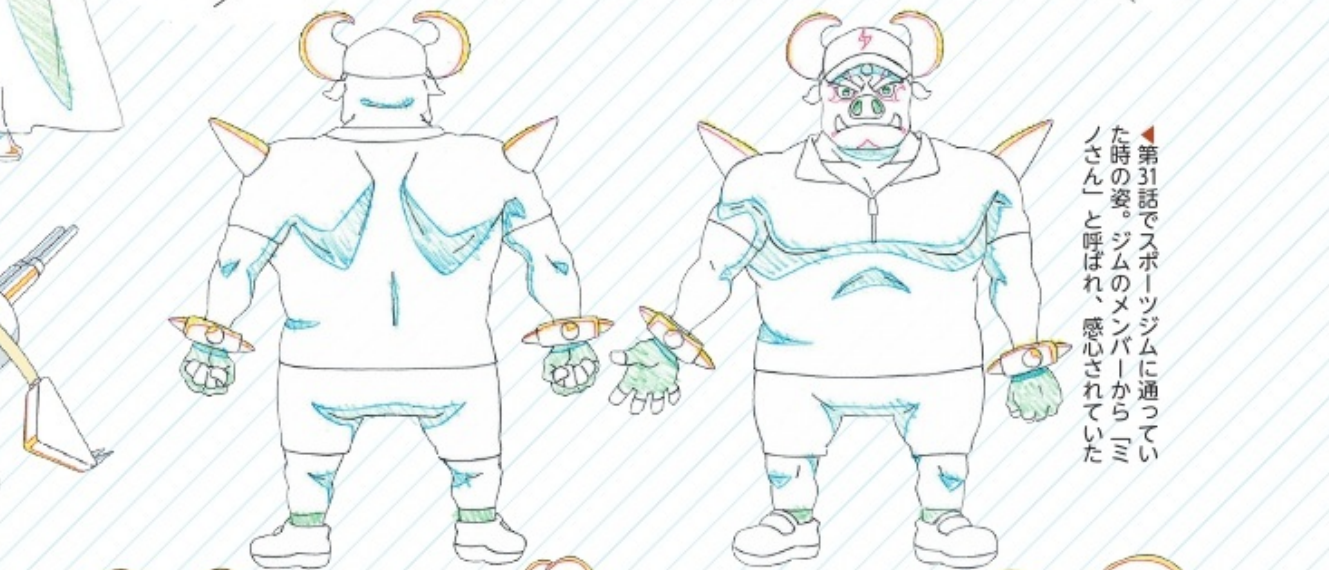
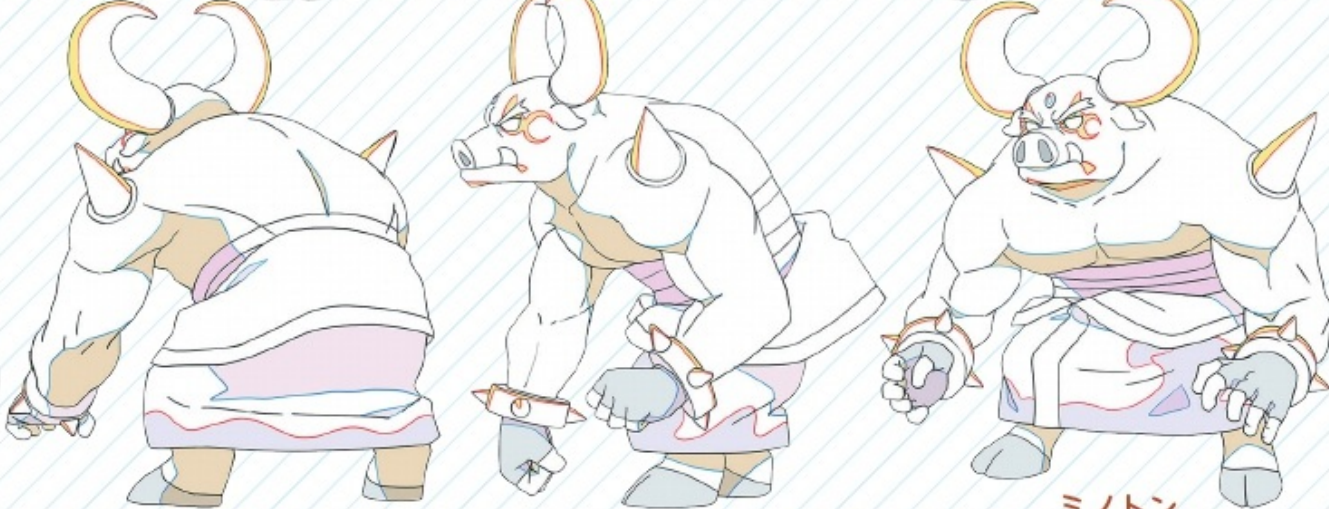
▲ネックレスは金色でスクエア型。ジャケットやブーツにも光沢がある

▼襟のファーはリボンでとめてある

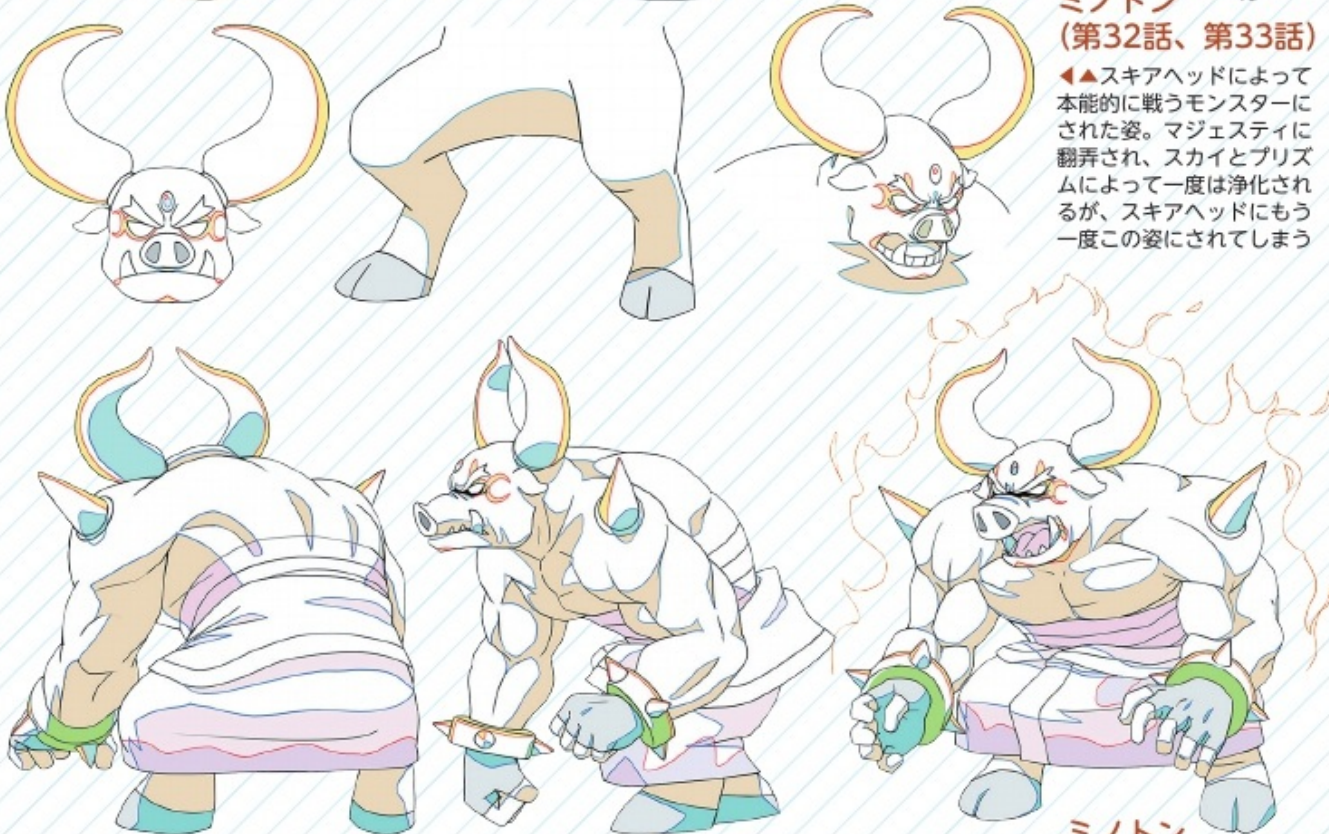
◀▶第34話、工事現場の交通誘導のアルバイト姿。働きが悪く、現場監督に怒鳴られていた

▶第34話から再登場。紋田という名前で安アパート住まいのアルバイト暮らし。美大生を名乗っており、ファッションはナチュラル志向でペンダントも木製

スキアヘッド

▼強力なアンダーグエナジーの使い手で、一人でスカイ、プリズム、ウィング、バタフライの４人を圧倒する。「知識の宮殿に記録しておこう」という口癖と、こめかみをさす仕草は、脚本段階から考えられた。第31話より登場

▶▼第31話で、最初にミノトンやソラたちの前に姿を現した時のマント姿

ミノトン

▼第25話から登場した３人目の尖兵。牛型の獣人幹部。プリキュアを自らの力で倒したいと挑戦してくる。エルを捕らえることよりも、打倒プリキュアを最優先にしていた

◀第31話でスポーツジムに通っていた時の姿。ジムのメンバーから「ミノさん」と呼ばれ、感心されていた

ミノトン（第32話、第33話）

◀▲スキアヘッドによって本能的に戦うモンスターにされた姿。マジェスティに翻弄され、スカイとプリズムによって一度は浄化されるが、スキアヘッドにもう一度この姿にされてしまう

ミノトン（パワーアップ／第33話）

◀▲マジェスティクルニクルンを探すソラたちの前に現れたミノトンが、アンダーグエナジーのドリンク剤を飲み、さらにパワーアップ。理性も意思も失われた状態

ランボーグ

カバトン、バッタモンダー、ミノトンが様々な素材にアンダーグエナジーを注ぎ込んで誕生するモンスター。出現すると、背景がエンボス風のテクスチャ処理されたものに切り替わる。ランボーグ＆キョーボーグは基本的に春山和則さんのデザインだが、各話の作画監督が担当したものも

ショベルカーランボーグ

▲第１話に登場。デザインの雛形の意味もあり、キャラクターデザインの斎藤敦史さんが手がけた

電車ランボーグ

▶第５話登場。パワーが上がるごとに列車種別が「急行」「特急」「超特急」と変化するギミックについても描き込まれている。デザインは第５話作監の稲上晃さん

洋館ランボーグ

▲◀第29話に登場。洋館内の様々な家具や西洋甲冑などがランボーグ化してスカイたちを攻撃。この回のランボーグは、すべて第29話作監の青山充さんのデザイン

◀電車ランボーグの運転席に座る、ガリガリのカバトンの参考設定。これも稲上さんによるもの

キョーボーグ

スキアヘッドが生み出す、ランボーグよりも強力なモンスター。２つの素材にアンダーグエナジーを注ぎ込み、合体させて誕生（第34話〜）

落ち葉＆どんぐりキョーボーグ

◀第36話登場。ポーズ参考はロボっぽく描かれている

② ブーカを守ってドタバタ

ましろのアップと、切り返しの『トロプリ』ローラで始まる、コントのような両者の出会い。そこからブーカを守って戦う『デパプリ』キュアフィナーレとの邂逅へ。この一連のシーンの原画は柏熊信さん。キュアプリズムの差し伸べた手をためらうブーカは伏線だが、ここではキュアラメールがブーカを引っ掴んで走る楽しさのほうに目がいく。「柏熊さんはこのシーンをはじめ、映画全体約1300カット中、100カット近くを作画していただきました。量もクオリティもスピードもすばらしく、今後の活躍が楽しみな若手アニメーターの一人です」（裕太）

① ソラたちはすぐに意気投合

みんなと離ればなれになり、呆然と落下するキュアスカイというショッキングな幕開け。目覚めたソラの前に、謎の怪物レッサーアークが出現。そこへ『デリシャスパーティ♡プリキュア』のキュアプレシャスと『トロピカル～ジュ！プリキュア』のキュアサマーが颯爽と駆けつけ、OPバトルへ。二人の壁蹴りはもちろん初代オマージュ！　スカイ単独のレッサーアークとのバトルや、3人協力してのアクションも見応え満点。ゆいの「はらペコった～」で、映画タイトルがインする流れも愉快。

つないだ手は離さない

MOVIE

監督
田中裕太

総作画監督・キャラクターデザイン
板岡 錦

5年ぶりとなった『プリキュアオールスターズ』の映画。ストーリー前半の楽しい交流と、後半のシリアスな一大バトル。「プリキュア」シリーズを濃縮したかのような70分だ！

③ 花畑でのはるか／ララとゆかりは不協和音

和やかに空中庭園を行くツバサとエル、『HUGっと！プリキュア』のさあや、『魔法つかいプリキュア！』のことは。一行はバトル中の『Go！プリンセスプリキュア』キュアフローラと遭遇。この戦いは豊田桂祐さんの原画。ツバサにお辞儀をする際には、きれいなレースのフレームも。「このレースは当時の素材をそのまま使用しています。TV本編ではCGだったモードエレガントも作画で描かれていますが、これはCG技術の進化により、当時のCGモデルがもう古くなって使えないからです」（裕太）。バタフライチームは、『キラキラ☆プリキュアアラモード』のゆかりと『スター☆トゥインクルプリキュア』のララの口論からスタート。鋭い氷柱で分割された引きカットも象徴的。仲裁するあげはだが、ゆかりは一人去って行く。このシーンはフルヤヨウコさんの原画・作画監督パート。「フルヤさんは、僕の過去作である『映画まほプリ』『映画スタプリ』では助監督を務めていただきました。今回はアニメーターとして参加、非常に繊細かつパワフルな活躍を見せてくれました」（裕太）

プリキュア20周年記念映画である本作は、「プリキュアって何？」をテーマにしている。『ひろがるスカイ！プリキュア』の5人は、歴代プリキュアと即席の4チームで旅をする中で、様々なドラマを繰り広げる。そしてクライマックスでは78人のプリキュアが大集合し、スペクタクルな超絶コラボバトルを見せていく。その中で「プリキュア」の20年の歩みをあらためて振り返る物語となっている。

また、映画オリジナルのプリキュア、キュアシュプリームが真の敵にして元凶というフェイク要素も大きい。シュプリームは、ただ戦い、ただ勝つことがレーゾンデートル。そこに善悪の意識はない。プリキュアの物理的な強さに惹かれて真似ようとするが、実はプリキュアの妖精を模して生み出したプーカこそが、プリキュアの優しさを持っていた。

いわばプリキュアの両輪ともいえる、力の強さと心の強さが、キャラクターとなって対峙する物語でもある。「僕は一人だ」とこぼすシュプリームに、「もう違うプカ」と返すプーカ。そして二人は手を取り合い、新たな物語が始まっていく。

たなか・ゆうた
1981年生まれ／東映アニメーション所属。『Go！プリンセスプリキュア』シリーズディレクター。『映画プリキュア』の監督としては今回が3作目

いたおか・にしき
スタジオ・ライブ所属。変身・技シーンの原画なども含め、「プリキュア」シリーズに長年携わる。『映画プリキュア』のキャラクターデザインは今回が2作目

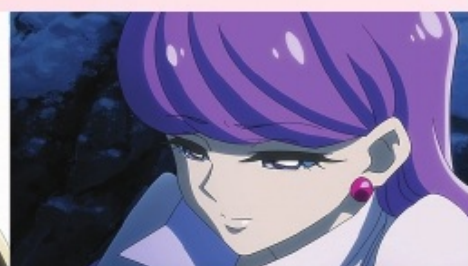
⑤ パワフルなキュアシュプリーム

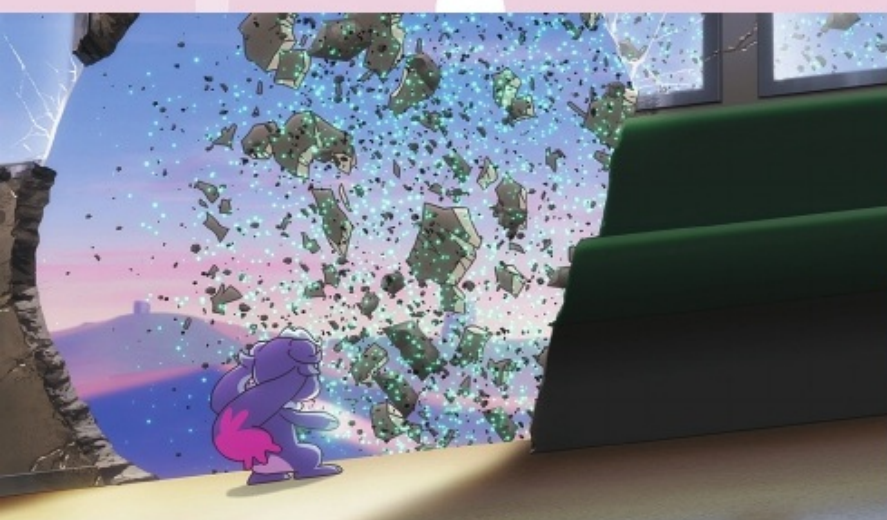
ソラたちは、レッサーアークを圧倒し、ビームで倒すプリキュアと遭遇。このキュアシュプリームのすさまじいバトルの原画は劉志光さん。絵コンテでも派手に動く形だったが、「彼はアクションを6秒くらい伸ばしてきたんです（笑）」（板岡）。「おかげで、音楽も含めて、印象に残るシーンになりました。ちなみにVサインじゃなくて、うさぎの耳のポーズです」（裕太）。シュプリームは変身を解いてプリムに。ソラたちとの出会いのシーンの原画は飯田花緒さん。プリムのキャラ名テロップは、田中監督が歴代タイトル紹介用に考えたフォーマットにちなんだ、フェイク演出だ。作品ロゴ（もどき）は2Dワークスとして発注され、「元となる単語をギリギリ読めるか読めないかくらいまで崩した“文字”にしてもらいました。あらためて確認したのですが、結構そのまま元の単語の印象が残っていましたね。ひらめきさえあれば、たぶん読めると思います」（裕太）

④ オアシスで語らう、ましろたち 食材探しは抱腹絶倒

砂漠を行くましろたち。ブーカに手を差し伸べるシーンを入れて、ブーカが手を握るのを怖れていることを強調。オアシスで『ヒーリングっど♥プリキュア』ののどかと出会い、ましろと会話するが（ラビリンへの心配）、木漏れ日の陰影でセンチな雰囲気。ここでも、じっと聞いているブーカがポイントだ。「奥のローラとあまねのやりとりは別カットでもう少し作ってあったのですが、尺の都合で残念ながら欠番になりました」（裕太）。そこから一転、食材探しのスカイチームは、フルヤさんのはっちゃけたギャグ作画が最高！　ここでまなつと手を握ったソラが何かを思うが、ヤバいキノコに目を奪われるまなつとゆいを止めるほうが先決というギャグオチ。ましろを想って神妙なソラを、まなつとゆいがそれぞれの言葉で元気づける。

7 キャンプで晩ごはん

スカイチームのキャンプシーンは田中慎之介さんの原画、油布京子さんの作監。お気楽に舌鼓のソラ、ゆい、まなつと冷めたプリムの対比が絶妙。ソラがゆいの手に触れた瞬間、プレシャスの姿が浮かぶが……。「プレシャスが映る前の一瞬のフラッシュエフェクトは、実は地球の形です。これは絵コンテにない田中慎之介さんのアドリブですが、後の展開を考えると非常に意味深いです。映画の内容に即したすばらしいアレンジだと思います」（裕太）。なお、ソラが見せるヒーロー手帳のページは、春山和則さんが担当。『ひろプリ』第1話で破られた部分をその後、ソラが描き直したという設定だ。シーン最後は、コメコメを見るプリムのまなざしが鋭い！

6 ゆかりとララの和解

洞窟で凍えるゆかりは、あきらの幻覚を見る。『プリアラ』での二人の絆を感じさせるシーンだ。心配して追ってきた『ヒープリ』のラテやアスミ、あげはたちにほだされ、ララとも和解する。「劇中で少しずつ『二人』というテーマを推していき、ゆかりとあきらの関係性も見せました」（脚本・田中 仁）。ララの触覚に指を触れるゆかりのカットで、宇宙とスイーツのフレームが入るのも嬉しい。

9 のどかとラビリンの再会

電車シーンの作監は油布さん。遅れるのどかに、ローラが人魚姿に戻って尾ヒレを伸ばす描写は絵コンテでの妙案。そこに車内からラビリンが現れ、ローラとのどかを「つなぐ」のが劇的だ。のどかとラビリンが喜び合う姿を見るプーカの脳裏に、悲しい記憶がモノトーンでフラッシュ。「プリキュアと妖精が対等で仲良しな関係を築いているのを見せられ、自分たちとは全然違うとショックを受けます」（仁）。その記憶がプーカのバラバラにする力を発動させ、車輌は粉みじんに。落ち込むプーカだが、ましろたちは笑顔で返す。「シーンラスト、某名作映画よろしく線路を歩かせたかったのですが、昨今の表現としてはNGのようで叶いませんでした」（裕太）

8 満天の星の下で

美しい星空の下、語り合うウィングチーム。この４人のキャラ性が色濃く出た、穏やかで心温まる交流シーンだ。演出の平池綾子さんの芝居付けが雰囲気満点。ここも含め、ウィングチームの旅のシーンは『Ｇｏ！プリ』キャラクターデザイン・中谷友紀子さんの作監。「共通のテーマ性を持つ、違うシリーズ同士のキャラの会話。それが実現できたシーンです。しっとりしたシーンなので、もっと他愛ないことまでゆったり喋らせたかったのですが、やはり尺との戦いでした。ちなみにここは、とある歴代シリーズに出てくる、なじみ深い場所です」（裕太）

11 プリムを見て動揺

城のふもとにある街に到着したましろたち。街の人々は機械的な反応で、トレス線にわずかに色にじみ処理をかけて無機質感を演出。そこにスカイチームも現れて再会を喜ぶが、ソラの隣にいるプリムに、プーカは動揺。モノトーン処理で「なんでいるの？」と言い放つプリムの恐ろしさ！ 「この言葉が一番キツいんじゃないかと。露骨な嫌悪感を表現しました」（仁）。プーカの力が暴走し、地面が陥没。プリズムチームはその穴へ落ちてゆく。ここでソラとましろが手を伸ばし合うのは映画冒頭とのかぶせだ。「『手をつなぐ』がテーマなので、手をつないだり離したりといった描写は、意識的に入れています。このシーンは助監督の広末悠奈さんがパート演出を務めてくれました」（裕太）

10 絆を深めながらの旅路

彼方に見える謎の城を目指し、旅を続ける４チーム。「ここがある意味、僕がこの映画で一番描きたかった部分です。世代の違うプリキュア同士がワイワイ交流しながら旅をする様子をギュッと詰め込みました。仁さんの脚本から、相当ボリュームアップさせています。また、城に向かう過程でちょっとずつ周囲の環境が変化しています。砂漠を越えて河川に入ったり、高所からだんだんと低い土地へ移動したり、雪解けしていたり……。当然カット単位で場所が違うので、製作的には実はかなりカロリーの高いシーンです。パート演出の平池さんが細かく作り込んでくれました。欲を言えば、戦闘なども入れ込みたかったのですが、楽しさ優先の構成にしました。フードをかぶったプリムは、ここでしか見られないレアな姿です」（裕太）

４チームの旅は春夏秋冬のイメージ

――映画の前半は、ソラたちが４つのチームに分かれて行動します。演出面で意識したことは？

田中裕太（以下、裕太） まずは４チームそれぞれの役割を意識しました。スカイチームがシュプリームの話を、プリズムチームがプーカの話を受け持ち、ウィングチームとバタフライチームはそれ以外の縦軸、世界の謎や不穏な感じを見せる裏進行役で考えたんです。最初はバタフライチームが裏進行を全部受け持つことにして、ウィングチームはギャグ担当……魔法を使ってのドタバタをやろうと思っていたんですよ。

板岡 でも、まなつがスカイチームに行った段階で、それは無理でしょう（笑）。まなつは勝手に走っちゃうから。

裕太 そうなんですよ。それでギャグ担当はスカイチームに振れちゃったというのはあります。あの３人はどう頑張ってもシリアスになってくれなくて（笑）。あと、冒険する場所の美術は、四季も意識していて、スカイチームが春、プリズムチームが夏。

――それで砂漠を渡っていたのですね。

裕太 そう、暑い場所を巡るという。ウィングチームは一見春に近い印象ですが、実は秋で、木々はオレンジや黄色に色づいていて、空や山など高所のイメージです。で、バタフライチームは見ての通り冬の場所。そんなふうに、チームごとに画面の雰囲気も変えようと。４チームが同時進行していくので、カメラが切り替わるとパッと見で別の場所の出来事だと分かるようにするためです。雲の描き方もそれぞれの季節で違うんですよ。

――そんな一行に立ちはだかるレッサーアークには、様々なタイプがいます。

板岡 当初の監督のイメージでは、歴代の各話モンスターのパーツが寄せ集って、ヘビ型とかガーゴイル型になっているという話でした。ただ、ちょっと複雑すぎるので、様々なタイプを入れつつ、フォルムで見せる形にしたんです。

――実はラスボスはアークではなく、シュプリームだったわけですが。

裕太 テーマが「プリキュアって何？」なので、そのアンチテーゼの存在として「プリキュアとは戦う強い存在」と思い込んでいるキャラクターを考えました。板岡さんがデザインしてくれたシュプリームはすごくかわいくて気に入っています。

板岡 監督のラフ画の段階だと、もう少し目つきが悪かったですね。全体的にうさぎ推しのデザインなんですが、肩回りに謎の紐も付けています。変身

キュアプーカ プーカはシュプリームがプリキュアのパートナー妖精を模して生み出した存在。プリキュアや妖精たちの想いを受けて、キュアプーカに変身する

プリズムチームが必ず来ることを信じて、スカイチームは合流したバタフライチームと城へ突入！　ましろたちも地下から脱出して城の中へ。３チームのプリキュアが、個人技でレッサーアークを次々蹴散らす痛快バトルが展開。大ボスと思われたアークも登場するが、上空から入ったウィングチームのキュアフェリーチェにあっけなく倒される。「演出助手の大垣愛結さんのパート演出シーンです。また、社内の特に若い世代のアニメーターが活躍を見せてくれたパートでもあります。初期の構成案ではここでアークと戦う“中ボス戦”が入る予定でしたが、全体を考えたら、とてもそんな余裕はなく、到着したら決着がついているという変則構成に。結局アークは一言も喋りませんでしたね（苦笑）」（裕太）。４チームは、止め絵の感動ショットで再会を喜び合う。だがここで……！

12 のどかは優しさが強さ

ましろたちが落ちた先はブロックが乱雑に広がる不思議な空間。ここで己の力を嫌悪するプーカの手を、のどかが握り抱きしめる。実はプーカのバラバラにする力はここでも発動していて、のどかの指先が消えかけているが、「それに耐えつつも、優しく握ってあげるのがのどかの強さです。『ヒープリ』には手と手でつながる“キュアタッチ”があるので、それとも重ねています」（裕太）

13 レッサーアーク軍団との戦い

15 プリキュアをとことん模倣

シュプリームはこれまでプリキュアの姿を模倣し、その強さのシミュレーションを行っていたのだという。巨大なアークと対峙するカットは、OP アニメ的な構図だ。この一連のアクションの原画は板岡さん。続くイメージ背景で決めポーズのシュプリームは「いわゆる変身シーンの最後の決めカット。板岡さんにも、そのつもりで原画を描いてもらいました」（裕太）。「普段はこんな笑顔はしないんでしょうけど（笑）。シュプリームは自分でこのポーズを考えたんでしょうね（笑）」（板岡）

14 驚くべき真相を語り出す

突如シュプリームは豹変し、この世界の真実を語り出す。実はプリキュアは一度自分と戦って敗北しており、地球は光の粒子となって消えてしまったという。驚きを隠せないスカイたち。その回想で、怪物姿のシュプリームが描かれる。プリキュアが奮闘虚しくやられるシーンは、ミルキィローズが倒されるカットから入るが、その周囲に倒れるプリキュアの多くも、歴代の追加戦士だ。「『Go！プリ』より前の世代が出てくるのは、このシーンが最初で、ここを境に本編の空気感が一変するんです。ファンの間でも強さが認知されているミルキィローズたちが倒されていたら、二重の意味でドキッとするかなと。余談ですが、このカット、最初レイアウトがキュアミルキーで上がってきて『ミルキー違いだ！』ってなりました（笑）。アニメーターさんの勘違いだったのですが、プリキュアが増えるとこういうことも起きるんだなと」（裕太）。また、映画冒頭の離ればなれになるスカイとプリズムが、この時の出来事だと分かる。

17 黒いシュプリームと激突

語り終わると、シュプリームはβ（黒い姿）に変貌。力を振り絞って対抗するプリキュアだが、その強さは圧倒的。「βへの変身も柏熊さんの作画。それを撮影さんが撮影処理で盛り盛りに。盛り上げすぎて、初見時は僕自身かなりビビりました。仲間のプリキュアが次々にやられていく絶望感のあるシーンですが、ここは音楽もかなり異質なニュアンスの方向に振れていて、独特の緊迫感があります」（裕太）。心配するエルの涙に、プリズムはスカイを促して再び立ち上がる。手を握り合って毅然とシュプリームに対峙し、スカイミラージュで攻撃を受け止める！　懸命な表情で踏ん張る二人が熱い！

16 プーカへの冷酷な仕打ち

プーカとシュプリームの関係も明かされる。プーカはプリキュアの妖精としてシュプリームに作られた存在だった。「プーカに価値を見出しておらず、冷淡な目線。おそらく妖精をアクセサリー程度のものとしか認識していなかったのでしょう」（裕太）。プーカがシュプリームから逃げ出す回想カットは、柏熊さんの原画。プーカへの仕打ちを聞き、スカイたちは怒りがこみ上げるが、シュプリームは気にせず、ソラがまなつやゆい、コメコメと絆を深めた旅も、自分には無意味だったと切り捨てた。

18 エルとプーカの心の触れ合い

残されたエルは、震えているプーカに向き合い、労るように手を握る。「エルちゃんは赤ちゃんなので、気持ちを通じ合わせる一番いいところで見せ場をあげたいなって。赤ちゃんということで、プーカの想いを本能的に感じとったのだと思います。「βとの戦いからミラクルライト出現までは、宮原直樹さんの演出パートです。終盤のコンテが忙しくて僕の手が追いつかなくなってきたところを、ED と並行作業しつつ助けていただきました」（裕太）

前のプリムは、シュプリームを元に、「変身を解いたらどうなるか」というところで作りました。服装は「大きなパーカーで萌え袖」という監督のラフに合わせています。

――プリムの服装をパーカーにした理由は？

裕太　劇中では「プリキュアを参考にしているキャラ」ですが、設定としては周りに似すぎると埋もれてしまうので、あまり歴代の変身前のキャラにいないタイプを探ったというのが大きいです。色も含めて、ちょっと原宿系の入ったイメージですが、最終的には単に自分の好みに寄っていった結果かもしれません（笑）。

――パーカーの袖にもうさぎマークが入っていますね（P. 85参照）。

板岡　隙あらばうさぎ要素を入れ込んでいます。だからタイツのピンクの部分もうさぎ柄です（笑）。胸のハートワッペンが上下逆なのは「こんな感じのマークをプリキュアって付けてるよなぁ」的なことで、本人が考えたという想定です（笑）。

裕太　それがどういうものなのか本質を理解しないまま真似しているわけです。そもそも変身前とか後とかいう概念もなく、どちらも本当の姿なのですが、「普通の姿から変身してプリキュアになる」のがプリキュアと理解しているから、それをわざわざ踏襲しているんですね。本当は、別にずっとプリキュア状態でいても問題はないはずです。

キュアプーカは顔立ちだけ丸っこく

――シュプリームもプリムも、瞳がちょっと変わっていますよね。

板岡　瞳孔の部分に大きな丸いハイライトを乗せてみました。瞳孔とハイライトが一緒くらいの感じです。

裕太　シュプリームは表情が薄いんですよ。人間的な感情を持っていないので、表情自体も意図的に作っているというか、人間っぽく演じているというか。最初にソラたちと出会ったシーンなどは、頑張って笑顔を作っていても目は笑ってない、みたいな印象です。

板岡　その意味では、（P. 45の）表情集が一番表情豊かなんです（笑）。

――また、足音も独特です。

裕太　「人じゃない存在」ということで、足音でも変化をつけるため、音響効果の石野（貴久）さんに相談して作ってもらいました。石野さんは基本的に、いつも自分でキャラに合わせた靴やブーツを履いて足音を鳴らして、生音を収録しているらしいのです。シュプリームの足音は、それをさらにデジタルで加工して作ったそうです。プーカについては特に指定はしていないです

キュアシュプリーム／プリム役 坂本真綾

プリキュアは自分の弱さを知っている

—今回オファーを受けた時の感想をお聞かせください。

坂本　私がお話を聞いた時には「20周年の節目に作られる映画のオリジナルキャラクターで、プリキュアに敵対する立場として出てくる中性的な役」ということでした。なので、最終的にプリキュアになるということは台本をいただいて初めて知り、びっくりしました。

—デザインを見た時の第一印象をお聞かせください。

坂本　性別のない役というふうに聞いていたので、思った以上にラブリーな衣装を着ていて、第一印象では意外に思いました。でも、よく見ると目元はクールで少し厳しい表情をしているし、足の筋肉ががっちりしていて硬そうだし、他のプリキュアとは何かが違うという違和感がちりばめられているんですよね。細かい部分まで、すごく精巧に練られたデザインなのだろうなと思いました。また、うさぎモチーフのこの衣装も、実はシュプリーム本人がプリキュアになりたくて考え出したものだと思うと、微笑ましく思ってしまいます。

—いわゆるクールキャラとはひと味違う、淡々とした口調が印象的でしたが、アフレコ時に田中裕太監督からお願いされたことは？

坂本　監督からは、「終始クールに、あまり感情を出さずに」というようなことを言われていたので、なるべく抑えた演技を心がけました。とにかく台本を読んだ時に、これはものすごく難しい役だぞ、と思いまして、どんなふうに演じるのが正解なのかよく分からなかったんです。監督ご自身も「シュプリームの声がどんなもので、どんなふうに喋るのか、いまだに明確なイメージがないんです」とおっしゃっていたので、いろいろなパターンを試してみて、一緒に方向性を決めていった感じでした。

—シュプリームは「プリキュアの強さの秘密」がどこにあるのか、なかなか理解できませんでしたね。

坂本　プリムはプリキュアのカッコよさ、かわいさ、強さといった表面的な部分だけを切り取って、彼女たちの姿を模倣していました。これまでシュプリームは誰にも負けたことがなく、自らをこの世で一番強い存在と信じてきました。だから怖いものがないんですね。でもプリキュアは、それぞれに迷い悩みながら、周囲と一緒に成長してきたバックボーンがあります。自分の弱さを知り、大切なものを守りたいと思うことで、本当の意味で強くも優しくもなれるんですよね。強さの本質を間違えると、ただ無慈悲なだけの人間になってしまう。そういうことが描かれているのかなと思いました。

—プーカはキュアシュプリームの分身的な存在ですが、臆病な性格のため、シュプリームは冷たく当たっていました。

坂本　プーカの表情や振る舞いがあまりにもかわいいので、私も冷たくする場面は心が痛かったです。

—クライマックスではプーカがキュアプーカとなり、最終的にシュプリームと一緒に「ふたりはプリキュア」という形に収まりました。

坂本　なんかもう、ただただぐっときましたね。まさかプーカがそのような変身を遂げるとは。最初に知った時は「えーっ！」と声を出してしまうくらい驚きました。プーカが「プカプカ」だけでなく言葉を喋って想いを伝えてくれた時にも、すごく感動しました。シュプリームとは正反対のキャラだと思っていたけど、表裏一体だったんだなと思います。プーカが最後に手を握ってくれる場面は、ずっとそばにいて、たくさん傷つけた相手が、本当の良き理解者だったということに心を打たれました。シュプリームが初めて少し微笑む表情を見ることができて、最高に素敵なラストシーンだと思います。この二人のプリキュアの物語がこれから始まるんだと、そんな未来を想像したくなりました。

—この他、坂本さんが印象に残っているシーンは？

坂本　アフレコの時はまだ音が入っていなかったので、シュプリームの足音がこんなにかわいらしい音になっているとは知りませんでした。試写会で完成したフィルムを観た時に、クスッと笑ってしまったシーンです。

—ソラたちと出会った時に、謎の作品ロゴ（P.42）が画面に現れたのも面白かったです。

坂本　試写会で初めてそのロゴに気がついて、「えっ、今何て書いてあったんだ!?」と、びっくりしました。つい顔の表情のほうに目がいってしまって、ロゴのほうは一瞬でよく見えず、「もう一回観たい！」と思いました。実際に劇場でご覧になった皆さんと同じ感想だと思います。

—映画を二度三度観る上で、注目してほしい点をお願いします。

坂本　とにかく登場するキャラクターの数も多くて、一回観ただけでは目が足りないですね！　何度も観て、画面のいろんな部分に注目して楽しんでもらいたいです。プリキュア20周年というと、これまでの「プリキュア」を知らないと楽しめないのではないかと思われるかもしれませんが、全然そんなことはありません。むしろここを入り口に、初めて接する人もきっと堪能していただける内容だと思います。

さかもと・まあや　3月31日生まれ／東京都出身／フォーチュレスト所属／『鬼滅の刃』（珠世）、『機動戦士ガンダム SEED FREEDOM』（ルナマリア・ホーク）ほか

キュアシュプリーム　プリキュアの強さに興味を持ち、自らその姿を模した身体になった。再構築した世界でプリキュアの強さの検証中に、ソラたちと出会う

シュプリームβ（ベータ）

「今回はミラクルライトが復活しましたが、それを説明する例年の前説がありません。これは企画～コンテ段階ではまだコロナ禍の影響が色濃く、声出しを解禁するかどうか不明だったからです。本編でもライトの描写はありますが、応援を促すセリフや定番の『プリキュアがんばれー！』がないのも、そういう企画判断でした。今は応援上映なども解禁されているので、もう少し時期が違えばライトの描写も変わっていたかもしれません。そういう事情なので、今回のミラクルライトは使いどころの正解はありません。好きな時に振ってください。振りたい時が使い時です」（裕太）

シュプリーム・オリジン

★シュプリーム・オリジン→キュアシュプリーム→シュプリームβ→シュプリームγ（決戦時巨大化）→キュアシュプリーム（エピローグの黒ver.）という変遷をたどる

19 歴代プリキュアの想い

エルがキュアマジェスティに変身し、スカイたちのピンチを助ける。プーカは覚悟を決め、自分の意志で力を使う。ミラクルライトが出現し、シュプリームが作った世界を解体！　歴代プリキュアの想いがビジョンとなって現れる。「歴代作品のシーンにスカイたちが入り込むのをやりたかったんです。知っている場面を当時とは違うアングルから見る、というような。最初は過去素材も併用するつもりでいましたが、今は素材の解像度も変わっていますし、古いものは画角も違います。近作のもの以外は基本的にもう使えなかったので、逃げられませんでした」（裕太）。「つまり再現シーンは全部新規作画です。最初に聞いた時には耳を疑いましたよ（苦笑）。ちなみにキュアラブリーの後方でのキュアブロッサム、キュアハートのカッコいい戦いは謝博傑さん。あんまり見えないんですけどね」（板岡）。田中監督たちは歴代シリーズのポイントになる話数をひたすら見倒し、時間をかけてシーンを選んだそうだ。「キュアハートを皮切りに、プリキュアの歴史があふれ出します。次々に現れる歴代プリキュアとそれに合わせた音楽の展開で、想定よりもはるかにドライブ感のあるシーンとなりました。歴代キャラクターデザイナーの作監修正もポイントで乗っており、いろんな意味で奇跡的です」（裕太）

が、シュプリームの足音とのバランスをとってくれました。

板岡　プーカの足音も、シュプリームの派生みたいな感じはありますね。

—シュプリームの色は白主体ですね。

裕太　「異界から来た神」みたいなイメージです。神様なので混じりけのない完全な存在として、純白でイメージしていました。ただ、本当に真っ白にしてしまうと、あまりにも簡素なので、それに合う差し色を選んでいったら、青緑くらいの中間色になりました。それと、ソラたちと行動するのは決めていたので、スカイ、プレシャス、サマーと並んだ時のバランスを考慮しています。

—邪悪な面を現した時に、一気に黒く変わりました。

板岡　僕らは「シュプリームβ（ベータ）」と呼んでいました。最終決戦での巨大化状態（P.46上）が「シュプリームγ（ガンマ）」。

裕太　シュプリームだけで5形態くらいあるので、ちゃんと名前をつけて管理しないと製作的に問題が起きるなと思って。設定を区別するための呼び方です。

板岡　ちょっとカッコよく呼んでみました（笑）。γは、監督の大ラフを元に、もうちょっとシュプリーム寄りに整えました。

裕太　で、βは真っ白から真逆に変わったイメージです。当初は、衣装がまくれ上がって、白から黒へと「裏返る」というギミックとして考えていました。

板岡　現場である日突然、「途中からシュプリームが黒くなります」と言われて、「え!?」ですよ。服自体は同じデザインですが、髪、顔、その他細部がかなり変わっています（笑）。

—白っぽいドラゴンみたいな姿のシュプリームは？

板岡　「シュプリーム・オリジン」と呼んでいます。これも監督のイメージが明確にありました。

裕太　なので、人智を超えた感じといいますか。めちゃくちゃ巨大かつ悠然としていて、ちょこまかとは動かないイメージで考えました。実は、とあるロボットものの超巨大ラスボスメカのイメージで、板岡さんにデザインをお願いしました。そのメカというのが、敵の紋章にも見えるデザインなんです。だけど、シュプリームはメカじゃないのと、戦っている場所は宇宙に近いですがSF方向にはしたくなかったので、宇宙怪獣とも違う。生物のようでありオブジェのようでもある、神々しい何者かという方向を汲んでもらいました。最終的にはちょっとドラゴンのような印象になりましたね。

—終盤で登場するキュアプーカは、シュプリームの色違いの衣装ですね。

⑦アロー技＆シュート系技チーム

①幸せチーム

⑧水＆氷技チーム

②（そこに加わる）剣チーム

⑨人魚チーム

③音楽バディチーム

⑩食べ物系選抜チーム

④フォームチェンジコンビ・1

⑪赤チーム

⑤フォームチェンジコンビ・2

⑫猫チーム

⑥バリアチーム・1

プリキュアが全員復活し、歴代のサブキャラクターもミラクルライトを振って応援！　技などの属性コラボで、巨大化したシュプリームとの決戦が描かれる。アロー技＆シュート系技から水＆氷技までと、花攻撃、蝶攻撃は芳山優さんの原画。村瀬亜季Ｐが推したという人魚ペアは、謝さんの原画だ。食べ物系選抜チームが生み出す巨大なケーキは、板岡さんが力を入れて作監修正を載せたという。このシーンも歴代キャラクターデザイナーの多くが、担当作品のプリキュアをピンポイントで作監している。

これが最後でも心残りがないように

プロデューサー 村瀬亜季（東映アニメーション）

今回の「F」というタイトルは、「これが最後（FINAL）」というワードから派生したものです。立ち上げの段階からキャラ数的にも尺的にも、これ以上は『オールスターズ』はかなり厳しいねという話が出ていたんです。物量的にも大変だし、お子さん向けの映画である以上、映画の基本尺は70分、それ以上は長くできませんから。

でも、シナリオができて、いざタイトルを確定するぞとなった時に、監督と話して、この映画は「FINAL」だけではないなと思ったんです。お話の最後もシュプリームとプーカの始まりですし、挿入歌でも「Never ever Final!!」と力強く言っていますし。そこで、プリキュアの要素を「F」という文字にすべて込める形を提案し、当初考えていた「FINAL」については、「もしこれが最後になったとしても後悔しないように」という想いでとらえることにしたいと伝えました。「終わりにしたくない」という意味での「FOREVER」もあります。絆や勇気といったプリキュアの想いが永遠であると共に、『プリキュアオールスターズ』の精神も続いていきますようにという願いも込めています。

今となっては、立ち上げの時にややマイナスの意味でとらえていた「FINAL」を、みんなでプラスの意味に変えられたというのが、プリキュアチームのパワーなんだと思っています。観てくださった皆さん、関わってくださった皆さんに支えられ、育てられ、たくさんの愛がこもった作品に携われて、全力で向き合えて心から嬉しく思います。

板岡　ええ。元々同じものから分裂したわけですから。最初、僕としては姉妹みたいな感じなのかなと思って、キュアプーカは同じ衣装で頭身を少し下げて描いたんですよ。そうしたら、「まったく同じサイズで顔周りだけが違う感じで」とのことで。ちなみに、先に作ったのは妖精体のプーカのほうですが、この時も、前髪や目の感じはシュプリームと合わせました。耳の形も、完全に一致にはしていないですが、シュプリームに寄せています。ただ、シュプリームは顔の輪郭も目元もだいぶシャープなので、プーカを人型にするなら、眉毛は丸く、ほっぺたも丸くして、垂れ目にしようかなと。

――大きなツインテールのようなものも見えますが。

板岡　このサイドから伸びているパーツは耳なんです。妖精姿の時のうさぎの耳そのままです（笑）。

裕太　髪で隠れて見えませんが、人間の耳の位置から生えてます。シュプリームも同じですね。

最後は黒白の二人で初代オマージュが実現

――キュアプーカを白い色味にして、最終的にキュアブラックとキュアホワイトになぞらえるというのは、いつ頃思いついたんですか？

裕太　コンテ作業の途中でしたね。プーカは元々のシュプリームと同じものだから、プリキュア化すればやっぱり白になるだろうと。それでキュアプーカを白にしたんですが、その段階ではシュプリームは最後には白い色の状態に戻る予定でいたんです。

――同じ服装の白い二人で、一心同体的なイメージだったのですね。

裕太　でも、シュプリームは最後の闘いを経て、気持ちに変化が生まれているわけだから、完全に元に戻るのは違う気がしてきて。β（黒）とγ（巨大）を挟んで、黒い色が染みこんで落ちなくなった、みたいな（笑）。もう少し真面目にテーマ的な見方をするなら、完璧な存在だったものが完璧でないもの、つまり人間になったという印象でしょうか。そういうイメージから、黒のままでラストを迎えることにしたんです。そうしたら、キュアプーカと合わせて黒と白の二人で並ぶ形になって「あ、初代オマージュっぽくなったぞ」って。もちろん、手を握るというのは最初からオマージュ要素で入れていたんですが。

板岡　でも本当の大元は、シュプリームをぶっ飛ばして終わるんじゃなかったっけ？

裕太　脚本作業の初期の頃はそうですね。最初は映画全体をシンプルな勧

21

キュアブーカ誕生 渾身の一撃

ブーカは歴代妖精の想いも受けてキュアブーカに変身し、シュプリームへ渾身の一撃！　原画は柏熊さん。「構成上、キュアブーカができるアクションは一発勝負のみ、その一発でいかに強いインパクトを見せられるかが勝負でした。いわゆる金田アクション的な印象で派手な勢いを付けつつ強烈な一撃を、という発注で、イメージ通りの力強い作画が上がってきました」（裕太）。旅で絆を培った４チームの波状攻撃も炸裂。プレシャスとサマーの援護の合体技からの、目にも止まらぬアクションは吉田亘良さん。最後にシュプリームを貫くスカイのパンチは、『ひろプリ』キャラクターデザイン・斎藤敦史さんの作監カットだ。「絵と音と音楽が一体となって、最後の一撃を盛り上げてくれました。劇場のスクリーンと音響で初めて観た時の満足感がすごかったです」（裕太）

⑬電撃チーム

⑭星系チーム

⑮花攻撃チーム

⑯蝶攻撃チーム

⑰プリンセス＆騎士チーム

⑱バリアチーム・2

ここから始まる!?

映画主題歌「うれしくて」が流れる中、スカイが夜の街を歩いていく映像が。様々なキャラクターが壁に映写される中、プリムとブーカの元気そうな姿も。「この絵では、プリムの瞳にハイライトが増えているんです。『プリキュア』で敵側から味方側になる時って“ごめんなさいイベント”があって、それ以降は瞳にハイライトが増える（＝真の仲間になる）ことが多いですが、映画本編ではそこまでは描けませんでした。映画のラストシーンの後、旅立った二人は、そのうちそんなイベントを経験するのでしょう。この時プリムが持っているアイテムは、その時に生まれてきたものだと思います。『Ｇｏ！プリ』最終話のラストで、はるかたちが手にしていたガラスのキーや、『映画スタプリ』のラストで生まれたユーマのペンと同じようなイメージです。きっと二人の未来への道標となるものですが、それがどういったものなのかは、映画を観た人それぞれの想像に任せたいですね」（裕太）

22

ふたりはプリキュア

戦いが終わり、目覚めたキュアシュプリームを、ソラたちが晴れやかな笑顔で迎える。その隣にはキュアブーカが。プリキュアが強いのは、一人じゃないからだ。手を握り合い、微笑む二人で本編は締めくくられる。「この微笑んで手をつなぐ二人は、僕が直接原画を描きました。シュプリームが唯一、心から微笑むところなので、自分で描いてあげたいなって！」（板岡）

23

善懲悪ものにしたくて、気持ちよく敵を倒して終わりにしたいと思ったんです。でも、「プリキュアになりたい！」ってマネしている相手を「それは違う！」ってやっつけるのは、ちょっと違う気がして。プロデューサーの鷲尾（天）さんからも「プリキュアに憧れることを悪いことと描かないでほしい」と言われていましたし、シュプリームのプリキュアになりたい気持ちを大事にしてあげたいかなと。それで、手を握って終わる形になったんです。

――キュアブーカの変身はシルエットでサッと見せていますが、これはテンポ感重視からですか？

裕太　挿入歌「All for one Forever」が流れてから先は、歌の尺に合わせて組んでいて、変身的なシーンを入れる余地はまったくなかったんですよ。78人でのバトルから、スカイの最後の一撃までのシーンを、挿入歌が終わるまでに全部やりきらなくてはいけなくて。歌詞の1行ごとに「ここは何秒」と全部計算して、その上で78人の誰がいつどこに登場するかを全部構成した構成案を組みました。かなり試行錯誤して何度も修正しましたが、その段階で、キュアブーカへの変身自体にかけられる尺もかなり制限されてしまいました。その上で、「この歌詞の部分までにここまで終わらせる」という、パズルみたいな作業をしながらコンテを切ったんですよ。実際の作画が上がった後も、編集作業でカットごとに1コマ2コマ単位で調整をして、シーン全体をなんとか納めています。キュアブーカ登場は、そんな中でのイベントなので、本当に尺的にギリギリでしたね。とはいえ、やはりブーカがプリキュアになるという大きなポイントなので、限られたその中で最大限、効果的に見せたつもりです。

――最後にファンへのメッセージをお願いします。

裕太　製作中はとにかく完成させることで精一杯だったのと、歴代映画と比較すると結構チャレンジな脚本だと思ったので、シュプリームのキャラを含めて、観た人にどう受け止められるか不安でした。結果的には、すごく好意的に評価されているようで嬉しいです。営業成績的にもかなり好調でひと安心しました。とにかく、できることは全部やったと思いますが、その甲斐がありました。

板岡　確かにそうですね！　ただ、10回観ても新しい発見があると思うんですよ。

裕太　背景美術にも、歴代のプリキュアの要素が説明なく入っていたりしますしね。まだまだ説明していない小ネタもいっぱいあるので、ぜひ何度も観て、探してみてほしいです！

★ EDアニメーションのインタビュー記事は P.92 を見てね

MOVIE

プリキュアの強さは心のあり方

脚本 田中仁

人と人とのつながりこそが、プリキュアの力。身近な人と手を取り合い、笑顔で心を通わせること。そうすれば、きっと明日へと進んでいけるはず。

プーカはプリキュアの本質そのものだった

——4チームが巡る場所は、どういうふうに決めていったのですか?

田中仁（以下、仁）「ロードムービー的に、バリエーションのあるエリアを牧歌的に巡る旅をやりたい」というのが、田中裕太監督の意見でした。最初は単純に「森かなぁ」「砂漠かなぁ」と、活躍できそうな場所をざっくり考えていったんです。のちに、「シュプリームによってプリキュアがやられて、地球も作り変えられてパッチワークの世界になっている」という設定を思いついたので、各所に歴代シリーズの名残を入れていきました。裕太さんの中では、オープンワールドRPGの世界観イメージもあったようで。それを「プリキュア」の世界に落とし込んでいく形でプロットを作っていきました。

——場所決めは、各チームの編成と並行しつつですか?

仁　はい、そうです。「ローラは当然、海だよね」「ゆいなら森で食材を探してキャンプ的に食事を作ったり」とか。ツバサは空にいそうだけれども、変身前に飛べるのははーちゃんくらいだから、空中庭園みたいなところを巡る感じかなって。

——ウィングチームの旅は、一番のんびりムードでしたね。

仁　ツバサ、エル、さあや、ことは、はるかは初対面から仲良くなれそうですよね。それに空を飛んでいるので、物理的な障害もなく平和でした。

——バタフライチームは極寒の地でした。

仁　まず、ゆかりとララがもめるだろうというのは想像がついたので、その中で『単独行動してしまったゆかりが凍える』とか『ラテが見つけてくれた時に犬つながりで、あきらの幻想を見る』といったシチュエーションが先に決まり、それに従って全体を作りました。足湯は、一番最後に出たアイデアでした。もうその時点でパッチワークの世界という設定は決まっていたので、『ヒープリ』に出てきた足湯を持ってきました。

——シュプリームのキャラクター設定はどうやって生まれたのですか?

仁　プリキュアの魅力を伝える映画にしたいので、敵側の独自のドラマはなるべくシンプルにしたい気持ちがありました。そこに「プリキュアって何?」のほか「人と人のつながり」といったテーマも決まりまして。ならば、そういうことにまったく興味のない人、理解できない人を敵に持ってこようと。シュプリームは物理的な強さだけで言ったら、78人のプリキュアを上回ります。けれど本当の強さを持っているのは、やはりプリキュアであると。その違いは何かと言えば、「心」であると。そこを描くために、シュプリームは人の心が分からず、手をつなぐとか交流するとかいう感覚を持っていないと設定しました。一人称は「僕」ですが、性別という概念がなく、そもそも同族がいない、唯一無二の単一の存在なんです。強い生き物の頂点みたいな感じです。

——シュプリームの能力は、あらゆるものを破壊する力のようですね。

仁　牧歌的にファンタジー世界を旅していくお話には、強いだけのラスボスはうまくはまらないんですよ。とはいえ、敵は最強であってほしかったので、世界の存在をバラバラにして自分の好きなように作り替えてしまう、一種のチート能力を考えました。

——破壊するのみならず、ファンタジー世界を組み立てることもできると。

仁　でも、強さを求めるシュプリーム自身としては、なるべくそれを使わずに己の強さを証明したかった。それで地球を襲いました。

——プリキュアはそんなシュプリームに一度は破れたわけですが。

仁　ただ、シュプリームにとっても楽な戦いではありませんでした。世界を崩壊させる力まで使って、からくも勝利を収めた形だったんです。肉弾戦だけだと、どうして苦戦を強いられてしまったのか。それは、プリキュア同士に「心のつながり」があったからなんです。戦いの中でそこに触れて、シュプリームはプリキュアに潜在的に憧れを抱いたのですが、本人はそれに気がついていない。だからシュプリームはプリキュアの強さを知りたくて、自分もプリキュアのような姿になって、パッチワーク的な世界とアークという敵を作ってシミュレーションすることにした。と同時に、プリキュアにはパートナー妖精がいるので、それを模してプーカも創造しました。

シュプリームはプリキュアに潜在的に憧れを抱いていた

——でもプーカは、シュプリームとは真逆な性格ですよね。

仁　プーカは優しすぎるし臆病だし、能力も中途半端でした。でも本当は、シュプリームがプリキュアと戦った時に感じとっていたプリキュアの本質が、プーカという存在として具現化されたんです。

——プーカは、『ピノキオ』におけるジミニー（ピノキオに善意を教えるコオロギの妖精）のようにも見えます。

仁　ああ、そういうところがあるかもしれません。シュプリームはプーカの持っているものに気がつかずに、失敗作だと切り捨てました。でも、プーカの能力が中途半端だったのは、シュプリームとうまくいかずに力が発揮できていなかっただけなんです。

プリキュアの想いが世界を再構築した

——プーカを「プカ」しかしゃべれない設定にした理由は?

仁　身も蓋もないことを言ってしまえば、ストーリー上の都合です。プーカは戦いたくないし、誰も傷つけたくないけれど、臆病な自分はダメだという劣等感も抱いていた。でも一緒に旅をしてきたプリキュアは、みんな自分を肯定してくれた。自分のマイナスな部分もプラスとして感じられるようになったわけです。もしプーカが普通に喋れて、「シュプリームから逃げていて助けてほしい」とか「シュプリームの正体は」とかプリキュアに言っていたら、もしかしたらプーカのそうした成長はなく、プリキュアもシュプリームと普通に戦うだけだった可能性もあって。それどころか、また全滅させられて終わったかもしれません。

——プーカの両手には破壊の力が宿っていて、何かの拍子で発動して、触ったものは消えてしまうようです。これは「手をつなぐ」ことへのアンチテーゼからですよね?

仁　そうです。能力的にはシュプリームとプーカの持っている力はまったく一緒です。シュプリームは、壊そうと思わなければ普通に持ったり握ったりできるんですよ。自分の力をコントロールできているので。

——食器を持ってソラたちと一緒に食事していますもんね。

仁　でもプーカは、生まれたばかりというのもあり、そのへんのコントロールがかなり不安定なんです。だから、自分の能力に対する恐怖心もある。何の拍子に発動するか分からないと、常にビクビクしていて、「自分の手には触れてほしくない」という感じですね。

——プーカは世界をバラバラにする力で、シュプリームが渾然一体にさせた歴代プリキュアの様々な場所を〝パーツ〟として一旦解体したわけですね。

仁　シュプリームとプーカの力は、世界を積み木のように崩したり作ったりするものなんです。そこから世界を再構築するのは「人の想い」。そのことに気づいたスカイとプリズムが、ミラクルライトで歴代プリキュアの大切な記憶を照らしていきました。その強い想いが歴代シーンのビジョンとして現れ、世界が元に戻っていったわけです。そして、シーンに紐付くプリキュアが、一人また一人と復活していきました。

——プーカもプリキュアになるというのは、どうやって決まったのですか?

仁　プーカを妖精にした時点で、最終的にプリキュアに変身させるかの議論はありましたね。プリキュアの本当の力をシュプリームが潜在的に感じて具現化されたプーカは、プリキュアの本質といえるんです。つまりシュプリームは最初の戦いの時点で、意図せずプリキュアの本質を見抜いていた。それをそのまま自分に反映できたらよかったんですけど、そうならずにプーカとして出力されてしまった。そういう存在であるプーカは、マインド的にはプリキュアそのものであると。

——つまりプーカのコンプレックスさえ取り除かれれば……。

仁　そう、プリキュアになれるということです。そして映画のラストで、シュプリームとプーカが「ふたりはプリキュア」になる。でもそれは、この二人を指しているのみならず、もっと広い意味で「あなたと私」の「二人」なんです。

——不特定多数の代名詞としての「You & I」ということですね。

仁　その通りです。最後にプーカがシュプリームに手を差し伸べるのは、裕太さんの案です。シュプリームは相当にとんでもないことをしてきたわけで、そういうラスボスに対して最終的にどのような行動をとらせるのか考えた時、裕太さんが「まずプーカから手を差し伸べさせたい」とおっしゃって。裕太さんの中には、すでに画としてのイメージができていたんでしょうね。

——映画を二度、三度と観る上での鑑賞ポイントを教えてください。

仁　スカイが呆然と落下していくシーンから始まり、しかも最初はみんな記憶喪失で、初見では「えっ?」となったかと思います。シュプリームやプーカの正体も分かってから、そこを踏まえてもう一度観れば、さらに感じとれるものがあると思います。それと、最後の78人の怒濤のアクションシーンですね。僕もやっぱり一度では追い切れませんでした（笑）。そこも合わせて、何度でも楽しんでほしいと思います。

レッサーアーク

「ネーミングとしては、アークは支配者などを意味する“Arch”。レッサーは『下位の』『より小さい』の意味の“lesser”。わりとそのまんまです（笑）。いろいろなタイプがいますが、誰がどういう役割とか、シュプリームはそれほど細かくは考えていなかったと思います」

たなか・じん
1976年生まれ。東映アニメーションを経て、フリーの脚本家に。シリーズ構成作品に『ゆるキャン△』『ラブライブ!虹ヶ咲学園スクールアイドル同好会』『【推しの子】』ほか

HirogaruSky！ Precure × Animage

ここからは「アニメージュ」2023年3月号～11月号の記事を再録！
それぞれの夢に向かって突き進む、ソラたちの軌跡を振り返ってください。
『ひろがるスカイ！プリキュア』チームがメインとなって活躍する、
『映画プリキュアオールスターズF』の記事もお楽しみあれ！

※各再録ページの扉側面に初出の月号が表記されています。
※再録されていないページもあります。

ヒーローの出番です！

祝「プリキュア」20周年！
「新たな挑戦」と「原点回帰」の両方を兼ね備えた
新シリーズがスタートした。
プリキュアよ、大空へと羽ばたけ！

キュアウィング

声／村瀬 歩

全体的にちょっと王子様っぽいイメージだ。跳ねた毛や細いポニーテールが、どこか鳥を思わせる

キュアバタフライ

声／七瀬彩夏

アイシャドウや太いベルトが大人カッコいい。帽子や燕尾パーツなど、蝶のような華やかな要素も

キュアスカイ
ソラ・ハレワタール

声／関根明良

異世界のスカイランドからやってきて、ましろと出会う。ヒーローに憧れている。地上の世界は科学が発達しており、様々なものが物珍しい

キュアプリズム
虹ヶ丘(にじがおか)ましろ

声／加隈亜衣

空から降ってきたソラと知り合った、心の優しい女の子。カバトンが生み出した怪物ランボーグに対抗して、変身して戦うソラを見て驚く

エルちゃん
プリンセス・エル

声／古賀 葵

スカイランドの王女。１歳の誕生日にカバトンにさらわれかけるが、ソラに救われ、そのまま地上の世界へ。不思議な力を持っている

ひろがるスカイ！プリキュア

毎週日曜日 朝8時30分 ABCテレビ・テレビ朝日系列
HP http://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/

エルちゃんの不思議な力

エルちゃんが「ぷいきゅあ～！」と叫んで生み出したアイテム・スカイトーンによって、ソラはプリキュアに変身。また、敵の尖兵であるカバトンは、エルちゃんに特別な力があることをほのめかしており、敵側の狙いも彼女のようだ。この王女に一体どんな秘密があるのだろうか？

なにげに似た者同士？

ソラは快活で猪突猛進型だけど、口調は誰にでも丁寧。ましろは常識人で穏やかなタイプだが、気さくな口調。デコボコなキャラ性ではあるが、第１話で出会ったシーンでは、二人とも「これは夢だ☆」とお気楽に笑い合って、しばらく夢だと思い込んでいたのが楽しい。

地上の世界は魔法のよう

ソラの故郷のスカイランドはファンタジックな王国だが、ソラ自身は普通の人間で、不思議な力が使えるわけではない。文明の体系が異なる地上の世界の科学技術は彼女には夢のようでびっくりしてしまう。視聴者には当たり前のことに、ソラが素直に興奮するのが初々しい。

自分らしいヒーローへと成長！

プロデューサー 髙橋麻樹（東映アニメーション）

「プリキュア」20周年作品の『ひろがるスカイ！プリキュア』は、「空」がモチーフになっている。と同時に重要なタームが「ヒーロー」だ。前作の『デリシャスパーティ♡プリキュア』でもシリーズディレクターの深澤敏則さんが「主人公に求めているのは強さ。絶対的なヒーロー性」と語っていたが、今作ではそこを文字として前面に打ち出した点に気概が感じられる。空とヒーロー、まさに爽快なカッコよさ満点のイメージだ！

主人公のソラは、スカイランドという王国で暮らす正義感の強い女の子。王女のエルちゃんが怪しい獣人カバトンにさらわれるのを見て即座に追跡、体を張って救出した。ところが、カバトンが逃走に使った次元トンネルから、地上の世界のソラシド市に出てしまった。そこでバッタリ出会った女の子・ましろに街を紹介してもらっている最中、再びカバトンが襲来する。ソラは、エルちゃんとましろを守ろうと奮闘。その不屈の気持ちが、ソラを空のプリキュア「キュアスカイ」に変身させた！

物語の序盤は、ソラとましろのドラマをじっくり描いていくようだ。青のプリキュアがメインなどの新機軸も目を惹くが、シリーズの原点である『ふたりはプリキュア』を彷彿とさせる、二人のバディ関係も見逃せない。

――「プリキュア」20周年作品のプロデューサーに就任して、最初に考えたことは？

髙橋　久々に「プリキュア」の現場で動けるという楽しみな気持ちと、とてつもない不安が押し寄せたというのが正直なところです。「プリキュア」シリーズはCGの側からお手伝いしていましたが、まさかプロデューサーとして初めて受け持つTVシリーズが記念の年の「プリキュア」だとは思いもしませんでした。ベテランの鷲尾天が一緒に動いてくれると聞いて、心底安心しました。

――作品モチーフは「空」、作品テーマは「ヒーロー」とのことですが、これはどういう発想から？

髙橋　20作目という記念すべき作品のため、あらためてプリキュアとは子どもたちにとってどんな存在なのか、というところからヒーローにつながったことを記憶しています。たくさんの仲間たちと関わることでひろがっていく彼女たちの物語が、「どこまでも続く広大な空」のイメージと重なるところが多く、今回のモチーフにしました。

――タイトルの「ひろがるスカイ」はどんな話し合いで決まったのですか？

髙橋　「ひろがる」＝「ヒーローガール」という、シリーズディレクターの小川孝治さんのアイデアでした。男子プリキュアとなるキュアウィングも含めてのヒーローであり、ヒーローガールであるイメージをうまく乗せていただきました。タイトルを提案いただいて、すぐに決まったと記憶しています。

――従来のシリーズと違って、青の子（キュアスカイ）が一番手、白の子（キュアプリズム）が二番手という並びなのが新鮮ですね。

髙橋　空がモチーフということもあり、広大な青空のイメージで一番手になりました。青空に浮かぶ雲から、プリズムのカラーは白となりましたが、彩雲のイメージもあります。仲間と出会うことで世界がひろがり、色づいていく。だからこそ、二番手の並びとなりました。

――今作のプリキュアは４人とのこと。まずはスカイ&プリズムのコンビでスタートなのは、原点回帰としてバディものを意識したのでしょうか？

髙橋　原点回帰は当初から意識していたかと思います。プリキュアの仲間は毎年途中で増えていきますが、今作はしっかり互いの心情や二人の関係の積み重ねを丁寧に描こうと、企画の序盤からバディのワードは出ていました。

――シリーズディレクターを小川さん、シリーズ構成を金月龍之介さんにお願いした理由は？

髙橋　小川さんは以前から「プリキュア」シリーズにご参加いただいていました。ヒーローという難しい題材にも関わらず、お子様の目線で楽しんでもらえることを意識して作品を作る、素敵な方です。金月さんは、小川さんの希望でシリーズ構成をご依頼しました。「プリキュアらしさ」を意識しながらも、お子様にも受け入れられる新しいチャレンジをしていこうという小川さんの想いを、金月さんは上手くくみ取り、丁寧かつコミカルに描いてくださっています。安心のコンビです。

――キャラクターデザインは外部の斎藤敦史さんですが、どういう経緯で？

髙橋　キャラオーディションです。スカイ、プリズム、エルの３キャラを描いていただきましたが、斎藤さんの描かれた表情が決め手となりました。

――シリーズへの意気込みをお願いします。

髙橋　「プリキュア」シリーズが紡いできた、困難な道を自ら切り開き、みんなを勇気づけていくヒーローとしての姿。節目の年だからこそ、紡いできたものを大切にしながら、さらにひろがっていくプリキュアの世界への想いを込めております。

仲間と出会い、自身の世界をひろげていき、各々が自分らしいヒーローへと成長していく。彼女たちの姿を、１年通して、ぜひ見守っていただければと思います！

ふたりはプリキュア！

ひろがるスカイ！プリキュア

毎週日曜日 朝8時30分
ABCテレビ・テレビ朝日系列
HP http://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/

キュアプリズム 虹ヶ丘ましろ役
加隈亜衣

かくま・あい
9月9日生まれ／福岡県出身／マウスプロモーション所属／『転生王女と天才令嬢の魔法革命』（イリア・コーラル）ほか。『ヒーリングっど♥プリキュア』ではラビリン役を務めた

キュアスカイ ソラ・ハレワタール役
関根明良

せきね・あきら
12月16日生まれ／東京都出身／アプトプロ所属／『氷剣の魔術師が世界を統べる』（アリアーヌ＝オルグレン）、『BIRDIE WING -Golf Girls' Story-』（リリィ・リップマン）ほか

ましろもプリキュアに変身し、プリズム＆スカイのバディプリキュアが誕生した。別々の世界で生きてきた二人がタッグを組んで、これからどんな闘いを見せていく!?

ソラとましろの鮮烈な出会いで幕を開けた『ひろがるスカイ！プリキュア』。けれど、二人が同時にプリキュアになるのではなく、キュアプリズム誕生は第4話と少し遅め。最初からヒーローの覚悟を持って生きてきたソラ＝キュアスカイと、そんな彼女の戦う姿を見て覚悟を決めたましろ＝キュアプリズム。二人の想いが、時間差で浮き彫りにされた形だ。

ストイックに鍛錬を積んできたソラにとって、ましろは初めての友達。大切なましろには危険な目に遭ってほしくない。一方のましろは、自分は力及ばずかもしれないけれど、友達にできる精いっぱいのこととして、ソラと一緒に戦いたい。

それぞれのスタンスの違いで、どこかちぐはぐになっていた二人。でも、お互いの気持ちを理解し合えた時、スカイとプリズムに新たな力が生まれ、連携技「プリキュア・アップドラフト・シャイニング」で危機を乗り越えることができた。

戦闘中もプリズムのことをずっと「ましろさん」と呼び続けていたスカイが、初めて「プリズム」と呼ぶのも熱い！ソラとましろが本当の意味で友情を培っていくドラマが、ここから本格スタートする。

撮影＝江藤はんな

憧れやキラキラをひろげていけるように！

ソラとして感じたことを素直に表現する芝居を

――放送も第5話まで進みましたが、それぞれ演じる上で意識していることは何ですか？

関根　私は「絶対にソラちゃんを演じたい！」と思ってオーディションに臨んだのですが、その時から「全力で演じること」と「考えすぎないこと」を意識してきました。ソラちゃんは何に対しても素直で、その反応を全力で表現する子です。なので、私の中でソラちゃんの感情をあれこれ捏ねくり回したりせず、ソラちゃんのように素直に表現できるように努力しています。

――ソラは丁寧な口調も特徴ですね。

関根　礼儀正しいんですよね。きっちりしっかりしている子なんだなって、私の中にスッと入ってきました。

加隈　ましろの第一印象は、「優しい子」「温かい子」でした。オーディションではキュアウィング以外を一通り演じた中で、ましろが一番自然体でできたと思います。演じる上では、声はあまり高いキンとした感じにならないように注意しています。誰かと接する時には相手を否定しない、寄り添うような柔らかさを届けられたらと。でも、単に控えめで自分を出さない子ではないので、ましろとして感じた気持ちをセリフにしっかり乗せるようにしています。

――ましろは、ソラに比べると結構フランクな口調です。

加隈　こういう性格の子はあまり使わないような言葉もたまに出てくるのも、かわいいなと思います。突然両手でTの字を作って「ターイム！」って、待ったをかけたりとか（笑）。わりと思い切りがいいし、ちょっと調子に乗りやすいところもあるし、どこか抜けているところもポイントですね。

――シリーズディレクターの小川孝治さんからは、何かアドバイスはありましたか？

関根　第1話のアフレコで小川監督に言われたことは、「ソラはプリキュアになることで憧れのヒーローになりますが、そこがゴールではなくて、この後ヒーローとして何を成していくかを描いていきます。そこは皆さんが声優さんになって、その後どういう声優になっていくのかを自分で描いていくところと一緒かもしれません」ということでした。私もまさに、そこがソラちゃんとの共通点だなと思ってオーディションを受けていたので、「私の捉え方は間違ってなかったんだな！」と嬉しく思いました。

加隈　ましろについては「ソラの隣にいる子ということで真逆に見えるけれど、それはいわばジャンルの違いで、『これが得意』『これが不得意』みたいなデコボコ感ではないです。ましろもポテンシャルは高いけど、その自覚がなくて自己肯定感が低い。でも卑屈ではなくて、前を向ける子です」と言われました。また、小川監督が作ってくださった資料に「ツッコミの言葉はキツい感じではない」とありましたね。ツッコむ時も、たとえば「〜かな？」とか、寄り添うような言葉なんです。小川監督からは最初の玩具収録の時に起用理由もお聞きしたんですが、私がオーディション台本を読んだ時の芝居が「完全にましろだったので選んだんです」と言われました。なので、そのセリフの感覚をブレないようにすることが演じる上で大事だなと。一つ芯になるものが持てました。

――そのセリフの内容も指針になったところがあるのでしょうか。

加隈　強く相手に想いを届ける時に、強く主張するふうじゃないのが、ましろを演じる上で大事なんだなって。相手を思った上で強く出られる子。そこを自分の中で意識しています。

ましろも勇気を出して変身できてよかった

――ましろの初変身は第4話と、少し遅めでしたね。

関根　「変身は少し後です」とは最初に言われていましたね。

加隈　うん。「やっと変身〜！」って感じで（笑）。

関根　キュアプリズムの変身は関根としても、とっても嬉しかったです♪「やったぁやったぁ！」って。

加隈　「こんなに楽しみに待っててくれたんだ！」ってなりました（笑）。

関根　それで、「今日からやっと二人で戦えますね！」と話していたら、次の話が……（笑）。

加隈　まさかの「もう変身しないでほしいんです」（笑）。

関根　でも確かに、ソラちゃんなら、そうなるよねって。

――初めての友達だからこそ守りたいというソラの想いにはぐっときました。

関根　ましろさんが「友達」と言ってくれたことに、驚くほどソラちゃんは喜ぶんですよね。「周りからしたら『そこまで？』と思うくらい、ソラにとっては嬉しいことなんです」と小川監督から説明を受けていて。だからこそ第5話は切なくもあったんですけど、そこからさらに絆が深まって……。第5話ですごく思い出深いのが、「手をつないでいてもいいですか」とプリズムに言うシーン。自分としては、もう少し笑みが混じる感じになるのかなと思っていたのですが、スカイがプリズムに目くばせした時の、加隈さんの「ん？」って返事があまりにも優しくて！　ぐっときて、感じ入ってしまったんです。

加隈　そう！　私も聴いていてなんだか控えめだなぁ、なんて。

関根　まったく違って、自分でも驚いたんですけど、それがOKテイクになりました。

加隈　「手をつないでいてもいいですか？」って言われる感覚を私も共有したいと思って、技のセリフを言う時、テスト前に実際に明良ちゃんと手をつながせてもらったね。

関根　そうなんです。加隈さんが提案してくださって！　嬉しかったです！

――一方ましろのほうは、初変身にあたり「私なんかじゃ……」と思わずためらってしまう展開でした。

加隈　あの葛藤はリアルでした。キュアスカイの戦いを見てきたからこそ、戦いは簡単じゃないと分かっていて。あそこまで追い込まれたスカイを見るのも初めてで、そんな時に戦ったこともない自分が……そりゃ葛藤しますよね。そこで心が揺れながらも、「ソラちゃんを助けなくちゃ！」と自分の意志で行動できたのは、とても大きな一歩だっただろうなって。ここで勇気を出して踏み出せたことで彼女の人生も変わったと思いますし、「本当によかったね！」って言葉をかけてあげたくなりました。

――関根さんから見てのましろのいいところ、加隈さんから見てのソラのいいところを教えてください。

関根　ましろさんは、相手の気持ちに寄り添って受け止めてくれる優しさを持っていて、ソラちゃんはいつも助けてもらっているんじゃないかなと思います。第2話では、出会ったばかりのソラちゃんを自宅に連れ帰って、おばあちゃんに混乱しつつも説明しようとしてくれました。そんな優しさは、アフレコ現場で加隈さんが私を助けてくれるところに共通していて。加隈さんもましろさんもとっても優しいんです。

加隈　ソラちゃんのいいところ……「全部」ですね（笑）。ソラちゃんは初見だととにかくカッコいい、自分の夢に一直線という、みんなの憧れの対象みたいな女の子なんです。だけど、実はあまり器用ではないんです。自分の目標のためにおしゃれする時間を割いてこなかったとか、友達も作らずにきたとか。だから初めての事柄に直面した時「それは練習してません！」ってアワアワしちゃう（笑）。そういうところも好きなんです。

関根　あはは！（笑）

加隈　具体的に目標を作って、一つ一つ積み上げていく努力も怠らないし。ましろからもらった手帳に書いて、毎日5文字ずつこっちの文字を覚えているじゃないですか。「毎日コツコツです！」と言う姿にはジーンとくるし、ソラちゃんの頑張りに応えたい気持ちにさせてくれます。あと、一緒にいて楽しいだけじゃなく、「こうしよう」って提案できるという二人の関係性もいいですね。

――最後に関根さん、今後の意気込みをお願いします。

加隈　頑張れ！

関根　はいっ！　タイトル通り、世界がひろがっていくように、観ている皆さんの憧れやキラキラした気持ちをひろげていけるよう頑張ります！　ぜひ楽しんで観てください！

ソラ・ハレワタール キュアスカイ

初めての友達であるましろに傷ついてほしくないと思ってしまうが、友達だからこそ相手を助けたいましろの想いを知って感極まる！

虹ヶ丘（にじがおか）ましろ キュアプリズム

ピンチのスカイを前にして、自分なんかじゃと気持ちが揺れる。だが、幼なじみのあげはの言葉に背中を押されてプリズムに変身した

頼りになるおばあちゃん・ヨヨ

加隈　うちのおばあちゃんは、結構なものを突然投下しますよね。なぜか家にベビー用品が用意されていて、それを当たり前のようにサラッと言うところから始まって、実は……という（笑）。

関根　ヨヨさんも、ましろちゃんのように、みんなの気持ちに寄り添ってくれる素敵な人。関根としてもとても大好きな人です！

虹ヶ丘（にじがおか）ヨヨ

スカイランドから地上の世界にやってきた、ハイパースゴスギレジェンド名誉博学者。居候のソラとエル、孫のましろの良き協力者

エルちゃん プリンセス・エル

スカイランドの両親と会えなくてホームシックになったけれど、スカイジュエルのパワーを使い、ミラーパッドでお話ができて解消

エルちゃんはとにかくかわいい

関根　エルちゃんは全部かわいい！

加隈　どこが、とかじゃなくてね！

関根　エルちゃんは「えるぅ」ってかわいく喋りますが、喋っていないシーンでも、その思いがあおちゃん（古賀葵さん）から伝わってくるんです。エルちゃんもあおちゃんも、かわいいです！

加隈　とにかく「うちの子、かわいいでしょ！」って、皆さんに自信を持って言えます！　葵ちゃんは、汚しちゃいけないピュアさがあって。でも喋るとメチャ面白い（笑）。「えるぅ」の中に乗せるニュアンスの広さにも毎回驚かされています。これからエルちゃんが成長していくのを、ワクワクして見守っていきたいです。

OP主題歌「ひろがるスカイ！プリキュア ～Hero Girls～」
ED主題歌「ヒロガリズム」

さあ羽ばたこう

今作の主題歌を務めるのは、メジャーデビューを果たした石井あみさんと、プリキュアファンにはおなじみの吉武千颯さん。おそろいのマント衣装もカッコいい！

石井あみ

いしい・あみ
９月14日生まれ／bransic所属／現役音大生のボーカリスト。『ひろがるスカイ！プリキュア』主題歌にてメジャーデビュー

吉武千颯

よしたけ・ちはや
３月28日生まれ／広島県出身／Apollo Bay所属／声優としての活動は『ラブライブ！スーパースター!!』（聖澤悠奈）、『惑星のさみだれ』（星川昴）ほか

3月22日発売
『ひろがるスカイ！プリキュア』主題歌シングル

CD＋DVD

通常盤

撮影＝大山雅夫

『ひろプリ』のOP主題歌「ひろがるスカイ！プリキュア～Hero Girls～」は、明るさと爽快感が心地よいアップテンポな楽曲だ。「空」と「ヒーロー」を描く本作らしいカッコよさに満ちあふれている。

歌唱する石井あみさんは声楽を学んできたシンガーで、冒頭の高音域を歌い上げる声でもその力量を感じさせる。コーラス部分は、先輩プリキュアシンガーの北川理恵さんとMachicoさんが担当しており、さりげなく豪華な作りでもある。

ED主題歌「ヒロガリズム」は、かわいく楽しい中に、ほんのり哀愁感のあるメロディが耳に残る。石井さんと、おなじみ吉武千颯さんによるデュエット曲で、主旋律をユニゾンで歌うのが特徴的。一体感がありつつも、それぞれの声が粒立っており、個性の違うソラとましろの絆を体現しているかのよう。振り付けでも、二人で一つのハートを作る合わせ技シーンがとってもキュート！

これが最後の!? デリシャスパーティ♡

すっかり定番となったシリーズ完結後のプリキュア感謝祭。2月19日（日）夜のプレミアム公演の模様をお届け！

今回もメインキャストと主題歌シンガーが集まった華やかなステージが開催。目玉となる演目は、オリジナルのキャラクターショーと、キャストたちによるスペシャル朗読劇が一体化した「復活のジェントルー!! フォーエヴァー♡パーティ・ゴー!!」。シリーズ構成・平林佐和子さんによる脚本で、アニメ最終回後のゆいたちの様子が描かれた。

怪盗ブンドル団のアジト跡で見つかった、スペシャルデリシャストーンの試作品。そこから、なんと怪盗ジェントルーのコピーが誕生！　またもやウバウゾーを出現させ「使命を果たす」とレシピッピを奪い出す。そんな彼女に正面から向き合うキュアプレシャスたち。ふとしたことで自身がコピーだと知り混乱するジェントルーに、お肉の代わりと言われる「大豆ミート」には大豆ミート独自のおいしさがある！とジェントルーに言葉をかける。

クライマックスでは、マリちゃんやブラペのみならず、ナルシストルーも華麗に参戦。アニメ最終回で唱えられた「ガンバル、ガンバル〜！」の掛け声で、観客も一緒に拳を振り上げるのが楽しい盛り上げポイントだ。最後にはジェントルーもクッキングダムで暮らせることになり、『デパプリ』らしい幸福感にあふれた結びとなった。

キャストによる本編振り返りや生アフレコ、シンガーによる主題歌披露などもあり、盛りだくさんの3時間。万感の思いが込められた最後の挨拶で、会場は温かい涙と大きな拍手に包まれた。

デリシャスパーティ♡プリキュア感謝祭
- 2月18日(土)・19日(日)計4公演
- 中野サンプラザホール
- Blu-rayは7月19日(水)発売

HP https://precure-kanshasai.com/

プリキュアはみんな絶望を超えて強くなる

―石井さんはこれが初の「プリキュア」への参加ですが、OP主題歌の担当が決まった時の感想は?

石井　本当に驚きました。と同時に、「聴いてくれる子どもたちの心に一生残る歌にしよう！」という決意の瞬間でもありました。私は小さい頃『ふたりはプリキュア』を観ていて、OP主題歌の「DANZEN! ふたりはプリキュア」が大好きで！　『ひろプリ』を観ている子どもたちが大人になっても、今回のOP主題歌をいつまでも歌ってもらえたらいいなと思いました。

吉武　私も『ふたりはプリキュア』をリアルタイムで観ていました。五條真由美さんの「DANZEN〜」は大人になった今も大好きで、カラオケの定番ですし。こういうのって小さい頃に観ていたアニメならではだし、「プリキュア」ならではですよね。

―吉武さんは、「プリキュア」主題歌シンガーとしてすっかりおなじみになりましたね。

吉武　ありがたいことです！　毎年オーディションがあるので、そのたびにド緊張で（笑）。イベントやライブとかとは違った緊張感があって、私はいつもガチガチなんです。4年前の『スター☆トゥインクルプリキュア』から歌手としての人生を歩むことになって、どんどん「プリキュア」への愛が膨らんで……もはや自分でもよく分からないくらいに大きくなっているんです！　今年も歌を通してたくさんのお友達と出会いたいし、プリキュアが大好きな気持ちをもっともっと届けたいです。

―だんだん吉武さんも先輩感が出てきていますよね。

吉武　いえ、まだまだです！　北川理恵さんやMachicoさんといった偉大な先輩方を見てきたので、私も引っ張っていけるような存在になれるよう頑張りたいです。

―石井さんがOP主題歌「ひろがるスカイ！プリキュア 〜Hero Girls〜」を初めて聴いた時の印象は?

石井　新しい風を感じました。青木久美子先生の歌詞に「なんて前向きなんだろう！」と感動して。私の事務所の先輩でもある森いづみ先生が作曲・編曲された、メロディアスな曲調もとっても素敵です。かわいさがありつつも、ヒーローの力強さや大空の広大さや爽快感もあって、聴いた瞬間から歌の虜になりました。

―レコーディングする際に気をつけたことは?

石井　ヒーローの芯のある力強さを表現したいと思いました。冒頭の「天高く羽ばたいて」は、プロデューサーから「フルパワーで！」と言われたので、全力で歌いました。Aメロは女の子の日常のかわいさを意識しつつ、透明感が出るように。どれも言葉一つ一つに、いろいろな感情や魅力がこもるように歌いました。それと、私はもともと空が好きなんです。「天高く〜」は快晴の昼の空、サビ前の「絶望を超えてわたしたちは強くなる」は夕闇が近づくピンクの空など、いろいろな空をイメージしました。この「絶望を超えて〜」は特に好きなフレーズなんですが、初代OPと同じ構図の絵になっていましたよね！

吉武　二人で手をつないでね。あの映像はエモい！

石井　プリキュアは、絶望や困難にぶつかっても自分の足で立ち上がる。そしてさらに一歩前に進んで強くなるんですよね！

自分らしい色の虹を描いていけたら

―ED主題歌「ヒロガリズム」はお二人のデュオですが、初めて聴いた時の印象はいかがでしたか?

石井　楽器がたくさん使われていて、とても賑やかですよね。ワクワクする始まりで心が躍りましたし、歌詞からも人と人のつながりや、ぽかぽかした温かさを感じました。

吉武　空って、眺めているだけでいろいろな感情が湧き起こりますよね。雨だとちょっと憂鬱になったり、快晴だと気分も明るくなったり……。そんな、これまで自分が空を見て感じた想いを込めたいなと思いました。そして、曲を通して空に虹が架かるように、聴いてる人たちの心がつながるといいなと。

―歌としては、基本はユニゾンですよね。

吉武　そうなんです。歌い分けはほんの少しだけで。キュアスカイとキュアプリズムのように、私たちシンガーも歌で絆をどんどん深めていきたいですし、一緒に歌えるからこそそのパワーを出していきたいと思います。

石井　お友達同士で会話をしているような曲調や歌詞でもあるので、吉武さんとおしゃべりしている気持ちで歌いました。レコーディングは吉武さんが先で、私はその音源を聴きながら収録したんです。とても安心感がありましたね。

吉武　私も、一緒に歌っている感じを意識しながら歌いました。あみちゃんは私のレコーディングの時に挨拶しに来てくれたんです。そこで初めて会えて、人柄が伝わってきたので、歌のイメージがより膨らみました。

―ED主題歌でお気に入りのフレーズは?

吉武　2番のAメロで「真っ白な雲　まるでマシュマロ」という歌詞があるんですが、あみちゃんの歌い方がめっちゃ好き！

石井　え、本当ですか！

吉武　マシュマロの「シュ」の言い方が好き。マシュマロを食べた瞬間みたい！

―とても感覚的ですが、よく分かります（笑）。

吉武　歌詞として好きなのは、2番のサビの「無敵だと強くなれない！　やさしいだけじゃ越えられない　自分らしい弧をえがこう　かがやいて」。まさにプリキュアだなぁと思って。これまでのプリキュアには、みんなそれぞれの悩みがありましたよね。『ひろプリ』のみんなもきっと無敵ではなくて、これからたくさんの困難に立ち向かっていくと思うんです。だからこそ強くなれるんだろうなと。自分の色の虹を描いていくというのも、素敵だなと思います。

石井　私も1番のAメロで、吉武さんの「今日イチ楽しい気持ち」の「持ち」がすっごく好きなんです！

吉武　ええっ!?

―もちもち柔らかいお茶目さが出ていますよね。

石井　吉武さんの人柄が感じられて、私の推しポイントです。歌詞としては、2番のDメロ最後の「まもりたい　おなじ空の下」が好きです。OP主題歌のサビにも「同じ空」という歌詞があって、まさに空でつながっている気がして、温かい気持ちになります。

―最後にファンへのメッセージをお願いします。

石井　今年はプリキュア20周年という大きな節目の年です。スタッフ、キャスト、関係者、応援してくださる皆さんのバトンを受け継ぐ一員となって、私たちもしっかり走り抜けていけるよう頑張ります。よろしくお願いします！

吉武　小さい頃だけじゃなくて、大人になった今もプリキュアと一緒に成長させてもらっている気持ちです。いろいろなつながりを大切にしながら、また1年間歌っていけたらと思います。『ひろプリ』は第1話から本当に熱いですよね。私たちシンガーも、歌を通して、皆さんにプリキュアのパワーを届けられたらいいなと思います！

今年の衣装のポイントは?

吉武　一番のお気に入りポイントはマントです！　『ひろプリ』ならではのヒーローらしさが出ていて、踊るとヒラヒラしてすごくカッコいいです。二人の衣装は色違いのほぼおそろいなんですが、トップスの模様がゴールドとシルバーで、かわいさと同時にカッコよさもあると思います。

石井　私もトップスが大好きです。金銀のキラキラ生地が豪華で、作品モチーフの羽根も描かれています。襟も立っているのがカッコよくて、ヒーロー感がありますよね。あとはこの帽子ですね！

吉武　すごくかわいい！　マントとおそろいの生地なんです。

石井　大きいつばで、ヒーロー感が出ていて素敵！

吉武　この服を着て、いっぱいお友達に会いにいきたいです！

歌で絆を深めていきたい

天高くひろがる勇気！

ひろがるスカイ！プリキュア

毎週日曜日 朝8時30分
ABCテレビ・テレビ朝日系列
HP http://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/

キュアウィング ツバサ
人間の姿になれるプニバード族の少年。あえて嵐の日に空を飛ぶ練習をしたが、失敗して地上の世界へ。以降ヨヨの世話になっていた

ツバサの歓迎会
ましろは、ツバサが3人目のプリキュアになったお祝いのパーティを開くことにした。ソラたちはツバサの思い出の好物である、たい焼きに似た見た目の「ヤーキターイ」作りにチャレンジするが、残念ながら、彼の思い出の味にはならかった。でも、みんなで作った楽しい時間こそが大切で、思い出の味と同じくらい美味しいとツバサは感じたのだった。

3人での初バトル
UFO型ランボーグからエルちゃんを守りたい一心で、戦う覚悟を決めたツバサ。一方キュアスカイは、ランボーグの高い空からの攻撃に対して、キュアプリズムとの連係プレーで反撃を加えた。その隙を突いて、ツバサはキュアウィングに変身、と同時にエルちゃんも保護。空を自在に飛べるウィングがランボーグを牽制し、スカイとプリズムが合体技で浄化した！

3人目のプリキュアにして初のレギュラー男子プリキュア、キュアウィングがついに登場した。

ウィングに変身するツバサは、スカイランド出身。実は第2話から画面に出ており、ましろの家の軒先などにとまっているオレンジ色のぽっちゃり系の鳥だ。心優しい少年で、つかまり立ちしたエルちゃんが転びそうになったところを、人間の姿になってサッと助けてあげたりも。彼はプニバード族という空を飛べない鳥だが、地上の世界の航空力学に夢を託し、空を飛ぶための勉強にも打ち込んできた。

カバトンに捕まったエルちゃんを救おうとしたツバサは、鳥の姿のままで奮闘する。一旦は気持ちが折れかけたが、スカイやプリズムに任せてしまう他力本願でいいのか？ と自問自答し、エルちゃんを守るナイトとしての覚悟を決める。その瞬間、彼の胸からミラージュペンが生まれ、プリキュアへと変身したのだった。

ソラとましろのコンビに、ツバサがプラスワン。トリオになった『ひろプリ』の、さらなる活躍に期待が高まる！

「あなたのナイトが参ります！」——プリンセス・エルを守るため、颯爽と登場したキュアウィング。ヒーローたるもの、一度やると心に決めたことは絶対にあきらめない！

プロデューサー 髙橋麻樹（東映アニメーション）

ツバサも新しい世界へと羽ばたく

鷲や鷹モチーフの年上になる初期案も

——レギュラーキャラとしての男子のプリキュアは、今作が初の試みですね。

髙橋 今作の企画初期の頃から、男子プリキュアの登場はある程度決まっていました。シリーズ第1作『ふたりはプリキュア』の放送開始当時は「女の子の活躍」も珍しく映りましたが、20年を経て、世の中的に受け入れられるようになりました。多様性を求められる中で、女の子だけがプリキュアになるというのは違和感があり、「プリキュアとはどのような存在なのか」と見つめ直してのスタートでした。

私自身、特撮なども観ますし、幼少期には「女の子なのに戦隊を観ているの？」と言われていました。でも、自身の決断や想いに応じてヒーローたちが立ち上がる姿は、カッコよく映りました。心を動かし、その姿に憧れを抱く気持ちに、男女は関係ありません。今作のテーマ性もあり、男子プリキュアの登場は鷲尾天と共通の意見でまとまっていました。

——ツバサを、ソラとましろより少し年下の少年に設定した理由は？

髙橋 当初は少年ではなく、年齢感はもう少し上になる想定でした。ただ、「プリキュア」を観てくれるお子様に受け入れてもらえるか。「カッコいい」という憧れと同時に「このプリキュアになりたい！」と思ってもらえるかが大きな課題でした。「男の子でもプリキュアになれるよ」という少年らしいラインを維持しつつ、小さい女の子からも受け入れられる印象になるように。そこを第一に議論をし、声の印象も合わせて、他のプリキュアと差異の少ない12歳まで下げることになりました。ツバサ役の村瀬歩さんには、繊細な年齢感とバランスにも関わらず、毎回細かなニュアンスにも応えていただいて感謝しています。

——鳥の姿のツバサは、飛べない鳥ということで、ぽっちゃりしたマスコット的な見た目です。この造形は、「プリキュア」でおなじみのマスコット妖精の役割もあるのですか？

髙橋 マスコットポジションではありますね。「どう見ても飛べない鳥

「Machico♥プリキュアのうた！」リリース記念！バースデースペシャルトーク＆ライブ
夜の部レポート

♥3月25日（土）昼夜２回公演♥渋谷 WWW

Machico さんの誕生日に開催された、ソロアルバム発売記念ライブは、おなじみ「Cheers！デリシャスパーティ♡プリキュア」からスタート！　この日は「日曜日のともだち」などのアルバムの新曲披露ももちろん見どころだったが、出色は『キラキラ☆プリキュアアラモード』の岬あやねソングであるハードロックな２曲。シャウト＆ヘドバンで熱唱する姿は、『ふたりはプリキュア』の「女の子だって暴れたい！」を地で行く勇ましさだった。

トーク＆ライブと銘打たれているだけに、MC も大事な要素。広島県呉市での PV ロケで、自ら車を運転して案内役をした話や、「日曜日のともだち」のコーラスを石井あみさんが担当したことなど、裏話も盛りだくさん。ゲストの吉武千颯さんとは、わちゃわちゃトークを繰り広げたり、「Delicious Ambitious ！」をデュエットしたりも。

アンコールでは『トロピカル～ジュ！プリキュア』の衣装に変わり、北川理恵さんもサプライズで登場！　吉武さんも加えて歌う「CLAP！～勇気を鳴らせ～」は、後半の早口なパートを３人でリレーするのが胸熱！　ライブ初披露の「えがおのままで」は、終盤のアップテンポな盛り上がりで北川さんと吉武さんが加わったり、オーラスの「シェアして！プリキュア」もほぼ３人での合唱。仲良し３姉妹のような絆も印象に残った。

▲ Machico さんを囲んで、吉武さん（左）と北川さん（右）

キュアスカイ ソラ・ハレワタール
ましろと同じソラシド学園に通い始めて友達もたくさんできた。早くも最強の健康優良児と言われるほどの存在感になっているようだ

ソラの初登校
ましろと一緒にいたい気持ちから、中学校に通うことにしたソラ。最初はスカイランドの人間と知られないため、目立たないようにと考えていた。しかし、どこか窮屈そうにしている彼女を見たましろは、ソラらしくないと助言。ソラはあらためて、クラスのみんなに自分らしく挨拶をすると、「もうとっくに友達だよ」とみんなは朗らかに応えてくれた。

夢を持つ者同士
スカイランドの住人なのを隠して普通の鳥のふりをしていたツバサに、ソラは最初は不信感を抱いていた。ツバサとしては、空を飛べないプニバード族の自分が空を飛びたいだなんて、ソラにバカにされるだろうと思い込んでいたのだ。しかし、彼の話を聞いて、ヒーローを夢見るソラは、「道は違うけど、私たちおんなじ」と、誤解を謝り、打ち解けた。

キュアプリズム 虹ヶ丘（にじがおか）ましろ
ソラがツバサを信用していない点を心配していた。だが翌日、いつの間にかすっかり仲良くなっている二人を見て、思わずびっくり！

エルちゃん プリンセス・エル
ハイハイがいっぱいできるようになったと思ったら、すぐにつかまり立ちもできるようになった。あんよができるのも間もないかも？

聖（ひじり）あげは
ランボーグの出現をヨヨに連絡したり、スカイとプリズムのために戦いの作戦を立てたりと、今やすっかりプリキュアのサポーターだ

の翼を！」とオーダーしたことから、重くて大きいデザインとなり、気が付けばかわいいぽっちゃりさんになっていました。赤ちゃんを守る動物のナイトとして考えていたので、「鷲とか鷹とか、カッコいい鳥にしよう！」と言っていたのですが、正反対になりましたね（笑）。

ソラとましろはホームズとワトソン!?

―第8話、9話はキュアウィング登場編でした。ツバサがソラたちと出会い、ウィングに変身するまでのドラマを積み上げるにあたり、大切にしたことは？

髙橋　心を揺さぶること、でしょうか。プニバード族は空を飛べない代わりに、人間になることのできる種族。ツバサは飛ぶことを夢見ていますが、なかなか周りに理解してもらえません。

そんなツバサのキーワードは「知る」。ソラシド市で得られた知識によって、彼は別のアプローチを見出します。ソラから言葉をもらい、そして見守る対象であり言葉を喋れないエルの想いを知る。そうやってツバサも一歩踏み出し、新しい世界へと羽ばたいていきます。そのスタートの話だからこそ、心の動きを丁寧に追い、感情を震わせられるようシナリオ段階から調整していきました。

―プリズム登場が第4話、ウィング登場が第9話と4人勢ぞろいまではまだかかりそうです。あくまでソラとましろのコンビが軸ということでしょうか。

髙橋　元々バディ感は企画段階から意識していました。「ホームズとワトソン」の単語が、鷲尾が書いた最初期の企画メモに書かれていたことを今でも覚えています。圧倒的なヒーロー感のある主人公と、それを支える存在。ソラとエルが虹ヶ丘家にやってきたことで、今までの日常にはない変革がツバサにも起こり、身近な人に連鎖してつながっていく。ここからまた新たなコンビも生まれるので、注目していただきたいです。

―シナリオ作業で、ソラ、ましろ、ツバサ、セミレギュラーのあげはの言動で気をつけている点を教えてください。

髙橋　ソラやツバサは基本敬語ですが、端々に年相応の反応を入れ、固くなりすぎないように。ましろはキツい言い回しではなく、ツッコミも柔らかく。そして、あげはは親しみやすさでしょうか。当初、小川孝治さん（シリーズディレクター）の中にある、あげはのイメージをなかなかつかむことができず、「ギャルになりすぎない明るいお姉さん」の塩梅がメインスタッフの中でもバラバラで、少々苦労しました。

―第5話のラストで、ソラが手帳に「ふたりはプリキュア」と自分とましろのことを書いていました。これはもちろん初代『ふたりはプリキュア』へのリスペクトですよね。

髙橋　当初は「ふたりはプリキュア」と書き込む想定はまったくなかったんです。金月龍之介さん（シリーズ構成）がご用意してくださった稿に、この一文が手帳に書き込まれる旨があり、それを見た時とても胸が高まったのを覚えています。

初代の存在はやはり、視聴者の皆さんもスタッフ側としても特別な存在です。明確に出すべきなのかと悩みましたが、第5話はスカイがちゃんと「プリズム」と呼んで、ましろをプリキュアとして受け入れる回ですし、だからこそ手帳にこの一文を残すこととなりました。

―1クール目もいよいよ終盤。2クール目に向けての見どころをお願いします。

髙橋　毎話少しずつひろがってきたソラたちの世界ですが、新たに加わったツバサと共に、これからもどんどんひろがっていきます。ツバサはソラたちとの交流で新たな気づきを得ましたが、第11話ではあげはも加わり、さらに新しい視点を知ります。それぞれプリキュアの力を得て、やれることが増えたからこそ、できることもあります。今後はどんな変化が待ち受けているのか、ぜひ引き続き彼女たちを応援していただけますと幸いです。それと、第5話でも上司に怒られていたカバトンは大丈夫なのか。ぜひカバトンさんも見守ってあげてください！

ツバサとあげはも仲良くなり、宝物のような毎日を過ごすソラたち。中でも、ソラ、ツバサ、あげはそれぞれの夢に向かって邁進しているが、ヒーローを目指すソラことキュアスカイは特訓を重ね、ついにカバトンとの一騎打ちに挑戦する！

自らにアンダーグエナジーを使ったカバトンに苦戦しつつも、キュアスカイはましろたちの応援で特訓の成果を発揮。だが、アンダーグ帝国によってカバトンが無慈悲に消滅させられそうになるのを見るや、スカイはとっさにカバトンを助けた。たとえ敵でも危険な状況なら助ける。それが彼女のヒーローとしての正しさなのだろう。

そして第14話、ソラたちはやっとエルちゃんをスカイランドへ送り届けることができて一安心。しかし、そこへ現れたのが、アンダーグ帝国の新たな尖兵バッタモンダー。弱い者の悲しみや怒りが分かるという彼の狙いはどこにあるのか？　地上の世界でお留守番する、プリキュアサポーター・あげはの今後の活躍にも期待したい。

つながる

地上の世界で楽しい輪をひろげてきたソラたち。エルちゃんを連れてスカイランドへ戻ることになったけど、ヒーローとは何なのか、あらためて考えることに……。

バッタモンダー

ソラ・ハレワタール キュアスカイ
スカイランドに戻れた上に、昔から憧れていた青の護衛隊に見習い隊員として加えてもらえることになり、大いに張り切るのだが……

虹ヶ丘(にじがおか)ましろ キュアプリズム
スカイランドにやって来て、王様と王妃様に謁見。ソラたちと共にプリキュアとして、これからも力を貸すことを約束するのだった

エルちゃん プリンセス・エル
上手にあんよができるようにもなり、元気にスカイランドへの帰還を果たす。王様と王妃様は、愛娘の無事とその成長ぶりに感激する

王様

王妃様

「プリキュア」という作品に対するプリミティブな疑問を

シリーズ構成 金月龍之介

外様の脚本家としての視点や発想で

——シリーズ構成のオファーを受けた時はどのように感じましたか？

金月　ぼくはプリキュア育ちの脚本家ではないので、「ぼくでいいのかなあ」というのが最初の感想です。でも、『ゲゲゲの鬼太郎（第6期）』で2年間ご一緒させていただいた小川（孝治／シリーズディレクター）さんのご指名とうかがって「やるしか！」と。仕事をご一緒した方からもう一丁、とお声をかけていただく。それがフリーで仕事をしている人間の最大の喜びで、そのために仕事をしておりますので。

また、プリキュア育ちではない人間にあえて構成を任せるということは〝外様〟の人間としての視点や発想を求められているのだろうとも思い、面白そうだなと。

——参加した段階で決まっていた要素や、そこから考えたことは？

金月　最初の顔合わせの日。いただいた企画メモには「多様性」「プリンセス」「カッコいいプリキュア」という3つのコンセプトが書かれていました。率直に「多様性は大事だけれど、それってたとえば正義や友情や優しさと同レベルの〝含まれていて当然の要素〟で、ことさらにそれを強調するのは逆に周回遅れなのでは？」と申し上げました。生意気かなあ、クビになるかなあ、とも思ったのですが、それを聞いた鷲尾（天）プロデューサーは「そうですね！」と。あ、こんなに風通しのいい現場なんだ、最高だな、と思いました。

「プリンセス」は、以前同様のコンセプトのシリーズがありましたし……ですから、柱にするなら「カッコいいプリキュア」がいいのでは、と。ちょうど「癒やしのプリキュア」「面白いプリキュア」「かわいいプリキュア」と続いていたところですしね。それ以外は何も決まっていなかったので、キャラクターはゼロからみんなで考えてきました。

——各キャラ性を決め込む上で、小川さんたちと話し合ったこと、金月さんが特に意識したことは何ですか？

金月　申し上げました通り、ぼくは外様なので、「『プリキュア』ってそもそもなぜこうなっているんですか？」というプリミティブな疑問を恥ずかしげもなく質問しました。たとえば「なぜ、どこにでもありそうな街が舞台で『ママおはよ～！』から始まるんですか？」視聴者のお子さんたちが自分事として想像しやすいようにという配慮ですか？」というふうなことを、です。

鷲尾さんと小川さんはそんな間抜けなぼくの質問にも全部丁寧にお答えくださって。「いや、別にどこにでもありそうな街じゃなくてもいいんですよ。なんとなくそうなっているだけで」「じゃあ、たとえば空の上の世界が舞台で、主人公が早々にトラブルに巻き込まれても大丈夫なんですか？」「大丈夫です。だとしたら主人公のカラーは青ですかねえ」と……。〝青キュア〟ソラの誕生はそこがスタート地点でした。彼女を中心に、他のキャラクターたちを配置していきました。

——そうやってシリーズ初となる青の主人公が生まれたのですね。

金月　必要なのは魅力的なキャラクターであって「ピンク色の人間」「青い色の人間」ではありません。だからぼくは……ぼく個人はですよ、カラーにはそれほどこだわっていません。大きな話題になりましたが、性別と年齢についても同様です。作中でも「青だから」「男の子だから」「大人だから」という記号的な描き方はせず、彼女たち・彼らの中身をゼロから描いているつもりです。

——主人公がいわゆる別世界から来た女の子というのもユニークです。従来のシリーズだと「妖精がプリキュアを探しにきた」パターンが多かったのですが、

仲間

金月　従来のシリーズのパターン崩し、という発想はまったくないですね。個人的に、第1話は設定を説明する回ではなく、主人公を見せる・魅せる回だと考えていて。なので「この世界の事情はどうで、敵はどうで、プリキュアとは何で」と妖精が視聴者に〝設定〟を説明する尺、そのすべてを主人公のソラに与えて、彼女の視点で、行動で、心情で物語を紡ぎ、キャラクターを見せる・魅せる手法を選びました。ありがたいことに鷲尾さんも「説明を急ぐ必要はありませんよ」と背中を押してくださいました。結果として、ソラシド市に来たソラはカルチャーギャップに驚くことになるわけですが。

――地上世界はこうなのか、というソラの驚きが語られていきましたね。

金月　エレベーターやテレビに大仰に驚く彼女の様子は、視聴者のお子さんに伝わるプリミティブな面白さかと。ソラがドタバタやることで、逆に案内役のましろにフォーカスが当たって、彼女の優しさを描くことができる。そのような勝算もありました。

――また、全体的に今時なネタを入れつつも、昭和感も漂っています。たとえば、ましろがよく言う「ターイム!」も懐かしい感じがします。

金月　チーム内ではいつも「テレビまんが感の担保」という言い方でご説明しているのですが……シリアスやバイオレンスに傾きがちなテーマを扱っている分、それを中和する明快なオモシロ記号、コテコテなギャグ表現を隙あらば差し挟んでいます。そうして、お子さんたちが退屈したり怖がったりしないよう心がけています。カバトンのキャラクター造型が、まさにその体現です。そこいらのイケメンでは務まりません!

ましろだけに具体的な夢がないのはなぜ?

――ソラはヒーロー、ツバサは空を飛ぶこと(航空力学)、あげはは保育士とそれぞれの目標が定まっていますが、どのように決めましたか?

金月　ソラの夢は「カッコいいプリキュア」という作品コンセプトを背負っています。ツバサは、叶える方法すら見えない夢を追うことのしんどさを体現しています。あげはが目指すのは、視聴者のお子さんたちにとってもっともなじみのある「大人」「ヒーロー」としての保育士です。

――現状ましろだけに目標を持たせていないのは?

金月　そこは意図的です。本作は「ひろがる」がキーワードです。他者と交わることで夢が、ものの考え方が、未来が大きくひろがっていく。それを体現するのがましろになります。今後の展開にご期待ください。

――キュアプリズム誕生が第4話、キュアウィング誕生が第9話、そしてキュアバタフライは第14話の段階ではまだ登場せずと、4人そろうのに話数を重ねる構成ですね。

金月　今年は春映画がなかったので、慌ててプリキュアに変身させる必要がなかったというのは前提として一つあります。ただ、それでもなお「序盤に全部切り札を出してスタートダッシュ!」という手法も選べるわけで……。1年間という長期戦を最高の戦果で駆け抜けるために、切り札をどこで場に出すか、全員で悩みました。

――また、従来のシリーズのように、初変身したらすぐにプリキュア名で呼び合うのではなく、一緒に戦う仲間だと認識してから「プリズム」「ウィング」と呼び始めます。

金月　ぼくは外様なので、普通に「変身するといきなりプリキュア名で呼び合うの不思議だなあ」って……。せっかくなら、ドラマ的な表現に利用しようと。「新しい」「お約束を逆手に取った」というご評価をいただきましたが、ぼくはごく普通のことをしたつもりしかありません。

――第12話では、アンダーグ帝国に粛清されそうになったカバトンをソラが助けようとしました。そこは第14話にも出てくる「単なる強さが正義ではない」といった部分を意識してのことでしょうか?

金月　そうですね。ソラは常人よりも強い子ですから「強い=偉い」「戦いに勝つ=ヒーロー」という間違ったメッセージをお子さんに送らないよう、気をつけています。悪役のカバトンに「TUEEE!」を連呼させているのも同様の理由です。

――カバトンは退場してしまいましたね。今後の再登場は?

金月　彼はシリアス/エンタメのバランスをとって、作品のトーンを正しく規定していた陰の立役者なので、名残惜しいです。再登場は……ナイショです!

――第13話は、なんとランボーグとは戦わない回でしたね。戦うだけがプリキュアではないということでしょうか。

金月　ヒーローを扱っている作品だからこそ、逆に「戦闘なしの回」が生きるかもしれない……そこをスタートにした回でした。緑さんとソラたちの事情を重ねて、あくまでも「緑さんを描くことでソラたちを描く」よう留意しました。なお「ゲストのキャラクターでいい話を作る」のは基本的に本作では禁じ手、としています。

――カバトンの謎の上司が声だけで指令を与えたり、アジト相当の場所がおでん屋だったり、エルちゃんの力を欲している理由がいまだ明かされないなど、アンダーグ帝国側はあえてぼかした描き方になっていますね。

金月　いわゆる「悪役会議」のシーンってお子さんたちは本当に楽しんでいるのかなあ? その時間があるならプリキュアたちを見たいのでは? というのがぼくの意見です。もちろん、敵サイドの事情を描かないことで、ストーリーが推進力を失うリスクがあります。でもそこはプリキュアサイドの描写で埋められるのでは、埋められるはず、埋めるぞ、という覚悟で構成しています。用意している敵と世界設定は壮大なので、必要なタイミングで少しずつ、お子さんたちもわくわくできる形でテーブルにひろげていきます。お楽しみに。

――最後にファンへのメッセージや、2クール目の見どころなどをお願いします。

金月　ドラスティックな改革に挑んでいる作品……に見えるかもしれません。でもそういう気持ちは実はそんなにありません。「普通に面白い作品」を書く。そのつもりでやっています。しばしば「初代リスペクト」と指摘されますが、ぼくがリスペクトしているのは初代のパーツパーツではなく、「普通に面白い作品」としての初代であり、そうあろうとする姿勢です。ツバサ変身の第8話、9話あたりから、そうした『ひろプリ』の意図を、徐々に視聴者の皆さんにもご理解いただけてきているような気がしています。ああ〝普通に〟観ていただけているなあ、と嬉しく思い、感謝しております。

2クール目は、4人目のプリキュアが登場します。ソラの心を折る大事件も……? ヒーローたちの冒険に、なにとぞお付き合いください!

聖(ひじり)あげは
ツバサとは気持ちがすれ違う場面もありつつ、親しくなることができた。故郷へ旅立つソラたちを見送ったが、これからの動きは?

夕凪(ゆうなぎ)ツバサ　キュアウィング
あげはの距離感のない接し方や「少年」と呼ばれることにムッとしていたが、彼女の洞察力の高さを垣間見、素直に尊敬の念を覚える

ひろがるスカイ!プリキュア

毎週日曜日 朝8時30分
ABCテレビ・テレビ朝日系列
HP http://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/

王国を守る「青の護衛隊」

第14・15話はスカイランド編。これまで回想シーンでチラリとだけ姿を見せていた、ソラのヒーローへの憧れのきっかけとなったシャララ隊長も登場し、スカイランドでのソラの周辺のことも描かれる。シャララはソラにとってメンター的立場でもあるようで、今後の二人の関係も気になるところ。

ひろがるスカイ！プリキュア

毎週日曜日 朝8時30分
ABCテレビ・テレビ朝日系列
HP http://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/

キュアウィング 夕凪ツバサ役
村瀬 歩

キュアバタフライ 聖あげは役
七瀬彩夏

Ready Go!

４人目のプリキュア、キュアバタフライがついに誕生！キュアウィングとのコンビ感もこれから見せてくれるのかも？

男子プリキュアであるキュアウィングと共に、シリーズ開始時より注目されてきた、成人プリキュア・キュアバタフライ。本編での活躍が長く待たれていたが、第18話で満を持して登場した！

バタフライに変身したのは、大方の予想通り、聖あげはだ。保育実習中の保育園がバッタモンダーに狙われたとあらば、正義感の強いあげはは黙ってはいない。彼女は、第４話で初めてランボーグに遭遇した時も、まず立ち向かう手段はないかと考えた人物。園児たちを守りたい想いに、強く駆られたに違いない。

その意気にエルちゃんが応えて、あげはもプリキュアの力が覚醒！バタフライがバリア技主体なのも、「最強の保育士」を目指す彼女らしいところだ。

こうしてついに４人そろったわけだが、OPの初代オマージュのカットでは、ウィング＆バタフライで手をつないでいる。これが今後の関係性を示唆しているなら、ウィングとバタフライにもスカイとプリズムのようなコンビでのアクションが期待できるかも？

バッタモンダーは、ソラシド市にやって来たのはエルちゃんが目的ではなくプリキュアを倒すためと言い切った。４人になった『ひろプリ』チームはどう受けて立つ!?

むらせ・あゆむ
12月14日生まれ／アメリカ合衆国出身／アスターナイン所属／『王様ランキング』（カゲ）、『鬼滅の刃』（小鉄）ほか

ななせ・あやか
7月11日生まれ／東京都出身／アクセルワン所属／『女神寮の寮母くん。』（早乙女あてな）、『スーパーカブ』（礼子）ほか

撮影＝江藤はんな（イベント写真を除く P.60～62）

プリキュアの変身が夢にどう影響する？

――それぞれ、ツバサとあげはを演じる上で意識していることとは？

村瀬　ツバサについては「成長感」ですかね。彼はとても感受性が豊かで、いろいろな考えを巡らせながら生きている子なんです。「プリンセスを守る」という使命感と共に、彼が日常の中で感じ取っている喜怒哀楽を表現していきたいなと思っています。

七瀬　あげははエルちゃんを含めた5人の中では一番年上で、みんなのお姉ちゃんでもあります。ただ、成人したからといって、突然精神的に大人になるわけじゃなくて、まだ子どもと大人の狭間にいるような感じで。完璧ではない、まだまだ未熟な部分とのバランスをとっていきたいなと。

村瀬　あげはさんは大人と子ども、どっちの要素もあるもんね。

七瀬　そうなんです！　シリーズ初の成人プリキュアと言われていますが、18歳の等身大なところを出せたらと思い、試行錯誤しています。

――演技プランはオーディションの時とはあまり違ってないのですか？

村瀬　僕はおおまかには変わっていないですね。スタジオオーディションの時に小川（孝治／シリーズディレクター）さんからも「事前のテープオーディションの感じがよかったので、その方向で」と。

七瀬　最初からイメージ通りだったってことでしょうね。私はスタジオオーディションの時に、名乗りのセリフの「アゲてひろがるワンダホー！」を、小川さんから「もっと明るくしてください」と言われました。オーディションではいつもより一段階明るく演じてみようと思っていたんですけど、「もっともっと！」みたいな感じでした。本編では、初登場の第4話で、「あげはは軽いノリの部分と真面目で真剣なところの2つがある。表裏じゃなく、うまく使い分けてほしい」と小川さんに言われました。

村瀬　どっちもあげはちゃんの大事な一面ってことだね。

七瀬　そうなんです。「でもナチュラルにしてもらえば、できると思います」とも言われました（笑）。なので考えすぎないようにと。

村瀬　小川さんは僕ら役者陣に、すごく期待と信頼を寄せてくれているのがありがたいよね。

――オーディションで受けた役は？

村瀬　僕はツバサだけです。

七瀬　私はテープオーディションではましろんとエルちゃんで、スタジオオーディションに進んだ時に、あげはも受けてくださいと連絡が来ました。私はスタジオオーディションでは1つの役を受けることが多いので、「（そのキャラを）やるぞ！」って一直線になりがちなんですけど、今回は他のキャラも演じることで広い視野で見通せた気がします。それとあげはの課題ゼリフは、ましろんへの呼びかけも多かったので、一度ましろんを演じたおかげでイメージが膨らみましたね。

村瀬　あげはさんのセリフへの理解度も高まったと。

七瀬　まさにそうです！

――あげはは保育士、ツバサは空を飛ぶという夢を持っていますが、そこについてはどう感じていますか？

七瀬　あげはは、ただの保育士ではなく「最強の保育士」を目指しているんです。芯となる明確な理想を持っているんですね。初変身の第18話のサブタイトルにも「最強の保育士」というワードが入っていたくらいで。プリキュアに変身したことが、彼女の夢の追求にどう影響していくのかなと思います。

村瀬　ツバサについては、プリキュアになったことで、空を飛ぶ夢はある意味叶っちゃったんですよね。それがツバサ自身の成長にどう関わってくるのか。これまでずっと自力で飛ぶために地道な努力をして、航空力学を学んできたので……。今後の彼がどう動いていくのか、ぜひ期待していてください。

――村瀬さんから見てあげはのいいところ、七瀬さんから見てツバサのいいところを教えてください。

村瀬　あげはさんは自分のやりたいことがしっかりあるのがいいですね。それに、まっすぐで清らかな正義の心を持っている。そこが見ていて気持ちいいし、カッコいい。ゴーイングマイウェイだけど、周囲への優しさや思いやりを持ち合わせているのも素敵です。

七瀬　ツバサくんは、プニバードの時がとにかくかわいい！

村瀬　まずそこ（笑）。

七瀬　プニバード姿でのエルちゃんとの掛け合いに癒やされます。フォルムがエルちゃんと同じだから、二人並ぶと10倍かわいい!!

村瀬　僕も、人間姿と鳥姿があるって聞いていたんですが、オーディションで初めて絵を見た時、「めっちゃかわいい！　ぬいぐるみ欲しい！」ってなりました（笑）。

七瀬　もちろん、人間姿のツバサくんも好きです。一見おっとりほんわかした少年なのに、エルちゃんを守るために奮闘して。内に秘めた熱さとのギャップがいいなぁって。ウィングになった時の、瞳から感じる意志の強さもカッコいい！　かわいいとカッコいいが両立していてすごく好きです！

大人びたツバサだけど意外とチョロい!?

――あげはは初登場の第4話は、ましろの「変身への気持ち」を後押しする形での活躍でした。

七瀬　初登場回、すごくドキドキしていたんです。「プリキュア」シリーズのオーディションはこれまでも受けてきて、今回ようやくプリキュア役になったけれど、本当に私に務まるのかという不安もあって……。でも台本を読んでみたら「『私なんか』？　そんなこと言うな！」というセリフがあって。ましろんの背中を押す言葉ですが、私自身にも響きました。

村瀬　キャラクターに背中を押してもらえたんだ。

七瀬　そう、セリフを通して、あげはが私に勇気をくれたんです。「私も自信を持ってやらなきゃ！」って思えました。

村瀬　まさに「アゲ」の力をもらえたんだね。素敵な話！

七瀬　もう、しょっぱなからガツンと。あげはちゃんの強い優しさに励まされました。

――ツバサが人間の姿で登場したのは、第8話でした。

村瀬　僕はアフレコへの合流は遅かったですが、第7話までの音声入りの映像をいただけていたので、それによって本編の雰囲気を知ることができました。1年間地上の世界で普通の鳥のふりを過ごしてきたツバサと、アフレコには参加していないけどみんなの声は聴いてきた自分とが、ちょっとシンクロできた気がして。その意味でもすんなり入れました。

――続く第9話がキュアウィングの初変身でしたね。意を決して、カバトンの元からエルちゃんと逃げ出す辺りは、本当にピンチでした。

村瀬　本当に本当に。ツバサにとって守るべき存在であるプリンセスが、赤ちゃんなのに真剣に頑張っていて、その心意気に動かされる話でした。

――「プリキュアになれた！」という感慨もありましたか？

村瀬　演じた直後ではなく、オンエアされたのを観て、ようやく実感が湧きましたね。ツバサ自身、第9話はそれどころではなく……登場してすぐに戦いに巻き込まれて、そのまますぐ変身、みたいな感じで。ウィングの変身動画は、もう100回は繰り返し観ています（笑）。こんな素敵な変身バンクを描いてくださったアニメーターさんたちに感謝でいっぱいです！

――そんなツバサとあげはがきちんと対面したのは第11話でしたね。

村瀬　「気まずい二人!?ツバサとあげは」というサブタイトルで、一体どういう感じで気まずくなるんだろうと思っていたら、台本を読んで「なるほど！」と。あげはさんのぐいぐいくる感じと、ツバサのしっかりとやりたい感じが合わないんだなぁって。

七瀬　あげはが「少年！　少年！」ってね（笑）。

村瀬　ツバサは第15話でも、親から子ども扱いされるのを嫌がっていて、一人前に扱ってほしい承認欲求みたいなものがあるのかな。「自分も大人になりたい！」みたいな。だから、あげはさんに「少年」といじられるのは、コンプレックスを刺激されちゃう。

七瀬　うんうん。

ツバサはこんなにチョロくて大丈夫なのか心配になります（笑）

あげはの「『私なんか』？そんなこと言うな！」が心に響きました

キュアスカイ
ソラ・ハレワタール
シャララ隊長が生死不明となり意気消沈。けれどみんなで作った人形劇と、それを見たエルちゃんの反応で、前向きな気持ちになれた

キュアプリズム
虹ヶ丘（にじがおか）ましろ
走るのはあまり得意ではないが、ソラと一緒に体育祭の選抜リレーに出場。競技では転倒したが、その奮闘にソラが応えて逆転優勝！

エルちゃん
プリンセス・エル
パパとママであるスカイランドの王様と王妃様が呪いをかけられてしまい悲しむ。けれど、ソラたちの名前を言えるまでに成長した！

あげはの実習先の保育園の園児・たけるがウィングの大ファンだと聞き内心喜ぶ。戦いに巻き込まれたたけるたちを救出しに颯爽登場

キュアウィング
夕凪（ゆうなぎ）ツバサ

長内たける

保育実習服

念願の保育園での現場実習がスタート。園児たちが噂のプリキュアが大好きと知り、つい仲間だと言ってしまってツバサに叱られる

キュアバタフライ
聖（ひじり）あげは

村瀬　でもお互いに優しいし、ツバサもどこかあげはさんに甘えているところがあるし。

七瀬　ツバサくんがあげはをちょっと意外なふうに見るシーンがありましたよね。あそこで、あげはに何か感じるところがあったのかなと思います。

村瀬　ツバサって、相手の第一印象が悪いと、その人がちょっといいことをしたら好感度が一気に上がっちゃうんですよ（笑）。

七瀬　じゃあ、あげはの好感度も、あとはどんどん上がっていくだけ（笑）。

村瀬　ツバサって本当にかわいいというか、チョロいので（笑）。今はもう、あげはさんを心から信頼していると思います。

七瀬　あげはも「少年」とずっと呼んでいたのが、戦闘シーンでウィングに助けてもらった時に「ツバサくんなら作戦に気づいてくれると思ってた」ってね。

――ちょっと心憎い感じの笑顔と共に。

村瀬　でもツバサ自身はもう必死だったから、名前呼びされたことはあんまり意識にないかも（笑）。「ランボーグから逃れるためとはいえ無茶なことして！」みたいな。

七瀬　もしかしたら本当に地面に激突したかもしれないのに、まだほとんどやりとりしたことのないツバサくんを信頼していたんですね。何か通じ合ったんだろうなって思います。でもその後は「少年」呼びに戻って（笑）。

村瀬　ラストであげはさんが「カッコよかったよ」って言葉をかけてくれた時も、ツバサは寝てるし。いちいちタイミングがよくない！（笑）

七瀬　ツバサくんが言ってほしい言葉をかけた時は、だいたい聞けてない（笑）。

人形劇『えるたろう』の着ぐるみ&パペット

最年少&最年長ペア

チーム最年少のツバサは落ちついた口調のしっかり者。12歳らしからぬ大人びたところを垣間見せる。あげはは最年長の18歳だが、案外子どもっぽい面もあり、そこを本人も隠さない。学校のレポートそっちのけでソラの修行に同行した際は、実は余裕がないのではとツバサに図星を突かれた。

バタフライ誕生にスタッフからもお祝い

――第16話は、あげはの発案で人形劇をやりました。

七瀬　スカイランドから帰ってきたみんなが、なんとも思い詰めた表情をしていて。あげはとしては、エルちゃんのためにもみんなで笑顔になれることはないかと思ったんですね。劇中劇でソラが犬、ましろんがサル、ツバサくんはキジになりましたが、面白かわいい絵面でした。

村瀬　ね！　ベタな語尾も面白かった（笑）。

七瀬　「ウキー」とかね（笑）。みんなで『桃太郎』の歌を歌ったし、エルちゃんのえるたろう姿もすごくかわいくて！　劇にはヨヨさんも出てきて、元気で明るい感じが楽しかったです。みんなで本当に劇をやっている気持ちになりました。

村瀬　この第16話は、第15話で起こった出来事が出来事なだけに、自分の力ではどうにもならないという無力感を引きずっていたというか、楽しいことをしていてもどこか陰りがあるというか。そこがリアルだなぁって思いました。ふとした瞬間に連想ゲーム的に思い出されてシュンとなってしまうのも、仕方ないよなぁって共感しました。その分、あげはさんの優しさも心にしみました。

七瀬　第15話の重い雰囲気を吹っ飛ばすかのようでしたよね。あげはは、そういう気遣いをあまり表に出さずに、サラッとやってのけちゃうところがあります。実は彼女なりに考えていることも努力していることもたくさんあるんです。

――あげはは大人としての知恵を生かし、プリキュアの参謀的な一面もありましたね。

七瀬　そうなんです。第8話ではランボーグが出現したことをヨヨさんに電話で知らせたり。そういう大人らしい判断ができたり手段を持っていたりするんですよね。第9話では、上空にいるランボーグまで到達できるように大ジャンプ作戦を考えて。でも、うまくいかなくて……。傷ついたスカイとプリズムを見て、あげはも年上として歯がゆさがあっただろうなと思います。

――そして運命の第18話。あげはが保育実習をする話でもありました。

七瀬　私が通っていた高校は幼稚部からあって、高校課程に幼稚部に行って子どもたちのお世話をする、幼稚園席務というのがあったんですよ。

村瀬　へぇ！

七瀬　子どもたちに絵本の読み聞かせをしたり、たけるくんみたいに手の掛かる子の面倒を見たり（笑）。でも、みんなかわいくて。保育実習のシーンは、そういった経験を思い出しながら演じました。

――たけるはウィングのことが大好きみたいで。

村瀬　ツバサも結構お調子者ですよね。あげはさんにプリキュアのことは喋らないようにと釘を刺した直後、たけるくんが自分のファンだと聞いてまんざらでもなくて。「（もらった手紙に）返事を書かないのはナイトとしての礼儀に反しますから！」って（笑）。

七瀬　ツバサくん、本当にチョロいです（笑）。

村瀬　「こんなにチョロくて大丈夫なの？」って、ときどき心配になります（笑）。

――キュアバタフライの初変身に至るドラマはいかがでしたか？

七瀬　「だったら私は！」って言って変身するのが、とてもガッツがあるなぁと思いました。やろうと思えばなんでもやれるんだ、という強い意志を感じました。

村瀬　胆力というかド根性というか。あげはさんは今時ギャルの面もあるけど、どこか昭和感もあって、エネルギッシュだよね。

七瀬　特にこの第18話は、前向きなエネルギーを感じましたね！

――ちなみに初変身が第18話になるというのはご存じでしたか？

村瀬　「バタフライの登場は少し遅めになるかも」みたいには聞いていましたよね。

七瀬　明確に何話、というのは知りませんでした。

村瀬　ウィングが第9話で登場したので、みんなで「バタフライは1クール目の終わりじゃない？」なんて言っていたんですよ。そうしたら2クール目に入っても変身しない！（笑）

七瀬　（笑）。それだけに第18話の収録は気合い満々で臨みましたね。終わった後には、スタッフの皆さんから「おめでとうございます！」ってお祝いしてもらいました。「ああ、私もプリキュアになれたんだ」って……感無量でした！

――最後にファンへのメッセージをお願いします。

村瀬　プリキュアがついに4人になりました！　スカイとプリズムが二人で頑張っていたところに、ウィングがサポートする立場で加わりましたが、今後はウィングとバタフライもペアを組んで活躍していきます。戦いでの4人の立ち位置も見えてきて、なるほどと感じられると思います。チーム内での動きも、楽しみにしてもらえると嬉しいです。

七瀬　皆さんお待たせしました！　というか私自身が楽しみに待っていました！　ようやく4人そろったことで、さらにバランスがいいチームになりました。これからどうやって戦っていくのか楽しみにしていてください。4人になってパワーアップした私たちを、これからも応援してもらえたらと思います！

LIVE REPORT

プリキュアのバトンを受け継ぐ新コンビ

『ひろがるスカイ！プリキュア』主題歌シングル 購入者限定リリース記念ライブ　●5月3日（水・祝）昼夜2回公演

　今年も池袋harevutaiにて行われた主題歌シングルリリース記念ライブ、その夜の部のレポートをお届けしよう。

　1曲目は石井あみさんが歌うOP主題歌「ひろがるスカイ！プリキュア ～Hero Girls～」。そののびのびとした歌声からスタートして、吉武千颯さんにスイッチ。「DELICIOUS HAPPY DAYS♪」「あこがれ Go My Way!!」と、歴代ED主題歌2曲をソロで披露。声出しOKのライブだったため、この2曲は特に客席からの合いの手やコーラスが入り、吉武さんもそれに応えて、いつにも増してノリノリ。また、石井さんとのデュオのED主題歌「ヒロガリズム」では、コンビのダンスもとってもキュート！

　そして今回のハイライトは、「CLAP！～勇気を鳴らせ～」と「シェアして！プリキュア」。ファンとしてはこの二人のバージョンでも聴いてみたかった名曲だ。吉武さんはこれまでサブパートを歌うことが多かったが、今回はメインとなり、「プリキュア」のバトンを受け継いだ姿が胸アツ。石井さんも「CLAP ～」終盤の早口パートをビシッと歌い切った。

　ずっとプリキュアシンガーの妹ポジションだった吉武さんだが、曲の合間でのMCでも、ニューフェイスの石井さんを懸命にリードするような掛け合いを展開。石井さんの初々しさも加わって、なんともかわいらしさ満点。客席をほんわか和ませていた。

石井あみ

吉武千颯

SPECIAL COLUMN 01

ランボーグ＆キョーボーグ SELECTION

文字通り、乱暴で狂暴なランボーグとキョーボーグ。他の様々なプロップデザインと共に、ユーモラスな春山和則ワークスを味わってほしい！

『ひろプリ』の各話モンスターである「ランボーグ」と「キョーボーグ」のデザインは、『デリシャスパーティ♡プリキュア』に引き続き、イラストレーターの春山和則さんが担当している。怪物の〝素材〟となるものは、乗り物や日用品、植物など多岐にわたるが、全体的にロボット的（メカ的）な雰囲気を持たせている。無機質でありつつも、とても愛嬌があるのが特徴だ。

また、今年の春山さんは「プロップデザイン」として、日常で使う小物などのデザインも起こしている（もう一人のプロップデザイン・升井秀光さんは玩具連動アイテムのお仕事が中心）。さらに、ソラのヒーロー手帳の絵、ましろの絵本の絵といった劇中のイラストも春山さんが描いたもの。実は本編の至るところで、春山さんの仕事が楽しめる作りになっているのだ！

プロップデザイン **春山和則**

ロックバンド風に目元には黒い覆面を

──昨年の『デパプリ』から引き続いての参加ですね。

春山　『デパプリ』だけだと思っていたので、お声がかかった際はまさかという感じでした（笑）。第１話のランボーグは、去年と同様にキャラクターデザイナーさん（斎藤敦史さん）が描かれているので、それを雛形として、各話の脚本を読んでイメージして作っています。第４話くらいまでは、シリーズディレクターの小川（孝治）さんから「こんな感じで」というラフ画がありました。

──描く際に全体的に意識していることは？

春山　ランボーグやキョーボーグの元になっている物体が何なのか分かるように心掛けています。線は減らしつつ、素材の雰囲気がしっかり分かるフォルムにと。ちなみに、カバトンが生み出したランボーグがモヒカンだったから、バッタモンダーのランボーグも彼に合わせるのか小川さんに確認しましたが、そこはそのままモヒカンでということでした。

──ランボーグやキョーボーグの目の部分は、覆面みたいですね。

春山　イメージモチーフがアメリカのロックバンドだと小川さんは言っていました。キョーボーグの覆面は曲線です。傷みたいなトゲも左右対称で計４本にして、パワーアップ感を出してみました。モヒカンもフサッとした感じに変えています。

第17話
ライン引きランボーグ

──攻撃方法はある程度は脚本に書かれていますが、それをギミックにする上での苦労は？

春山　悩んだのが第17話の運動場のライン引きのランボーグです。下から粉を落として攻撃するらしいけど、プリキュアは正面側にいるし。でも、ライン引きはそういう構造なので仕方ないですよね！（笑）第20話の信号機ランボーグは、顔（覆面）の位置を赤と青どっちにすべきか悩みましたね。赤と青が点灯するたびに顔の位置が変わるのも考えたりして、いくつかパターンを出しました。決定稿は、真ん中に顔があるやつになりましたね。

第20話
信号機ランボーグ

第22話、第23話
シャラララランボーグ

──特殊だったのが、第22話、第23話のシャララ隊長を素材にしたランボーグです。

春山　シャララランボーグは、ＯＰに出てくるバンバン倒される岩みたいなやつや、第14話のスカイジュエルランボーグみたいに、鉱物っぽいゴツゴツした形状にしてほしいとのことでした。そこにマントや剣が付いた形で。ラフ画もいただいたと思います。

第34話 スケボー＆
フリスビーキョーボーグ

──キョーボーグになってからは、２つの物体を合わせる設定になりました。

春山　物体が増えるって、いかにもパワーアップバージョンという感じですよね。２つの物体を融合させてデザインするケースもありますが、話数によっては、「もう一つの物体を手に持たせてほしい」と演出さんから言われることもあります。第37話の案山子＆竹のキョーボーグは、カカシが百姓一揆みたいに竹槍を持っている形にという指定でした。最初のフリスビーとスケートボード（第34話）は、打ち合わせの時に僕のほうで考えて、手の部分をフリスビーにしました。

第37話
案山子＆竹キョーボーグ

──各話作監がデザインを担当していることもありますね。

春山　そうですね。第５話は作業が先行していて、デザインも稲上（晃）さんが既に描かれていたんです。第18話の釣り竿ランボーグと象のじょうろランボーグも、上野（ケン）さんが担当されました。第29話の各種ランボーグは、僕がちょうど第34話のましろさんの絵とか結構作業を抱えた状態だったのと、甲冑や家具のランボーグはすぐに倒されるから、作画さん側で作ってもらったほうがスムーズかなと思ったんです。それで青山（充）さんにおまかせしたのですが、さすがでしたね。

──あとは、パワーアップしたカバトンやミノトンも、春山さんのデザインだそうで（Ｐ.40～41参照）。

春山　いずれも、凶暴で筋肉質なイメージでという依頼でした。第12話の強化カバトンは、見た目は素のカバトンに近い感じでという発注だったので、目の周りだけランボーグと同じ覆面にしました。第33話、第34話の強化ミノトンは、最初は１段階だけのつもりで描いたんですが、もう一段階パワーアップするということで、さらに盛った感じにして、ツノの形も大きくしました。

話数と共に上達するましろの描くイラスト

──今年は「プロップデザイン」という肩書ですが。

春山　最初からモンスター以外のデザインも、というお話だったので、各話のこまごまとしたものを描いています。たとえば、ましろさんの家のスリッパや、エルちゃんのチャイルドシート。あげはさんの愛車の運転席周りも、車種の指定があったので、調べてデザインしました。中学のクラスメイトも、名前がある３人は斎藤さんのデザインですが、それに寄せた形で、名前のない子たちを自由にデザインさせてもらいました。PEACH

航空の旅客機や乗務員の制服も作りましたね。

ピンクットン

──第27話、ミラーパッドの中にいる妖精も春山さんの担当ですよね。

春山　はい、小川さんのラフ画を元に作りました。仙人とかの変化した姿のほうは、コンテの絵を元に描きました。この回のドアモンスターも、小川さんのスケッチの中にありましたね。『ひろプリ』は、小川さんのラフ画があることが結構多いです。

──ソラのヒーロー手帳の絵（Ｐ.43参照）も担当しているそうですが、作る上での工夫点は？

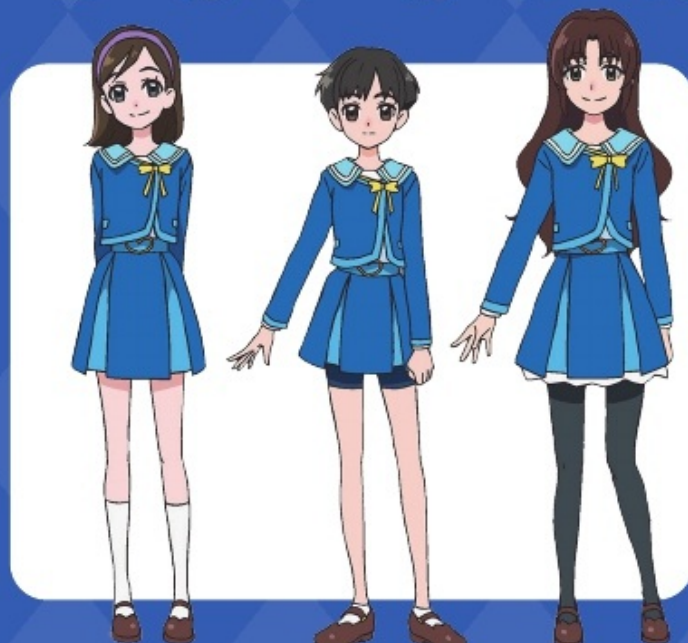
春山　まず悩んだのがソラちゃんの画力ですね。ほかのキャラの描く絵も僕がやることになったので、その差別化もありまして。たぶんソラちゃんは色を塗らずに、ペンだけでその場でササッと描く感じかなと。それで、シンプルな感じにしてみました。ただ、画面に出る時は一瞬のことが多いので、パッと見て分かりやすい絵にするよう努めました。

──第16話であげはが描いたイラストも春山さんが？

春山　ええ、タブレットで描いた紙芝居の絵を担当しました。あげはさんは大人なので、僕が普段描いている感じで描きました。かつ、保育士を目指しているので、小さい子向けの絵柄だろうなと。ツバサくんが描く絵も僕が担当しました。航空力学を勉強している子なので、おしゃれなデザイン系の絵柄をイメージしました。

──ましろの絵本の絵を描く際は、どのように？

春山　これまでのましろさんはあんまり絵を描いてこなかっただろうから、第20話では色鉛筆の落書きレベルです。でも絵本作家を目指すということで、第34話ではもう少し上達させました。今後どのくらい上達するか、見守ってもらえればと思います。あとは、キョーボーグにも引き続きご注目いただければと。まあ、彼らの活躍というかヤラレぶりは、今後もいつも通りだと思います！（笑）

ソラのクラスメイト（男子）

ソラのクラスメイト（女子）

4人の夏私服を紹介！

AGEHA from Director

実は努力の人

「あげはは自分の理想をまっすぐに追い求めるタイプです。また、年上としてカッコいいところを見せたい気持ちもあります。その結果、第19話では軽く張り切りすぎてしまいましたが、そんなふうに陰でちゃんと努力している人でもあるのだと、きちんと見せたいと思いました。それと、ツバサとのコンビ感ですね。第11話も二人の話でしたが、第19話はその延長線に位置する話としても考えました」

キュアプリズム
虹ヶ丘（にじがおか）ましろ

周囲の勧めもあり、気軽な気持ちから、市が主催する絵本コンテストに挑戦。賞はとれなかったが、心の中には大きな手応えがあった

▶プリホリでの仕事着

キュアバタフライ
聖（ひじり）あげは

みんなと生活し始めた当初は、ちょっぴり頑張りすぎだったところも。全員で協力することで、暮らしがますますアゲアゲになった！

MASHIRO from Director

“挑戦する気持ち”のバトン

「優しさというのは目に見えないものですが、何かと交わることで形になります。最初は、ましろは先生を目指すというプランもありましたが、優しさを可視化する素材としてはむしろ創作活動がはまるんじゃないかと。ましろがリレーにチャレンジした第17話は、独立したお話として作っていたのですが、その“挑戦する気持ち”は、第17話から第20話へとうまくバトンをつなげられた気がします」

ガール

プリキュアの4人＋エルちゃんでの共同生活がスタート。最年長のあげはは少し張り切りすぎたようで、年下のツバサにも気遣われてしまったり……。そんな二人の心の交流が、コンビ技「タイタニック・レインボー」へとつながった！

ましろは、これまで夢らしい夢を持っていなかったが、自分で考えたストーリーで絵本を描いてコンテストに出品。これが自分の「やりたいこと」への第一歩へとなった。そして、ツバサは自分の夢に行き詰まって悩んでいたが、これまで空を飛ぶために続けてきた勉強が決して無駄にならないことに気がついた。

こうして、各々が日常の中で少しずつ変化と成長を重ねていく中、ソラにとって大きな試練が訪れる。憧れのシャララ隊長が、バッタモンダーによってランボーグ化されて現れたのだ。

単に浄化しただけでは隊長を元には戻せない。心が折れたソラは、一人スカイランドへと帰ってしまう。だが、ソラの復活を信じて待つ、ましろの気持ちに心を打たれたソラは、その想いにこたえて立ち向かった。見事シャララ隊長を救い出し、もっともっと強くなることを宣言する！

ソラは運動部的なサッパリした子に

──小川さんにとっては、長年の念願叶っての『プリキュア』のシリーズディレクター就任だと思います。今作で特にやりたいと思ったことは何ですか？

小川　僕は久々に『ヒーリングっど♥プリキュア』から絵コンテで関わり出して、それまではしばらく、半分外野から『プリキュア』を見ていました。その時に思ったのが、キャラクターの感情でストーリーが動く作品にしたいなぁということです。たとえば去年の『デリシャスパーティ♡プリキュア』なら、「ごはんは笑顔♡」といった、メッセージを表す決めゼリフがありましたよね。もちろんそれはそれですばらしいと思うのですが、逆にメッセージに縛られすぎない作品にしてみてはどうだろうかと考えました。シリーズ構成を『プリキュア』に携わってこなかった金月龍之介さんにお願いした理由もそこにあります。相手の論破や自己主張ではなく、なるべくシンプルにキャラ中心に動かしていきたくて。

──そんなソラたち4人のキャラ性に関して注意していることは？

小川　ソラが丁寧口調なのは、金月さんのアイデアです。運動方面に優れているけれど、礼儀正しい好印象の人物として「です／ます」調で、運動部的なサッパリした感じになるようにと。

──確かに、変身しなくても戦えるくらい強いですよね。

小川　とはいえ、人間離れしすぎないようには注意しています。学校ではアスリート扱いですが、なんとか抑えた見せ方にはしているんですよ（笑）。ソラは本当に分かりやすく作れたので、キャラクターのチェック等で苦労している点はないですね。誰が動かしても（どのスタッフが演出・作画しても）ソラになるキャラクターになったと思います。

──ましろはソラとコンビなので、典型的なおとなしいタイプの子かと思ったら、そうでもなくて。

小川　ソラはフィジカル激強なのにメンタル面では未熟と濃いので、おとなしいだけの子が相方じゃ対抗できなそうだなと（笑）。だからましろは心が強い女の子です。多少のピンチでも、優しさで包み込んでスッとかわしちゃう。相当に厳しい状況に放り込まないとブレないんですよ。そこで第17話は、ましろが一番苦手であろう運動をぶつけて、彼女の感情を動かすエピソードにしてみました。

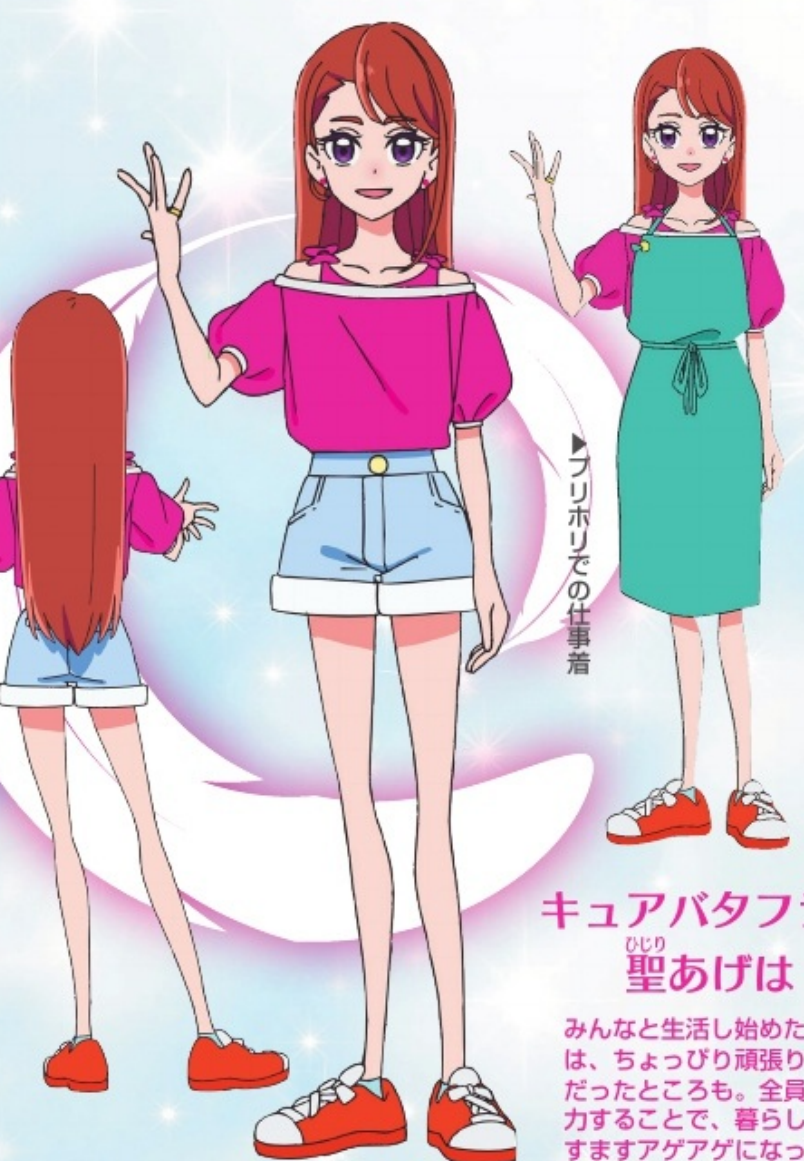
──ましろは第20話では絵本作りに挑戦しました。この絵本はエルちゃんに向けたものでしたね。

小川　アニメでもマンガでも何かの商品でも、あらゆるものは「受け手」が存在して初めて成立します。そのためには、相手を想う優しさが必要になってくるんです。言葉じゃ伝えきれなかった譲り合う心を、物語にして絵本に込めたことで、エルちゃんにも感じてもらえたということです。

──ツバサは、プリキュアの最年少です。ただ、あまり弟分的な印象はないですね。

小川　弟ってわけではないですね。むしろツバサには、歴代のピンクの匂いを裏テーマ的に忍ばせています。初変身の第8話、第9話は「誰かを守りたい」という気持ちでドラマを作りましたが、これは『プリキュア』の一番基本である心の動き方です。そこから逆算して、キャラ

エルちゃん
プリンセス・エル

玩具を「譲り合う気持ち」が理解できずに不機嫌になったことも。ましろの描いた絵本から、譲り合いは「楽しい」につながると知る

ひろがるスカイ！プリキュア

毎週日曜日 朝8時30分
ABCテレビ・テレビ朝日系列
HP http://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/

カッコよくてかわいい！　タイタニック・レインボー

新アイテム「ミックスパレット」を使った、キュアウィングとキュアバタフライのコンビ技が登場。ウィングは火の鳥のような勇猛な姿に変わり、背にバタフライを乗せて颯爽と飛行。そこから巨大なプニバード姿にポンと変わり、相手を頭上からヒップブレスするギャップが楽しい！

キュアウィング
夕凪（ゆうなぎ）ツバサ

プリキュアとして飛行できるようになり、今までの勉強は何だったのかと感じてしまう。だが蓄えた知識が戦いの場で見事に役立った

キュアスカイ
ソラ・ハレワタール

シャララ隊長がランボーグにされて衝撃を受ける。自分の未熟さに、長年のヒーローへの憧れも色褪せてしまうが、ましろからの手紙で再起する

TSUBASA from Director

日々の頑張りは裏切らない

「第９話で空を飛ぶことを叶えてしまったツバサが、そこからどうするのか。第９話ではソラという人間を知って信じたことで、彼の世界がひろがって飛べました。ならばその続きとして、これまで地道にやってきた研究が新しい夢へとつながり、世界がひろがっていく話にしようと。積み重ねてきた勉強にはちゃんと価値があるのだと、日々の頑張りを肯定したい気持ちで作ったのが第 21 話です」

SORA from Director

仲間の友情を信じて

「ソラが節目節目で敵と対峙することでお話が転がっていく構成を組んでいるのですが、第 22 話、第 23 話の敵は、ここまでで最も強い敵でした。筋としてはシンプルで、『浄化と同時に回復をかければシャララ隊長は救出できるはず』という作戦です。ただ、それをソラが受け入れられず、心が折れてしまう。だけど、ましろを通して、仲間の友情を信じられたから、一歩進むことができました」

立ち止まるなヒーロー

4人それぞれが自分自身を見つめ直す中、ソラに訪れた大きな試練。しかし、信じて待っている人がいる限り、何度だって立ち上がれる！

シリーズの縦軸はソラの成長物語

シリーズディレクター 小川孝治

性としては少し落ちついた中性的な雰囲気に収まりました。

――ツバサは勉強家で、第21話もそれゆえの葛藤でした。

小川　『ひろプリ』全体の裏テーマとして「知ることで世界がひろがる」というのがありまして。企画の初期は「知は力」とも言っていました。「空のひろがり」と「ヒーローガール」、そして「知識や人とのつながりで世界がひろがっていく」という意味での「ひろがる」なんです。ツバサはその「知ること」の部分をかなり担っていて、たとえば第９話ではソラのことを知って信じたからこそ、世界がひろがって飛べたんですね。

――４人目のあげははどうですか？

小川　描く際は、偉そうになりすぎないように気をつけています。エルちゃんを含めた他の４人より成熟している分、まっすぐ正しいことを言うので。でもそれが変に説教くさく聞こえないようにと。

――あげはが子どもっぽい面もあるのは、そうしたバランスからきていたり？

小川　そうですね。もともとお姉さんキャラが一人欲しいと思っていたんですよ。でも歴代のお姉さんタイプのプリキュアは、おとなしい子か知性的な子かミステリアスな子で。なので今回は、観ている子どもたちが親しみを感じつつ、「憧れの存在」感も両立するようなお姉さんにと思いました。明るいんだけど軽薄にならないように注意しています。

どん底に堕ちた気持ちを引っ張り上げるには

――第22話、第23話はソラの挫折とそこからの復活劇です。ここで新たな技、たとえば４人技が生まれたりするのかなとも思ったのですが。

小川　どん底に堕ちたソラの気持ちを再び変身できるまで引っ張り上げるには、すごいエネルギーが必要なわけです。生半可な言葉でソラが立ち上がっては、物語が嘘になると思いました。ソラの気持ちを変化させるには、やはりましろと育んだ友情の力しかない。そうなると、４人技はちょっと出なそうかな……と。

――そして第23話でましろがソラの心を動かすわけですが、直接説得するのではなく、手紙に託して信じて待つのが心憎いです。

小川　手紙としては、ソラを追い詰めてしまうような文章ではあったんです。でも最後の「じゃあまたお手紙書くね。わたしのヒーローさん」で、〝友達としてのましろの飾らない優しさ〟が、〝ソラの絶望〟をギリギリ上回ったかなと。第23話は自分の絵コンテ回でしたけど、ここでソラが立ち上がる理屈に嘘がないように、何度も感情の動きを検証しながら描きました。「本当にこれでソラは気持ちを新たにできるのか？」と。

――『ひろプリ』は４人チームですが、「ソラとましろ」「ツバサとあげは」の２組のコンビという印象が強いです。

小川　２組それぞれでバディ感が出せればと。３人目のプリキュアが第９話、４人目が第18話と結構先になることは早くに決まっていたんです。となると、初期はスカイとプリズムだけで展開することになり、この二人でペア感が出来上がりますよね。ならば間を置いて加わるウィング、バタフライもペア感を出したほうがいいんじゃないかと。キャラ性としても、ソラとましろで対になるように考えていますし、ツバサとあげはは男性と女性、少年とお姉さん。さらに性格も真逆にしました。そうやって対にしたほうがドラマも作りやすいですからね。

――『ふたりはプリキュア』を意識してではないんですね。

小川　ええ、そこまで意識はしていないです。OPの手をつないでいる二人とか、「アップドラフト・シャイニング」で手をつないでの技発射くらいでしょうか。「プリキュア」シリーズを20年もやっていると、歴代のどれかと似た部分は必ず出てきてしまうので、「これはあれのオマージュだ」とか思ってくれているかもしれませんが……。とはいえ、第７話でカバトンが雲を見てパンを連想するカットは、『デパプリ』で空にレシピッピが浮かぶシーンを意識しました。誰も気がついてくれなかったので、そこは主張させてもらいます（笑）。

――（笑）。最後にファンへのメッセージをお願いします。

小川　シリーズの縦軸はソラの成長物語です。ことあるごとにソラが「私は未熟」と言っているのは、彼女の心がまだ成熟しきれていないからです。それがある程度成熟するまでが『ひろプリ』の物語になると思います。つまり、心も身体も強くならないと乗り越えられないような困難が、この先に待っているということです。もちろん、夏休みということで、楽しい話もお届けしていきます。皆さんの心に届くように、毎週もがいて作っていますので、楽しんで観てもらえると嬉しいです！

毎年恒例のボーカルアルバムがいよいよ発売。
声優ソングだけでなくシンガーたちによるイメージソングの数々も、
なかなかに多彩なラインナップ！

でひろがる！

夜明けの歌で新時代へ！

石井あみ×Machico

頼もしい仲間と一緒に持てる力で歌い切る！

――お二人は9歳違いだそうですね。

Machico（以下M） そうなんです、驚きの差ですよ（笑）。吉武（千颯）ちゃんより年下だなんて！

石井 吉武さんは、とても頼りになる先輩です。

M 『ひろプリ』は、あみちゃんと吉武ちゃんが二人で引っ張っていますよね。キャリア的にも年齢的にも、吉武ちゃんがあみちゃんの「お姉ちゃんポジション」になっていることが感慨深くて！

――吉武さんはずっとプリキュアシンガーの妹ポジションでしたものね。

M まっすぐに育ってくれて、もう嬉しくて。もはや母の目線です（笑）。

――そんな吉武さんや北川理恵さんも一緒に歌った、イメージソングの「Daybreak song」についてお聞きします。この曲はとってもMachicoさん好みな感じがしますが（笑）。

M はい、すごく好きです！（笑）この歌は、下から底力で上げていく感じなんです。私がプリキュアシンガーとして成長できたことの一つとして、自分の低音域が安定してきたというのがあるんですよ。そこを活かしつつ、力強く歌えたらと思ってレコーディングしました。

石井 タイトルの意味は「夜明けの歌」ですけど、「新しい時代の歌」にも感じられました。とにかく曲がカッコいいんですよね。先輩方はカッコよく歌われるんだろうなと思ったので、「どうしよう！ 頑張らなきゃ！」って感じでした（笑）。北川さん、Machicoさんと歌わせていただくのはこれが初めてなので、夜明けにふさわしく、自分の新しい一面で、挑戦という意味も込めて歌おうと思いました。

――全体的に意識したことはどんなことですか？

M 私の収録は2番目で、先に録っていた理恵さんの声をうっすら流してもらって、共に戦っていく感じで歌ったんです。「仲間の力が加わると百になる！ それがプリキュア！」という気持ちでいたいなと。その一方で、各々の輝きも出せればと。よきライバルでもあるみんなに負けない気持ちを持って、「私の持てる力で歌いきるんだ！」という感じもありました。

石井 私は言葉一つ一つに感情を込めて、それを「解放する！」イメージで歌いました。この曲をレコーディングする時は、ブースのエアコンを18℃くらいにしてもらって。そうでないと熱く（暑く）なってしまうので、体温対策も込めて（笑）。

M キンキンだね（笑）。ヒートアップしすぎないように？

石井 そうなんです（笑）。歌詞の一番最後が「私たちの夜明けの輝き 届け彼方まで」なんですが、そこでイメージが膨らんだんです。私たちにしかできない色を出す。そして「4人の中の一人として歌うんだ！」って気持ちで、この部分は特に力を込めて歌いました。プリキュアらしさもあって、すごく好きな部分です。

M 私が初めてプリキュアシンガーとして参加したのは『ヒーリングっど♥プリキュア』前期ED主題歌「ミラクルっと♥Link Ring！」ですが、今回の「Link して」とか「生命の温もり」って歌詞が嬉しかったです。『ひろプリ』の楽曲ではありますが、そんな歴代のシリーズを感じさせるフレーズもちりばめられているんです。一つの作品にとらわれない立ち位置の楽曲にという意図もあるそうで、それを今から仲間に加わったあみちゃんと一緒に歌えたのも嬉しくて。

石井 完成した楽曲は、先輩方と二人ずつで歌うところが多かったので、一つ一つ噛みしめつつ、興奮もしながら聴きました。3人の先輩方に「さあ、行こう！」って引っぱってもらっているようで嬉しかったです！

歌よりも掛け声に個性が出やすい!?

――「Try Try Try」は石井さんと吉武さんのデュオですが、こちらはいかがでしたか？

石井 吉武さんとは、ここでもご一緒できる嬉しさがありました。吉武さんと一緒に歌っているイメージが浮かぶような、キラキラしたかわいらしい素敵な曲だなって。レコーディングは吉武さんが先で、私は吉武さんが隣にいるような気持ちで歌いました。

――お気に入りのフレーズは？

石井 私、吉武さんのソロパートの「確かな吉兆」がすごく好きで、何回も聴いちゃっています！「吉兆」と書いて「よかん」と読むのもおしゃれだし、吉武さんの歌い方にワクワクする気持ちのニュアンスが入っているんですよね。私のパートだと、最初の「空はGood Job!」が気に入っています。なんだかグッジョブに歌えた気がしました（笑）。この後に「ぴかぴかな朝」って歌詞が来るので、朝のキラキラしている輝きを表現しようと思いました。

――石井さんバージョンの「シェアして！プリキュア」も収録されますね。

石井 初代の五條真由美さんから北川さん、そしてMachicoさん、吉武さんとバトンをつないでいる曲なので、頑張って歌いたい気持ちが強くなりすぎてしまって、レコーディングはすごく緊張しました。でもプロデューサーさんから「聴いている人をワクワクさせるような気持ちで歌ってごらん」と言われたことで一気に緊張が解れて、「ここも、あそこもワクワクしてもらいたい！」という想いが膨らみました。

M 私としても、「シェアして！プリキュア」を受け継いでくれて嬉しいです。私も初めて歌った時はすごく緊張したなぁと、今あみちゃんの話を聞いていて思い出しました（笑）。あみちゃんの歌は、OP主題歌の「ひろがるスカイ！プリキュア ～Hero Girls～」を聴いた時に、空を包み込むような澄み渡っている声だなって感じたんです。

石井 （照れ笑い）

M それがこの「シェアして！プリキュア」にもすごく出ていますよね。

――とてもよく分かります。

M それと掛け声の部分！ そこは私は結構「はっちゃけちゃえ！」って感じでやったんです。でもあみちゃんは、ちょっと穏やかでかわいらしい感じの声で言っていて。掛け声って歌以上に、その人のパーソナルなところが見えると思うので、ぜひ皆さんにも聴き比べてもらいたい！

――キュアバタフライにちなんで、石井さんがこの曲で〝アゲアゲ〟になる部分は？

石井 「ホッとしてグッとくる 友がここに居る」の部分です。吉武さんと二人で5月のリリイベで歌った時に、吉武さんが、お互いに拳を伸ばして触れ合う感じの振りにしてくださったんです。私、すごく感動して。その気持ちをレコーディングでも伝えたいって思いましたし、聴くたびにあのリリイベの記憶が蘇ってきてアゲアゲになります！（笑）

――最後に、ボーカルアルバムを楽しみにしているファンへのメッセージをお願いします。

M 私もがっつり歌っている「Daybreak song」は、アルバムの中で異色だと思うんです。一つだけロック調ですし。仲間との熱い絆や、壁を乗り越えていく力を感じてほしいです。声優の皆さんが歌っているキャラソンも、それぞれのキャラらしさ全開の素敵な曲ばかりです。そういうコントラストも楽しんでくだされば と思います。

石井 私は今回、主題歌2曲とイメージソング3曲の計5曲、歌わせていただきました。どの曲にもいろいろな気持ちを詰め込みましたので、たくさん聴いて、「プリキュア」の世界を味わってもらいたいです。

聴いている人をワクワクさせるような気持ちで

いしい・あみ
9月14日生まれ／bransic所属／『ひろがるスカイ！プリキュア』主題歌にてメジャーデビュー。今年3月に洗足学園音楽大学・声楽科を卒業

歴代のシリーズを感じさせるフレーズも

まちこ
3月25日生まれ／広島県出身／スタイルキューブ所属／声優としての出演作品は『ウマ娘 プリティーダービー』（トウカイテイオー）、『アイドルマスター ミリオンライブ！』（伊吹 翼）ほか

7月19日発売 『ひろがるスカイ！プリキュア』ボーカルアルバム ～FLY TOGETHER!!!!!～
https://www.marv.jp/titles/mc/10593/

★10月21日（土）開催の「ひろがるスカイ！プリキュア LIVE2023 Hero Girls Live ～Max ！ Splash ！ GoGo ！～」先行抽選応募券も封入
https://www.marv.jp/special/precure_live/

歌

声優によるキャラクターソングと、シンガーのイメージソングを収めた「『ひろがるスカイ！プリキュア』ボーカルアルバム～FLY TOGETHER !!!!! ～」が7月19日に発売される。

イメージソングでは、直近3シリーズで主題歌を務めた、石井あみさん、北川理恵さん、Machicoさん、吉武千颯さんが熱唱する「Daybreak song」に注目。ロックな曲調だけでなく歌詞もハードで攻めたナンバーだ。4人を熟知する井上洸プロデューサー（マーベラス）が、ミックスダウンの際に歌い分けを決めて、それぞれのソロバージョンから編集したという。完成楽曲での絶妙な歌い分けには、シンガーたちも感激。各ソロバージョンは10月21日開催の「ひろがるスカイ！プリキュアLIVE2023 Hero Girls Live ～Max！Splash！GoGo！～」のスペシャルCD付きチケットで手に入れることができるので、こちらも要チェックだ。

吉武さんのソロ曲「ワンダービート」も、これまでになかったシティポップ調で大人びた雰囲気が魅力的。石井さんと吉武さんのデュエット曲「Try Try Try」は、『ひろプリ』前期ED主題歌「ヒロガリズム」につながるイメージもある正攻法な一曲。『ひろプリ』の世界を耳でも楽しみ、その世界を心にひろげよう！

虹の架け橋のようなカラフルなアルバム 吉武千颯

チャレンジすることを恐れない気持ちで

──「Daybreak song」は、石井さん、Machicoさん、北川さんとの4人曲ですね。

吉武　この4人で歌う楽曲があるって聞いた時、すごく嬉しかったです。「うわ、熱いっ！」って（笑）。曲調も熱いロックでカッコよくて、「プリキュア」が大好きな4人がそろったらどんなパワーが出るのか、想像するだけでも楽しみでした。完成した曲を聴いた時は、それぞれ歌い方が違っていて、それぞれの良さが重なっている曲だなって思いました。

──歌い分けも細かいですよね。

吉武　ソロでつなぐだけじゃなく、二人ずつになったりして。その組み合わせも様々で、本当にエモい！　早くライブで歌いたいです！

──好きなフレーズは？

吉武　「手を伸ばせ 愛をつなげ」ですね。すごくプリキュアだなって。それとDメロの「どんな逆風も 幻惑の壁も～」のところ。立ち向かっていく姿を、曲からも歌詞からもすごく感じました。それからサビの「心のずっと奥で ひとつになれたら～」です。まっすぐ貫くイメージで、よりカッコいい発音になるように意識しました。

──石井さんとは「Try Try Try」でもデュエットしていますね。

吉武　またあみちゃんと一緒に歌えることが、まず嬉しかったです。あみちゃんと二人だからこそ出せるパワーを感じていただけたらと思います。「ヒロガリズム」を通してあみちゃんと出会って、人柄やいろいろな面を知ってからこの曲をレコーディングできたので、そういった意味でも、一緒に歌える喜びを込めたいなと思いました。

──曲の印象としてはどうですか？

吉武　道を明るく照らしてくれるような楽曲ですね。「簡単じゃないから『夢』と呼ぶんだ 泣いても笑っても 経験した全部で君自身さ」という部分が、自分の中にかなり刺さりました。『ひろプリ』を観ていると、「夢ってなんだろう？」と考えるところも多いじゃないですか。だからこそ、この歌詞にもぐっときました。それと「ぴかぴかな朝」のあみちゃんの言い方がすごく好きです！　最初に聴いた瞬間から、文字通りのぴかぴかを感じました！

──吉武さんはソロ曲の「ワンダービート」もありますね。

吉武　雰囲気としては、楽しさもありつつ優しさもありつつという楽曲です。世界がひろがる感じを意識して歌いました。みんなの「好き」や「憧れ」に対して、サムズアップして「大丈夫だよ！」って後押しするような、気分を上げられるようなイメージです。歌詞にも「ころんだって いーじゃん たまには いーじゃん」ってありますけど、チャレンジすることを恐れないでほしいという想いがすごく感じ取れたので、それをありのままの自分の感情に乗せて歌いました。

──曲調も大人っぽいです。

吉武　そうですね。「プリキュア」楽曲としては新しいジャンルだなと思いました。いつもレコーディングする時は、自分の頭の中で振り付けを作って臨むんです。この曲でイメージしたのは、かわいいよりも、少しウェーブが掛かっている、おしゃれな振り付けでした。今までにない形を想像できたので、すごく楽しかったです。

──「ワンダービート」でのお気に入りのフレーズは？

吉武　「キミが気づいていない キミのいいとこ」というところです。友達の隣で、寄り添って話しているような気持ちで歌いました。それから「がんばるみんなヒーロー!!」って歌詞にもぐっときました。『ひろプリ』を観ていると、ヒーローっていろいろな意味があると感じるんです。敵と戦うだけじゃなくて、周りの人を勇気づけたりパワーを与えたりする人もヒーローなんだなって。

──最後にファンへのメッセージをお願いします。

吉武　本当に虹の架け橋のようなカラフルな内容になっています。このアルバムを聴きながら、今年のプリキュアライブを楽しみに待っていてください。きっとボーカルアルバムからもたくさん披露できると思います。めいっぱい聴いて、楽しんでいただけたら嬉しいです！

「夢ってなんだろう？」と考えさせられます

よしたけ・ちはや
3月28日生まれ／広島県出身／ Apollo Bay 所属／
声優としての活動は『ラブライブ！スーパースター!!』（聖澤悠奈）、『惑星のさみだれ』（星川 昴）ほか

どうにかして立ち上がる想いで 北川理恵

苦しみながらも手を取り合って困難に立ち向かう姿が浮かんだ

歌詞に込められた熱い想いに圧倒された

──今回のボーカルアルバム、北川さんは「Daybreak song」に参加しています。近年のプリキュアシンガーそろい踏みの印象ですが。

北川　最初にメロディを聴いた時に、あまりにもカッコよすぎてビックリしました。ハードロックというかメタルみたいな感じで。それをこの4人で歌うとなった時に、「こりゃ、お姉さん頑張らないと！」って（笑）。

──やはりここは大先輩の貫録を？

北川　そんなぁ、「大」はつけないでください。それに先輩風は吹かしていませんよ（笑）。レコーディングは私がトップバッターでした。一曲通してソロで歌う形で収録して、しかも「北川さんの思う通りにどうぞ」みたいなことで。だから、どういう方向性で歌っていくのかから模索しました。

──全体的にシリアスで重めな歌詞ですが、どう思いましたか？

北川　この歌、結構すごい歌詞だと思うんです。だって「色んな不条理に暮れるけど 理想は理想のままで 守りたくて」とか「全霊飛翔 信じるか次第」とか……。苦しみながらも手を取り合って、困難に立ち向かう人たちの姿が浮かんだんです。何かに何度もぶつかって、挫折を繰り返した人間の歌なんだろうなと感じて。

──大人の人ほど、この歌詞が染みるかもしれません。

北川　そうでしょ？　作詞したマイクスギヤマさんの想いも込められている気がします。これまでと同じような「プリキュア」ソングに対する取り組み方だと、この歌には太刀打ちできない気がして。それで、歌詞にじっくり向き合って、私なりに研究してからレコーディングに臨みました。そうしたら、現場には作曲の高木洋さんもいらしていたんですが、「歌い方、変わりました？」って言われたんです。私はそれが嬉しくて！

──これまでも七色の歌声と言われてきた北川さんの、また新たな一面が。

北川　歌い続けていると、どうしても自分の限界を感じる時があるんです。また同じになっちゃったかな、とか。でも、「どうにかして立ち上がってみせるんだ！」という、この曲と同じような気持ちでレコーディングできた気がしました。まだ私にも新しい引き出しが作れるのかもしれない。伸びしろがあるのかもしれない。そんなふうに思える一曲になりました。

──ひろプリライブのスペシャルCDに収録される、北川さんのソロバージョンも楽しみです。最後に、ライブへの意気込みをお聞かせください。

北川　私は「プリキュア」のイベントやライブが結構久々で……。コロナ禍の3年で、私の「プリキュア」に懸ける想いも強くなったと思うし、この3年での成長を自分らしい形で持っていきたいです。ライブで客席の皆さんの顔を見て、熱気を受けて、そして声優の皆さんと一緒にパフォーマンスをすることで生まれる熱量が、今はすごく楽しみです。「とにかくお祭りを一緒に楽しもう！」って伝えたいです。だから、客席との掛け合いができるような曲をいっぱいやれたら嬉しいですし、子どもたちの笑顔も楽しみです。キャストやシンガーみんなの想いが詰まっている、年に一回のお祭りだから、大切に大切に準備していきたいです！

きたがわ・りえ
11月25日生まれ／千葉県出身／オフィス・エイツー所属／
ミュージカル女優としても活動。近作に朗読劇「アサガオの雫」、ミュージカル『天使にラブ・ソングを～シスター・アクト』ほか

SPECIAL COLUMN 02

ヒーローの想いを歌い継ぐ

待望の「ひろプリライブ」は20周年にふさわしい豪華ラインナップ。歴代シンガーも加わった計13人で、TV＆映画＆ボーカルアルバムからの計29曲を披露した。

ひろがるスカイ！プリキュア LIVE2023 Hero Girls Live 〜 Max ！ Splash ！ GoGo ！〜

HP✦https://www.marv.jp/special/precure_live/
✦2023年10月21日(土)昼夜２公演
✦パシフィコ横浜 国立大ホール
✦公演 Blu-rayは2024年２月16日(金)発売

『ひろプリ』につながる20年の歩みがここに！

「ひろがる青空公演」「ときめく夕空公演」の昼夜２回行われた「ひろプリライブ」。ここでは「ときめく夕空公演」をレポートしよう。

オープニングを飾るのは、もちろん石井あみさんの「ひろがるスカイ！プリキュア ～ Hero Girls ～」。ここに北川理恵さんとMachicoさんがコーラスとして登場。実はレコーディング音源のコーラスもこの二人なので、それを生で体験できるというご褒美だ。曲の最後で吉武千颯さんや声優陣も合流して、一人ずつご挨拶。

続いては声優陣によるキャラソンコーナーがスタート。関根明良さん（ソラ・ハレワタール役）の「全力ヒーローガール！」、加隈亜衣さん（虹ヶ丘ましろ役）の「わたしリフレクション」からの、二人のデュエット「空虹ダイアリー」。一緒に歌いながらベンチに座って顔を合わせたり同じポーズを取ったりする、尊すぎるコンビ感たるや！

ソラ＆ましろの後はツバサ＆あげはのターン。村瀬歩さん（夕凪ツバサ役）の「風読みバード」、七瀬彩夏さん（聖あげは役）の「あたたかいあたりまえ」と続けて披露。そのまま二人のデュエット「未来コネクト」へ。ステージ上の高低差を活かした立ち位置で、少しずつ距離を縮めて向き合うなど、また違うコンビ性を強く感じさせた。

キャラソンでのトピックが、これが初お目見えとなるキュアマジェスティ／プリンセス・エルのキャラソン「おんなじ、だいじ」。ピュアながら力強い歌を、古賀葵さんが歌い上げる。間奏でのエルの愛らしいセリフには会場もメロメロ！

『キボウノチカラ～オトナプリキュア'２３』でリユニオンしたキュア・カルテットのスペシャルコーナーでは、『ふたりはプリキュア』から『Yes！プリキュア５GoGo！』の主題歌を、五條真由美さん、うちやえゆかさん、工藤真由さん、宮本佳那子さんが熱唱（レポートはアニメージュ12月号参照）。そこから、北川さんやMachicoさん、吉武さんが『ヒーリングっど♥プリキュア』から『デリシャスパーティ♥プリキュア』までの直近の主題歌を続けざまに歌いつなぐ。

吉武さんの大人っぽいソロ曲「ワンダービート」の後には、『映画プリキュアオールスターズＦ』の快活なＯＰテーマ「For "F"」。この石井さんとMachicoさんの息の合ったデュオからの、吉武さん、Machicoさん、北川さん、宮本さんの映画挿入歌「All for one Forever」。ハードでエネルギッシュな歌声を響かせた。

五條さんと宮本さんの歌声も熱い「リワインドメモリー」の後は、シンガー８人そろい踏みでの「キラキラkawaii! プリキュア大集合♪～よろこびの音～」。各世代のコールが入る合いの手が、今回は『ふたりはプリキュア』～『５GoGo！』と『ＨＵＧっと！プリキュア』～『ひろプリ』のコールになっており、最後に「ひろがるスカイ！」が聞こえた時は鳥肌＆感涙もの！　また、前半のリードボーカルは主に五條さんが担当し、後半は８人による〝世代の交歓〟を意識した凝った歌い分けになっていたのも、往年のファンには嬉しい限りだ。

そして「CLAP！～勇気を鳴らせ～」は、今回は北川さん、Machicoさん、吉武さんのトリオでの歌唱で、見せ場のラップパートも３人でつなぐという、ぐっとくるアレンジ。間髪入れずに石井さんが戻ってきて４人で「Daybreak song」。炎を焚くステージ演出がロックな楽曲の雰囲気を強調していた。

再び声優陣が登場して、爽やかで明るい「FLY TOGETHER!!!!!」。古賀さんを加えた、来年１月末発売のボーカルベストに収録されるHalation Ver.を初披露。入れ替わりで、シンガー８人が歌う「シェアして！プリキュア」。オリジナル曲は五條さんの歌唱だったが、今回は最年少の石井さんがメインボーカルという感慨深い形だ。

ラストは吉武さんの『ひろプリ』後期ED主題歌「Dear Shine Sky」。Ｄメロから北川さん、Machicoさん、石井さん、最後のリフレインは声優陣、シンガー勢ぞろいの大団円。

オーラスとなるアンコールは、『ひろプリ』前期ED主題歌「ヒロガリズム」。石井さんと吉武さんがはつらつと歌うバックで、他のシンガーたちや声優陣が客席に向かってどんどんボールを投げ入れていく。客席にも降りてお客さんのリアクションに応えたりと、ステージとの一体感も最高潮に！　リフレインは声優陣、シンガー全員で歌って、スペシャルな時間を締めくくった。

ステージからはけていく際、トリを務めたのは関根さん。深々とお辞儀をしてからの、キュアスカイらしいヒーローガールパンチを力いっぱいに決めていた。

声優チーム
関根さんをセンターに、ボーカルベスト収録の「FLY TOGETHER!!!!! ～Halation Ver.～」での５人の歌唱。各キャラをイメージした衣装をまとい、シンクロ度合いもばっちりだ。合間のMCでは村瀬さんがお兄さん的まとめ役で、劇中とのギャップが面白い!?

シンガーチーム
今年のライブはシンガーパートが充実しており、中でも「キラキラkawaii! プリキュア大集合♪～よろこびの音～」(20周年バージョン）の登場は一番のサプライズだ。石井さんから五條さんまで、世代を超えた８人が、歌い終わりで集合してかわいく決めポーズ♪

ひろがるスカイ！プリキュア

毎週日曜日 朝8時30分
ABCテレビ・テレビ朝日系列
HP http://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/

未来への架け橋

7月2日から後期EDアニメーションが放送中。前期EDと合わせると、一日が一周するという仕掛けになっているそうだ。

『ひろがるスカイ！プリキュア』のED演出は、昨年のCG短編映画『わたしだけのお子さまランチ』を手がけた山元隼一監督が担当。CGプロデューサーの野島淳志さん（東映アニメーション）によると、同作での山元さんの並々ならぬプリキュア愛が依頼の決め手になったそう。

山元さんは作画アニメ畑のクリエイターなので、今回も一般的な全カットコンテが用いられ、CG映像ではあまりないような作りもあちこちに見られる。CGの実制作はコラットが担当、振り付けは近年おなじみのCRE8BOY（クリエイトボーイ）だ。

前期ED「ヒロガリズム」ではソラたちの日常感が描かれており、「スカイ＆プリズム」「ウィング＆バタフライ」それぞれのペア感も推されている。映像モチーフとしては文房具で、グラフィカルでありつつアナログ感もある、ポップな処理がかわいらしい。

後期ED「Dear Shine Sky」は夜のシチュエーションで、全体的におしゃれで大人びたテイストだ。星空やイルミネーションのきらめく美しさが印象に残る。また、プリキュアがミニチュアサイズで机の上で踊ったり、ラストできれいな虹が出現したりと、前期EDとの共通要素で統一感が生み出されているのも特徴だ。

前期ED「ヒロガリズム」

友達とのつながりは宝物

シェアハウス内（前半パート）から、屋外の雲のステージ（後半パート）へ移動する際、スカイとプリズムが二人で作るハートにズームインするワイプが一つのポイント。「ここの歌詞は『そこにみんながいるミラクルはタカラモノ！』。つまり、友達とのつながりこそが宝物ということ。二人でハートを作るという振り付けは『宝物』を象徴したものだろうと理解したので、そこで場面を切り替えることで印象的に見せました」（山元）

カラフルなビー玉ステージ

冒頭のステージはソラの机に作られた星空のジオラマ。実際の映像では背景はぼやけているので、イメージ空間的にも見える。足元のキラキラした色とりどりの球体はビー玉。夜のシーンだが、暗くなりすぎずファンシーなテイストを出すために用いられている。前奏のバレエ調の振り付け（放送では第22話のみ）がオルゴールのバレリーナ人形のように見えたことから、「机の上でミニチュアのプリキュアがくるくると舞う感じ」（山元）をイメージしたそう。夜も更けた頃に、机の人形が目覚めて踊り出すような雰囲気だ。

後期ED 「Dear Shine Sky」

ビー玉ステージ（プリミティブな CG を元に描いた背景画）

キュアスカイ CG モデル

キュアプリズム CG モデル

ミラーパッド CG モデル

キャラに合わせた背景とフレーム

前期・後期共にソロパートは、各キャラに関連した場所が背景に（後期は各自の部屋）。キャライメージに合わせた手描き感あるフレームも使われている。フレームの絵素材はイラストレーターのおおぬきかおりさんが作成。前期の画面分割で使われるフリーハンド的なラインも、おおぬきさんが描いたものだ。

ミラーパッドを効果的に

本編でのアイテム「ミラーパッド」に歴代プリキュアの映像をはめ込むというのは、髙橋Pからのオーダーの一つ。そこから山元さんが辿り着いた演出が、プリキュアがパッドと同じサイズになって踊るというもの。「ミニサイズのプリキュアが自分の家のテーブルにいたりしたら、夢があっていいなぁと思って。特に前期は文房具を見せるというのもあり、その点でもうまくハマってくれました。身体が小さいと、本編と同じ場所でも見え方が全然違ってくるのも楽しいかなと」（山元）

どんどんひろがる「プリキュア」の可能性

前期・後期ED 絵コンテ・演出 山元隼一

文房具をモチーフにアナログの温かさを

――昨年の『わたしだけのお子さまランチ』に続いての『プリキュア』のお仕事ですね。

山元　昨年、映画の試写が終わってすぐくらいに、「来期のTVのED映像を前期・後期ともお願いしたい」と野島さんからお話をいただきました。「プリキュア」にまた関われることになって嬉しかったです！　番組プロデューサーの髙橋麻樹さん（東映アニメーション）からお願いされたのは、前期EDは「日中から夕方。ソラがソラシド市に来て、ましろと一緒に思い出を作っていく日常感で」。そして後期EDは「夕方から夜を経て、夜明けまでのイメージのダンスナンバーです」とのことで。楽曲は最初の打ち合わせ時に2曲ともできており、2曲を合わせて一日を描くという、大まかな方向性を提示していただきました。

――「プリキュア」のEDダンス映像は、子どもたちのダンスのお手本という側面もあるのが特徴ですよね。

山元　そうなんです。振り付けには立ち会っていませんが、ある程度は映像で全身を映すように心掛けました。ただ、単純なお手本映像ではなく、踊っている場所の変化なども出し、飽きさせないようにしたいなと。それと表情芝居ですよね。プリキュアが楽しそうに踊っているのを観て、子どもたちが「私も踊りたい！」と感情移入してもらえるように。

――前期EDの映像モチーフは？

山元　『ひろプリ』はペンやノートなどがキーアイテムだと聞きまして。さらに「子どもたちが友達に手紙を書くきっかけになるような作品にしたい」とも髙橋さんから聞いたので、それならばモチーフは文房具だろうと。手紙って残るものだし、関係性を象徴するツールでもあるので素敵だなと。文房具らしく、手描きっぽいアナログ感、温かで手触り感のある表現で攻めていこうと考えました。

――「スカイとプリズム」「ウィングとバタフライ」のペアで見せるカットも多いです。アップショットの画面分割もありますね。

山元　初代『ふたりはプリキュア』のようなバディ感を出したいという話がありまして、そこを明確に見せるなら、画面分割がいいだろうと。ずっと引きのショットで踊るとメリハリがなくなりそうだったので、アップショットも交えて、映像としてのリズムを作りました。振り付けにもペアの動きが取り入れられていたので、映像も振り付けとの相似形にしています。

――手元アップのインサートも印象的です。指は頭上や足元などを差しており、「スカイランドの人たちも地上の人たちもみんな友達」といった意味合いだそうですね。

山元　手首をくるくる回転させる指差しの振り付けで、動き自体も印象的ですよね。せっかくなので、お客さんの目にも残るように、クローズアップで大きく見せました。

――サビから雲の上に飛び出すのは、作品的に「空」がモチーフだからでしょうか。

山元　そうですね。それに曲名も「ヒロガリズム」だし、空は自由を象徴する場所だし。そうなると、雲の上の天空ステージが楽しいかなと。ここでの空は、夕方になりかけです。冒頭部分もオレンジ寄りですが、実は朝焼けなんです。朝から始めて昼を挟んで、サビは放課後。4人のキャラカラーが全部混ざった感じで、きれいでいいなと思いました。

――最後は虹で締めますが（P.69下）、その前振り的に、デザイン的な鳥が虹のラインを描くのが素敵です。

山元　空が作品モチーフなので、最後は虹を作りたいと思ったんです。そこで、ポリゴン的な鳥がカラフルな線を描いて飛び、それが虹になるとカッコいいなぁと。たとえるなら、アクロバット飛行のスモークがカラフルな虹になったイメージです。

――ラストのスカイのウィンクと星のエフェクトもキャッチーです。

サビのエンブレムステージ

前期・後期ともに、サビから登場する円形ステージ。配された歴代のエンブレムは、20周年ならではの系譜感やお祭り感を出したいという山元さんのアイデア。後期はエンブレム自体も光るなど、よりはっきり印象付けている。後期ED曲がダンスナンバーというところから、夜のライブステージ的に作られた。「歴代の先輩たちが20周年をお祝いしているイメージです。後期はアゲアゲでキラキラなレーザービームにして印象を変えてみました」（山元）

前期ステージ CG モデル

後期ステージ CG モデル

スカイミラージュ CG モデル

キュアバタフライ CG モデル

キュアウィング CG モデル

巨大な虹が出現！

「ステージのエンブレムの光は上空に向けて発射されていますが、歴代プリキュアのエネルギーが集まり、最後に大きな虹になってドーンと降り注ぐイメージです。虹は次世代のプリキュアへの架け橋であると共に、未来や夢を連想させるものでもあります。雨で憂うつな気分になっても、雨上がりにはきれいな虹が出る。明日はもっと面白いことがあるかもしれない。虹って人生の象徴みたいだなと思うんです」（山元）

山元　CGアニメーターとの打ち合わせ時に提案してみました。イラスト調の星にしたのは、文房具モチーフとの統一感です。ファンシーグッズ的な星がラストにくるといいかなと。アニメーターさんが付けてくれたスカイの表情芝居もいい感じですよね。

紙飛行機が象徴する不確定な未来

――後期EDは夜空やイルミネーションがモチーフのようですが。

山元　そうですね。キラキラした雰囲気にしたいなと。「明日も楽しいことがあるといいな」といった歌詞なので、楽しかった今日が終わる少し寂しい気持ちや、明日へのわくわくした期待感が出ればと。星空に思いを馳せているイメージですね。子どもって、「今日はこんなことがあった」と毎日が発見の連続で、「明日は何が起こるんだろう、何が待っているんだろう」という、一日一日の楽しみの乱数が高いと思うんです。大人よりも「今」の持つ意味が強く、一日の体験度合いが大きいですよね。そんな「明日への希望」をテーマにした映像です。

――後期EDも、またアブノーマルな色味のカットがありますね。

山元　「夢見て またね」から曲の雰囲気が変わるので、そこで一回アブノーマルな色味に切り替えて映像のテンポを変えています。作画アニメではよくやる手法ですが、CGアニメではあまりやらない、少し実験的な試みです。前期でやってみたらよかったので、後期はもう少し長めの尺にしてみました。それから歴代のエンブレムも、背景にただ壁紙的にあるよりは、撮影処理で流れる動きを入れて、イメージ背景になじませる感じにしたくて、それも加味してこういう色味になりました。プリズムの後ろに『ヒーリングっど♥プリキュア』のエンブレムが来るように、ちゃんと計算して合わせてあるんです（笑）。

――加隈亜衣さん（キュアプリズム役・ラビリン役）つながりってことですね（笑）。

山元　歴代エンブレムは、背景の小道具などにも忍ばせています。ちょっとした絵探し絵本的に見つけてくれたら面白いかなと。

――サビへの切り替えで、紙飛行機が現れて虹色の光跡を描きます。

山元　紙飛行機って、自分の意志で空に飛ばすものだけれど、どこへ飛ぶのかは分からないものですよね。そういう「未来の可能性」の意味合いで使ってみました。何が起こるか分からない、可能性としての乱数ですよね。それを紙飛行機に託しています。

――終盤の「We're Precure」で、プリズムが右腕をあげる動きに合わせて目線を動かす芝居付けが目を惹きます。

山元　前期EDの最後「青空へとさぁ羽ばたこう」のプリズムのカットと対になる感じを意識しました。実は僕の絵コンテ段階ではカメラ目線だったんですが、前期の時の経験から、表情をある程度豊かにしないと冷たい印象になるということで、このカットを担当したアニメーターさんがアドリブを効かせてくれました。フレーム外で隣にいるスカイを見て、「一緒にいるよ」みたいな関係性も匂わせられたかなと。すごく尊い顔になりました！　空からの光を受けている部分（腕など）は、ほかと線を変えて色トレスにしています。

――後奏部分では、スカイミラージュを振るスカイの表情芝居も絶妙です。少し目を細めて、柔和な印象です。

山元　すごくいいですよね！　これもアニメーターさん独自の芝居付けです。動作としては単純なリピートになるので、うまく表情をつけて、リピート感を減らしてくれました。

――最後にファンへのメッセージをお願いします。

山元　20年間、「変身して戦う」という構造は変えずに、様々なプリキュアが生まれていますよね。20年前から現在まで、毎週日曜の朝に変わらず送り続けて、どんどん可能性がひろがっているのは本当にすばらしいことだと思います。「プリキュア」20年の歴史は、作り手と子どもたちと、かつて子どもだった皆さんとの関係性が作ってきたものです。ED映像からも「プリキュア」の未来へのメッセージを感じ取ってもらえたら嬉しいです。今後も「プリキュア」シリーズを一緒に楽しんでいければと思います。

後期ED主題歌★「Dear Shine Sky」

素敵な明日へ

後期EDアニメーションと共に流れるのは、吉武千颯さんのピュア＆キュートな歌声。心にそっと寄り添ってくれるような、明日への優しい応援歌だ。

吉武千颯

後期ED主題歌である「Dear Shine Sky」は、夕暮れから夜をイメージしたミディアムなメロディ。少し哀愁感のある、シティポップ調の楽曲だ。これまでの「プリキュア」主題歌にはあまりなかった、大人びた雰囲気が特徴である。

歌うのは、「プリキュア」ファンにはおなじみの吉武千颯さん。歌詞には、出だしの「空におまじない〝明日も素敵な日になれ〟」など、ガーリーな要素がちりばめられている。吉武さんのかわいい声質ともマッチしているが、曲調も相まって、いつもの吉武さんの元気な明るさとはひと味違う、おしゃれテイストに仕上がっている。

ただ、あくまでもダンスナンバーということで、ビートの効いたベースラインや、彩りを添えるファンクなキーボードのフレージングもある。要所で入るスクラッチ音など、リズミカルでアッパーな印象だ。フルサイズの間奏部分に、前期ED主題歌「ヒロガリズム」のサビを思わせるメロディを忍ばせているのも心憎い。

★「プリキュア」シンガー5年目での新たな挑戦

――前期ED主題歌「ヒロガリズム」に引き続き、後期ED主題歌も担当となりましたね。

吉武　はい！　1年通して担当できて、すごく嬉しいです。レコーディング自体は「ヒロガリズム」からそんなに間はなくて、2曲とも近い時期に収録しているんです。でも、先に「ヒロガリズム」を歌ったことで、自分の中で作品への理解が深まった気がするので、この「Dear Shine Sky」にもつなげられるよう意識しました。

――曲調としてはこれまでの「プリキュア」ソングと少し違いますね。

吉武　そうなんです。いつものような「元気！」「楽しい！」「みんなおいで！」って感じよりは、包み込むような優しさを感じる曲で。私なりに感じた想いをストレートに歌に乗せるようにしました。聴いている人の背中をそっと押せるような楽曲になったらと。

――吉武さんが歌に込めた想いというのはどんなものですか？

吉武　まず楽曲を聴いて、パッと夜空が浮かんだんです。レコーディング前にプロデューサーさんともいろいろとお話させてもらったんですけど、「ヒロガリズム」がお昼とか午後だとしたら「Dear Shine Sky」は夜。明日を応援するような楽曲にしていけたらと。日々生活していると、楽しい一日もあれば、あんまりうまくいかなかった一日もある。それでも、明日がみんなにとっていい日になるようにと、願いを込めながら歌いました。

――これまで吉武さんが「プリキュア」で歌ってきた楽曲にはない、大人っぽさがありますね。

吉武　そうですね。去年の『デリシャスパーティ♡プリキュア』では「DELICIOUS HAPPY DAYS♪」というカッコいい楽曲に挑戦して、今年の『ひろプリ』では「ヒロガリズム」で石井あみちゃんとのデュエットに挑戦。そして今回はこれまでにない曲調と、毎回ありがたいです。私は今年で「プリキュア」シンガー5年目なんですが、初期の頃だったら出せなかった表情とか、5年間携わってきたことで感じてきた想いを込めました。聴いてくれたみんなが、少しでも前向きな気持ちになるようにと。

★一人ではできないことも友達とならやれる！

――お気に入りのフレーズは？

吉武　Dメロの「空から見れば砂粒くらい ちっぽけな私たちでもね」から始まる部分は、ソラちゃんとま

8月23日発売
『ひろがるスカイ！プリキュア』
後期主題歌シングル

CD+DVD　通常盤

声優4人が歌う「ヒロガリズム ～Precure Quartet Ver.～」も収録

よしたけ・ちはや
3月28日生まれ／広島県出身／Apollo Bay所属／声優としての活動は『ラブライブ！スーパースター!!』（聖澤悠奈）、『惑星のさみだれ』（星川 昴）ほか

みんなにとって いい日になりますように

しろちゃんを重ねているような感じがしました。一人じゃできないことも、友達とパワーを重ねると、大きなものになって奇跡が起こせちゃう。そんな素敵な歌詞だなぁと想いました。それと全体を通して『ひろプリ』らしく空がモチーフになっているのも好きです。大森祥子さんの歌詞がおしゃれなんですよね。2番のAメロで「紺碧の夜空（ブランケット）は包むよ 傷や涙を」とあるんですが、「夜空」を「ブランケット」に例えるってすごい！

――夜空に包まれるという感覚、分かりますよね。

吉武　それと、この楽曲はサビ始まりで、「Dear Shine Sky 空におまじない〝明日も素敵な日になれ〟」って歌い出しなんです。最初に楽曲のテーマそのものが示されて、そこから終盤にかけて盛り上がっていくのもお気に入りです。

――前号（P.67）のインタビューで、「レコーディングする時は、自分の頭の中で振り付けを作って臨む」とのことでしたが。

吉武　今回もそうです。私、「レコーディング中も動いてるよね」ってよく言われるんです（笑）。基本じっとして歌えないというか。歌っているうちに楽しくなって動いちゃうんですよ。それはおうちで練習してる時からそうで。「Dear Shine Sky」をレコーディングした時は、まだダンスの振り付けがない状態でしたが、私の頭の中で、曲調から感じられる色合いも含め、いろんな想像を膨らませてイメージを作りました。ただ、元気に踊っているというよりは、ちょっと静かなムードで、満天の星の下で腰掛けて歌っている絵が最初に浮かんできました。ダンスの振り付けがどういうものになるのか（※取材時点ではまだ見ていないので）、すごく楽しみです。

――間奏で一瞬「ヒロガリズム」のメロディが入る箇所があるのがニクイですね。

吉武　そうなんです！「おおっ、ここに『ヒロガリズム』が入ってる！」ってわくわくしました。「Dear Shine Sky」も「ヒロガリズム」と同じハマダコウキさんが作編曲してくださっているので、ハマダさんの遊び心から来てるのかな（笑）。「ヒロガリズム」の想いがメロディの形で入っていたので、私としても「想いをつないでいこう！」って気持ちになりました。TVサイズでは間奏は聴けないと思うので、ぜひCDでフルサイズを聴いていただいて、皆さんにも「おおっ！」となってもらいたいです。

――TVサイズだと、サビ前の「昨日より2㎝ 未来へ近づいた私たちで」も、明日につながる感があります。

吉武　そうなんです。すごくおしゃれな歌詞ですよね。おしゃれな要素はメロディの中にもたくさん入っています。間奏ではポチャンという水音があったりと、いろんな音が入っていて楽しいです。どこを切り取っても素敵で、プリキュアらしいキラキラも詰め込まれています。ぜひ隅々まで楽しんでもらえたら嬉しいです。

アニメージュ2023年10月号 再録
魔法つかいプリキュア！
キュアフェリーチェ花海ことは
声／早見沙織
デリシャスパーティ♡プリキュア
キュアプレシャス和実ゆい
声／菱川花菜
ヒーリングっど♥プリキュア
キュアグレース花寺のどか
声／悠木 碧
ヒーリングっど♥プリキュア
ラビリン
声／加隈亜衣
デリシャスパーティ♡プリキュア
コメコメ
声／高森奈津美
映画オリジナルキャラクター
プーカ
声／種﨑敦美
キラキラ☆プリキュアアラモード
キュアマカロン琴爪ゆかり
声／藤田 咲
私たちは
ひろがるスカイ！プリキュア
キュアマジェスティプリンセス・エル
声／古賀 葵
ヒーリングっど♥プリキュア
ラテ
声／白石晴香
ヒーリングっど♥プリキュア
キュアアース風鈴アスミ
声／三森すずこ
ひろがるスカイ！プリキュア
キュアスカイソラ・ハレワタール
声／関根明良
トロピカル～ジュ！プリキュア
キュアラメールローラ
声／日高里菜
HUGっと！プリキュア
キュアアンジュ薬師寺さあや
声／本泉莉奈
映画プリキュアオールスターズF
✦9月15日(金)ロードショー
HP✦https://2023allstars-f.precure-movie.com/
©2023 映画プリキュアオールスターズF製作委員会
STAFF✦監督／田中裕太　脚本／田中 仁　総作画監督・キャラクターデザイン／板岡 錦　美術監督／林 竜太　音楽／深澤恵梨香　アニメーション制作／東映アニメーション

ここにいる

プリキュア20周年を盛り上げるお祭り映画が9月15日にいよいよ公開！謎の世界をさまようソラたちは、仲間の元に戻ろうと大奮闘。想いをつないで立ち上がれ！

★TVアニメ『ひろがるスカイ！プリキュア』は毎週日曜日、朝8時30分、ABCテレビ・テレビ朝日系列にて放送中

スカイチーム

森と渓谷

ソラが出会うのは、朗らかで食べるのが大好きなゆいと、無邪気なエナジー妖精のコメコメ、テンションが高くてやる気満点のまなつ。一同はポジティブ志向で意気投合、ハードな冒険もエンジョイモードだ。そこにツンとした物腰のプリムが加わるが、考えるよりも先に行動するソラたちのペースに、プリムはちょっと巻き込まれ気味。

キュアスカイ
ソラ・ハレワタール

怪物レッサーアークの襲撃を受けたところをサマーとプレシャスに助けられる。『ひろプリ』以外にもプリキュアがいると知ることに

分かれて大冒険！

キュアプリズム
虹ヶ丘(にじがおか)ましろ

離ればなれになったソラを探すべく、行動する。当初は一人で心細かったが、同じく人探しをするローラと出会い、協力を申し出る

プリズムチーム

海に浮かぶ小島

ましろは、まなつを探す人魚のローラと友達になった。そこに、不思議な妖精のプーカをモンスターから凛々しく助けたあまね、おっとりしていながらも芯の強いのどか、そのパートナーのおしゃまなラビリンが次々と加わる。ましろたちは、自由奔放なローラに若干振り回されつつも、プーカを敵から守って旅をするのだった。

4チームに

『映画プリキュアオールスターズ』が5年ぶりに帰ってきた！『ひろがるスカイ！プリキュア』のTV本編に登場したばかりのキュアマジェスティを含め、プリキュアは総勢78人。歴代TVシリーズの全プリキュアに、映画オリジナルのプリキュア・キュアシュプリームも加わり、まさにプリキュアづくしのお祭り映画が開幕する。

ふとソラが目を覚ますと、そこには見たことがない景色が広がっていた。同じくプリキュアである、ゆい＆まなつと知り合うが、どうもみんなの記憶があやふやだ。手がかりを求め、一行は遠くにそびえる謎の城を目指すことにする。同じ頃、ましろたちもそれぞれ見ず知らずのプリキュアと出会い、ソラと同様に城に向かっていたが……。

フォーカスされるのはシリーズの後半世代。ソラたち『ひろプリ』の5人は、『Go！プリンセスプリキュア』から『デリシャスパーティ♡プリキュア』までの各数人と共に、4つのチームに分かれて不思議な世界で旅をする。

監督を務めるのは田中裕太さん、脚本は田中仁さんと、数々の「プリキュア」のTV・映画を手がけてきた名コンビ。総作画監督は〝バンク職人〟としても名高い板岡錦さんで、長年のファンの期待も十分。鉄壁の布陣で、プリキュア20周年を盛り上げる！

キュアウィング
夕凪ツバサ

プリンセスとは離れ離れにならず、ナイトとしては一安心。空飛ぶほうきに驚いたり、はるかを本物のプリンセスと勘違いしたり!?

ウィングチーム

空中庭園

ツバサはエルちゃんと一緒にこの世界へ放り出される。そこにいたのは魔法のほうきで空を飛ぶ、あどけないことはと、穏やかで面倒見のいいさあや。さらにプリンセスを目指しているという明るいはるかとも出会い、行動を共にすることに。5人は花が咲き乱れる空中庭園をお散歩したりして、和やかなムードで旅をする。

キュアマジェスティ
プリンセス・エル

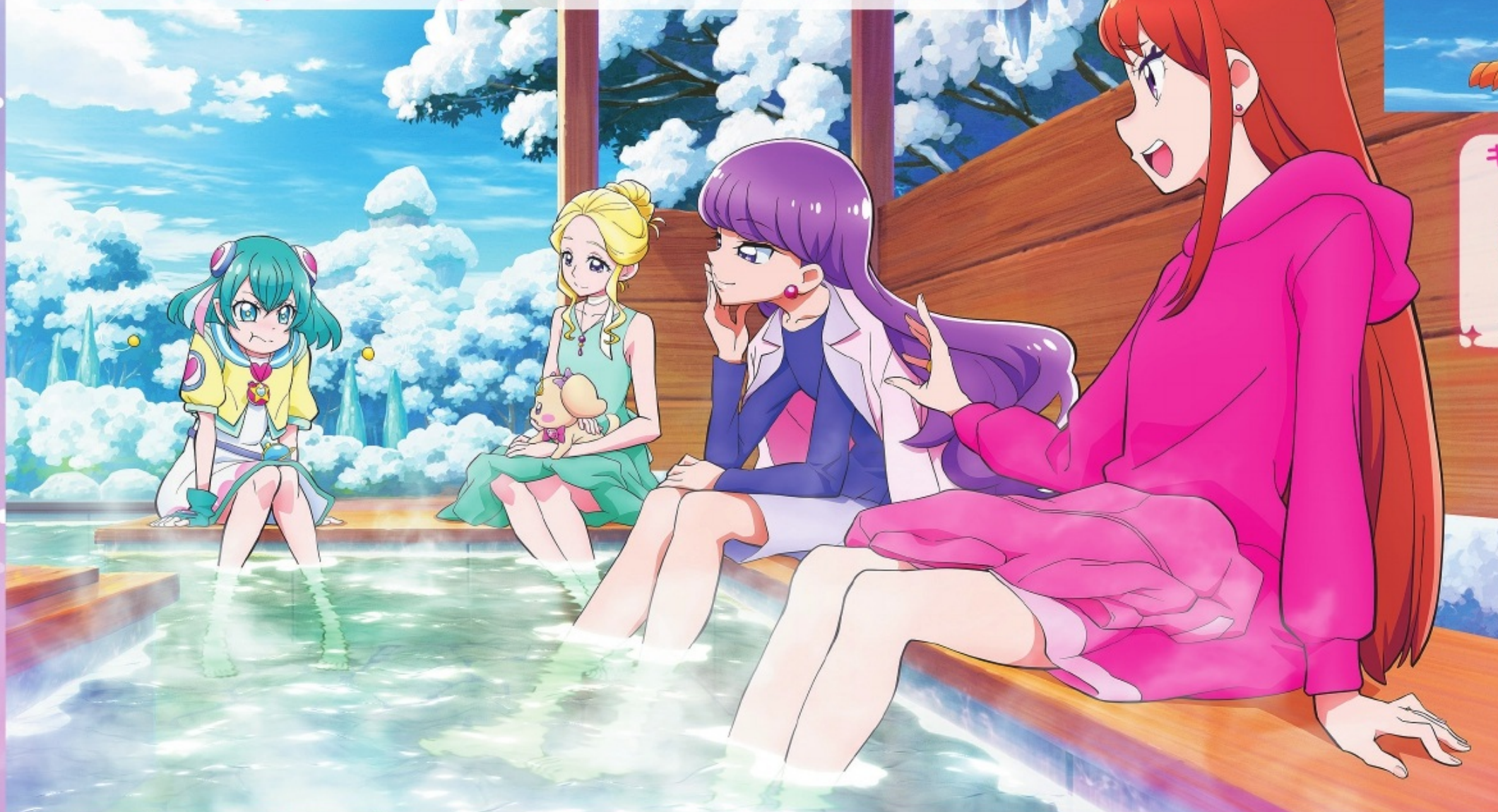
ツバサたちと一緒に、ことはの魔法のほうきで空を飛べて大喜び！出会ったばかりのさあややはるかにも、すぐに懐いてご機嫌モード

キュアバタフライ
聖あげは

なかなか反りが合わず険悪ムードのゆかりとララ。アゲな感じになるように二人の間を取り持とうとするが、これが結構難しそう？

バタフライチーム

温泉

あげはは、真面目な宇宙人のララ、穏やかな物腰のアスミ、彼女といつも一緒のヒーリングアニマルのラテ、マイペースで歯に衣着せぬ物言いのゆかりと出会って、他のチーム同様にお城を目指す。ところが旅の途中で、ララとゆかりは意見が食い違ってバチバチな状況に！　このままチームはまさかの空中分解？

『デリシャスパーティ♡プリキュア』
キュアフィナーレ／菓彩あまね役
茅野愛衣

『トロピカル～ジュ！プリキュア』
キュアラメール／ローラ役
日高里菜

『ひろがるスカイ！プリキュア』
キュアプリズム／虹ヶ丘ましろ役
『ヒーリングっど♥プリキュア』
ラビリン役
加隈亜衣

20周年をみんなでお祝い

撮影＝江藤はんな（P.78 ～ 80、P.87 ～ 88）

ソラたちと離れて逆に絆を感じられた

——今回の映画は、様々なシリーズから集まった4つの混成チームで行動するという変則パターンですね。

加隈　もうびっくりでした。まさか『ひろプリ』のみんながバラバラになるという！　でもその分、新たな出会いがありました。ましろが他の子とどういうふうに会話を展開していくのか、どんな表情が出てくるのか。台本を読んだ段階で楽しみになったし、実際に演じてもすごく楽しかったところです。それに『ひろプリ』のみんなと離れることによって、逆に『ひろプリ』の絆を感じたというか。他のチームの皆さんは、1年通してしっかり関係性を築き上げてきたと思うんですけど、私たちはまだその途中なんですね。それでも固いつながりができつつあるんだと実感できた、今回の映画でした。

茅野　私も、そもそも自分が出演できるかどうかも分からなかったんですが、まずチーム編成に驚きました。予告のアフレコの時に、初めてキービジュアルと4チームのメンバーを知って、「まさか、こんなことに！」って感じで。『デパプリ』チームからは、キュアプレシャスと私とコメコメだけで、寂しくはありました。でも、プレシャス役の菱川花菜ちゃんこと〝ばなな〟が「5000kcalで、スパイシーやヤムヤムの分も頑張ります！」と言ってくれたので、私も負けずに食らいついていこうと思いました。アフレコは私たち3人、くまちゃん（加隈さん）、里菜ちゃんとも一緒に録れたんです。特に里菜ちゃんは、私のプリキュアの先生なので心強かった！

日高　そんなそんな、一世代前なだけなんだけどなぁ（笑）。

茅野　里菜ちゃんは私があまね役に決まった時にとっても喜んでくれて、「プリキュア」のお仕事がどんなにすばらしいか、聞かせてくれたんです。もちろん、『デパプリ』チームのみんなも、画面上にはみんな登場するので、姿を観るだけでもとっても心強かったです。1年通して、私たちも「プリキュア」への想いを積み上げてきたので。

日高　私も、出演できて、皆さんとアフレコできてすごく嬉しかったです。話の内容は事前には知らされていなくて、予告の収録で初めて「え、バラバラ!?」って。ローラが見ず知らずの人たちとどんな関係性を築いていくのか、どんな一面を見せてくれるのかというわくわくが大きかったです。ただ、このプリズムチームのメンバーを見た時には……「あれ、ローラ大丈夫か？」って！

加隈・茅野　（笑）。

日高　ふんわりお上品なメンバーの中に、「おや、一人だけ雰囲気が違う子がいるぞ！」みたいな（笑）。でも、そういった化学変化も『オールスターズ』ならではの見どころです。ぜひファンの皆さんも期待していてほしいと思います。私自身も一ファンとして、早く完成した映画を観たいです。

——先ほど茅野さんの話にもありましたが、3人一緒にアフレコできたのですね。

加隈　そうなんです！

日高　嬉しかった！

茅野　プーカちゃん（種﨑敦美さん）と4人での収録でした。でも、くまちゃんはもっといろいろなメンバーとも一緒に録っていたんですよ。

加隈　私はソラちゃんたちスカイチームの収録にも途中から参加していました。あと、のどか役のあおちゃん（悠木碧さん）とは、ラビリンとして一緒に録れました。掛け合いの多い人同士はできるだけ一緒になるように、スタッフさんも工夫してくださったんです。

——ラビリンとしては、パートナーののどかと一緒にやれて嬉しかったのでは？

加隈　もう本当に嬉しかったです！　やっぱり、のどかの声を聴くと安心するというか、のどかにしかないパワーがあるなぁって。おかげで、私もすぐにラビリンになれたし、あおちゃんも「わぁ、ラビリンだ！」って言ってくれました。それに『ヒープリ』の安見香プロデューサーも収録に立ち会われて、『ヒープリ』チームのぬいぐるみをズラッと並べて「みんなと一緒だよ！」って応援してくれたんです。本当に愛を感じました！

日高　確かに、ちょっと同窓会みたいだったよね。待合室では入れ替わりで収録するたくさんのキャスト陣がいたし、各シリーズのスタッフさんも集まって、とてもあったかかった！

加隈　みんな、真っ先に自分のシリーズのメンバー同士で「ワーッ！」となって。なんて素敵なんだろうと思いました。

日高　今回の映画は『トロプリ』と同じ村瀬亜季さんがプロデューサーなので、私も『トロプリ』メンバーの一人として再会できて嬉しかったです。

茅野　愛がいっぱいだったよね！　そういえば、スカイチームは最初、関根明良ちゃん（ソラ役）が少し緊張気味だったみたいで。

加隈　そうなんです。スカイチームは朝から録っていて、私は昼から合流だったんです。現場に入ったら「亜衣さん〜！」ってパタパタ駆け寄ってきて。いつもは優しい笑顔の明良ちゃんが、その日は緊張して、なかなか力を発揮できていなかったみたいで。私と会ってリラックスしたのを見て、プロデューサーさんたちが「やっといつものソラに戻りましたね」って言っていました。

日高　いいお話！

加隈　でも、それなら私も朝から行けばよかったなぁ、なんて。そういえば里菜も、「ファイちゃん（まなつ役・ファイルーズあいさん）に会えるかな？」って言っていたよね。

日高　そう、それで私、ちょっと早めに入ったんです。ファイちゃんは変わらず「あ〜、お疲れっ！」ってサバサバしていて（一同・笑）。まなつ本人に言われたみたいで、「そうそう、この感じだ！」ってなりました。

加隈　キャラの違いが出るね。

日高　それぞれの色があるからね。

茅野　私のほうも、ばななが待っていてくれて、二人で写真を撮りました。それと安見さんは『デパプリ』のプロデューサーでもあるんですが、ブラペとマリちゃんも一緒の大きなアクリルスタンド……キャラクターデザインの油布京子さん描き下ろしの感謝祭のグッズなんですけど、それをトロフィーみたいに渡していただきまして。アクスタを背に置きながら、一緒に収録に臨みました！

うさぎ！

ラビリンとしては、のどかと掛け合えて嬉しかった！

かくま・あい
9月9日生まれ／福岡県出身／マウスプロモーション所属／『青のオーケストラ』（秋音律子）、『デキる猫は今日も憂鬱』（柴咲ゆり）ほか

ひろがるスカイ！プリキュア

ふわりひろがる優しい光！

キュアプリズム
虹ヶ丘（にじがおか）ましろ
私立ソラシド学園2年。料理や自然についての知識もたくさん持っている

ヒーリングっど♥プリキュア

ラビリン
うさぎ型のヒーリングアニマルの女の子。勝ち気で正義感の強い元気っ子

F！

いつになく、ちょっとお茶目なあまねが見られます

かやの・あい
9月13日生まれ／東京都出身／大沢事務所所属／『自動販売機に生まれ変わった俺は迷宮を彷徨う』（フィルミナ）、『無職転生 〜異世界行ったら本気だす〜』（シルフィエット）ほか

デリシャスパーティ♡プリキュア

ジェントルにゴージャスに、咲き誇るスウィートネス！

キュアフィナーレ
菓彩（かさい）あまね
私立しんせん中学校3年。面倒見が良く、みんなに慕われる生徒会長

プーカへの接し方にそれぞれの個性が

――プリズムチームで演じてみて、メンバーの関係性についてどのように感じましたか？

加隈　TV本編でどのキャラも知ってはいたんですけど、いざ会話をしてみると、『トロプリ』って濃いなぁ！」というのを肌で感じました。

日高　あはは！（笑）

加隈　ましろは、最初にローラと会話をするんですけど、それがこれまでにないやりとりなんです。「こんなましろの表情があったんだ！」みたいなところを引き出してくれて。『ひろプリ』でも『ヒープリ』でもなかった感覚を味わいました（笑）。

日高　『トロプリ』といえば、ギャグっぽい表情かなと（笑）。いつものましろはふわっとした優しい印象だけど、映画ではローラと一緒に目をまん丸にして驚いたりしています。一緒に合わせゼリフもやれて、楽しかった！

加隈　次に出会うあまねさんは、しっかり者のお姉さんです。チームとしてガンガン引っ張っていく担当はローラで、あまねさんは冷静にみんなを見渡す担当でしたね。だけど、ちょっとボケ担当でもあって。クールボケみたいな？（笑）

茅野　そうそう。ちょっとお茶目なあまねが見られます！（笑）

日高　あまねは高貴なイメージだけど、ローラはそういうのを気にせず、マイペースに水をバシャバシャってかけたりしていました（笑）。

茅野　このチーム、一見バラバラのようで、メンバーのバランスがいいんですよね。私（あまね）がボケで、ましろがツッコミで。

加隈　そう。ツッコミの私（ましろ）と、さらに意見ズバズバ系のローラと（笑）。

日高　はい、意見ズバズバ系です！（笑）

茅野　そして癒やしの人（のどか）がいて。

日高　ね～。のどかは変わらずね！

加隈　のどかは全部包み込んでくれる感じがありますよね。ましろも優しい子ですし、相手のことを思っての行動ができる子ではあるんですけど、のどかはすぐに行動に移せる、聖母のような人だなと思いました。この4人だからこその、互いを補い合える感じがしましたね。

茅野　あと、私たちのチームにはプーカがいたから、プーカに対する行動にも性格が出ているなぁって！

日高　そう、接し方がね！

加隈　プーカに寄り添う人もいれば、鷲づかみにする人もいて（笑）。

日高　はい、鷲づかみはもちろんローラです！

茅野　プーカは訳があって、誰とも手をつなごうとしないんです。それでましろが困っているとローラがね。

日高　首をヒョイと掴んで「行くわよっ」って（笑）。

茅野　「えええ!?」って感じ（笑）。あまねはプーカとの直接的な触れ合いはあまりなかったんですけど、言葉で支える感じでしょうか。冷静に「気にするな」って言える子なので。それと、フィナーレの登場シーンはプーカを守って怪物と戦うところなので、か弱いものを見過ごせないというあまねらしい正義感が、プーカの存在によって感じられました。

加隈　プーカを守っていることで、「この人はいい人なんだ」と分かるみたいな。そこで連帯感が生まれた感じはありますね。

茅野　プーカを守りたいという気持ちは一つでも、みんなの優しさの表現が違うというのが面白かったです。

守ってあげたいプーカ　ミステリアスなプリム

――種﨑敦美さん演じるプーカの印象はどうでしたか？

茅野　謎の存在なのに、かわいかった～！

加隈　鳴き声が「プカ」なので、ましろがプーカって名付けるんです。バックボーンも何も分からずに出会う子なので、収録前はどういう感じになるんだろうかと思っていたんですが、ざきさん（種﨑さん）のお芝居がもう、息継ぎすらプーカで！

日高　なかなかすごかったよね！

加隈　それを本人に伝えたら、「息継ぎが自分っぽくなっちゃったかと思ったけど、ならよかった」って。何をおっしゃいますやら、すばらしいお芝居でした。俄然「守らなきゃ」ってなったよね？

日高　うん、なったなった！

茅野　特に私たちは同じチームだから、より愛着が湧きましたね。

加隈　映画の重要なキャラクターなので、どんな子なのか皆さんも気になっていると思うんですが、まずはかわいさを堪能していただければと！　ちょっと頼りなげで、表情もずっとシュンとした感じなんですけど、そこもまたかわいくて。

――もう一人の映画オリジナルキャラクターは、坂本真綾さん演じるキュアシュプリームです。

加隈　とにかく謎の多いキャラですよね。温度もあまり感じられないというか。キービジュアルを見た時、「プリキュアっぽいけど異質だよね」という話をみんなでしていて。色味も溶け込んでいるようでちょっと違って、特別感があるというか。

茅野　私と里菜ちゃんは収録が別だったんですよね。芝居が想像できないのもあって、まったく未知の存在という感じがしています。

日高　台本を読んだだけだと、どんなふうにアプローチしてくるのか、表現してくるのかが掴めなくて。だから真綾さんの演技を含めて楽しみなキャラです。

茅野　でも、絶対素敵なお芝居だと思うので、映画が完成するのが楽しみすぎます！　くまちゃんは一緒に収録できたんだよね？

加隈　はい、半分くらいは一緒に収録できました。もう、真綾さんのキュアシュプリームは、想像の余地が膨らむ絶妙なラインで！　何度も見返したくなるくらい味わい深いキャラクターだなと思います。ミステリアス度合いがたまらなく好きになったし、キュアシュプリームという存在についての考察も止まらないです！　私もファイちゃんも真綾さん好き勢で、アフレコ現場ではそんな二人がそろっていたので……（笑）。

茅野　ファンの集いみたいになっちゃったのね（笑）。

加隈　キュアシュプリームのセリフで「あい」ってワードが出た時、ファイちゃんが自分の名前を呼んでもらえたみたいに噛み締めていたって真綾さんに話していて。それで「私も『亜衣』です！」ってアピールしたり。

日高　ただのファンじゃん！（笑）

茅野　いいなあ、私もその場にいたかった。「愛衣」って呼ばれたい！（笑）

加隈　それで「この現場、『あい』が多いですよね」って話をして……真綾さんを困らせたかもしれないですけど（笑）。そんな愉快な会話もある、楽しい収録でした。

――では加隈さん、最後にファンへのメッセージとして、プリズムチームの注目点をお願いします。

加隈　ああ、いっぱいある～（笑）。このチームだからこそ、お互いに出た表情とか、「このチーム、とってもいいね！」というのを自信を持ってお届けできます。もちろん、大変な目にも遭っていますけど（笑）。各チームの物語が並行して描かれていくんですが、「このシーンとこのシーンの間に、こんなことがあったのかな」と想像できるようなカットもあるので、ぜひ細かいところも何度も観てもらえると嬉しいです！

夢をつないで！

お上品なメンバーの中に、一人だけ雰囲気が違う子が!?

ひだか・りな
6月15日生まれ／千葉県出身／Star Crew所属／『シャングリラ・フロンティア～クソゲーハンター、神ゲーに挑まんとす～』（エムル）、『盾の勇者の成り上がり』（フィーロ）、『ソードアート・オンライン』（シリカ）ほか

トロピカル～ジュ！プリキュア

ゆらめく大海原（オーシャン）！

キュアラメール　ローラ

人魚の国・グランオーシャンからやってきた人魚。ちゃっかり者の自信家

優しさのチームワーク！

★座談会は次号（P.90～）に続きます。お楽しみに！

力を合わせて戦うスカイチームとプリズムチーム！ シリーズを越えたチームワークバトルは『オールスターズ』ならではだ

監督 田中裕太「プリキュアとは何か」あらためて考える

たなか・ゆうた
1981年生まれ／東映アニメーション所属。『Go！プリンセスプリキュア』シリーズディレクター。『映画プリキュア』の監督としては今作が3作目

記憶を失った状態でみんなと出会い即席でチームを組んでいきます

スカイチーム

プリズムチーム

ウィングチーム

バタフライチーム

20周年の後半世代の総ざらいとなる映画に

――2016年の『映画魔法つかいプリキュア！ 奇跡の変身！キュアモフルン！』、2019年の『映画スター☆トゥインクルプリキュア 星のうたに想いをこめて』に続き、20周年記念映画の監督を務めることになったわけですが。

田中裕太（以下、裕太） 2023年の秋映画については、実は結構早くから相談を受けていたんですよ。それこそ、現場の村瀬亜季プロデューサーや脚本の田中仁さんに声がかかる以前から。ただ、その段階ではまだ何も企画が固まっておらず、『オールスターズ』という話もなくて。自分は「プリキュア」の秋映画の監督はもう2回やっているので、普通にやってもあまり変化が出ないなぁと思っていたんです。それで「自分にできる映画って何だろうか」と考えた時、冠として「20周年」があったので、「20年の歴史のうちの後半約10年の総ざらい」みたいなのだったらアリかなと思いました。

――今回の4チームが、『Go！プリンセスプリキュア』以降の面々で固まっているのはそういう理由なのですね。全18世代のプリキュアの後半9世代集合ということで。

裕太 最初は『キラキラ☆プリキュアアラモード』以降の春映画みたいな「直近3世代の映画」にするという案もあったんです。ただ、その方式ももう何度もやっていて新鮮味はないので、そこからもうちょっと広げるくらいのイメージで、自分のほうから「後半世代の映画」の案を出してみました。そうしたらOKが出たので、じゃあ正式に監督の仕事をお引き受けしようかなと。

――名称としては「オールスターズ」ですよね。宣伝コピーにも「復活！全プリキュア大集合!!」と謳われています。

裕太 78人みんなで『オールスターズ』をやるなんて無理です、という話はしていました。ただ、実際に企画を進めていくうちに、「ここまで

キュアマジェスティ誕生！

9月3日放送の『ひろプリ』第31話で姿を現した、5人目のプリキュア・キュアマジェスティ。紫が基調の色合いやスカートの雰囲気、ぱっつん前髪に緑の瞳など、エルちゃんに通じる要素を感じさせる。Majesty（威厳）というネーミングも、王国のプリンセスらしい豪華さだ。映画だけでなく、TV本編の活躍からも目が離せない！

映画オリジナルキャラクター
キュアシュプリーム プリム
声／坂本真綾
ソラ、ゆい、コメコメ、まなつが出会うプリキュア。クールなタイプで、どことなく不思議な空気感がある

出すなら、もう少し他のキャラも……」みたいなことを言う人が出てくるわけで、それでキャラがじわじわと増えていって。そうなるともう結局『オールスターズ』なのかなぁ、と（苦笑）。そんなわけで、最初から「20周年で全員集合します！」と言って立ち上がった企画ではなくて、気がついたら『オールスターズ』になっていたんです（苦笑）。

——裕太監督といえば『HUGっと！プリキュア』第37話のオールスターズ回（絵コンテ・演出）が印象深いです。今回は後半世代をフィーチャーということなら、そことの差別化の意識はそれほどなかったわけですね。

裕太　差別化というよりも、モデルケースとして『HUGプリ』第37話の経験があったおかげで、なんとかやれるかもしれないと算段が立てられたところはあります。戦いの最後のシーンは、あれに近いことをやるだろうなという感じもあったし。あれをやっていなかったら、さすがに78人は手に負えないと尻込みしたかもしれないです。もっとも、『HUGプリ』の時は、自分で風呂敷を広げてしまったんですけどね。あの全員アクションのシーンは、本来は全然脚本になくて、勝手に絵コンテで描いたら直されなかっただけなので（笑）。

映画オリジナルキャラクター
プーカ
声／種﨑敦美
ましろ、ローラ、あまね、のどか、ラビリンと行動を共にする、不思議な生き物。「プカ」としか喋れない上に、どこか内向的な雰囲気でもある

プリキュアチームを4つ作るイメージで

——今回は、『ひろプリ』チームがバラバラになって、歴代の面々とシャッフルチームを組んで旅をする内容ですが、これはどのように？

裕太　わりと早い段階から、その方向で話を作ろうと考えていました。シリーズ単位で行動すると、キャラ数が多すぎて出番もセリフもとても扱い切れないので、キャラ数を絞るしかない。現行の『ひろプリ』以外は一人か二人に絞って、その選抜キャラに各シリーズの特徴やテーマを背負ってもらえればと。

——『トロピカル～ジュ！プリキュア』の人魚ローラや『スター☆トゥインクルプリキュア』の宇宙人ララのように、主人公以外の子がそのシリーズを特徴付けていることもありますしね。

裕太　主人公同士の話だけでなく、面白いキャラも出して、少し変化も加えたいなぁと。一度に画面に出せる人数には限界があるので、本筋で扱うシリーズをなるべく平等にしたいと思ったんです。

——各シリーズの具体的な人数配分としては？

裕太　『デリシャスパーティ♡プリキュア』から『ヒーリングっど♥プリキュア』までは二人ずつ、『HUGプリ』から『Go!プリ』までは一人ずつです。メンバー選抜にあたっては、二人一緒でないと変身できないプリキュアは、残念ですが外させてもらいました。

——『HUGプリ』のえみるとルールー、『魔法つかいプリキュア！』のみらいとリコですね。

裕太　『まほプリ』のみらいが外れるとなると、「後半世代の主人公が全員いる」というルールができなくなるので、別の切り口でまとめる必要が出てきました。それで主人公や色をバラけて配置して、バランスのいい形になるようにと。それと、せっかくの『オールスターズ』ですから、シリーズの垣根を越えたプリキュアの絡みを見たいというのもありました。もちろん、今までの映画でもありましたが、そこを「ドラマの軸」にしたものは意外とない気がして。今再び『オールスターズ』をやるにあたって「新しい切り口」はなんだろうと考えた結果、もうそこしか残っていないだろうと思ったんです。実際にメンバーの選抜をどうするか考えるのはものすごく大変でしたが、コンセプトとしては、「一つのプリキュアチーム」を4つ作るイメージです。だから4チームともピンクのプリキュアが必ず一人いるようにしています。

——それで言うと、バタフライチームのピンクプリキュアは？

裕太　ずばり、バタフライです。キャラカラーとしてはピンクなので。最初はもっと明確に、キャラの属性でのチーム分けを考えたんです。でもそれだと、意外と話が広がらず、出会った時のインパクトだけで出オチみたいになりそうで。それで、「この子とこの子なら話が膨らみそう」みたいなことを考えながら、キャラクターを絞り込んでいきました。もちろん、脚本の田中仁さんが加わってからも、多少の入れ替えがありました。脚本を作っていく中で、「こう入れ替えたほうが面白いな」みたいなことがたびたび起こり……。結果、属性で一番きれいにまとまって

プリキュアはかわいくて熱くてカッコいい!!

プーカ役
種﨑敦美

たねざき・あつみ
9月27日生まれ／大分県出身／俳協所属／『ダイの大冒険』（ダイ）、『SPY×FAMILY』（アーニャ・フォージャー）ほか

——プーカ役として出演が決まった時のお気持ちは？

種﨑　プリキュア、プリキュアの妖精、プリキュアの敵役……と、「声優ならいつか演じてみたい役柄」というのは誰しもいくつかあるかと思うのですが、そのうちの一つ「プリキュアの妖精」の声を担当できるなんて……！　と、とても光栄で嬉しかったです。

——プーカのデザインを最初に見た印象をお聞かせください。

種﨑　タレ目というか困った顔というか、ぱっちりじゃないおめめがとっっってもキュート。心なしか頼りなげな手の位置なんかも個人的にツボで、最高にかわいいと思いました。

——プーカの推しポイントはどこになりますか？

種﨑　どこかずっと心細そうな仕草や表情が本当にかわいらしくて、何度もキュンキュンしました。「プカプカ」としか話さなくても、たくさんの感情が表情からしっかり伝わってきて、お芝居もしやすかったです。アニメーターさんがすばらしいお仕事をされていると思います。

——「プカ」というセリフで感情を表すために意識したこと、工夫したことは？

種﨑　台本のト書きもとても細かく書いてくださっていましたし、表情も本当に細かく動くので、セリフが「プカ」しかないことで特に何かにつまずくこともなく、収録もスムーズだったと思います。台本の「プカプカ」というセリフの横に、言葉だとなんて言ってるかを自分なりに書いて、それを喋っているつもりで演じました。

——アフレコ時には、田中裕太監督からどのようなお話がありましたか？

種﨑　いただいたどの言葉も軽くネタバレになりそうなので、ここはひとつ「秘密」ということで。でも、それほどに重要なキャラクターだと思いますので、すべてを楽しみにしていただけたら嬉しいです！

——劇中でプーカが行動を共にする、プリズムチームの面々の印象は？

種﨑　ましろは真面目で、どこまでもまっすぐで素敵でした。あまねは朗らかで包み込んでくれるような優しさが素敵でした。ローラはツッコミ上手で、愉快なのにしっかり者で素敵でした。のどかは優しさの中にもしっかり意志の強さがあって素敵でした。そしてラビリンは、見た目も声もすべてがかわいくて素敵でした！

——この映画のもう一人の重要キャラ、プリムの印象をお聞かせください。

種﨑　一番感じたのは「純粋さ」でした。元があまりに透明だから、何色にもなれる。特別に見えますし、実際に特別かもしれないのですが、当たり前のものを当たり前に持っている子だとも思いました。

——種﨑さんから見て「プリキュア」シリーズの印象はいかがですか？

種﨑　かわいくてキラキラで、女の子の憧れがたくさん詰まっている作品という印象でした。今回初めてしっかり作品に関わらせていただいて感じたのは、かわいさはもちろんなのですが、その印象の何倍も熱くてカッコいい……!!　ということでした。なので現状、私のプリキュアの印象は「激アツかっこいい」です。

——映画でのプリキュアの注目ポイントを教えてください。

種﨑　ローラ役の日高里菜さんが「そっか、今いつも通りにツッコんじゃったけど、相手はまなつじゃないから、いつも通りのツッコミだとちょっと強いんだ……！」という気づきからお芝居を変えられていたんです。それを見て、プリズムチームに限らずだと思いますが、初めて会う子同士の絡み方や接し方、細かい変化は注目ポイントだなぁと思いました。それがプーカも合わせて「全キャラ分」あるだなんて、見どころしかないですね……！

——映画公開直前、楽しみにしているファンへのメッセージをお願いします。

種﨑　「プリキュア」シリーズが大好きな方はもちろん、シリーズに触れたことがない方でも、大人も子どもも楽しめる映画になっているのではないかと思います。公開まであともう少し！　「F」って何でしょうね……？　ぜひ劇場でお確かめください……！　どうぞよろしくお願いいたします!!

いるのはバタフライチームかもしれません。「大人チーム」ということで。
——ララは故郷では成人済み設定ですし、アスミも外見は大人ですもんね。ほかのチームの特徴としては？
裕太　スカイチームは「主人公」でそろえています。プリズムチームは、キャラとしての厳密な共通性はありません。最初は「主人公の相棒チーム」で考えたんですけど、それだけだと話がうまく回らなくて、あまねとのどかも入れて、少し調整しました。
——ウィングチームは？
裕太　ツバサとエルちゃんがいるので、「プリンセスと騎士と赤ちゃん絡み」です。さあやは育児つながり、はるかはプリンセスということで。はるかは当初、プリズムチームでローラと組ませるつもりでした。キュアマーメイド以外の人魚プリキュアと出会わせたいと思って。だけど、それだとまさに出オチになってしまって、以降の話が全然転がらなくて（笑）。むしろプリンセス要素があればツバサと組めるし、さあやとも自分の夢の話ができるだろうし。ということでウィングチームがうまくはまりました。

復活！ミラクルライト

コロナ禍を経て３年ぶりに復活した、入場者プレゼントのミラクルライト。その名称もズバリ「復活！ミラクルライト」だ。史上初となるブルーとピンクの２種展開で、全国 70 万個限定でランダム配布される。色は「ブルー＝キュアスカイ」「ピンク＝キュアプリズム」の意味合いでもあり、劇中では、初代『ふたりはプリキュア』から連綿と受け継がれる「つなぐ」の想いを可視化したものとして使われるそうだ。この２色の輝きが、プリキュアにどんな奇跡を起こすのか !?

プリム&プーカとのロードムービーに

——この映画のテーマとしては、どんなものになるのでしょう？
裕太　これは最初から決めていたのですが、「プリキュアって何？」です。「プリキュア」シリーズも20年やっているうちに、かなり多様なものになってきましたよね。設定だけを見ても「普通の人間の女の子」じゃない子もいっぱいいます。さらに今年は、のぞみたちが大人になったTVアニメ『キボウノチカラ～オトナプリキュア'23～』や、オリジナルの男性プリキュアだけで構成する舞台作品「『Dancing☆Starプリキュア』The Stage」といった企画もあります。これらに関しては自分もまったく知らされていませんでしたが。「プリキュア」の定義が曖昧になってきた今、あらためて「プリキュアって何だろうか？」というのを問いかける映画にしたいなと、当初からぼんやりと考えていました。普通は映画を作る際、まず企画サイドの「やりたいこと（テーマ）」が提示されるんですけど、今回はそういうのがなかったので、「どういう映画にするのか」から、自分も一緒に考えたんです。
——これが最初の話につながるわけですね。
裕太　そういうことです。でも一つ企画サイドからの要望として、「映画オリジナルの妖精キャラがプリキュアの乗り物になって、みんなで移動するロードムービーに」というお題はありました。ただ、その「乗り物になる妖精キャラ」が紆余曲折の末、うさぎみたいなプーカになったんですけど（笑）。
——映画オリジナルキャラクターのプリムとプーカは、なぜうさぎモチーフなのですか？
裕太　デザインを考える上で、なにがしかのモチーフがあったほうがいいよねということで、いろいろと案が出た中で、うさぎが身近でかわいいかなと。「そういえば２０２３年はうさぎ年だ！」と（笑）。キャラ名については、うさぎモチーフの幻獣を調べていたら、「プーカ」という名前の伝説上の生き物がいたんです。プーカはそこから拝借し、プリム＝キュアシュプリームもうさぎモチーフで共通性を持たせました。シュプリーム（Supreme）は「最上の」「究極の」といった意味です。
——プーカをたれ耳うさぎにした理由は？
裕太　デザインを詰めていくうちに決まったものですが、そういえば板岡錦さんにデザインを発注する際に自分が描いたラフの段階で、すでにたれ耳にしていました。ああ、ラビリンとの差別化はあったかもしれないですね。ラビリンはピンと耳が立っているので。
——キャスティングは、プリム役が坂本真綾さん、プーカ役が種﨑敦美さんですが。
裕太　オーディションではなくオファーさせてもらいました。自分からというよりも、キャスティングサイドからの提案です。キャラ感に合った声質と演技力は大前提として、20周年記念作品ということで、ある程度のネームバリューがある声優さん、と。しかしそうなると、もうプリキュア役とか映画のメインゲストとかボスキャラとか、なにかしらの役を演じた人ばかりで、自分ではパッと思い浮かばなくて（苦笑）。その条件で探してもらったところ「このお二人で！」と出してきたんですね。お二人とも過去シリーズにも出てはいるのですが、メインどころとしては初めてなので。
——実際にアフレコで演技を聴いてみてどうでしたか？
裕太　プーカは難しいキャラクターなんですよね。セリフが「プカ」だけで、しかもドラマ的にも演技力が求められるので。でも種﨑さんは、声がかわいいだけでなく、そういう面でもお上手なんですよ。プーカは実はいろいろ考えているけれど、喋れないので、プリキュアにうまく意思を伝えられない。そういうもどかしい感情を抱えているんです。種﨑さんが主人公ダイ役を務めた『ドラゴンクエスト ダイの大冒険』には、僕も各話演出で参加しましたが、その際の種﨑さんご本人の印象ともどこか重なる部分がありました。きっと微細な表現をうまくやってもらえるだろうと思ったし、実際お見事でしたね。
——プリムのほうは？
裕太　アフレコで坂本真綾さんの声を聴いた瞬間に「なるほど！」と思いました。強さと神秘性を感じさせるような、説得力のある表現ができる方にお願いしたかったので。実は自分の中でもプリムは声のイメージが難しく、坂本さんに決まった時もまだピンときていなかったんです。でも、実際に演じてもらった時に「そうか、これがプリムの声か！」と思わされました。
——プリムをスカイチームに、プーカをプリズムチーム加えることにしたのは？
裕太　それは脚本を作っていく中で、仁さんと話し合って決めました。映画オリジナルキャラクターが二人いるのなら、別々のチームに入れて、ドラマの軸を2つに分けようと。それで二人はそれぞれのメンバーと一緒に旅をすることになりました。
——『ひろプリ』のメインを張る二人のチームに、一人ずつ投入したわけですね。
裕太　今回は「各プリキュアが記憶を失った状態で出会って即席でチームを組む」という流れなのですが、シュプリームに関しては、「プリキュア」をよく知っているファンからすると、「当たり前のように一緒にいるけどコイツは一体誰だ？」ってなりますよね。でも「プリキュア」をあまり知らない人からすれば、「この子がいたシリーズもあったんだろうな」と考えるだろうし、劇中のプリキュアも記憶をなくしているから、特に違和感なく受け入れている。そういう、ちょっとちぐはぐな面白さを出せないかなというのもあるんです。そのあたりも注目してもらえたらと思います！

MUSIC シンガーもオールスターズ

「音楽制作を手掛けるマーベラスさんに、OP テーマソングの『For "F"』と挿入歌はそれぞれ系統の違う楽曲にしてほしいとお願いしました。まず映画のコンセプトやストーリーを説明し、『OP では今まで知らなかった人と新たに手を取り合って、知らない土地を進んでいく冒険感が出るように』と話しました。挿入歌のほうは、大きなアクションシーンで流すための熱いバトル曲として作ってもらいました。『20 周年なので少し豪華に、たとえば歴代 OP シンガーのスペシャルユニットとか？』という話もしてみたところ、マーベラスの音楽Ｐが『じゃあこのメンバーで』と、なんと『Go！プリ』以降の全員をそろえてくれました。シンガーもオールスターズでお届けします」（田中裕太）

★アーティストインタビューは P.87 ～を見てね

「F」に込めた様々な想い
プロデューサー 村瀬亜季（東映アニメーション）

——村瀬さんが今作に加わった時には、もう『オールスターズ』構想になっていたのですか？
村瀬　当初はそういうわけでもなかったようですが、監督と「画としては 78 人出ますよね？」という話をしました。そうしたら「出す予定です」ということだったので、「じゃあそれは『オールスターズ』映画ですね」と私の中で確定しました（笑）。そして 20 周年企画のターゲットである「かつて『プリキュア』を観ていた子どもたち」のことを考えた時に、78 人出すのであれば、各作品にそれなりに見せ場を作ってあげたいなと。全員集合映画ならではの特別感として、満足できるシーンをきちんと入れたいですよね。各所の皆さんにも、そのようにお伝えしました。結果、名実共に『オールスターズ』として本格的に動き始めました。
——「プリキュアオールスターズ」と銘打つ映画は過去何作もありますが、今回は末尾に付くのが「F」の１字のみ。このシンプルなタイトルはどういう意図で？
村瀬　副題として具体的なワードを一つ決めるという案もあったのですが、結果的に「F」という文字に、「プリキュア」の持つテーマや想い、この映画で伝えたいいろいろな意味合いを込めることになりました。プリキュアにとって大切な存在である友達（FRIEND）や、プリキュアの想いは永遠（FOREVER）であるという意味合い、もちろん 20 周年のお祭り（FESTIVAL）というのもあります。それらを全部含めて、頭文字の「F」。副題がないのは、そういうところからです。日本語で何か付けると、「F」の意味が一つに固定される感じがどうしてもあって。映画に込めた様々なものが、等しく伝わってくれるといいなと思います。劇場でお待ちしています！

描き手の言葉

「実は、先にアニメディアさんから表紙の依頼が来たんです。だったら、アニメージュさんからも依頼が来るに違いないだろうと。そう思って見切り発車で考え始めていたから、依頼からラフの提出まですごく早かったでしょ？（笑）もともとは、スカイとプリズムでハートを作るイメージで考えていたので、それなら２つの表紙で一つの絵になるようになると面白いかなと。それで、鏡映しにして２チームを並べ、一番手前のスカイとプリズムが手を合わせる構図にしました。あとは、プーカも含め、どのキャラもかわいく見えるように、お顔がちゃんと見えるように。髪の毛のボリュームが多いので、その調整にも気をつけて描きました！」（板岡）

うさぎ推しのキャラデザインで

総作画監督・キャラクターデザイン

板岡 錦

いたおか・にしき
スタジオ・ライブ所属。「プリキュア」シリーズに長年携わり、本編作画のほか、変身・技シーンの原画を多数手がける。映画のキャラクターデザインは『映画プリキュアミラクルリープ みんなとの不思議な１日』に続き２作目

監督の名前を聞いて総作画監督に立候補！

――今回は20周年記念作品という大役ですが、まずは参加の経緯をお聞かせください。

板岡 実は自分から「やりたい！」って手を挙げたんですよ。監督が田中裕太さんだと聞いたので、とりあえず会社（東映アニメーション）に意思だけは伝えておこうと。もしこれを逃したら、果たして今後、彼と一緒にこういうポジションで仕事をする機会がくるのだろうかと思ったんです。田中裕太さんが今後も「プリキュア」で監督をするとは限りませんしね。ならば、自分から申し出ておかないとという気持ちが強くあって。もし意思表明せずに「この人が今度の映画の総作画監督です」と紹介された時に、果たして自分は耐えられるのか。そうなったとしたら絶対後悔するだろうなと。

――8年前、田中裕太さんが初めてシリーズディレクターを務めた『Go！プリンセスプリキュア』の時は、「裕太さんをみこしに乗せて担ごう」といった思いがあったそうですが、今回は？

板岡 いやいや、もはや田中監督は相当な大物になっているので。もう今回は、純粋に一緒に仕事がしたかったんです。やっぱり田中監督が作る作品は面白いですからね。一番田中監督らしさが出ていて好きなのは『映画スター☆トゥインクルプリキュア 星のうたに想いをこめて』です。これまでも自分は、アクションシーンのような重たい作画とか、重要な芝居をするシーンなどを任せてもらえてはいましたが、あくまで一原画マンとしての立場だったので、もう一つ上の土俵に立ってご一緒したかったんです。そのチャンスがやっと巡ってきた感じですね。

――念願叶って、今回は「総作画監督」というクレジットですね。

板岡 実は作画監督をやっているシーンもあります。というか全シーンの半分以上が自分の作監パートです。本当はもっと少ないはずだったんですが、おかしいな（笑）。ただ、歴代プリキュアの登場シーンは、そのシリーズのキャラクターデザイナーさんが作画してくれていたりもします。

――それは楽しみですね！

板岡 EDテロップには錚々たるメンバーの名前がズラッと並ぶと思いますが、そんな方々のカットに僕が作監修正を乗せるなんてできないですよ。そっちが本物ですから。僕は「すごい、ありがとうございます！」って原画を眺めてOKを出すだけ(笑)。各シリーズのデザイナーさんも、「ちょっとでもいいので手伝いたい！」という気持ちがあるみたいで、皆さん快く描いてくださいました。そういうのも20周年ならではですよね。

――『ひろがるスカイ！プリキュア』の面々がバラバラの4チームに分かれて活躍するという話を聞いた時はいかがでしたか？

板岡 「あ、なるほど、そうきたのね！」と。さすがに17人同時に画面に出されても、絵コンテを描くのも作画するのも困ってしまいますからね（笑）。面白いアイディアだと思いました。

至るところに工夫点 うさぎ要素を探せ！

――映画のオリジナルキャラクターは板岡さんのデザインですが、それぞれの工夫点は？

板岡 まずキュアシュプリームをデザインして、その派生的な感じでプリムやプーカを作っていきました。いずれも田中監督からしっかりしたイメージラフをもらっており、たとえば変身前のプリムがパーカー姿なのはそのラフ画の通りです。「プリムにはでっかいパーカーを着せたい」というのが最初からあったみたいで。今回、田中監督とこういう形で一緒に仕事をして思ったのは、彼は自分の中のイメージがかなりしっかりある人なんだなと。打ち合わせの席で、ラフ画にして明確に出してくるんですよ。キャラクターのデザインに限らず、彼の中には、ある程度映画の完成形が見えているようです。それをうまく形にするのが僕らの仕事というわけで。

――変身後のキュアシュプリームの衣装は、歴代衣装のパッチワーク的コンセプトなんですか？

板岡 そう見えるかもしれないですが、実はそういうわけではないです（笑）。監督のラフの要素も入れつつ描いたデザインに、さらに監督の要望を加えてブラッシュアップしたのが決定稿になりました。監督のラフはうさぎ推しだったので、シュプリームはいろいろなところにうさぎ要素を入れ込んでいます。眉毛や上下のまつ毛の目尻、ボトムのヒレ部分、さらに足首と靴のつま先にもあって、「うさぎを探せ！」状態ですね。うさぎっぽいバルーンパンツと丸い尻尾は、僕が最初からやりたかったものです。

――妖精プーカのデザインはどのように？

板岡 プーカは何パターンか監督のラフがあったので、村瀬亜季プロデューサーに「どれがいいですか？」と訊いた中で「これ」と言われたものからの連想で描きました。プーカは第1稿からほとんど変わっておら

キュアシュプリーム

淡い緑調のプリキュア。手の甲や背中にもうさぎ柄の模様が。髪型もうさ耳を彷彿とさせる形状だ

プリム

シュプリームの変身前の姿。うさぎ型のワッペンやファスナー等に加え、逆ハート型モチーフのパーツも多い

エルちゃん映画服

映画本編でエルちゃんが着用するワンピース。大きな襟とドロワーズがかわいらしい

プーカ

マロ眉で少し半眼気味の目が特徴。垂れ耳の先にあるピンクの模様は逆うさぎ柄

アーク

プリキュアたちが旅をする世界を支配する魔王。レッサーアークを手下としている

レッサーアーク

プリキュアたちの行く手を阻むモンスター。これら以外にもバリエーションがある

華やかな宣伝スチール

現在までに８点解禁されている宣伝スチール。P.86 のスチール以外はすべて板岡さんの原画だ（P.86 は古家陽子さんがラフ・原画共に担当）。ラフ担当は、P.81 のスチールは演出助手の大垣愛結さん、下のスチールは助監督の広末悠奈さん。それ以外の５点は田中裕太監督がラフを手掛けた。

キュアブラックからキュアラブリーまで、前半９世代の歴代主人公勢ぞろい！　どのような形で登場するのか期待が高まる

ず、耳周りを多少調整した程度です。

――プリキュアの映画オリジナル服は、今回はエルちゃんだけですね。

板岡　これは玩具連動の服ですね。「このデザインで」という提案デザインが玩具サイドから来たので、それをキャラ表の形に整えました。

――敵キャラたちのデザインも板岡さんですか？

板岡　そうです。これも監督の元案があります。それを、いわゆるプリキュアの各話モンスターふうにまとめました。雑魚モンスター（レッサーアーク）のほうは、いくつかパターンを作っています。プリキュアにバンバン倒されるような立ち位置なので、あまり凝ったデザインにはせず、シルエット風にしました。

田中裕太監督の演出に間違いはない！

――いずれも、顔が赤い複眼のようになっていますが。

板岡　この目は元々うさぎの頭のイメージで、「顔の真ん中に丸、そこから尖ったパーツ２つ」だったんです。そこから、さらに下にも尖ったパーツを置いて、真ん中が四角くなり、今の感じになりました。敵側にもとにかくうさぎ要素を入れ込もうということで（笑）。

各チームの旅が元気いっぱいに展開

――このたびはアニメージュの表紙にキュアプリズムたちをありがとうございます。プリズムチームの本編での作画的な見どころは？

板岡　最初のましろとローラが出会うシーンに注目してほしいですね。この二人は、出会った途端、漫才みたいなやりとりをするんですよ。そこは東映アニメの研修生（※同社における正社員の意味）の子が原画を描いてくれたんですけど、とても元気のいい芝居（作画）なんです。キュアフィナーレが敵モンスターからプーカを守って戦う、プーカとの出会いにつながるシーンも同じ子がやってくれています。今回は全体的に、若い研修生たちがいっぱい参加してくれており、それによって元気な作画になった気がします。

――プリズムチーム以外についてはどうですか？

板岡　スカイチームは、食材を探すシーンが面白いです。観ている子どもたちも笑ってくれるんじゃないかな。とにかく田中監督の演出だから、どのチームもみんなキャラが立つように作ってくれています。本当に彼の演出に間違いはないので、彼を信じて作っていけば、いいものが仕上がると思うんですよね。

――もう全幅の信頼という感じで。

板岡　ええ。まさに「監督の仰せのままに」です（笑）。なにしろ『スマイルプリキュア！』第43話のキュアビューティのアクションシーンからの、10年以上に渡る付き合いですからね。

――板岡さんお得意のバトルシーンでは、歴代プリキュア78人総登場のようですが。

板岡　今のところ、2D作画の予定です、たぶん。というのも、取材を受けている今はまだ制作の真っ最中なので、僕にも完成形が見えておらず（苦笑）。さすがに全員集合するようなカットはCGにしてくれるとは……思うんですけど……。

――いよいよ公開直前。ファンへのメッセージをお願いします。

板岡　田中裕太さんと「監督と総作画監督」の関係で一緒に仕事ができ、彼のすごさをより深く感じている日々です。とにかくビジョンがある監督なので、先を見越して計算して作っているのを、ひしひしと感じますね。今は作業の佳境で、自分も頑張っている最中です。面白い映画になるのは間違いありませんので、完成を楽しみにしていてほしいです。

文字通りギュッと手を握る『ひろプリ』の５人。映画ではバラバラになって行動するようだが、どういうドラマを経て再会を果たすのだろうか？

気持ちをつないで

脚本 田中 仁

たなか・じん
東映アニメーションを経て、フリーの脚本家に。「プリキュア」シリーズ以外では、『ゆるキャン△』『ラブライブ！虹ヶ咲学園スクールアイドル同好会』『【推しの子】』などのシリーズ構成を務める

「この世界は何だろう?」となりながらも、友達への想いを抱いて旅をします

もっとも大きな揺るぎないものは何か

──田中仁さんは、昨年の『映画デリシャスパーティ♡プリキュア 夢みる♡お子さまランチ！』に続いての登板ですね。しかも20周年記念の映画で。

田中 仁（以下、仁） 確かに2年連続でというのは初めてですね。お話をもらった段階では『ひろがるスカイ！プリキュア』の単独映画だと思っていたんです。だから打ち合わせで『オールスターズ』だと聞いて、「そうなんだ！」って（笑）。

──『オールスターズ』を担当するのは初めてですよね。仁さんより先に、もう監督は田中裕太さんと決まっていたそうですが。

仁 ええ。だから裕太さんとまた一緒にやれるなって……と言っても、TVの『Go！プリンセスプリキュア』を含めると4回目なので、すっかりおなじみなんですけど。裕太さんとは本当に長くやっているので、もはや信頼というレベルを超えているというか。とても説得力のある形でメッセージ性を描き出せる監督なので、ライターとしては一緒にやれるだけで嬉しいことで、即答で引き受けました。実は僕が加わる数ヵ月前から、監督とプロデューサーたちの間で話し合いが行われていて、「監督が何をやりたいのか」が見えてきたところで僕が呼ばれたという形です。だから、今回の脚本作りは今までと少し違っていて。

──東映アニメーションの場合は、まずプロデューサーが脚本家にオファーをかけて、その上で監督が参加する順番が一般的だそうですね。

仁 そうなんです。クレジット上は僕の単独脚本になっていますけど、実質、監督との共同脚本に近い形です。限られた尺の中で78人という大人数のプリキュアを描かなきゃならないというのもあり、僕一人ではフォローしきれないところも出てくるので。これまでも、僕が書いた脚本を元に、監督が絵コンテでブラッシュアップをすることはありましたけど、今回はそれ以上で、「一緒に」悩み苦しんだ感覚です。

──つまり仁さんが入った段階で、もう『ひろプリ』単独作品という選択肢はなかったのですね。

仁 ええ。とはいえ、『ひろプリ』にとっては、これが「自分たちの映画」でもあります。『オールスターズ』であると同時に『ひろプリ』の映画としても成立させたいと考えて、ソラとましろを中心にした物語にしています。

──先ほどの「監督がやりたいこと」というのは？

仁 「プリキュアとは何か」です。僕が加わってからも、さらにテーマについて数ヵ月話し合って掘り下げましたが、膨大な数のプリキュアを活躍させなきゃいけない中で、それを集約したメッセージを打ち出すなら、そこだろうと。「プリキュア」20年の歴史の中で、視聴者の中にもそれぞれの「プリキュア像」があると思うんですよ。その中でも揺るがない、核のようなものは何だろうかと。もちろん、各シリーズをどういう受け取り方をしても、それがその人にとっての正解だと思うんですけど、我々の考えるところを一つ、映画のテーマに置きたいと。初代『ふたりはプリキュア』から今までのすべてのプリキュアの中にあるものは何だろうと。結論から言えば「つなぐ」ことです。

──なるほど！

仁 プリキュアそれぞれに考えや生き方、目標などは違いますが、壁にぶつかってくじけそうになった時、隣にいる仲間が手を差し伸べて、立ち上がる力をくれる。そして、自分以外の誰かに対しても手を差し伸べてあげる。まさに初代のOPにある、歯を食いしばってキュアホワイトを引き上げるキュアブラックの画ですよね。それは『ひろプリ』でもそうだと思うし。その支え合う「互いの気持ちのつながり」が、「プリキュア」シリーズのもっとも大きな揺るぎないものじゃないのかと。みんなで話し合って、そこに行き着きました。

──初代のシリーズを立ち上げた時に最初に決まっていたのも「タイプの異なる二人の女の子が手をつなぐ」ことだったと、鷲尾天プロデューサーもよく語っています。

仁 結局そこなんだろうなと思うんです。この映画には敵対する存在も出てきて、そのドラマももちろんありますけど、一番は「78人のプリキュアの魅力を描く」ことを最優先に考えた中で、それをどうにか伝えようということなんです。

──その話からすると、今回はシリーズごとにまとまった活躍ではなく、一旦バラバラになって4つのチームで同時進行するのは、逆説的にシリーズの絆を強調するように感じます。

仁 ただ、チーム再編成のプランは、「つなぐ」というテーマが決まる前から決まっていたみたいです。「プリキュアとは何か」というのは裕太さんの中にあったと思いますが、そのアンサーにあたる部分は、内容を固めていく段階で生まれたものだと思います。今回の映画は、みんな初対面の状態で始まります。記憶をなくした状態で、チームごとに分かれて旅をしていく。これまで交流のなかった子同士が「この世界は何だろう？」となりながらも、それぞれの会いたい友達への想いを抱いて旅をする。その中で、チームの中で新たな友情が生まれていく。時にはちょっとしたケンカもしながら……なかなか反りが合わない子というのもいるでしょうからね。そこまでは、裕太さんの初期イメージとしてあったんです。

78人分の人間の魅力を描き出すつもりで

──映画オリジナルのプリキュア・キュアシュプリームの設定はどのように生まれたのですか？

仁 プリキュアの魅力を伝える映画にしたいので、それに対抗しうる強い存在ということで。名前もそこから、「最上」「至高」の意味（Supreme）にしています。立ち振る舞いとしてはクールな子なのですが、かたや一緒に行動することになるスカイチームの面々は猪突猛進で自由な人たち（笑）。結果としてプリムが振り回される形になり、チームの個性も出たかなと思います。

──映画オリジナルの妖精プーカの見どころポイントは？

仁 パッと見は単なるマスコット妖精に見えますけど、実は……というところで。ストーリーの重要な部分を担うキャラクターなので、どういう活躍を見せるのか楽しみにしてほしいです。

──プリズムチームの見どころとしては「離れた仲間を想う気持ち」といったところでしょうか？

仁 そうなりますね。特にましろとローラは、その色が濃いと思います。書いていて思ったのは『トロピカル～ジュ！プリキュア』の面々が、とにかく一筋縄ではいかないということ（笑）。『Go！プリ』以降のシリーズで僕が全然関わらなかったのは『トロプリ』だけなんです。中でもまなつとローラは手ごわい子で。そこは村瀬亜季プロデューサーにその都度相談して、「この子は、こういう時はこんなふうに行動します」とアドバイスをもらいました。

──のどかやあまねについては？

仁 のどかは芯がある、心が強い子ですが、慈愛の心も大きい子です。自分たちに怖がっている面もあるプーカに対しても、優しく関わって寄り添います。そして、あまねは凛々しいですよね。生徒会長でもあり、常に周囲を見て、前向きにチームを動かしてくれる存在です。

──ぐいぐい牽引しそうなローラに対して、あまねは冷静にチームを支える感じがします。

仁 そうですね。途中でスカイチームとプリズムチームに、あることが起こるんですが、そこでましろたちを精神的に支えてリードしてくれるのはあまねです。ローラとましろのパートナーへの想いと、のどかの優しさ、凛々しく支えるあまねという4人組ですね。また、のどかとラビリンのパートナー感も出たのではと思います。

──公開直前ということで、メッセージをお願いします。

仁 プリキュアはアニメのキャラクターではありますが、僕としては一人の人間だと思って描いてきました。その分、78人の人間としての魅力をしっかり描かなければいけない大変さもありました。そうやって頑張って作った作品です。ちゃんと全プリキュアが画面に登場しますので、皆さんそれぞれの好きなプリキュアを観にきてくれたら嬉しいです。

OPテーマソング「For “F”」

仲間と出会えた喜び

映画のOPを飾るのは、晴れやかでアップテンポなオリジナル楽曲。「プリキュア」ファンにはおなじみにして、初のデュエットとなる二人が担当！

石井あみ

いしい・あみ
9月14日生まれ／bransic所属／『ひろがるスカイ！プリキュア』主題歌にてメジャーデビュー。今年3月に洗足学園音楽大学・声楽科を卒業

Machico

まちこ
3月25日生まれ／広島県出身／スタイルキューブ所属／声優としての出演作品は『ウマ娘 プリティーダービー』（トウカイテイオー）、『アイドルマスター ミリオンライブ！』（伊吹 翼）ほか

OPテーマソング「For “F”」は、駆け巡るギターのイントロと共に気持ちが一気に高まる、アップテンポなナンバーだ。明るくてパンチのあるMachicoさんの歌声と、ハツラツとした中にもしっとり感が漂う石井あみさんの歌声。二人のユニゾンのパートも多く、「力を合わせて敵に立ち向かうプリキュア」の姿を、歌声で体現しているかのようでもある。

　また、歌詞もメロディも映画楽曲らしくドラマチック。少し哀愁を帯びたＢメロから、高揚感満点に畳み掛けてインパクトあるサビへと盛り上がる流れが圧巻だ。

　吉武千颯さんたちの挿入歌も収録されたCDは、映画公開に先立ち9月13日に発売される！

優しいだけじゃ関係性って深まらない

プリキュアらしいキラキラした輝きを

──『映画プリキュアオールスターズF』のOPテーマソングを、お二人で担当することになりましたね。

Machico(以下M) 話を聞いた時は、本当にびっくりして意味が分からなかったですよ!

石井 (笑)。確かにびっくりしました。

M 私は『ひろがるスカイ!プリキュア』の主題歌には参加していないのに、あみちゃんと一緒に歌わせてもらえるなんて。「いいのぉ!?」って声が裏返っちゃったくらい(笑)。

石井 私も本当に驚きました。大好きなMachicoさんとのデュオ! しかも『プリキュアオールスターズ』の曲を歌わせていただけるなんて、「プリキュア」ファンとしても夢のようでした!

──レコーディングする上で意識した点は?

M 私が先に収録したんですけど、とにかく自分らしく歌うということは意識しました。私が主題歌を担当した『ヒーリングっど♥プリキュア』『トロピカル～ジュ!プリキュア』『デリシャスパーティ♡プリキュア』の3世代のプリキュアの気持ちも乗せながら、明るくあみちゃんに語りかけるような。そんな優しいニュアンスで歌えたらいいなって。歌詞にも、仲間に出会えた喜びや、未来へのワクワク感が込められているので、「プリキュア」に出会った頃の「これからどんなことが待っているんだろう?」という初心のような気持ちも織り交ぜました。いろいろなところにニュアンスを付けて、遊んだ感じにしてみようとか。つまり「優しい気持ちで、いっぱい遊んだ曲」です!(笑)

──特に「遊べた部分」は?

M セリフっぽいところはセリフを言うように……たとえば1番の「悩んだり 笑ったり シュンとしたって」の「シュン」をセリフ調で歌ったりとか。あと、「こころの芯から温まる」のところは、全力で温かさを出しました。

石井 Machicoさんの歌声は、なんでも受け入れてくれる優しさがありつつも、想いがストレートに伝わってくる印象です。だから私も、そこへ向かって、迷いなく歌わせていただきました。とにかく今、私が持っているものを全力で出して、プリキュアの力強さやまっすぐさを表現したいと思いました。

──アップテンポながら、どこか涙腺に来る曲調ですよね。

M そう、明るいだけじゃないんですよ。特に「勝つためにきっと戦うんじゃなく 怖れるキモチに負けたくないだけ それでもホントは解り合えたら 笑い合えたら」というところ、いいですよね。プリキュアって相手が憎くて戦っているわけじゃなくて、理解し合いたいからぶつかっていく印象があって。本当は敵とも手を取り合って笑いたいという優しさを感じます。関係性って優しいだけじゃ深まらないんですよね。私たちが家族や友達と接する時もそうなんですけど。時折心のすれ違いもあったりして、そこを乗り越えることで絆が強まると思うので。歌詞全体にちりばめられたそういう想いをぜひ乗せられたら、いや「乗せてみせる!」と思いながら歌いました。

石井 森いづみ先生が作曲・編曲されたこの曲のメロディは、低いところから高いところに一気に行く感じが素敵だと思います。そこにプリキュアらしいキラキラした輝きを感じます。特に最後の「1万歩も 1歩から」のところ。1万歩って、ものすごく遠いですよね。それを表現するかのように、音階の跳躍が大きくて。青木久美子先生の作られた歌詞ととっても合っていると思います。それともう一つ、サビの「胸の奥の奥 光を当てたら ジッとなんかしてらんない!」は『ふたりはプリキュア』の「女の子だって暴れたい」みたいで、これぞプリキュアだ!と思いました。

力を合わせたら何倍ものパワーになる

──この曲は、ユニゾンのパートも結構ありますよね。

M 私は高音が特徴的というか、パキパキした感じに聞こえることが多い気がするんですけど、そこをあみちゃんのまっすぐさ、柔らかさがいい感じに包んでくれたと思います。お互いの個性がうまく混ざって聞きやすくて、心地よいデュエットになったかと。

私が主題歌を担当したシリーズの想いも乗せながら

石井 今回のユニゾンは、「For〝F〟」のFriend(友達)の意味も込めているのかなと思いました。なのでユニゾンは特に力を込めて歌いたいと思ったし、純粋にMachicoさんの歌声に私の声が合わさったことが嬉しすぎて(笑)。それと一人一人性格は違うけど、力を合わせたら何倍ものパワーを出せるのがプリキュアだと思うので、私とMachicoさんの歌声も合わさって大きな力になるといいなって♪

M 嬉しい♥ でも私たち、意外と声質が似ているかも?

石井 あ、実は私もちょっと思いました!

M やっぱり。もちろん私のほうがパキパキ度合いが高いけど(笑)。

石井 (笑)。

──石井さんから見て、Machicoさんの歌唱で素敵なところは?

石井 Machicoさんはどんな曲でも素敵に歌い上げられますよね。

M 照れちゃう～(笑)。

石井 去年の「デリシャスパーティ♡プリキュア LIVE2022」で、初めて生のMachicoさんの歌唱を聴かせていただいた時には驚きました。かわいい曲、カッコいい曲、はかなげな曲、どれもMachicoさんという芯を持ちながら、曲に合わせていろいろな面を見せて歌い上げられていて。私にはまだまだできないなぁって。もう尊敬しかなくて、本当に大好きです!

M ああ～(照れ)。

石井 1曲の中にもニュアンスをたくさん詰め込んでいて、「For〝F〟」でも「ジッとなんかしてらんない!」の「なんか」の歌い方が大好きです! 普通「ジッと」のほうをしっかり歌いそうなのに、Machicoさんは「ジッと・なんか!」みたいな感じで「な」のほうにも力がこもってて! 歌詞を大切にされているからこそのニュアンスの乗せ方、とっても素敵なんです!

M 愛を伝えられてしまいました。細かいところまで聴いてくれて嬉しい! あみちゃん、出会った頃から私のことを「好きです、好きです」って言ってくださっていて。しかも私が声優として出演している作品のことも詳しいみたいで……。

石井 あ、重いですかね!?(笑)

M いやいや、逆にあみちゃんが抱いていた私のイメージが崩れていないか心配で(笑)。あみちゃんは『ひろプリ』からプリキュアシンガーの仲間に入ってくれて、年齢的にもまだ若いし、これからいろいろなことが待っているはず。そういう、今ならではのまっすぐさや可能性が歌を通して伝わってきて、聴いていると私も元気になってくるんです。私も一緒に歌えて幸せです……って、今もあみちゃん、私をめっちゃ見てくれていますよね。なんか恥ずかしくて目を合わせられない!(一同・笑)

──最後にファンへのメッセージをお願いします。

M 20周年記念作品を担当できて、とても光栄です。「For〝F〟」には、仲間と出会えた喜びというプラスの感情をしっかり乗せて歌いました。ぜひプリキュアの勇気と優しさを感じてほしいです。

石井 大好きな「プリキュア」でデビューできて、映画のOPテーマソングも担当できて本当に嬉しいです。「For〝F〟」は冒険の始まりを感じさせるような、爽やかで晴れやかな曲です。プリキュアが仲間を想う大切さもたくさん詰まっていて、私はその想いを歌のパワーに変えて歌いました。タイトルの「F」の意味もたくさん感じながら聴いていただけると嬉しいです!

バトルシーンは6人曲で！

映画の挿入歌（タイトル未定の新曲）を担当するのは、「吉武千颯 & 礒部花凜/北川理恵/駒形友梨/Machico/宮本佳那子」の6人組。吉武さんを中心に『Go!プリンセスプリキュア』以降の歴代OPシンガーが歌い上げる楽曲だ。ビートの効いた熱い曲調で、個々に掛け合ったりユニゾンしたりと、細かく「絡む」形での歌い分けが多い。全員と気心が知れている吉武さんは、まさに「みんなで一緒に」の気持ちで収録に臨んだそうだ。

2番では、各シリーズを意識したパート分けもなされている。Aメロでは『Go!プリ』主題歌コンビの礒部花凜さんと北川理恵さん、『キラキラ☆プリキュアアラモード』主題歌コンビの駒形友梨さんと宮本佳那子さん、続くBメロは『トロプリ』『デパプリ』主題歌コンビのMachicoさんと吉武さんのデュオとなっている。

そしてハードな曲調から一転して、吉武さんのソロパート。透明感あるピアノの音もリリカルで、吉武さんの切なげな歌声が涙を誘う。聴き応え満点の仕上がりだ。

「もっともっと続いていくんだ！」って気持ちで

吉武千颯

よしたけ・ちはや
3月28日生まれ／広島県出身／Apollo Bay所属／声優としての活動は『ラブライブ！スーパースター!!』（聖澤悠奈）、『惑星のさみだれ』（星川昴）ほか

——吉武さんは6人曲のメインボーカルを務めるわけですが。

吉武 20周年記念映画、しかも先輩たちと一緒に、私がメインで歌うことになるなんて！ 最初は不安も大きかったですけど、任せていただいたからには自分の想いを存分に込めたいと思いました。「『プリキュア』はここからもっともっと続いていくんだ！」って気持ちをたっぷり込めて、パワー全開で歌いました。

——吉武さんのデビュー作品は『スター☆トゥインクルプリキュア』ですが、今回はそれ以前のシリーズの皆さんも一緒ですね。

吉武 でも、宮本さんはもちろんのこと、駒形さんは『スタプリ』の時にイベントでご一緒したこともある上に同じ事務所の先輩ですし、花凜ちゃんとは別の作品で一緒にユニット活動していた仲だったりします。歌の後半は5人それぞれと私とでデュオになる部分があるんですけど、皆さんのことを知っている分、イメージも膨らませやすかったです。

——レコーディングする際に注意したことは?

吉武 今までにないカッコよさが出せればと。戦っているプリキュアのみんなにパワーを送るイメージで歌いました。それと歌い分けのところは、相手に向けて呼びかけているような感覚で。たとえばMachicoさんと歌っているところは、歌詞的にも「Machicoさんに向けて言いたい！」って感じでしたし。プロデューサーの井上洸さんが考えてくれた歌い分けが、私たちのことを知っているからこそで、とても納得しました。

——お気に入りのフレーズは?

吉武 冒頭のサビです。全員でバッと始まるところがカッコよくてお気に入りです。それと間奏に架かる私のソロパート。ここは譜面以上に長く長く伸ばしました。レコーディングで「伸ばしたいだけ伸ばしていいよ」と言われたので、「もっともっと続いていくんだ！」って気持ちをこれでもかと込めました。最後は全員で熱く歌うパートになるのですが、そこも「みんなでつなげてきた想いのバトンをこれからもつなげていくんだ！」という気持ちを声に乗せてぶつけましたね。

——最後にメッセージをお願いします。

吉武 プリキュア全員集合の20周年映画です。プリキュアはいつも、誰かの笑顔のために変身して戦いますが、この歌も、映画のそういうシーンで流れるだろうと思うと楽しみです。作品への私たちの想いも、歌を通して感じてもらえたら嬉しいです。

日々の中で負けそうになる自分と戦うために

北川理恵

きたがわ・りえ
11月25日生まれ／千葉県出身／オフィス・エイツー所属／ミュージカル女優としても活動。近作にTOSHIKI KADOMATSU presents MILAD2「THE DANCE OF LIFE ～Final Chapter～」、ミュージカル『天使にラブ・ソングを～シスター・アクト』ほか

——まず今回の6人曲のメンバーを見て、どう思いましたか?

北川 「千颯ちゃんwith５人」なのが、お姉さん嬉しいっ！ 今回は、『スタプリ』以降の多くのED主題歌を歌ってきた千颯ちゃんメインでの戦闘曲です。『Go！プリ』から『デパプリ』までの私たちOP歌手を颯爽と引き連れる感じで……めちゃくちゃエモいことになっています。「プリキュア」に並々ならぬ想いを持つ千颯ちゃんですが、今回の歌声を聴いて、また私の知らない千颯ちゃんになったなぁと感じます。「行きますよ、理恵さん！」と引っぱってもらった感覚で、ちょっと初めての経験でした(笑)。先にレコーディングした千颯ちゃんの歌を聴いて、その背後を「5人横並びでスクラムを組んで守る」イメージで歌いました。あと、『Go！プリ』で一緒だった花凜ちゃんとのデュオパートもあって嬉しかったです。

——歌詞やメロディの印象は?

北川 「これは泣かせにかかってるな！」って印象です。『映画プリキュアオールスターズF』の「F」に様々な意味が込められているというのもあり、責任重大だぞと思いました。特にラストの歌詞がぐっときましたね。仕上がった歌も、6人それぞれが「プリキュア」シンガーとしてのプライド、プリキュアイズムを持っていて、それが合わさり、とんでもないエネルギーで「プリキュア～！」って叫んでいる印象です。

——とても熱くてカッコいい曲ですよね。

北川 プリキュアらしさを全面に表している楽曲だなと感じますね。連綿と続く、プリキュアの力強さや友達の大切さ、隣に誰かがいるから立ち上がれるといった想いが詰まっています。また、日々の中で負けそうになる自分と戦うイメージもあるように思います。私も、この歌のようにありたいと思わされましたね。

率直な感想は「TUEEEE!」です

Machico

——映画挿入歌では『Go！プリ』以降のOPシンガーが集結しましたね。

M 礒部花凜ちゃんや駒形友梨ちゃんとは別の作品で共演したこともあって、20周年のタイミングで「プリキュア」で一緒に歌えて嬉しかったです。私は何人かの方が録り終えた後にレコーディングしたので、先に録った皆さんの歌声を聴いて、どんな温度感で歌っているのかも確かめて歌いました。シンガーもチームですからね。

——合わさった声の印象はどうでしたか?

M ラフミックスを聴かせてもらったら、「うわぁ、プリキュアのお姉さんたちが歌ってるよ～！」って（笑）。本当に個性豊かなプリキュアシンガーたちが、今からラスボスを倒そうとしているみたいに聞こえました。率直な感想は「TUEEEE！」です（笑）。

——（笑）。歌で戦っている感じなんですね。

M まさにそうです。戦うマインドを意識して歌いました。みんなで力を一つに合わせて。

——「吉武千颯&～」というアーティスト表記はどのように感じましたか?

M 「千颯ちゃんがみんなを引き連れてる～!!」って感動がありました（笑）。特に落ちサビの千颯ちゃんをぜひ聴いてほしいです！ 近年の千颯ちゃんは、魂を全開にして歌うニュアンスが強くなったと感じています。以前のチャーミングさやキュートさだけじゃなくて、カッコいい部分を自分の武器にできるまでに成長したのかなと。それを特に、この落ちサビから感じました。

——レコーディング時に工夫したところを教えてください。

M この曲は、歌い分けにも注目してもらいたいです。2番での千颯ちゃんとの掛け合いパートは、自分たちの関係に置き換えて、笑顔感多めに出してみました。1番のAメロでは、千颯ちゃんからの呼びかけを、私と北川理恵さんとで一緒に受けとめて返したり。デュエットする箇所が多かった理恵さんと一緒に、千颯ちゃんへの意識を多めに歌った気がします。もはやちょっとした親目線かもしれません（笑）。

ともあれ、歴代のシンガーの皆さんとご一緒できた貴重な楽曲です。映画本編には全プリキュアが登場すると聞いているので、歌でもそんな仲間感を感じてもらえたら嬉しいです。

9月13日発売

CD＋DVD

通常盤

『映画プリキュアオールスターズF』テーマソングシングル
https://www.marv.jp/titles/mc/10613/

から

プリキュア20周年作品
『映画プリキュアオールスターズF』が公開中。
「プリキュアって何？」をテーマにした
今作ならではの熱い戦いを見届けよう！

『ひろがるスカイ！プリキュア』
キュアプリズム虹ヶ丘ましろ役
『ヒーリングっど♥プリキュア』
ラビリン役
加隈亜衣

『トロピカル～ジュ！プリキュア』
キュアラメールローラ役
日高里菜

『デリシャスパーティ♥プリキュア』
キュアフィナーレ菓彩あまね役
茅野愛衣

映画プリキュアオールスターズF（エフ）
✦全国公開中
HP✦https://2023allstars-f.precure-movie.com/

撮影＝江藤はんな（SHERPA+）

仲間との再会シーンにただただ感激！

――前号（P.78～）に続いてお話をお聞きします。プリズムチームの旅はましろとローラの出会いから始まりますが、「パートナーを探したい」というのが行動のきっかけでしたよね。

日高　ところがパートナーであるまなつたち（スカイチーム）は、ひたすらごはん食べていましたね（笑）。なんだか楽しそうでいいなぁって思いました（笑）。

茅野　やっぱりそこは、「デリシャスマイル～♥」って言って食べないと（笑）。

日高　さすが、どんな時もゆいちゃんはゆいちゃん！

加隈　食べるのも大事！（笑）でもソラちゃんは、ましろのことも思い出してくれていたので嬉しかったです（笑）。

茅野　街にたどり着いた時に、ゆいの「はらペコった～」が聞こえてきて、あまねが気がつくのもちょっと面白かった。

日高　再会のシーン、超キュンとしたよね！　仲間を見つけた時の喜び方に、それぞれ違いがあって。

茅野　キュンとしました！　表情も丁寧に作画してくださって、パートナーに会えた時のハッとした感じが出ていました。

加隈　離れてしまったからこそ出る表情というか。「お互いにちゃんと思っていたんだ！」っていうのが伝わる、イチオシのシーンです！　駆け寄っていくのがまたいい！

茅野　声を合わせて「やっと会えた！」って。収録の時は私たち、「せーの」って合わせたんだよね。

加隈　掛け声はファイちゃん（まなつ役・ファイルーズあいさん）が言ってくれたんです。

日高　ファイちゃんの掛け声、安心しました。

加隈　それも「じゃあ私が言うね」とかもなく、当たり前のように「せーの！」って先陣切って（笑）。

日高　『トロプリ』でも、最初から当然のようにずっとファイちゃんがやってくれて。超頼もしかったんですよ！

茅野　現行プリキュアのくまちゃん（加隈さん）のところはどうなの？

加隈　『ひろプリ』では、ソラちゃんがいっぱい叫ぶから、私がタイミングをとるというか、合わせのための息を吸う係をやっています。「せーの」とかじゃなくて。

茅野　その代その代でやり方があるよね。『デパプリ』では、ばなな（ゆい役・菱川花菜さん）がやってくれてたよ。「座長だからやりますっ！」って、頑張って「せーの！」っ

「この想いをプリムに届けなきゃ」って気持ちで

キュアプリズム
虹ヶ丘（にじがおか）ましろ

世界を破壊しようとするシュプリームに、スカイと心を一つにして対峙する。仲間と一緒にいる意味を理解してもらおうと奮闘する！

ラビリン

のどかと離ればなれで心細い想いをしていたが、路面電車の中で再会できた。そんなパートナーとの強い絆で、グレースと共に戦う！

シュプリームの真実

同じプリキュアの仲間かと思われたプリムは、実は強大な力を追い求める特殊な存在。プリキュアの力の秘密を知りたくて、自らをキュアシュプリームの姿に作り変えたのだ。友情や優しさを理解できないシュプリームは、その力を解放してプリキュアを倒そうとする！

映画オリジナルキャラクター
キュアシュプリーム
プリム　声／坂本真綾

プーカの力の秘密

映画オリジナルキャラクター
プーカ　声／種﨑敦美

ましろたちと旅をしたプーカは、プリムがプリキュアの妖精を模して生み出した存在。手で何かに触れるとバラバラにしてしまう力が発動することから、オドオドと他人との接触を拒んでいた。力を恐れて使おうとしないプーカを見て、プリムは役立たずだと見捨てていた。

映画オリジナルキャラクターのプーカと旅をすることになったましろたち。けれどプーカは誰とも手をつなごうとせず、他人との関わりを怖れているようだった。そして、のどかとラビリンが再会できて喜ぶところを見て、キュアシュプリーム（プリム）の冷たい表情がフラッシュバックする。

みんなに真実の姿を見せたシュプリームは、プーカを不必要な失敗作だと言い切る。仲間とは何なのかが分からぬまま、キュアマジェスティを含めて勢ぞろいした78人のプリキュアを前に、大量の自分の分身を作り出し挑んでくる！

しかし、仲間とのつながりこそがプリキュアの強さの秘密。それを理解したプーカは、意を決し、新たなプリキュア「キュアプーカ」へと変身！　戦いの果てに、プリムとプーカがどんな最後を迎えるのか、ぜひ映画で確かめてほしい。

★TVアニメ『ひろがるスカイ！プリキュア』は毎週日曜日、朝8時30分、ABCテレビ・テレビ朝日系列にて放送中

キュアパルフェと共闘するという夢が叶いました

キュアフィナーレ
菓彩(かさい)あまね
シュプリームとの一大バトルでは『プリアラ』チームと一緒に攻撃。キュアパインやキュアパパイアも加わったスペシャル技も披露！

人魚プリキュア二人で技を繰り出したのは胸熱！

キュアラメール
ローラ
シュプリームが「自分の仲間」として生み出した大量の分身に、キュアマーメイドと人魚のプリキュア同士でタッグを組んで対抗！

て声を出して。

加隈 なんか微笑ましい！

茅野 最初は息を吸うのも一生懸命で、それすらもかわいかった！

——この他、好きなシーンを教えてください。

茅野 セリフなしで見せる、道中のやりとりのシーンです。ずっと音楽が流れているだけなんですけど、だんだん各チームの中に絆が生まれているのが伝わってきて、関係性の深まりが分かるんですよ。それと「あまねがローラにからかわれている」みたいなト書きが台本にあって。これまでのあまねって「からかわれる」ってなかったなぁと。

日高 そういう新鮮な一面が見られるのは、『オールスターズ』ならではですね。

茅野 あとさ、私たちよく走ったよね？

加隈・日高 うん！（笑）

日高 いっぱい走ってヘトヘトで。砂漠でオアシスを見つけた時とか、列車に飛び乗る時とか……。そういう時は、ローラはやっぱりすごいギャグ表情で（一同・笑）。でも他のみんなも、少しギャグな感じになっていて。

加隈 そうだね。

日高 もちろん、まなつに対するみたいにズバズバ言っちゃうと当たりが強すぎちゃうので、今回はもう少し優しめに言おうかとか、そうしたバランスはとったつもりです。でも、ピンチの時もギャグっぽい表情が挟まったりして、おとなしくなりすぎないのがよかったかなと。ブーカの首根っこをつかんだりとか、当たりが強い部分もあったけど、そこも優しさだなと思います。

全プリキュア大集合！
クライマックスのバトルでは、78人のプリキュアが総登場。各シリーズの友情を感じさせるシーンが満載で、涙を誘う。また、そのバトルもチーム単位ではなく、「アロー技を使うプリキュアで一斉攻撃」「食べ物モチーフのプリキュアでの合体技」などコラボ感も豪華！

みんながいる

加隈 ローラなりのね。

日高 そうそう。ブーカが、みんなに迷惑掛けちゃったってシュンとしちゃう時も、みんなは心配して気遣う優しさなんですけど、ローラはどっちかというと「やれやれ、もうなんなのよ～」って笑いにして、いい雰囲気にするというか。

茅野 確かに、心配されすぎると逆にね。

加隈 気を遣われるのが負担になることもあるから。

日高 ローラのサバけた対応で救われる部分もあるだろうなぁって。

加隈 大人だ！

茅野 もちろん、ましろとのどかがふわ～っと包み込んでくれるのも大きかったよ。

加隈 ありがとう！

茅野 ましろとのどかがブーカに優しく接して、あまねが「なんとかなるさ」みたいにこれからの算段を立てたり言葉でフォローしたり。みんなでいい流れを作っていたよね。

プリキュアはいつも目の前の人のために

——クライマックスのバトルは歴代プリキュア総登場でした。特に印象深いところは？

加隈 20周年ということで、先輩プリキュアの過去の名ゼリフがたくさん出てきましたよね。「こういうやりとりを経てこの絆が生まれた」というのを再確認しつつ、その想いをキュアシュプリームに届けるという熱い展開でした。私も、「絶対に折れちゃいけない！」という気持ちを持ちつつ演じましたね。それとあおちゃん（のどか役・悠木碧さん）が言っていたんですけど、「『世界を救うんだ』感を持ちすぎないように気をつけなきゃ」って。彼女たちは、目の前のことに必死なんですね。「世界をどうにかしなきゃ」といった大義じゃなくて、「この想いをプリムに届けなきゃ」って気持ちなんです。そこは今回、私の中でも腑に落ちました。

——とても「プリキュア」らしいスタンスですね。

加隈 劇中で先輩プリキュアからそれぞれの想いを聞いていく中で、そういったスタンスでスッと演じられた気がします。まだ『ひろプリ』チームは発展途上で、毎週毎週を積み重ねている最中です。今回の映画はこれまでで最大級のピンチでしたが、このタイミングでプリキュアという存在について向き合えたのは本当によかったと思います。先輩たちのおかげですね。

茅野 私は、「食のプリキュア」つながりで『キラキラ☆プリキュアアラモード』のメンバーとコラボできたのがすごく嬉しかったです。あまねも「レッツ・ラ・まぜまぜ！」を言うことができるなんて！ 特にあまねは「パフェになりたい」が夢だった子なので、スイーツのプリキュアと一緒に闘いたいなと思っていたんです。キュアパルフェと共闘するという私の夢も叶いました。

日高 それで言うと、私も『Go！プリンセスプリキュア』のキュアマーメイドと！

加隈 そうそう！

日高 人魚プリキュア二人で技を繰り出したのは胸熱でした！ こういったコラボバトルを観たかったファンの方もいっぱいいると思います。それと一ファンとして嬉しかったのは、初代『ふたりはプリキュア』のキュアブラックとキュアホワイトが「私たちの世界は」「壊させない！」って言ってくれたのが……もう「ありがとう!!」ってなりました。

茅野 分かる！ もうバトル中も感激するシーンがいっぱいあったよね！

日高 とにかくすごかった。圧巻でした！

加隈 「これぞプリキュア！」ってなったシーン、いっぱいだよね。一度じゃ目が追い切れなかったと思うので、ぜひ何度でも観てもらいたいです！

仲間の大切さ
すべてのプリキュアとすべての妖精たちの想いが形になった２色のミラクルライトが登場。それが輝いた時、奇跡が起こりブーカは新たなプリキュア「キュアブーカ」に変身。その姿はキュアシュプリームそっくりで、まるで一つの存在の裏表のようだ。ましろたちと行動して仲間の大切さを知ったブーカは、あらためてシュプリームと相対する。

SPECIAL COLUMN 03

20周年のカーテンコール

映画のラストを締めくくるのは、78人での集合ダンス。青空バックのステージは、ファンへの感謝のプレゼント!

『映画プリキュアオールスターズF』のEDは、いきものがかりの「うれしくて」に乗せたCGダンスが展開される。演出は、「プリキュア」のCGダンスの祖『フレッシュプリキュア!』のEDでCGデザイナーを務めた宮原直樹さん。2011年まで「プリキュア」のCGダンスを牽引したクリエイターだ。

映像としては、前半は『ひろがるスカイ!プリキュア』のキュアスカイとキュアプリズムが星空の下で出会い、公園の中を巡る。壁に映し出される歴代の名場面を目に焼き付けつつ、ダンス会場へと進んでいく形だ。

後半の78人のプリキュアのダンスパートは、前半の夜空から一転、晴々とした青空の下で繰り広げられる。2〜3世代ごとに配置されたステージをまんべんなく映しどの世代にもスポットが当たるよう配慮もされている。

エンディング演出 **宮原直樹**　CGプロデューサー **野島淳志**

ED前半は歴代のハイライト映像とコラボ

――映画のEDダンスを作ることは、企画初期から決まっていたのですか?

野島　「78人のダンス」はやりたいと思っていましたが、EDでやるかは未定でした。本編で踊りながら敵と戦うみたいな案もありましたね。いきものがかりさんの楽曲のイメージを受けて、田中裕太監督からEDがいいんじゃないかとのことで。

――宮原さんに演出をお願いした理由は?

野島　宮原さんなら、プリキュアCGダンスの一つの集大成として作ってくださるだろうと。プリキュアCGダンス黎明期の頃からディレクターをやられていますから。

宮原　実はもう「プリキュア」では、僕はとっくに卒業扱いになっていたものだとばかり(笑)。『THE FIRST SLAM DUNK』の演出もやっていたものですから、女の子に向けたキラキラした映像をまた作れるのかなぁと思いつつ、お受けしました。『プリキュアオールスターズDX 3Dシアター』(2011年)の時はプリキュアが22人で、もうこれがCGとしては限界だろうと思っていたんですが、今や78人とは(笑)。

――映像としては、スカイがプリズムと出会ってダンス会場へと向かって行くストーリー仕立てです。

宮原　78人を2分30秒も踊らせることは、ちょっと無理だろうと。尺の中で緩急を付けなきゃいけないのと、曲調も、派手でノリがいいというよりは優しい感じですからね。それで、最新の『ひろプリ』から始まって、最後は78人みんなで映画のカーテンコールになるときれいかなと考えたんです。一番新しい『ひろプリ』の二人が一緒に20年の歴史を振り返りながらダンスステージまで歩いていき、最後にみんなと合流して踊る。スタートとゴールを決めて、前半はいかにそこへ行くかの流れが伝わるよう作ってみました。

――今回のCGは、作画みたいなルックですよね。

野島　背景が作画アニメの美術調になることが決まり、それに合わせるということで。キャラクターも作画的な感じをコンセプトにしました。

――前半パートは、壁に歴代名場面が映し出される演出もポイントですね。

宮原　78人のダンスに加えて、歴代シリーズの想い出を組み合わせた「ハイライト映像」を作ることがお題としてあったんです。それで、プロジェクションマッピングみたいに壁に映写するといいかなと。ならば、高低差のある場所がいいだろうなと。あと、ゴッホの絵の中に入る仮想現実イベント(Immersive Van Gogh Exhibit)のイメージもありました。歴代シーンのチョイスはプロデューサーの村瀬(亜季)さんと選んでいきました。

――冒頭スカイが入ってくるのは、どんな場所なのですか?

宮原　実は公園なんです。イタリアの国立公園にこういう景観の場所が何ヵ所かあって、それをモチーフにしています。

――夜空にバラの花びらが舞うのがきれいです。

宮原　そこはもう、ヒラヒラ感が欲しくて。ヒラヒラとキラキラは、ユウコさんの振付のコンセプトにもあったので、画としても盛り込んでいきました。CGの花びらはアニメーターがきれいに舞わせてくれて、背景のバラの花も美術さんがきれいに描いてくれました。

――前半パートでのスカイやプリズムの芝居付けで、気をつけたことは?

野島　やはり「手をつなぐ」ですよね。CGで魅力的に描くのは難しいんですが、映画自体のテーマでもあったので。スカイとプリズムが手をつないでいるカットが効果的に見えるように宮原さんが絵コンテで設計してくれました。

――スカイとプリズムがゲートをくぐると、星空から青空に一転します。

宮原　ずばり、次の時代の夜明けです。構成としても、パッと舞台転換をしたいのもありました。暗いところから明るいところへという画面の変化を入れて、飽きさせないという狙いもあります。

青空に白いステージハート型のレールも

――ダンスパートの振付に関してオーダーしたことは?

宮原　「プリキュア」の楽曲としては珍しい、しっとりした曲調だったので、その雰囲気に合わせることと、カーテンコールという意図も伝えました。上がってきた振付は、関係各所、一発OKでしたね。実は、前半パートにもダンスの振付があったんです。『ひろプリ』の面々が軽くダンスしているところで、活かさせてもらいました。

――ダンスのステージは7つに分かれていて、『ひろプリ』以外は各2〜3チームくらいが配置されていますね。

宮原　年代順で振り分けたら、人数もいい具合に均等になったんです。ただ、最奥にいる初期2チームが目立たないので、センターの高い位置にして、一番手前に『ひろプリ』チームを置いて、その間に他のチームを振り分けて配置しました。最後の1カット、カメラが奥から手前にぐっと引いた時にシリーズの歴史が一望できる形です。

――カメラワークと配置で、歴史を一発で見せようと。

宮原　それに高低差がないと、画にメリハリが出ないですから。どのくらいの高低差でどう組み合わせるとアングルの可能性が広がるかは計算しつつ。でも偶然も半分くらいありつつ(笑)。カメラワークは今回、外の会社さんにわりとおまかせしたんですが、いい感じに仕上げてくださいました。

――終盤、『トロピカル〜ジュ!プリキュア』からの3世代がアップになって小芝居を見せますね。

宮原　そこは子どもたちのなじみのある世代ということで。直近3チームのアップのカットは絵コンテで芝居付けをして、それに沿ってモーションとしての振付をつけてもらいました。振付段階で芝居のプランもできていたので、多少アドリブっぽく入れてもらいつつ。それにアクターさんは毎年のキャラクターショーもやっている方たちなので、各プリキュアのことをよく分かっているんですよ。なので、具体的な動きはおまかせできました。

――最後の全員ダンスの引きのショットで、光が打ち上がり、大きな虹がかかります。

宮原　子どもたちの分かりやすさ優先で「虹がかかる」という歌詞からきています。虹がかかるタイミングが歌と合うように計算しています。青い空に、光の打ち上げ花火みたいにしてみました。

――ステージの周囲には、大きなハートが付いていますね。

宮原　この手のダンスステージって、派手できらびやかなものが結構多いですよね。これだけ人数がいて、しかも色とりどりなので、逆にシンプルにしようかなと。それで、ハート型のレールでステージを囲むように付けました。どのアングルでもきれいなハート型に見えるよう、形にはこだわりました。

――レールなので、間から青空も見えるのがいいですね。

宮原　青空と白いステージで成立させたいなと。レールのハートはかわいいピンクゴールドで映えさせようと。ところが、この色がなかなかきれいに見えてくれなくて、何度も調整しました(苦笑)。

――EDの一番の見どころは、やはり78人のダンスですか?

宮原　そうですね。これまでのEDは独立してやっている感じのものもあったと思いますが、今回は本編からそのまま流れて、カーテンコールの役割をきちんと果たせたかなと。そういうまとまり感を楽しんでもらえたらと思います。

野島　20周年にふさわしい映像になったと思います。78人、皆さんのお気に入りのプリキュアに注目して、何度も観てください。

美術ボード

応募者全員サービス

缶バッジセット✦アクリルスタンド

キュアマジェスティ

キュアウィング

キュアバタフライ

ホログラム入り♥

キュアスカイ

キュアプリズム

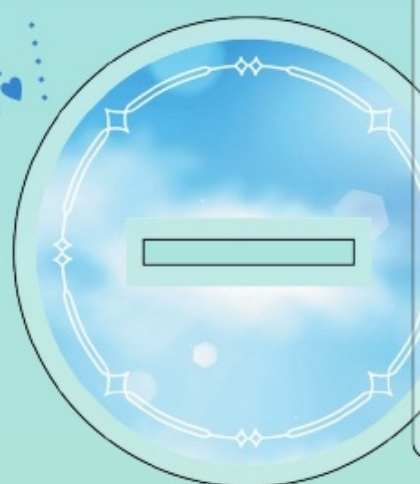
A 缶バッジセット
約54mm

各2,000円
送料・消費税・事務手数料込み

応募締切日 当日消印有効
2024年1月31日(水)
商品は2024年4月下旬発送予定

※発送予定は予告なく変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
※締切日を過ぎますと、処理の都合上応募を受け付けることができません。
　その場合、お客様には事務手数料を差し引いた上、ご返金させていただきます。
※お客様都合によるご注文後のキャンセルは一切お受けしておりません。
※監修中のため、デザイン・仕様は変更になる可能性があります。

B アクリルスタンド
本体：約147mm×108mm
台座：約55mm

台座付き♥

表紙を飾ったキュアスカイたちのキラキラ缶バッジが登場！ キュアシュプリーム&キュアプーカを囲んだアクリルスタンドは板岡錦さん描き下ろしイラストです！

応募方法

1. ページの左に付いている専用の「払込取扱票」(コピー不可) を切り取って、黒色のボールペンかサインペンで必要事項(住所、氏名、電話番号など) をていねいに記入してください。右側にある「振替払込請求書兼受領証」の※印がある「ご依頼人」の欄にも氏名を忘れずに記入してください。
2. 必要事項を全て記入した「払込取扱票」と代金を用意し、郵便局の窓口またはATMで手続きしてください。この際、払込手数料が別途かかりますのでご了承ください。
3. 受け付けが終わると、「振替払込請求書兼受領証」(用紙の右側) が渡されます。この用紙は、送金されたことの証明になります。商品がお手元に届くまで大切に保管してください。

●この商品は、郵便振替またはトクマショップでお申し込みされた方全員がお求めになれます。
●郵便振替はお近くの郵便局で。窓口またはATMのお取り扱い時間をご確認の上、必ず締切日までに手続きしてください。
●完全受注生産のため、お申し込み多数の場合、発送予定日より遅れることがあります。また、発送予定日より3ヵ月を過ぎても商品が届かない場合は、必ず問い合わせ先にご連絡ください。

トクマショップでも受付中！

アニメージュやコミックリュウのオリジナル商品の通販サイト
「トクマショップ」➡ https://www.tokuma-shop.com/
●アニメージュ公式HPからもアクセスできます。
➡https://animageplus.jp/ ※携帯電話からはうまくアクセスできない場合があります。
トクマショップ 問い合わせフォームはこちら https://www.tokuma-shop.com/hpgen/HPB/entries/1.html

注意 応募する前に必ず読んでね！

★郵便振替は本誌綴じ込みの「払込取扱票」用紙で応募してください。用紙は折ったり点線部分を切り離したりしないでください。
★「払込取扱票」の住所・氏名は記入欄からはみ出ないように、ハッキリとした字で記入してください。記入ミス、記入もれ、省略、略字、崩し字などは商品未着の原因になりますので、ご注意ください。
★ご注文商品番号の記入ミスや金額の過不足などご注文時の過誤防止および事務処理の都合上、「払込取扱票」1枚につき1種のご注文とさせていただきます。
★ご記入いただいた個人情報は、商品発送の目的以外での利用はいたしません。
★締切日を過ぎますと、処理の都合上応募を受け付けることができません。その場合、お客様には事務手数料を差し引いた上、ご返金させていただきます。ご了承ください。
★金額が不足していた場合や、必要以上の金額をお支払いただいた場合、応募が無効となることがありますのでご注意ください。
★為替・未使用切手・現金などによる応募は受け付けられません。
★日本国内の発送に限らせていただきます。
★発送予定までの間に転居される場合は、必ずアニメージュ編集部あてにハガキで、旧住所・新住所・新電話番号・申し込んだ商品名・数量・払い込み日を記入し、送ってください。
★商品は業務を委託した業者よりお届けいたします。
★受け取り拒否、または長期不在などの場合はキャンセル扱いとさせていただきます (発送後6ヵ月以内) 。
★キャンセル扱いとなったお客様には、事務手数料を差し引いた上、代金を返金させていただきます。
★商品・特典のデザインは変更になる場合があります。
★万一商品に破損など不良品がございましたら、アニメージュ編集部までお問い合わせください。
★発送中のパッケージおよびケースの破損については、お取り替えできない場合があります。

問い合わせ先
〒141-8202 東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア
株式会社徳間書店 アニメージュ編集部
✆03-5403-4341 電話受付時間：朝11時～夜6時(土日祝休)